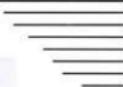


# 南方(済生会)遺跡

—木器編—

岡山市教育委員会

2005



1. 赤彩紋高杯(564)



2. 赤彩紋縱杓子(532)

卷頭図版 2



1. 黒漆塗りジョッキ(545)



2. フォーク・さじ



1. 木甲



2. 武器形

# 南方(済生会)遺跡

—木器編—

岡山市教育委員会

2005

## 序

岡山市域の中央に位置します旭川流域は、広大な沖積平野が形成されており、列島社会に稲作文化が伝わって以来、常に豊かな実りを人々に約束してきた地であります。そのことを示すように、古代以来の人々が生活し、文化を育んできた証であります遺跡の密度は、ずば抜けております。墳長が150mにも達する神宮寺山古墳、地方では極めて稀な壇正積基壇をもちます貧田廃寺などの著名な遺跡も数多くあります。かつて「大和」と匹敵する勢力を誇っていたとされる「吉備」の中心地の一つであることはまちがいありません。

南方遺跡は、ゆくゆくはそういう大きな勢力を、生み出すこととなる母体の一つであり、弥生時代における瀬戸内の代表的な遺跡として、注意されてきておりました。南方(済生会)遺跡は、岡山済生会総合病院の施設建設に伴って、発掘調査されました。多数出土した木製品は、土器や石器だけではわからない弥生時代の生活を、生きしく伝えるものとして注目され、調査中にも幾度となく報道機関にも取り上げられました。

本報告書は、たくさん出土した遺構や遺物の中で、特に木製品を取り上げて報告したものです。弥生時代の人々の生活を明らかにする基本資料として、多くの方々にご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査の実施および報告書の作成にあたっては、発掘調査対策委員会の諸先生方のご指導と、見学にお越しのみなさん方に数々のご教示をいただきました。そして、岡山済生会総合病院および関係者のみなさんにもご理解とご協力いただきました。記して厚く御礼申し上げます。

平成17年3月31日

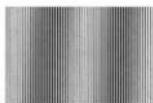
岡山市教育委員会

教育長 玉光源爾

## 例　　言

1. 本書は、岡山市教育委員会が岡山済生会総合病院施設建設に伴い、平成4年度から8年度に行った発掘調査の内、南方(済生会)遺跡の報告書の木器編である。
2. 発掘調査は岡山市教育委員会社会教育部文化課(現　生涯学習部文化財課)が行い、扇崎由・安川　満が担当した。
3. 本書の作成は平成15年・16年度で行い、編集執筆は扇崎が担ったが、調査時における安川との検討や実測図作成時の観察記録が上台となっている。
4. 木製品の実測は上地洋子・風早さゆり・木寅厚子・小宮山泰子・西本尚美・延原絆子・山元尚子・安川・扇崎が、浄書は上西高登・平野晶子・石井・扇崎が行い、岡山顯子・加藤美穂の協力を得た。
5. 木製品の保存処理は吉田生物研究所に依頼し、併せて樹種同定も行った。また、大型品・いわゆる製品以外の木製品・未処理の木製品については藤井裕之氏(京都大学大学院生)に依頼している。
6. この報告書に掲載していない木製品についても本書の刊行とともに公表したものと見なす。
7. この報告書に関わる出土遺物・実測図・写真などは、岡山市教育委員会にて保管している。

## 凡　　例



欠損



炭化



樹皮



黒漆



赤漆

# 目 次

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 1. 木製品の概要と調査の方法 | 1   |
| 2. 報告書の作成       | 2   |
| 3. 工具           | 3   |
| 4. 農具           | 11  |
| 5. 紡織具          | 55  |
| 6. 漁労具          | 57  |
| 7. 武器           | 65  |
| 8. 服飾具          | 87  |
| 9. 食事具・容器       | 89  |
| 10. 楽器          | 125 |
| 11. 祭祀具         | 127 |
| 12. 雑具          | 129 |
| 13. 建築部材        | 160 |
| 14. 用途不明品       | 205 |

# 挿 図 目 次

|                         |    |                      |    |
|-------------------------|----|----------------------|----|
| 第1図 斧直柄(1).....         | 3  | 第18図 曲柄鍬(5).....     | 25 |
| 第2図 斧直柄(2).....         | 4  | 第19図 曲柄鍬(6).....     | 26 |
| 第3図 斧直柄(3).....         | 5  | 第20図 曲柄鍬(7).....     | 27 |
| 第4図 斧直柄(4).....         | 6  | 第21図 泥除(1).....      | 29 |
| 第5図 斧膝柄(1).....         | 8  | 第22図 泥除(2).....      | 30 |
| 第6図 斧膝柄(2)・のみ形.....     | 10 | 第23図 組合せ鎌(1).....    | 32 |
| 第7図 直柄鍬(1).....         | 12 | 第24図 組合せ鎌(2).....    | 33 |
| 第8図 直柄鍬(2).....         | 13 | 第25図 組合せ鎌(3).....    | 34 |
| 第9図 直柄鍬(3).....         | 14 | 第26図 組合せ鎌(4).....    | 35 |
| 第10図 直柄鍬(4).....        | 15 | 第27図 組合せ鎌(5).....    | 36 |
| 第11図 直柄鍬(5).....        | 17 | 第28図 組合せ鎌(6).....    | 37 |
| 第12図 直柄鍬(6).....        | 18 | 第29図 組合せ鎌(7).....    | 38 |
| 第13図 直柄鍬(7).....        | 19 | 第30図 組合せ鎌(8).....    | 39 |
| 第14図 直柄鍬(8)・曲柄鍬(1)..... | 21 | 第31図 一木鎌(1).....     | 40 |
| 第15図 曲柄鍬(2).....        | 22 | 第32図 一木鎌(2)・振り棒..... | 41 |
| 第16図 曲柄鍬(3).....        | 23 | 第33図 一木鎌(3).....     | 42 |
| 第17図 曲柄鍬(4).....        | 24 | 第34図 柄(1).....       | 43 |

|                             |       |                          |     |
|-----------------------------|-------|--------------------------|-----|
| 第35図 柄(2).....              | 44    | 第82図 合子(2) .....         | 106 |
| 第36図 白(1).....              | 46    | 第83図 深型容器 .....          | 108 |
| 第37図 白(2).....              | 47    | 第84図 皿(1) .....          | 109 |
| 第38図 白(3)・杵(1).....         | 48    | 第85図 皿(2) .....          | 110 |
| 第39図 斧(2).....              | 49    | 第86図 皿(3) .....          | 112 |
| 第40図 斧(3)・横槌(1).....        | 50    | 第87図 皿(4) .....          | 113 |
| 第41図 横槌(2)・木鎌(1).....       | 52    | 第88図 皿(5) .....          | 114 |
| 第42図 木鎌(2).....             | 53    | 第89図 皿(6) .....          | 115 |
| 第43図 コテ・ソリ・作業台・田下駒.....     | 54    | 第90図 皿(7) .....          | 116 |
| 第44図 紡織具.....               | 56    | 第91図 皿(8)・槽・盤(1) .....   | 117 |
| 第45図 紗枠(1).....             | 58    | 第92図 槽・盤(2) .....        | 118 |
| 第46図 紗枠(2).....             | 59    | 第93図 槽・盤(3) .....        | 119 |
| 第47図 紗枠(3).....             | 60    | 第94図 槽・盤(4) .....        | 120 |
| 第48図 紗枠(4)・ヤス.....          | 61    | 第95図 槽・盤(5) .....        | 121 |
| 第49図 櫛(1) .....             | 62    | 第96図 槽・盤(6) .....        | 122 |
| 第50図 櫛(2)・弓(1).....         | 63・64 | 第97図 底・蓋ほか .....         | 123 |
| 第51図 弓(2).....              | 66    | 第98図 台 .....             | 124 |
| 第52図 弓(3).....              | 67    | 第99図 琴 .....             | 126 |
| 第53図 木乍(1).....             | 70    | 第100図 祭祀具 .....          | 128 |
| 第54図 木乍(2).....             | 71    | 第101図 箱(1) .....         | 130 |
| 第55図 楀(1).....              | 73    | 第102図 箱(2) .....         | 131 |
| 第56図 楀(2).....              | 75    | 第103図 箱(3) .....         | 132 |
| 第57図 楀(3).....              | 76    | 第104図 箱(4) .....         | 134 |
| 第58図 楀(4).....              | 77    | 第105図 箱(5) .....         | 135 |
| 第59図 楀(5).....              | 78    | 第106図 箱(6) .....         | 136 |
| 第60図 楀(6).....              | 79    | 第107図 腰掛け・机 .....        | 137 |
| 第61図 武器形(1).....            | 80    | 第108図 ハケ・ヘラ状 .....       | 139 |
| 第62図 武器形(2).....            | 81    | 第109図 呬き板状(1) .....      | 140 |
| 第63図 西川津遺跡出土鋒形土製品 .....     | 82    | 第110図 呬き板状(2) .....      | 141 |
| 第64図 武器形(3).....            | 84    | 第111図 火きり臼・杵 .....       | 142 |
| 第65図 梶棒(1).....             | 85    | 第112図 把手 .....           | 143 |
| 第66図 梶棒(2).....             | 86    | 第113図 すくい具(1) .....      | 144 |
| 第67図 服飾具 .....              | 88    | 第114図 すくい具(2) .....      | 145 |
| 第68図 さじ(1).....             | 90    | 第115図 すくい具(3) .....      | 146 |
| 第69図 さじ(2).....             | 91    | 第116図 すくい具(4) .....      | 147 |
| 第70図 さじ(3).....             | 92    | 第117図 在白鉤(1) .....       | 149 |
| 第71図 紗子(1).....             | 94    | 第118図 在白鉤(2)・鉤状木製品 ..... | 150 |
| 第72図 紗子(2).....             | 95    | 第119図 多枝付木製品 .....       | 151 |
| 第73図 紗子(3).....             | 96    | 第120図 竿受け(1) .....       | 152 |
| 第74図 ジョッキ(1).....           | 98    | 第121図 竿受け(2) .....       | 153 |
| 第75図 八日市地方遺跡のジョッキ .....     | 99    | 第122図 竿受け(3) .....       | 154 |
| 第76図 ジョッキ(2)・コップほか(1) ..... | 100   | 第123図 竿受け(4) .....       | 155 |
| 第77図 コップほか(2) .....         | 101   | 第124図 竿受け(5) .....       | 156 |
| 第78図 高杯(1) .....            | 102   | 第125図 竿受け(6) .....       | 157 |
| 第79図 高杯(2) .....            | 103   | 第126図 竿受け(7) .....       | 158 |
| 第80図 高杯(3) .....            | 104   | 第127図 器具部材 .....         | 159 |
| 第81図 合子(1) .....            | 105   | 第128図 はしご(1) .....       | 161 |

|                       |     |                     |     |
|-----------------------|-----|---------------------|-----|
| 第129図 はしご(2).....     | 162 | 第176図 有孔板(2)ほか..... | 217 |
| 第130図 扇板.....         | 163 | 第177図 不明(1).....    | 218 |
| 第131図 建築部材(1).....    | 164 | 第178図 不明(2).....    | 219 |
| 第132図 建築部材(2).....    | 165 | 第179図 不明(3).....    | 221 |
| 第133図 建築部材(3).....    | 166 | 第180図 不明(4).....    | 222 |
| 第134図 建築部材(4).....    | 167 | 第181図 不明(5).....    | 224 |
| 第135図 建築部材(5).....    | 168 | 第182図 不明(6).....    | 225 |
| 第136図 建築部材(6).....    | 169 | 第183図 不明(7).....    | 226 |
| 第137図 建築部材(7).....    | 170 | 第184図 不明(8).....    | 227 |
| 第138図 建築部材(8).....    | 171 | 第185図 不明(9).....    | 228 |
| 第139図 建築部材(9).....    | 172 | 第186図 加工棒(1).....   | 230 |
| 第140図 建築部材(10).....   | 174 | 第187図 加工棒(2).....   | 231 |
| 第141図 建築部材(11).....   | 175 | 第188図 加工棒(3).....   | 233 |
| 第142図 建築部材(12).....   | 176 | 第189図 加工棒(4).....   | 234 |
| 第143図 建築部材(13).....   | 177 | 第190図 加工棒(5).....   | 236 |
| 第144図 建築部材(14).....   | 178 | 第191図 加工棒(6).....   | 237 |
| 第145図 建築部材(15).....   | 179 | 第192図 加工棒(7).....   | 238 |
| 第146図 建築部材(16).....   | 180 | 第193図 加工棒(8).....   | 239 |
| 第147図 建築部材(17).....   | 182 | 第194図 加工棒(9).....   | 241 |
| 第148図 建築部材(18).....   | 183 | 第195図 加工棒(10).....  | 242 |
| 第149図 建築部材(19).....   | 184 | 第196図 加工棒(11).....  | 243 |
| 第150図 建築部材(20).....   | 185 | 第197図 加工棒(12).....  | 244 |
| 第151図 建築部材(21).....   | 187 | 第198図 加工棒(13).....  | 245 |
| 第152図 建築部材(22).....   | 188 | 第199図 加工棒(14).....  | 246 |
| 第153図 建築部材(23).....   | 190 | 第200図 加工棒(15).....  | 247 |
| 第154図 建築部材(24).....   | 191 | 第201図 加工棒(16).....  | 248 |
| 第155図 建築部材(25).....   | 192 | 第202図 残核.....       | 249 |
| 第156図 建築部材(26).....   | 193 | 第203図 土器(1).....    | 296 |
| 第157図 建築部材(27).....   | 194 | 第204図 土器(2).....    | 297 |
| 第158図 建築部材(28).....   | 195 | 第205図 土器(3).....    | 298 |
| 第159図 建築部材(29).....   | 197 | 第206図 土器(4).....    | 299 |
| 第160図 建築部材(30).....   | 198 | 第207図 土器(5).....    | 300 |
| 第161図 建築部材(31).....   | 199 | 第208図 土器(6).....    | 301 |
| 第162図 建築部材(32).....   | 200 | 第209図 土器(7).....    | 302 |
| 第163図 建築部材(33).....   | 201 | 第210図 土器(8).....    | 303 |
| 第164図 建築部材(34).....   | 202 | 第211図 土器(9).....    | 304 |
| 第165図 建築部材(35).....   | 203 | 第212図 土器(10).....   | 305 |
| 第166図 建築部材(36).....   | 204 | 第213図 土器(11).....   | 306 |
| 第167図 錐状木製品(1).....   | 206 | 第214図 土器(12).....   | 307 |
| 第168図 錐状木製品(2).....   | 207 | 第215図 土器(13).....   | 308 |
| 第169図 透かし入り錐状(1)..... | 209 |                     |     |
| 第170図 透かし入り錐状(2)..... | 210 |                     |     |
| 第171図 透かし入り錐状(3)..... | 211 |                     |     |
| 第172図 透かし入り錐状(4)..... | 212 |                     |     |
| 第173図 透かし入り錐状(5)..... | 213 |                     |     |
| 第174図 透かし入り錐状(6)..... | 214 |                     |     |
| 第175図 有孔板(1).....     | 216 |                     |     |

# 表 目 次

木器観察表 ..... 251 土器観察表 ..... 309

# 図 版 目 次

|            |                |            |                 |
|------------|----------------|------------|-----------------|
| 卷頭図版 1 - 1 | 赤彩紋高杯(564)     | 10 - 4     | 組合せ平鷹(199)出土状況  |
| 1 - 2      | 赤彩紋縦杓子(532)    | 10 - 5     | 組合せ三叉鷹(214)出土状況 |
| 卷頭図版 2 - 1 | 黒漆塗りジョッキ(545)  | 10 - 6     | えぶり(89)         |
| 2 - 2      | フォーク・さじ        | 図 版 11 - 1 | 泥除未成品(152)      |
| 卷頭図版 3 - 1 | 木甲             | 11 - 2     | 織機(314)         |
| 3 - 2      | 武器形            | 11 - 3     | 臼(252)出土状況      |
| 図 版 1 - 1  | 北東部全景          | 11 - 4     | 臼(253)出土状況      |
| 1 - 2      | 北西部全景          | 11 - 5     | 堅杵(281)出土状況     |
| 1 - 3      | 南東部全景          | 11 - 6     | 堅杵(283)出土状況     |
| 図 版 2 - 1  | 南西部全景          | 図 版 12 - 1 | 木鎌(307)         |
| 2 - 2      | 鉢(52)出土状況      | 12 - 2     | 木鎌(307)拡大       |
| 2 - 3      | 鉢(56)出土状況      | 12 - 3     | 櫛(340)出土状況      |
| 図 版 3 - 1  | 鉢(65)出土状況      | 12 - 4     | 櫛(343)出土状況      |
| 3 - 2      | 木鷹(218)出土状況    | 12 - 5     | 弓(350)伸び目       |
| 3 - 3      | 木鷹(219)出土状況    | 12 - 6     | 弓(350)骨角器       |
| 図 版 4 - 1  | 櫛(327)出土状況     | 図 版 13 - 1 | 木平(369)         |
| 4 - 2      | 戈の柄(443)出土状況   | 13 - 2     | 木甲(370)         |
| 4 - 3      | 戈の柄(443)出土状況細部 | 13 - 3     | 木甲(371)         |
| 図 版 5 - 1  | 櫛(421)出土状況     | 13 - 4     | 木甲(376)         |
| 5 - 2      | コップ(559)出土状況   | 13 - 5     | 木甲(372)         |
| 5 - 3      | 皿(608)出土状況     | 13 - 6     | 木甲(379)         |
| 図 版 6 - 1  | 竿受け(773)出土状況   | 13 - 7     | 木甲(378)         |
| 6 - 2      | 建築部材出土状況 1     | 13 - 8     | 木甲(380)         |
| 6 - 3      | 建築部材出土状況 2     | 13 - 9     | 木甲(382)         |
| 図 版 7 - 1  | 建築部材(866)出土状況  | 図 版 14 - 1 | 木甲(383)         |
| 7 - 2      | 建築部材(884)出土状況  | 14 - 2     | 木甲(404)         |
| 7 - 3      | 櫛              | 14 - 3     | 櫛(416)表         |
| 図 版 8 - 1  | 織物出土状況         | 14 - 4     | 櫛(416)裏         |
| 8 - 2      | つる出土状況         | 図 版 15 - 1 | 石鎚の刺さった柄(434)表  |
| 8 - 3      | 土器・木器出土状況      | 15 - 2     | 石鎚の刺さった柄(434)裏  |
| 図 版 9 - 1  | 斧頭柄(3)         | 15 - 3     | 槍形(445)         |
| 9 - 2      | 斧頭柄(23)        | 15 - 4     | 戈形(442)         |
| 9 - 3      | 斧頭柄(29)        | 15 - 5     | 戈の柄(443)装着部     |
| 9 - 4      | のみ形(34)        | 15 - 6     | 鉄劍形(446)        |
| 9 - 5      | 直柄広鉢未成品(38)    | 図 版 16 - 1 | 劍形(444)表        |
| 9 - 6      | 組合せ鷹未成品(166)   | 16 - 2     | 劍形(444)裏        |
| 図 版 10 - 1 | 直柄広鉢(77)出土状況   | 図 版 17 - 1 | 刀形(447)         |
| 10 - 2     | 曲柄平鉢(92)出土状況   | 17 - 2     | 刀形(450)         |
| 10 - 3     | 曲柄二又鷹(117)出土状況 | 17 - 3     | 銅劍形(451)        |

|   |        |                 |       |                |              |
|---|--------|-----------------|-------|----------------|--------------|
| 図 | 版18- 1 | ・銅劍形(453)       | 25- 3 | ・威儀具(672)下     |              |
|   | 17- 5  | ・銅劍形(454)       | 25- 4 | ・威儀具(672)上     |              |
|   | 17- 6  | ・銅劍形(455)       | 図     | 版26- 1         | ・威儀具(673)    |
| 図 | 版18- 2 | ・劍把(457)        | 26- 2 | ・威儀具(674)      |              |
|   | 18- 3  | ・衣笠(479)        | 26- 3 | ・威儀具(675)      |              |
|   | 18- 4  | ・棍棒(459)        | 26- 4 | ・陽物形(677)      |              |
|   | 18- 5  | ・棍棒(464)        | 26- 5 | ・箱の蓋(683)      |              |
|   | 18- 6  | ・棍棒(465)        | 26- 6 | ・朝抜式箱(684)     |              |
| 図 | 版19- 1 | ・かんざし           | 26- 7 | ・朝抜式箱(691)     |              |
|   | 19- 2  | ・かんざし(468)      | 26- 8 | ・朝抜式箱(689)     |              |
|   | 19- 3  | ・さじ(481)        | 図     | 版27- 1         | ・組合せ式箱(695)  |
|   | 19- 4  | ・さじ(497)        | 27- 2 | ・組合せ式箱(696)    |              |
| 図 | 版19- 5 | ・さじ(490)        | 27- 3 | ・組合せ式箱(699)    |              |
|   | 19- 6  | ・フォーク(496)      | 27- 4 | ・火きり口(737)     |              |
| 図 | 版20- 1 | ・縦杓子(525)       | 27- 5 | ・腰掛け(706)      |              |
|   | 20- 2  | ・縦杓子柄(526)      | 図     | 版28- 1         | ・ヘラ状(720)    |
|   | 20- 3  | ・赤彩紋縦杓子(532)    | 28- 2 | ・ヘラ状(716)      |              |
|   | 20- 4  | ・異形杓子(557)      | 28- 3 | ・ヘラ状(724)      |              |
|   | 20- 5  | ・黒漆塗りジョッキ(545)外 | 28- 4 | ・すくい具(747)出土状況 |              |
| 図 | 版21- 1 | ・ジョッキ(546)外     | 28- 5 | ・すくい具(747)     |              |
|   | 21- 2  | ・ジョッキ(546)内     | 28- 6 | ・すくい具(752)     |              |
|   | 21- 3  | ・ジョッキ(546)出土状況  | 28- 7 | ・多枝付木製品(769)   |              |
|   | 21- 4  | ・コップ(559)       | 図     | 版29- 1         | ・自在鉤(759)    |
| 図 | 版21- 5 | ・脚付カップ(560)     | 29- 2 | ・自在鉤(761)      |              |
|   | 21- 6  | ・コップ(563)       | 29- 3 | ・はしご(809)出土状況  |              |
| 図 | 版22- 1 | ・合子蓋(584)外      | 29- 4 | ・鉢(924)        |              |
|   | 22- 2  | ・合子蓋(584)内      | 29- 5 | ・竿受け(771)出土状況  |              |
|   | 22- 3  | ・合子(581)外       | 29- 6 | ・竿受け(774)出土状況  |              |
|   | 22- 4  | ・合子(581)内       | 図     | 版30- 1         | ・穂状木製品(1027) |
|   | 22- 5  | ・合子(585)外       | 30- 2 | ・建物縫割板(1169)   |              |
| 図 | 版23- 1 | ・高杯(578)出土状況    | 30- 3 | ・透かし入り繩状(1034) |              |
|   | 23- 2  | ・皿(609)出土状況     | 30- 4 | ・有孔板材(893)出土状況 |              |
|   | 23- 3  | ・皿(607)         | 30- 5 | ・楕円出土状況        |              |
|   | 23- 4  | ・皿(612)         | 30- 6 | ・楕円出土状況        |              |
|   | 23- 5  | ・皿(619)         | 図     | 版31- 1         | ・つる出土状況      |
|   | 23- 6  | ・大皿(626)        | 31- 2 | ・つる出土状況        |              |
| 図 | 版24- 1 | ・大皿(628)        | 31- 3 | ・つる出土状況        |              |
|   | 24- 2  | ・赤彩紋皿(629)      | 31- 4 | ・つる出土状況        |              |
|   | 24- 3  | ・脚付盤(634)       | 31- 5 | ・蓋             |              |
|   | 24- 4  | ・底(659)         | 31- 6 | ・蓋             |              |
|   | 24- 5  | ・琴(670)表        | 図     | 版32- 1         | ・蓋           |
|   | 24- 6  | ・琴(670)裏        | 32- 2 | ・蓋             |              |
| 図 | 版25- 1 | ・威儀具(672)表      | 32- 3 | ・壺             |              |
|   | 25- 2  | ・威儀具(672)裏      | 32- 4 | ・壺・壺・高环        |              |
|   |        |                 | 32- 5 | ・壺・台付鉢         |              |
|   |        |                 | 32- 6 | ・石器            |              |

# 1. 木製品の概略と調査の方法

調査区の北側と南側とに微高地があつて、北側を微高地1南側を微高地2と呼称、この間が浅い谷状になっていた。この谷状部分に急激に水が流れたことにより河道(河道1)に変わったとみられる。大半の木製品は河道1が流路変化後(河道2)、埋没過程の中で南方遺跡の中心部となる微高地2側からの投棄によるものである。このほか数は少ないが、河道1埋没にさかのぼる木製品として微高地2沿いに掘られた溝群S D162・249・550・551や貝層下の土坑SK562から出土している。

調査区を4分割して調査を行つた事による各小調査区間の土層の対応関係の把握は、不十分である。当初河道3ととられていた部分について、河道1の下流部分であることが判明した事による河道の上流下流の関係、また、細かな層位からなる貝層をはさんでの対応関係など、出土物に裏付けされた形での整理はようやく土器の洗浄が終了した現段階では大きな課題として残っている。大まかな時期観は12層が弥生中期後半、13層・河道3上部・河上層・河中層が中期中葉から後半、14層・河下層が中期中葉に相当する。なお、本書の終わりに完形に近い土器を参考として掲載した。

調査は木製品の現場での乾燥を防ぐために取り上げを重視し、全体での検出状況の写真撮影や図化は行わず、組み合って出土しているものや取り上げ後の維持の困難なものについて個別的に図化・写真撮影を行つた。掘り上げた木器類については、調査区にわき出る地下水を利用して掘り下げと平行して洗浄作業を行い、製品・加工痕のあるもの・加工痕のないものに大まかに分類し、製品・加工痕のあるものを持ち帰つた。

出土した木製品は、斧直柄・斧膝柄・のみ形などの工具、直柄鉤・曲柄鉤・泥除・組合せ鉤・一本鎌・掘り棒・柄などの農耕土木具(本書では農具の中に一括)、杵・横槌・木鎌・コテ・ソリ・作業台・田下駄などの農具、織機の部材・かせ・糸巻きなどの紡績具、網枠・ヤス・櫛などの漁労具、弓・木甲・楯・武器形・棍棒などの武器・武具、かんざし・衣笠状木製品などの服飾具、さじ・杓子・ジョッキ・コップ・高杯・合子・深型容器・皿・槽・盤・底・蓋・台などの食事具・容器・琴、威儀具、陽物形木製品などの祭祀具、箱・腰掛け・机・ハケ・ヘラ状・叩き板状・火きり臼・火きり臼杵・把手・すくい具・自在鉤・多枝付木製品・竿受け・器具部材などの雑具、はしご・扉板・柱・横架材・垂木・板材などの建築部材、桶状木製品・透かし入り彫状・有孔板などの用途不明品などが出土している。

このなかで、コップやジョッキといった深さのある容器は、外形や器壁の薄さとあわせて製物技術の高さを物語ついている。大小そろつた四角や丸形の皿・さじ・コップ・ジョッキといった種類の豊富な食器は、当時の食事内容・食事形態を考える意味でも重要である。南方(清生会)遺跡出土の木製品は、別に改めて報告する骨・角・貝製品とあわせて、弥生中期における中部瀬戸内での有機質遺物の大要をつかむことができるものと思われる。

木製品の種類や部分名称については、基本的には『木器集成図録 近畿原始編』<sup>(1)</sup> (以下、木器集成と略)によるが、同書にない木製品や名称は適宜追加し、一部改めた部分がある。全般的な記述に当たっては、『木器集成』および『考古資料大観』<sup>(2)</sup>によるところが大きい。

## 2. 報告書の作成

平成15・16年度に本書作成のため、岡山済生会総合病院の経費負担により、未洗浄であった土器の洗浄・復原・実測、木器の整理・実測を行った。

報告書の作成体制は以下の通りである。

|                    |               |
|--------------------|---------------|
| 教 育 長              | 玉光源爾          |
| 生涯学習部次長兼文化財課長      | 出宮徳尚          |
| 文化財専門監兼埋蔵文化財センター所長 | 根木 修          |
| 調 整 主 幹            | 小林好美(平成15年度)  |
| 主 査                | 神谷正義(平成15年度)  |
| 文化財副専門監            | 神谷正義(平成16年度)  |
| 主 任                | 福永みどり         |
| 主 任                | 扇崎 由          |
| 文化財保護主事            | 安川 満          |
| 嘱 託                | 石井亜希子(平成16年度) |

調査・報告書の作成に当たっては多くの方々にご指導・ご助言をいただいた。記して感謝いたします。(敬称略)

浅岡俊夫 阿刀弘史 阿部芳郎 荒井 格 飯塚武司 石井扶美子 石川日出志 石野博信  
 伊藤健司 伊東隆夫 稲田孝司 井上智博 岩永省三 上原真人 内田律雄 大谷弘幸 大塚和義  
 大橋隆司 岡田文男 岡部裕俊 岡村道雄 小川一洋 小田富士雄 甲斐昭光 甲斐博幸  
 笠原潔 狩野 久 神谷正弘 亀山行雄 北浦弘人 喜谷美宣 木村紀子 木村有作 久々忠義  
 葛原克人 久保弘道 工業普通 黒崎 直 桑原久男 高妻洋成 河本 清 甲元眞之 小林青樹  
 小林謙一 小山田宏一 近藤 敏 近藤義郎 斎野裕彦 坂井秀弥 佐々木由香 佐藤浩司  
 佐原 真 清水玲子 高須陽子 高谷和生 武末純一 田崎博之 谷口 肇 都出比呂志  
 坪井清足 寺沢 薫 中川正人 中川 寧 中川律子 新納 泉 西尾太加二 西川 宏  
 西原礼之助 横宜田佳男 橋 猿子 橋本達也 橋本正博 春成秀爾 橋上 昇 比佐陽一郎  
 福岡澄男 福永伸哉 福田さよ子 藤井裕之 藤尾慎一郎 藤丸詔八郎 別府洋二 細見啓三  
 穂積裕昌 本田光子 マーク・ハドソン 間壁忠彦 松井 章 松木武彦 松永通明 水内昌康  
 光谷拓実 宮野淳一 宮崎泰史 村上由美子 望月由佳子 森 格也 森田翠玉 森田 稔  
 山口謙治 山口松太 山下平重 山田昌久 山本悦世 湯村 功 吉田 広

### 3. 工具

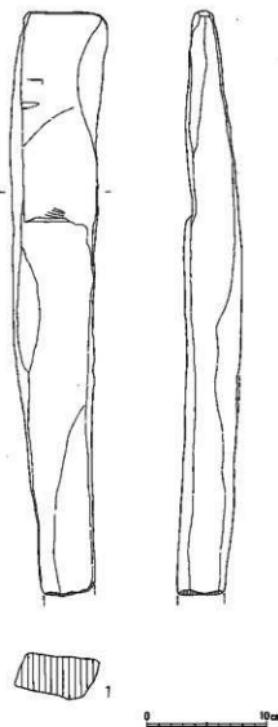
工具には石斧の直柄・廉柄、鉄斧の膝柄のみ形がある。後述のように南方(済生会)遺跡では木器未成品も出土していて、集落内で木器製作を行っていたことは確実で、それに見合う各種の石器が出土している(写真図版参照)。しかし、それを装着する柄の方はといえば、柱状片刃石斧・方柱状石斧の柄が出土しておらず、また扁平片刃石斧の柄も必ずしも十分ではない。また、精巧品<sup>(3)</sup>については細部の工程で鉄器が使用されたことは十分想定できるし、出土したのみ形の鉄器<sup>(4)</sup>もそれを裏付けるものであるが、それに見合う柄も出土していない。

#### 斧直柄

斧の直柄は樹種が判明しているものではカシの柾目材を用いて作られていて、西日本での通有のあり方を示している。この柄には蛤刃石斧が装着されるが、未成品を除くと全形がわかるものはない。南方(済生会)遺跡出土の斧の直柄の中で、頭部の全形が判る資料で見ると、装着される石斧の幅は頭部長の  $1/2$  か、それをやや下回る程度である。出土した直柄は蛤刃石斧出土上資料のうち、最も点数の多い幅 5~8 cm の石斧が装着すると見られる。幅 5 cm 未満の小形石斧や 10 cm を超える大形石斧の成品・未成品も出土しているが、それに見合う直柄は出土していない。

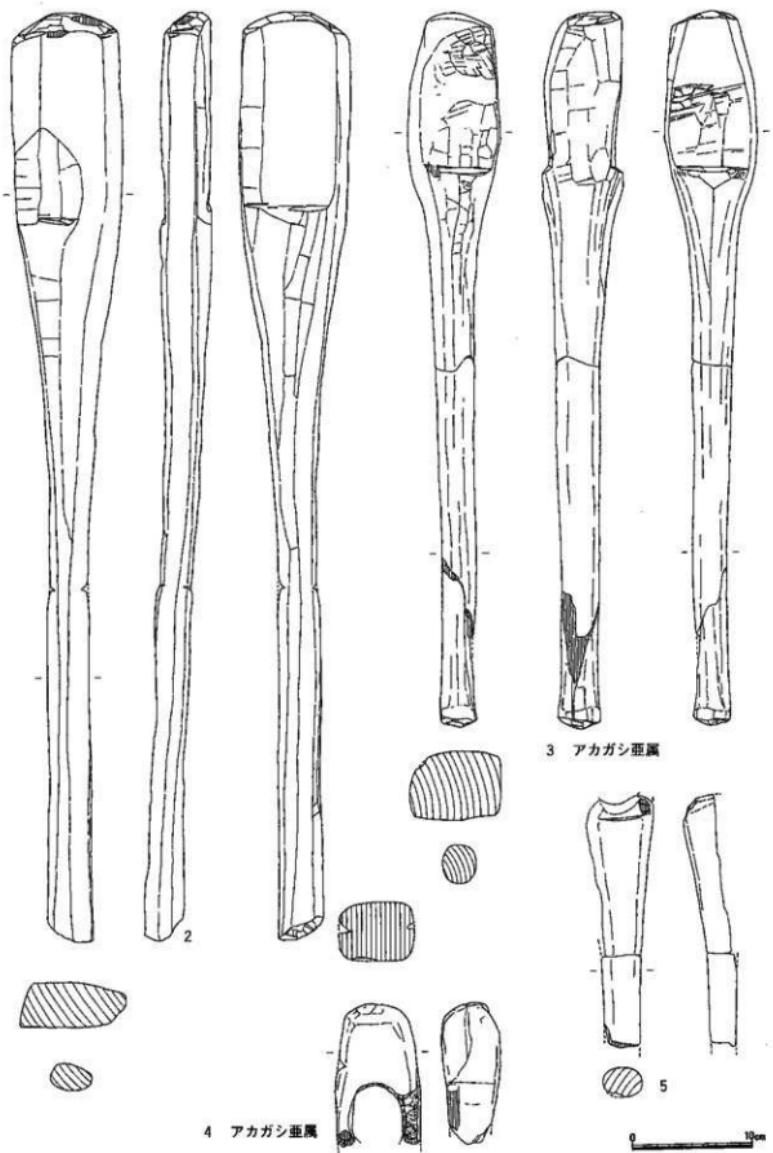
頭部長と石斧幅(装着孔長)の関係からすると、直柄の全長は石斧幅 6~8 cm のもので 63~76 cm (2・14・16からの復原値)、石斧幅 5~6 cm のもので 59~66 cm (3・7・9からの復原値)となる。頭部の形状は、福宜田住男氏の分類<sup>(5)</sup>による II A 類・II B 類が出土しているが、II B 類が大半で、II A 類は 6・15 の 2 点が出土しているもののみである。また、7 や 9 のように II B 類でも拡張部<sup>(6)</sup>の発達が弱く II C 類に非常に近いものもみられる。

1 は拡張部を作り出した段階の未成品とみられ、握りの部分はまだ四角く面を持ったままで、端部は欠損している。頭部は片面の拡張部が欠損していて、厚さ 5 cm になっている。2 は頭部下面を加工中の未成品の完形品で、全長は 76.9 cm

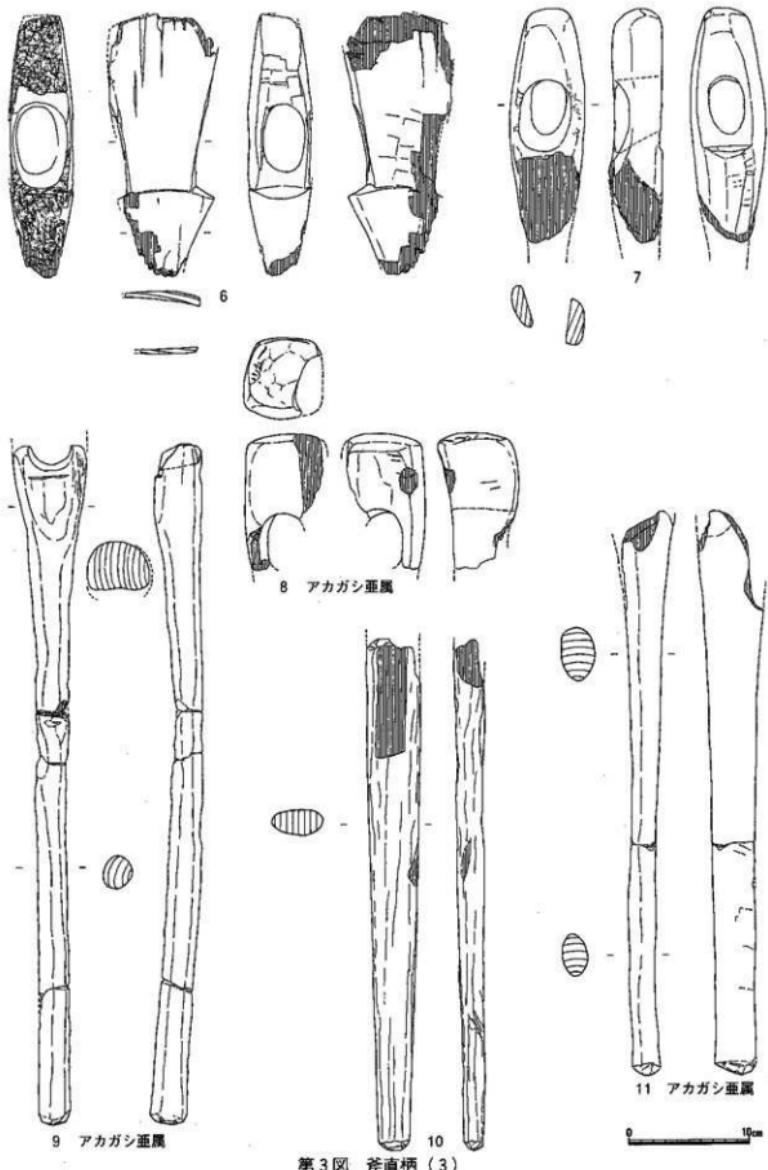


第1図 斧直柄(1)

3. 工具

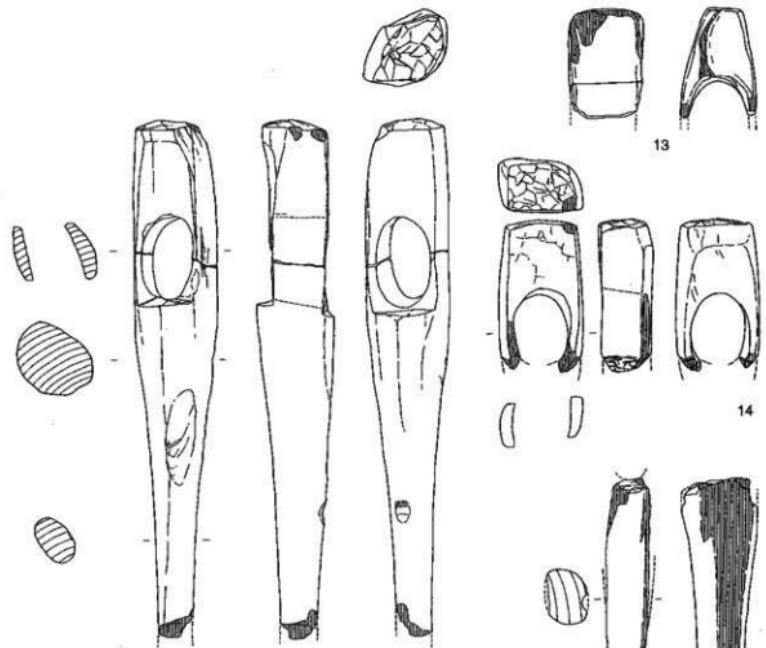


第2図 斧直柄(2)

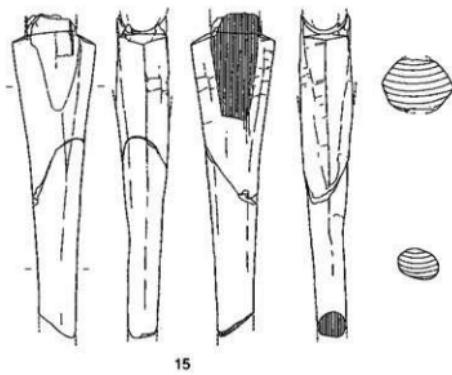


第3図 斧直柄 (3)

3. 工具

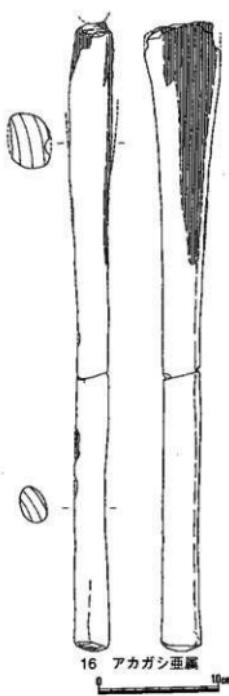


12 アカガシ直柄



15

第4図 斧直柄(4)



16 アカガシ直柄

10cm

である。全体の大まかな形は取れていて、頭部先端も丸く加工されているが、握りの基部端面には切削痕が残っている。頭部長は16cmあり、幅7~8cmの船刃石斧が装着されるものと見られる。3も完形の未成品であるが、2よりも加工がすんでいる。握りも断面が丸くなり、グリップエンドも意識されていて、基部端面にも加工が及んでいるが、装着孔は未加工のままである。頭部は長さ13cmであるから幅5~6cmの石斧の装着が想定できる。全長は59.6cmである。4は装着孔から上の破片で、破損部に炭化がみられる。5は装着孔から下部の破片で、破損した装着孔の周辺を再加工しており転用が図られている。第65図の462と同様に棍棒として使われた可能性もある。

6はSD550から出土した頭部の破片で、先端が撮影に開いていて、握りとの段差が大きい点など前期的特徴がみられる。装着孔は長径5.6cm短径3.4cmの楕円形で、やや小さめの石斧が装着されると見られる。全体に焼け焦げている。7は頭部の長さ11.5cm幅6cm厚さ4.1cmで、頭部先端の開きもなく、握りとの境の段差もごくわずかである。装着孔は上端面側に細くなるので、装着される石斧は基部が小さくなるタイプである。8は装着孔から上の破片である。9は装着孔から先端側を欠損しているが、現存長が56.4cmあって、残存する頭部の幅や装着孔からすると幅6cm以下の石斧が装着されるとみられる。10は握りの基部側の破片で、断面形は扁平な楕円形をしており、基部部は面を持つつも丸く加工している。11は装着孔のやや下から握り基部にかけての破片で、断面がやや扁平な楕円形の握りの端部は、10と同様に面を持たせつつ丸く加工している。

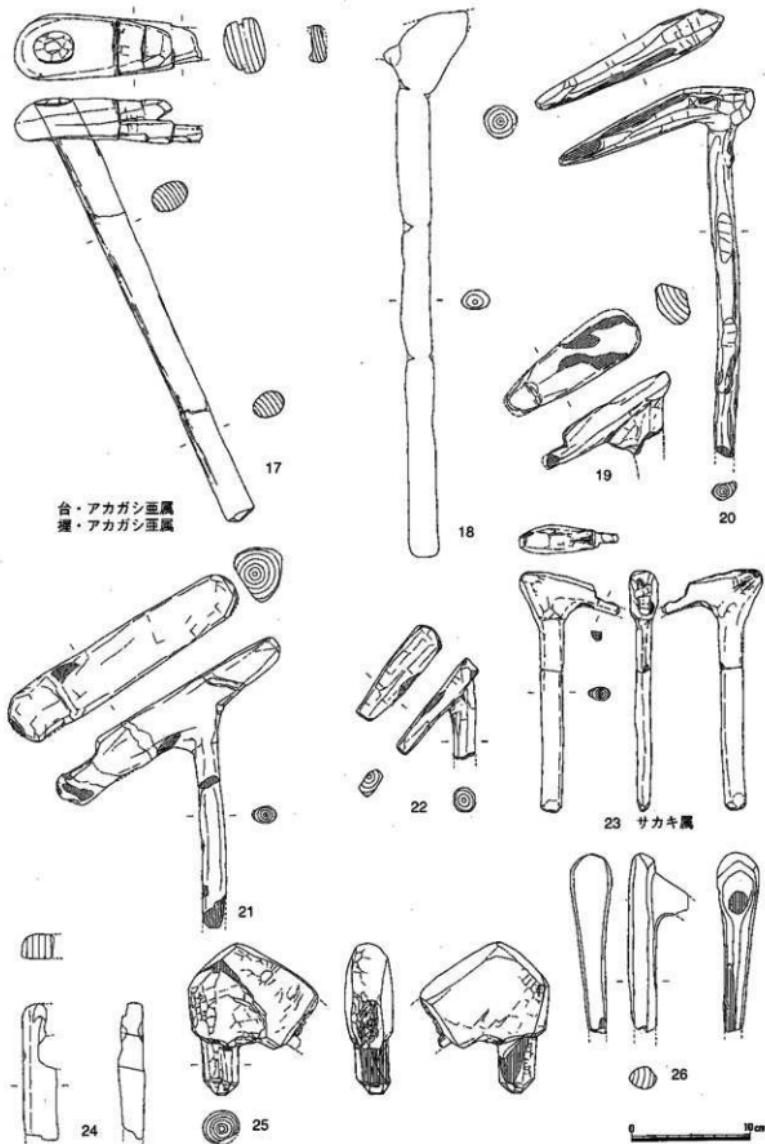
12は頭部から握りの中程までの破片で基部を欠く。握りと頭部の段差は1~1.4cmで、装着孔は7.1×4.5cmの楕円形である。頭部先端には加工痕が残っている。13は頭部先端の破片で装着孔の大きさからみると幅6~8cmの石斧がつくとみられるが、やや小型の石斧が装着される6・7のように先端で幅が狭くなる。14は装着孔から上の破片で握り側の割れ口には再加工痕がある。装着孔部分にひび割れなどの損傷が起きたためその部分で切削し、握り部分の転用をはかった残りとみられる。15は装着孔下端から握りにかけての破片で、頭部と握りとの段差は1.5~2cmあって大きく、頭部側の握りの側面には稜がある。16は装着孔から握り基部の破片で基部端面は丸く加工している。残存長は51.7cmである。

#### 斧柄

斧の柄には石斧用と鉄斧用の双方があって、枝分かれの部分を利用して斧台と握りを一体で作る一木式と別材を用いる組合せ式とがある。出土した17点のうち組合せ式は2点で残りは一木式である。一木式では27にコナラ節が使われるのを除くと、樹種の判明している3点はサカキないしサカキ属を用いている。この点は鐵の柄にもサカキが選ばれている点と用材が共通する。石斧用の斧柄はいずれも扁平片刃用であって、柱状片刃用の斧柄は出土していない。鉄斧の柄は6点あり、装着される斧身の幅は大小あるがいずれも櫛斧である。

17は斧台と握りを組み合わせて作っていて、斧台・握りともにアカガシ直属製である。長さ13cm幅5.4cmで基部を丸く加工した斧台に幅3cm長さ2.5cm以上の装着部が付く。斧台が裂けて別の木が挟まっているが、裂け目をうめるためにくさび状にいたしたものか混入かは判断がつかない。ただし、装着部との段の上に縫かけが作られていて、これは斧身の緊縛用ではないので裂け目の生じた斧台の補修をはかったものとみられる。そうすると挟まっている木は混入と見た方が良さそうである。握りは長径3.1cm短径2.2cmの楕円形で長さ38.5cmある。18は斧台がほとんど欠損していて装着される斧身の材質・幅については不明である。握りは端部まで残存しており長さが40.5cmある。19は握りを

3. 工具



第5図 斧膝柄(1)

根元から欠損している。装着面は先端がなくなっているが、わずかに先細りぎみの形状で残存長2.2cm幅2.2cmである。

20は握りの一部に樹皮が残存している。自在鉤の可能性もあるが、鉤部分が幅広で幹と技の使い方が一般的な自在鉤の作り方とは逆なので斧の未成品と考えた。現存長は30.7cmで斧台の長さ17.2cm幅3.3cmである。21は斧台が22.2cmと長いが、装着面は4.8cmと斧台の割に短い。装着面の幅も4.5cmあって、装着面はほぼ正方形に近い。握りも断面が $2 \times 1.5\text{cm}$ の楕円形で17や18に比べるとやや細めである。22は握りが欠損しているが、斧台の長さ10.6cm幅2.2cm厚さ1.2cmで細部加工用の斧柄である。装着部を明瞭に作り出していないので未成品とも見られる。

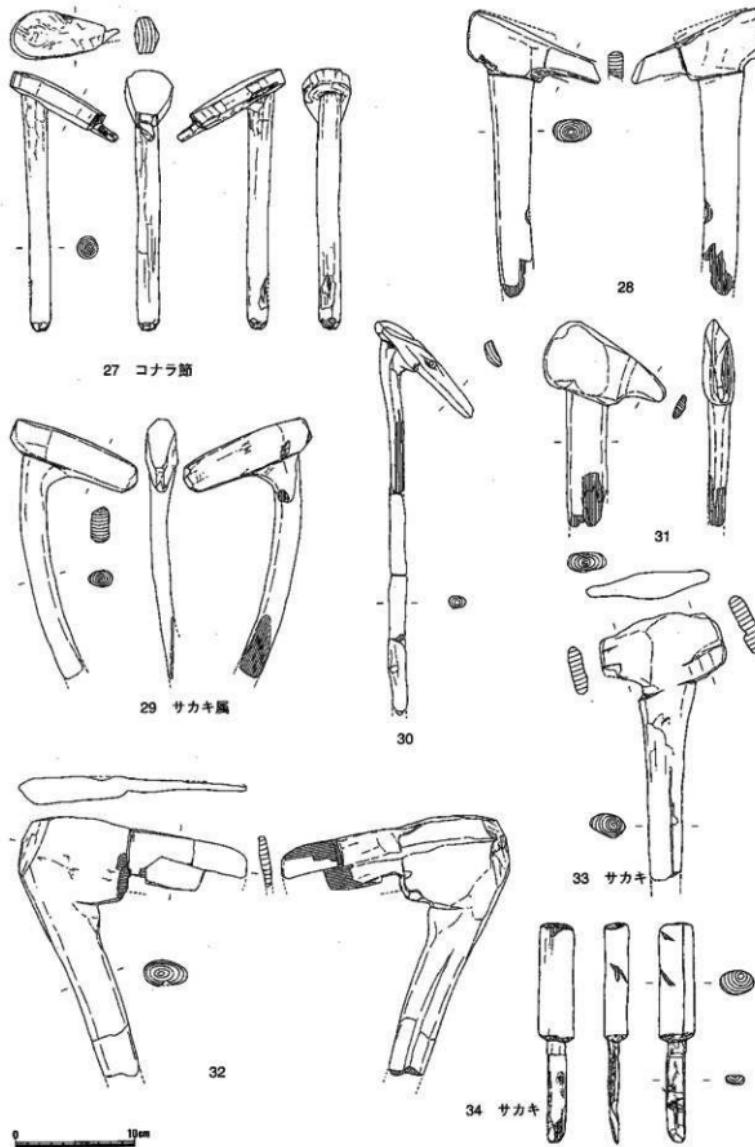
23は装着面の一部を欠くがほぼ完形の細部加工用の手斧の柄である。装着面は長さ1.8cm幅8mm握りの長さは17cmで、樹種はサカキ属を用いている。24は継半分に割れて装着部も欠いているが、組合せ式藤柄斧の斧台とみられる。残存長10.8cm幅2.8cmである。25は鉄斧の柄で装着部は欠損しているが幅は4.5cmである。握りは切断されていて、組合せ式の斧柄などに転用されたのだろう。26は装着部と握りを欠く。斧台の残存している先端部分の幅が1.5cmであるので細部加工用と見られる。握りの付け根から斧台残存端部まで9.5cmあって、完形であればもっと長くなるので、コップやジョッキなどの内側りの深い容器の加工に用いられたと思われる。27はコナラ節の枝分かれ部分を利用した一本作りの細部加工用の柄の完形品で、長さ7.8cm幅3.9cmのやや縱長で卵形の斧台に長さ2cm幅1cmほどの装着部が付く。握りは直径1.7cm長さ19.2cmである。

28は鉄斧が装着される藤柄継斧で、握りの基部や装着部の先端などを欠く。装着部の幅が2.5cmであるので伐採用というよりも加工用と考えられる。29は鉄斧の藤柄継斧で、柄の先端を欠損する。斧台は長さ11.2cm幅2.8cm厚さ1.4cmで先端に向かって徐々に側面から細くなっていて装着面との明瞭な段を作らない。未成品の可能性もある。握りは19cmが残存していて斧台側に湾曲している。樹種はサカキ属である。30も29と同じく装着面を明瞭に作り出しておらず未成品の可能性がある。斧台は全長11.1cm幅2.2cmで、握りは30cmほどが残存していて23や27に比べると細く長い。31は斧台の残りが悪く装着部はやせているが、鉄斧の藤柄継斧である。装着部の幅は根元で3cmである。32も鉄斧の藤柄継斧で、斧台は長さ19cmあって、装着部は長さ9.7cm幅5.3cm厚さ8mmである。装着部の長さからすると板状鉄斧が付くと見られる。15cmほどが残っている握りはわずかながら斧台とは反対方向に反っている。33もサカキを使った鉄斧の藤柄継斧で、装着部はやせて残りが悪いが、根元で幅3.7cmある。握りと斧台の角度は82°である。

#### のみ形

34は全長18.1cmでのみないしヤリガンナに形状が似ている。明瞭な段がついた装着部を持たないので、実用ではなく模倣品の可能性が高い。長さ9.6cmで $2.8 \times 2\text{cm}$ の楕円形の握りが付く。サカキの心持ち材を使っている。

3. 工具



第6図 斧膝柄(2)・のみ形

## 4. 農具

農具には鋤・泥除・鋤・臼・杵・横櫛・木鎌・コテ・ソリ・田下駄・作業台などがある。鋤や鋤は農作業だけに特定されず、土を掘る土木作業全般に使用されたとみられる<sup>(7)</sup>。

### 直柄鋤

鋤には直柄鋤と曲柄鋤があり、直柄鋤には諸手鋤・狭鋤・広鋤・又鋤・えぶり・横鋤がある。用材はアカガシ亜属の柾目材が使われるが、諸手鋤のみアカガシ亜属の板目材が用いられている。ほかに例外としてエノキ属を用いた広鋤70が1点のみ出土している。製作工程を示す未成品として原材段階の資料が出土しているが、すでにこの段階で1枚分の大きさに分割されていて、連続製作を示す未成品は出土していない。

諸手鋤は、完形品は出土していないが、着柄孔を中心に湾曲しているものを諸手鋤としている。出土した3点はいずれも内湾側に流線形の着柄隆起がついている。上述のように他の鋤と異なって板目材を用い、外湾面を樹心側に木取りを行っている。また、このような木取りを行うため、直径の小さい部分を使っている点も異なっている。

ほかの鋤や鋤と異なって、諸手鋤のみが板目材を用いることについて、合理的な説明は用意できていないが、大きく湾曲した縱断面形をしているため、柾目取りをすることによって刃部が横割れすることを嫌って板目材を使ったと思われる。しかし、九州地方でも柾目取りした諸手鋤が出土しているので、この見解も必ずしも妥当とは言い切れない。42は着柄孔から下半の破片で、唯一刃部形状がわかるもので、刃部先端は丸みを帯び、刃部幅は11.2cmで狭鋤の幅と同じである。

狭鋤は身の中央か、それよりも上端よりに着柄孔を設けている。着柄孔の形状は、43・49~51のように円形と、44~48のように方形に近いものがある。着柄隆起は顕著ではなく周囲から漸次厚くなっている。刃部先端は身幅とほぼ同じ幅で平坦なものと丸みを帯びたものとがあり、別に先端が尖るものがある。

広鋤は部分属性をみると、上端面、側面、着柄隆起、刃部先端の段の有無、泥除装着装置の有無などに違いがある。その中で、南方(濟生会)遺跡出土の直柄広鋤の特徴として、刃縁に段を持つ個体が多く見られることが上げられよう。刃縁の段は両側面に及ぶ1類と両側を残しこの字に付ける2類がある。段の位置は刃縁から1~1.5cmと刃縁に近接し、段上部の厚みが1.5~2cmある。段から下部を装着部として別の刃器を付けるのならばよいが、このままでは段が作業の障害となるよう思える。出土例の有無は別として、仮にこれに装着されうる刃器を考えてみると、U字形鎌先の側部を切り取って装着部の両側が解放された、中国の一宇形鉄器のような形となろう。ただし、この場合は、装着部分の奥行きが1~1.5cmと狭いものを想定せざるを得ず、装着時の安定性に欠けるものともなろう。

35~39は1枚分に切断した板材である。35は1枚分の長さに切断し、樹皮側の厚みを少し取った段階で、長さ42.5cm幅18.4cm厚さ4.1cmである。図の上端面は整えられているが、下端面には切断痕が残っている。36はほぼ完形の未成品で左右の厚みが整えられていて、さらに、図の後面側の下端から厚みをとる加工が始まっている。上端部・下端部に切断痕が残っていて、長さ36.8cm幅18.7cm厚

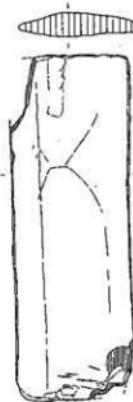
4. 廃貝



35



36



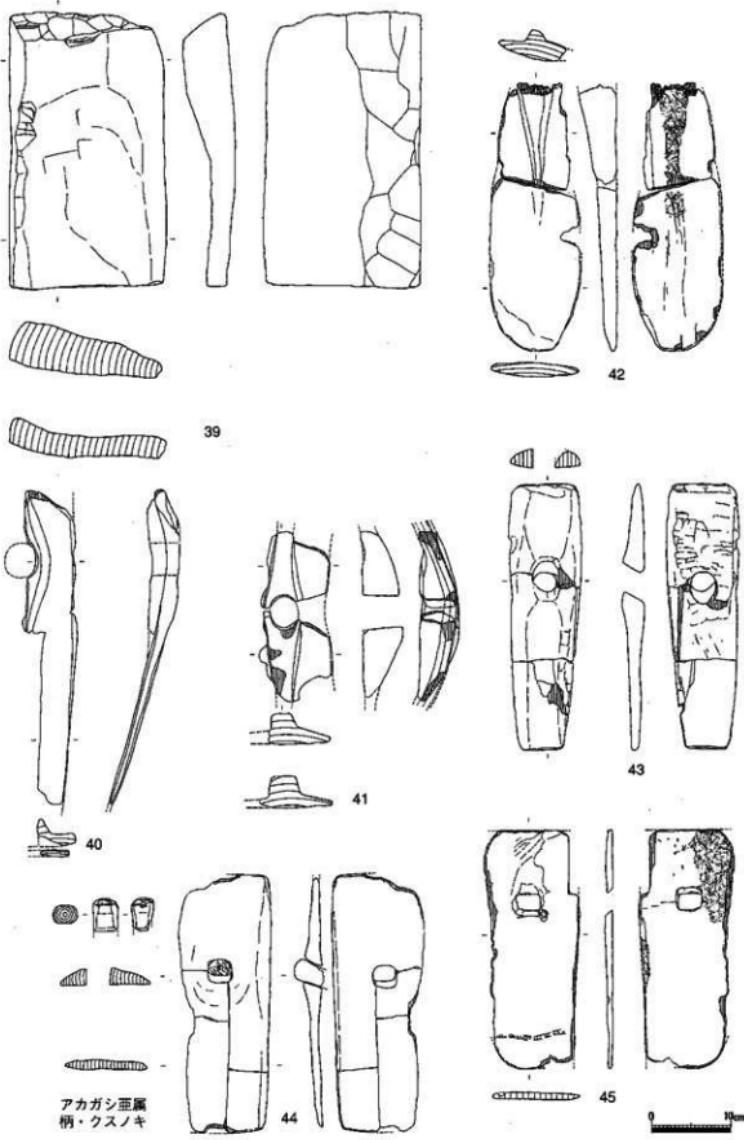
37 アカガシ亜属



38

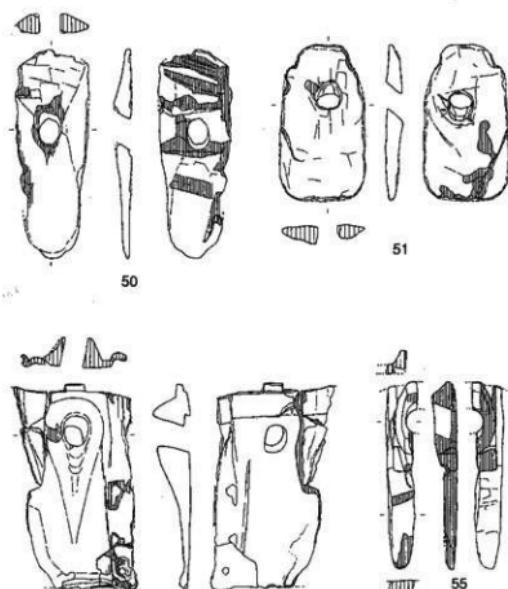
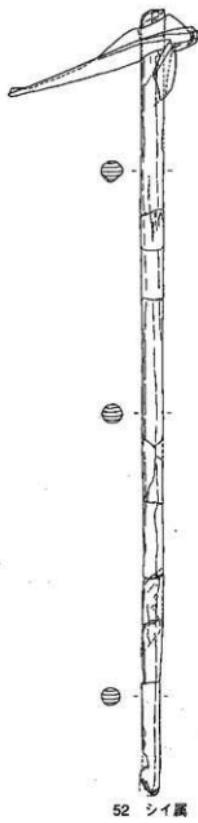
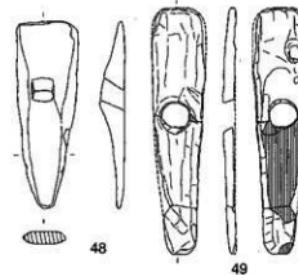
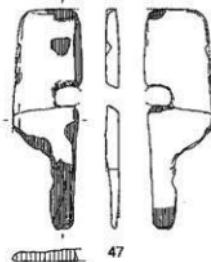
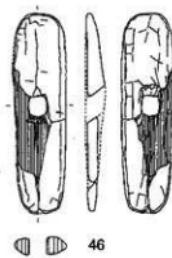


第7図 直柄鉤(1)



第8図 直柄鋤(2)

4. 鋏具

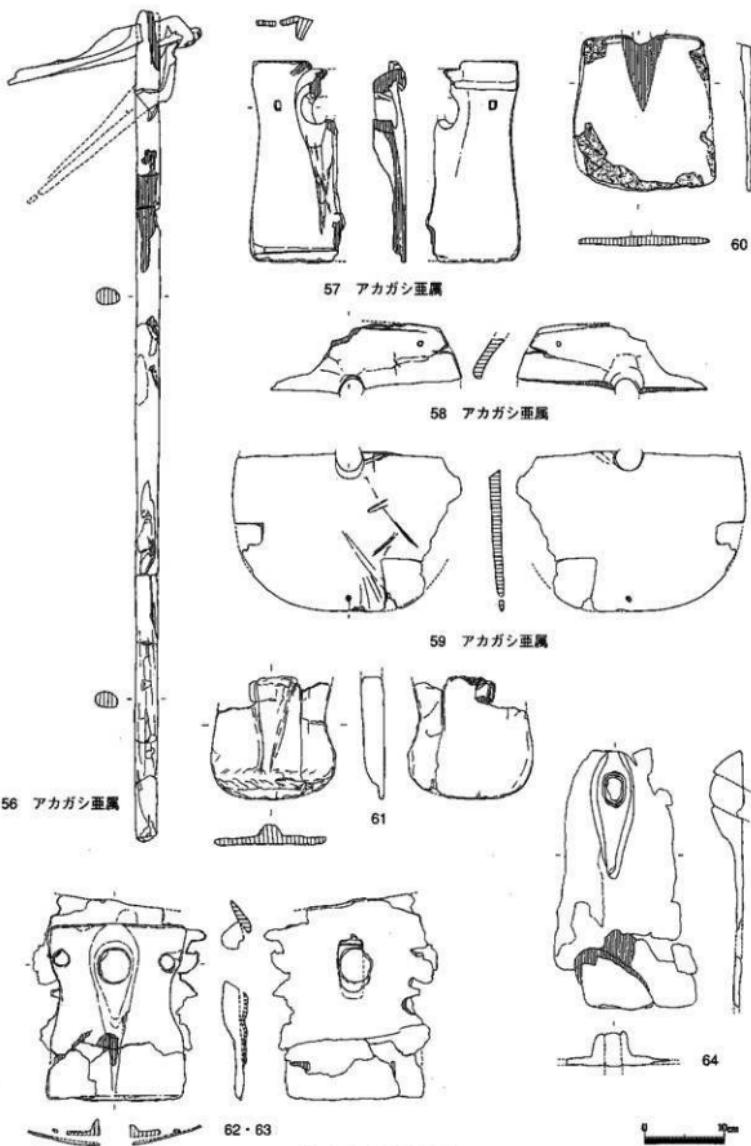


53 アカガシ亞属

52 シイ属



第9図 直柄鋤 (3)



第10図 直柄鋤(4)

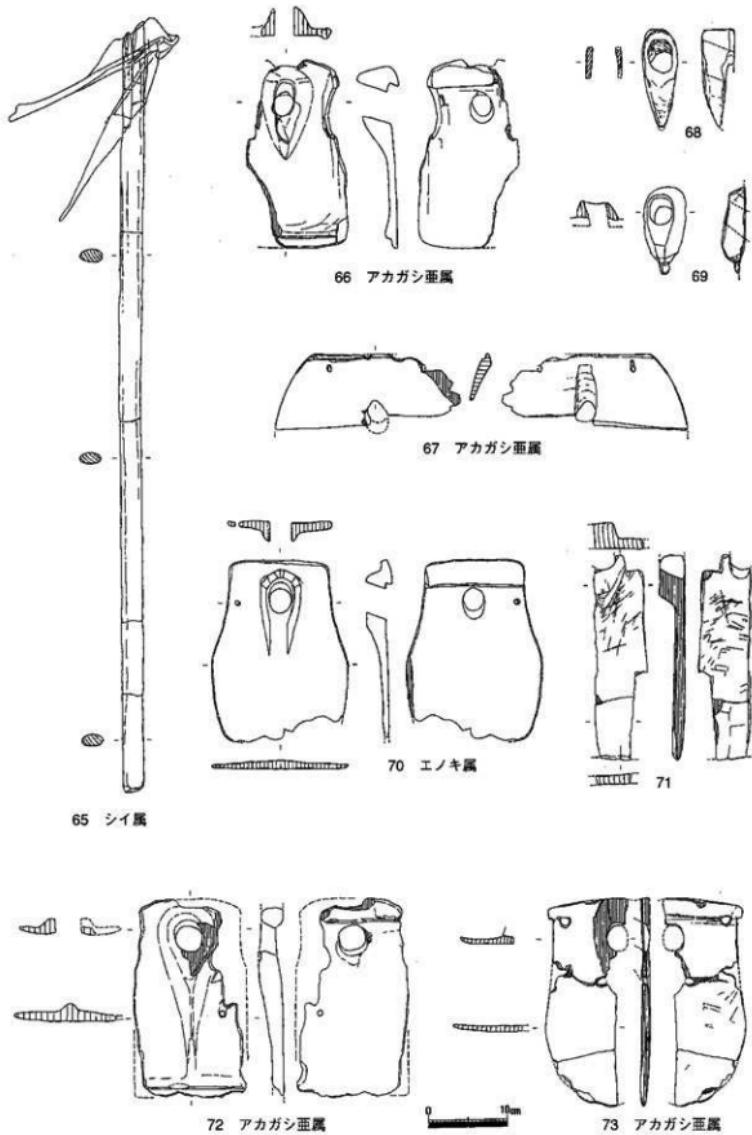
さ5.1cmである。37は長さ42.8cm幅14.6cmのはば完形の鉄鋸未成品で、柄孔は未穿孔であるが柄孔周りの緩やかな隆起は作られている。38は1枚分の長さに切断し、樹皮側の厚みを少し取った段階の未成品で、長さは44.1cmで幅26.1cm厚さ5.7cmである。樹心側の側面(岡の右側面)にはみかん割りした時の剖面が残っている。39もほぼ完形の広鋸未成品で、上端側は着柄隆起の長さに相当する部分が未加工に近く端面に切断痕が残っているのに対し、下端面は直線的に成形し刃部側を薄く削り始めている。横断面で見ると、中央部分から薄くしていく、側縁には厚みを持たせている。裏面は樹皮側を削っている。長さ34.1cm幅19.5cmである。

40~42は諸手鋸である。40はアカガシ亞属材を板目に取ったことにより継割れした右側の破片で、片側の刃部を欠く。内湾側に舟形隆起を持つ。41も内湾側に舟形隆起を設けた中央部の破片で、柄孔部分でさらに横割れしている。42は湾曲もなく柄孔も焼損しているが、板目材を使っており諸手鋸と見てよかろう。

43~51は狭鋸である。43は円形の柄孔を持つほぼ完形品で、刃縁で幅がやや狭くなり角張っている。長さ33cm刃縁幅は5cmである。44は隅丸方形の柄孔にクスノキ製の柄の頭部が残っている。左側部に痛みがあるがほぼ完形で、全長は32cmである。45は後面左肩部と右側部が炭化している。柄孔は隅丸方形で周囲の隆起がほとんどなく、前面と後面の区別が付かない。全長29.6cmである。46はほぼ完形で、方形に近い柄孔は身のほぼ中央にある。刃縁は直線的であるが、角が取れてやや丸みを帯びている。全長24.95cm幅6.7cmである。47は継割れしている上に刃縁がほとんど残っていないので確実ではないが、右肩部の開きからすると刃縁の幅が少し広くなると見られる。48はほぼ完形品で平面形は刃縁が細くなる三角形状を呈する。柄孔は方形で周囲の隆起は3cmと他と比べて顯著に厚い。全長23.4cmで頭部の幅が7.8cmある。49もほぼ完形品で柄孔周囲の隆起はほとんどない。最大幅6cmと細身で、同じく細身の46と同様に柄孔がほぼ中央にあけられている。全長は30.3cm刃縁の幅3.5cmである。50は円形の柄孔を持つ。刃縁は多少の傷みがあるが丸形である。全長は26.1cmである。51はほぼ完形であるが、全長19.3cmと使用に伴い短くなっている。刃縁で最大幅となる。

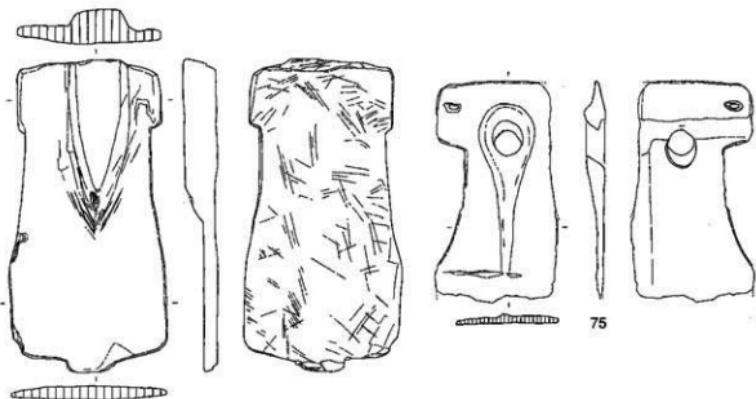
52~83は広鋸である。52・53・54は鉢身・泥除が柄に装着状態で出土した。52の柄はシイ属の柾目材を断面円形に加工したほぼ完形品で、全長は97.2cmある。53は泥除装着装置を持つ広鋸で、刃縁には段を持ち着柄隆起は段の手前まで及ぶ。上端面には着柄隆起上方に方形突起を持つ。54の泥除には広鋸との繋縫用の円孔とは別に補修孔がある。56・57・58・59も鉢身・泥除が柄に装着状態で出土した。56の柄はアカガシ亞属製のはば完形品で、全長は102.8cmあって、断面楕円形に加工している。57は右半分を欠くが刃縁には1類の段を持つ広鋸で、柄孔側方に6×9mmの方形孔を持つ。上端面には柄孔上部で欠込を持つ。刃縁は直線的で角張っている。全長24.8cm。58・59の泥除は柄孔部分で折れているが同一個体である。60は柄孔から折れた下半部の破片で、着柄隆起も脱落している。一部に炭化がみられる。61は刃縁から1.6cmのところに高さ1.3cmの1類の段がある。刃縁の両角がとれて丸形である。62は泥除63が密着して出土した。柄孔側の側縁沿いに直径2.3cmの円孔が1対ある。着柄隆起は刃部の段にまで及び、刃縁は段の部分で折損している。側面は円孔の下部で内湾する。全長21.8cm幅17.2cmである。64は柄孔に柄が残存している。

65・66・67も鉢身・泥除が柄に装着状態で出土している。65の鉢柄はほぼ完形で全長が95.2cmあって、シイ属の柾目材を用いる。断面形は楕円形である。66の鉢身は刃縁に1類の段を持ち、上端面には着柄隆起上に欠込がある。全長23.1cmである。67は泥除の上端側の破片で、対応する鉢の泥除

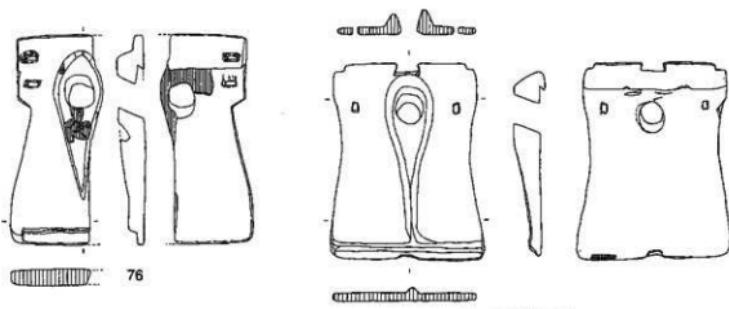


第11図 直柄歟(5)

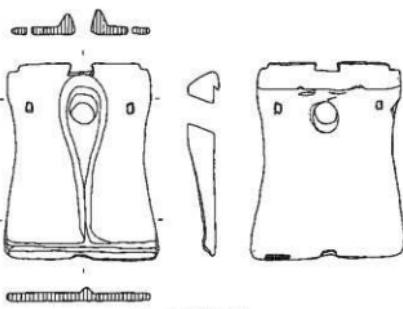
4. 墓具



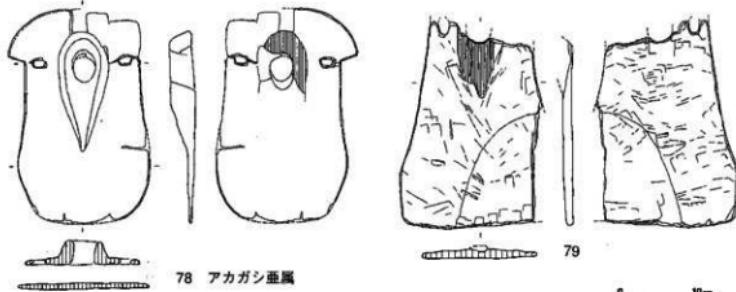
74 アカガシ亞属



76



77 アカガシ亞属

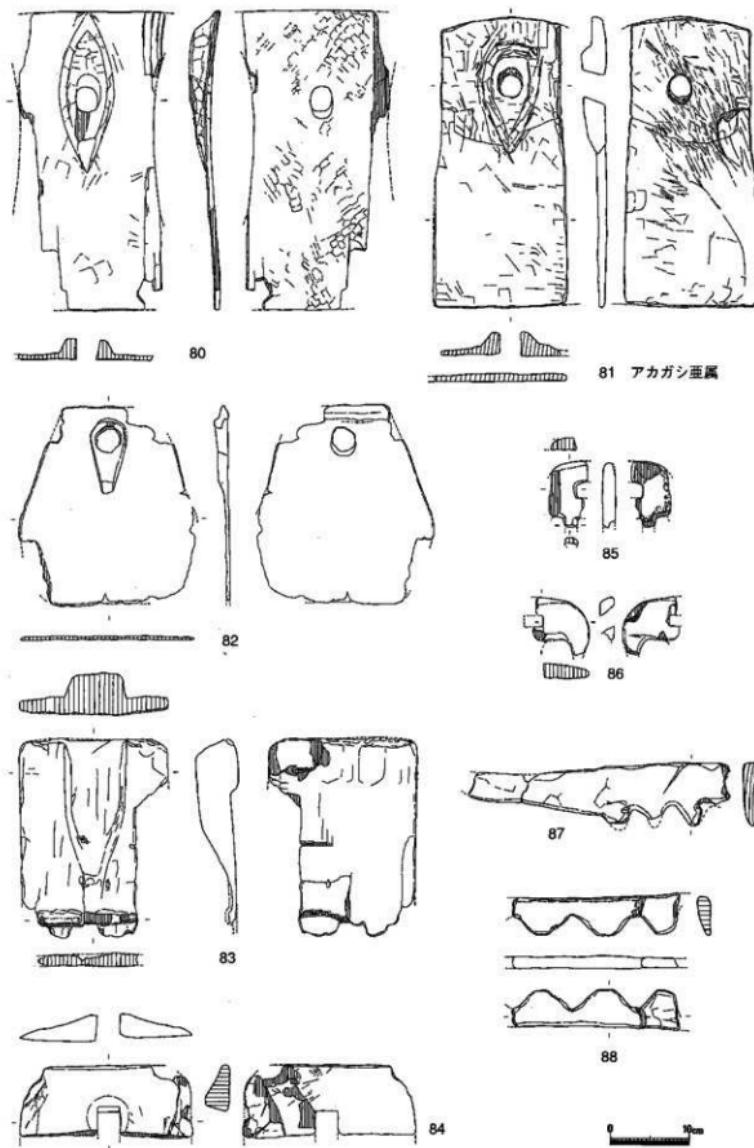


78 アカガシ亞属

79

10cm

第12図 直柄鎌(6)



第13図 直柄鋤 (7)

装着装置端部がつく段を持つ。69は着柄隆起部の破片で、刃部側に幅1.2cm長さ1.4cmの舌上の隆起が残る。70はエノキ属の柾目板を使用した広鋏で、形状ではほかの広鋏と別段変わった点はみられない。右側縁の泥除装着装置の下に円孔が1つあけられている。泥除の緊縛用であれば数が不足しているので、未成品か追補の可能性もある。刃縁が破損しているため使用・未使用は不明である。72には刃縁に1類の段があつて着柄隆起の端部が段までびている。73は顯著な丸形の刃縁を持つ。

74は直柄鋏未成品で全体の形はできているが、上端面が平滑になつてない。若柄隆起が上端部に接している。刃縁中央に突起状の残存部分がある。柄孔はあけられていないなど、未処理部分が残っている。全長は38.6cmである。75は側面が柄孔の横で大きくくびれる。泥除装着装置の上部に円孔をあけているから、泥除の緊縛はこのくびれを利用したと思われる。76も平面形は75に似るが75ほどはくびれない。頭部の両側に泥除装着装置を挟んで上下に緊縛用の方形孔がある。刃縁の段は2類である。全長26cmである。77は完形品で、上端面には着柄隆起に接する台形状の欠込が、両肩にはL字状の欠き落としがある。刃縁上部に1類の段があり着柄隆起の下部がつながる。全長24.4cm幅18.9cmである。78は上端面が弧状を呈する半月形の頭部を持ち、上端面中央には着柄隆起に接する幅1.8cmの欠込がある。柄孔の左右には方形孔がある。80は平面形は上端と刃縁が直線的で、側面が柄孔の横でくびれる。平鋏では唯一流線型の着柄隆起を持つ。泥除装着装置はない。全長36.8cmである。81は完形で着柄隆起をはじめ加工痕が明瞭で、仕上がり直前の未成品とみられる。泥除装着装置を持たない。全長35.8cmである。83は広鋏未成品で、着柄隆起の成形段階である。柄孔は未穿孔で、刃縁から1.5cmのところに幅2.2cm高さ1cmで突帯状の1類の段がある。

直柄又鋏は2点出土しているが、どちらも柄孔部分で折れている。柄孔は方形とみられ、周囲の隆起は顯著ではない。柄孔との位置関係からすると85は4本刃、86は3本刃とみられる。刃の断面形はどちらも円形に近い。

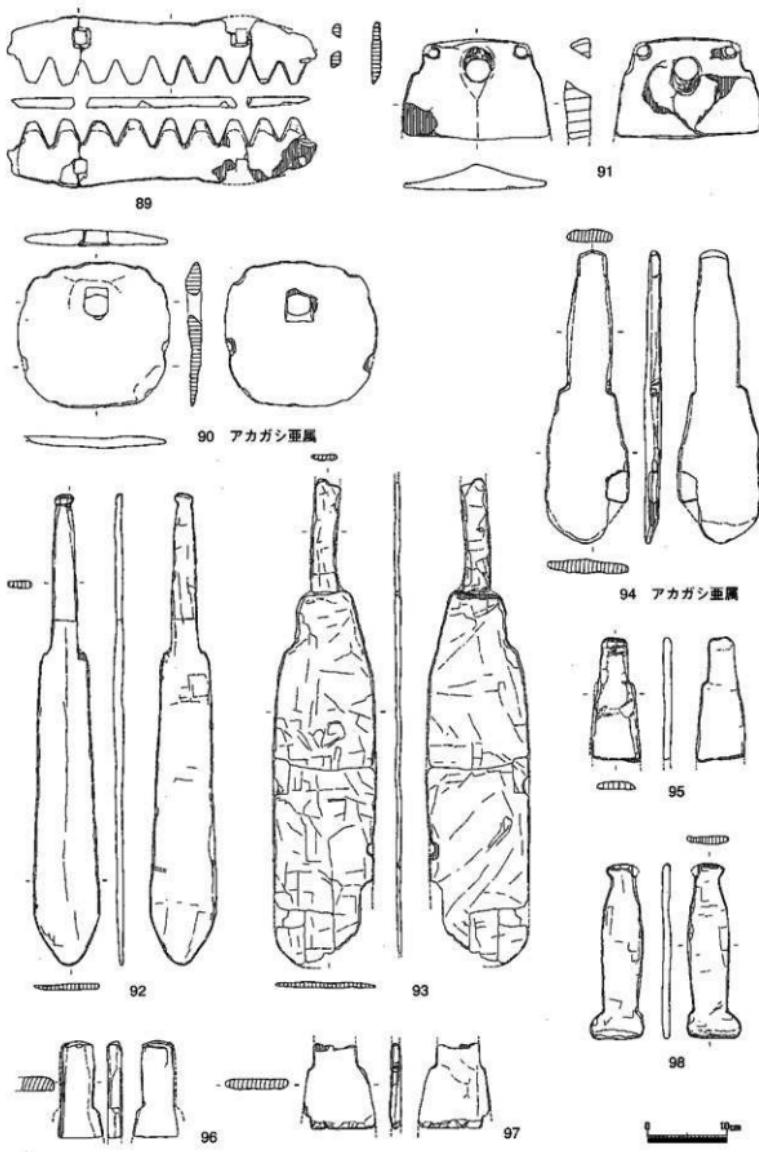
えぶりは3点出土している。87は端部が細くなつていて、山形の歯は中央にのみ作られている。88は低い山形の歯が3つ残る。89は約1.5cm角の小さな方形柄孔が20cm離れて2つあけられていて、Y字形の柄がつけられたと見られる。山形の歯は9本残っているが、両端の欠損部分を復原すると11本になる。刃先は前面が使用による摩滅が著しい。背部は柄孔上部が緩く山形に高くなっている。

84・90・91は横鋏である。柄孔は方形と円形の双方があり、周囲の隆起を持たないか徐々に高まるものである。90は平面隅丸方形の完形品で、柄孔周囲には隆起はない。全長17.9cm幅18.8cmである。91には左右の肩に円孔がある。

#### 曲柄鋏

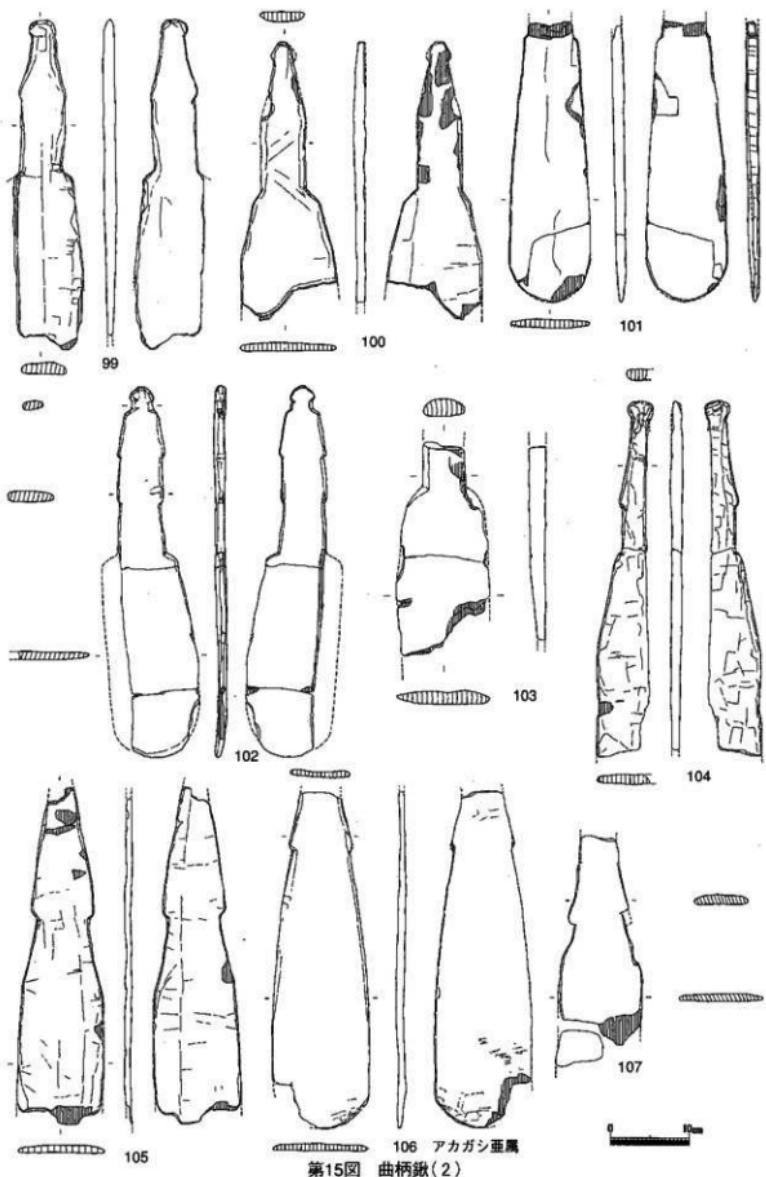
曲柄鋏には平鋏と又鋏があつて、アカガシ亜属の柾目材が用いられる。着柄軸の形状は様々で、顯著な紐かけを持たないもの、頭部や肩上部に段を作つて紐かけとするもの、いわゆるナスビ形<sup>(8)</sup>などがある。又鋏の又部の形状には角形・丸形・尖形の3者があり、尖形が最も多い。

92は幅8.2cm全長58.5cmと細身の完形品である。着柄軸も細長く頭部に紐かけを作るが、そのほかには明瞭な紐かけはない。93も着柄軸は幅3cmで細長く、刃部長が41cm以上と長大である。94は着柄軸頭部側面にはわずかに段をもつが、明瞭な紐かけが作られていない。刃縁は使用により変形している。全長36.2cmである。99は着柄軸中央部の屈曲部がすこし強調されて紐かけになっている。紐かけから下は肩部まで直線的である。輪頭下部・中位の紐かけ・肩部直上に緊縛痕がある。100は99ほどは着柄軸の屈曲部が強調されていない。101は着柄軸の根元から折れた刃部の破片で、刃縁は丸形

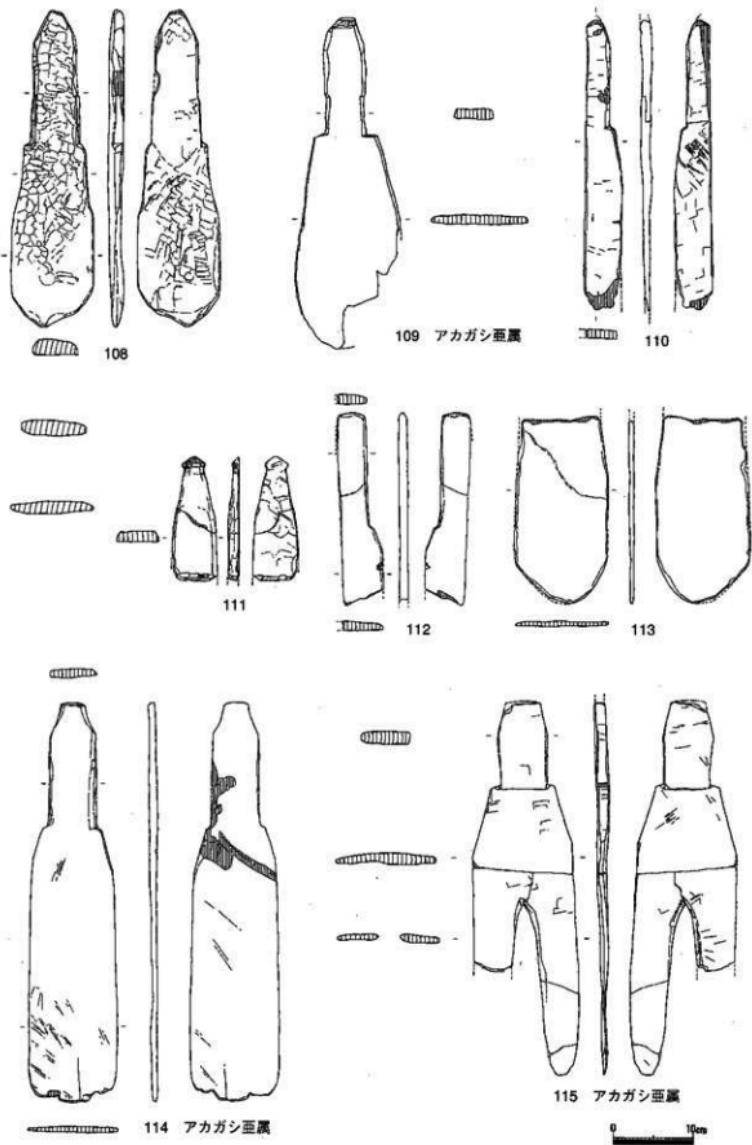


第14図 直柄鋤(8)・曲柄鋤(1)

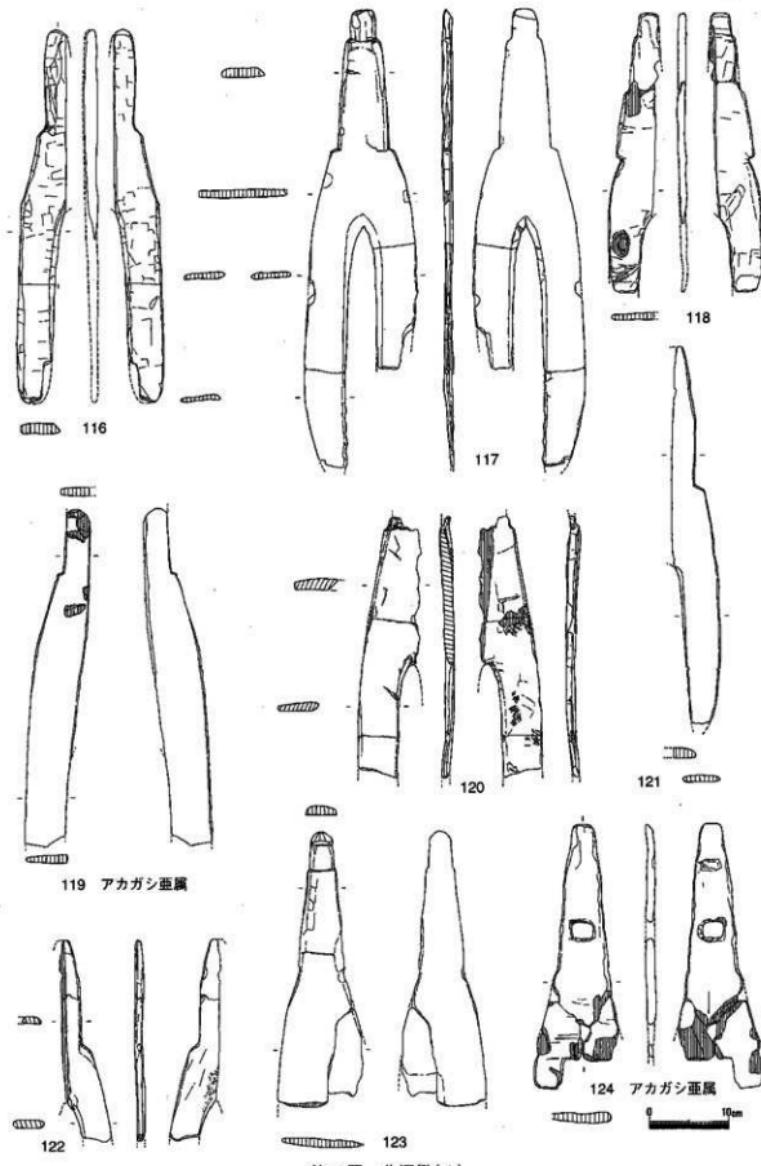
4. 畜具



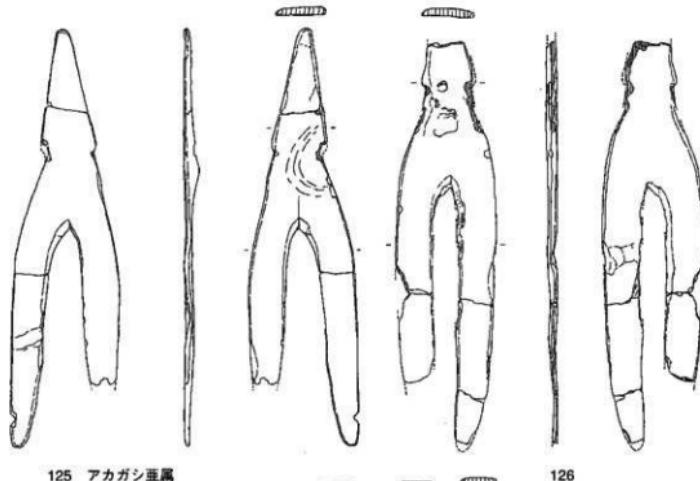
第15図 曲柄鋤(2)



第16図 曲柄鋤(3)

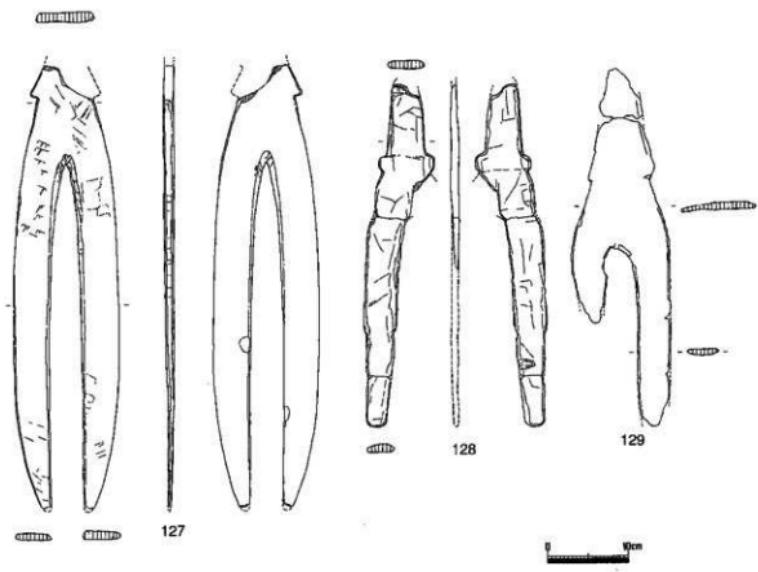


第17図 曲柄鋤(4)



125 アカガシ亞属

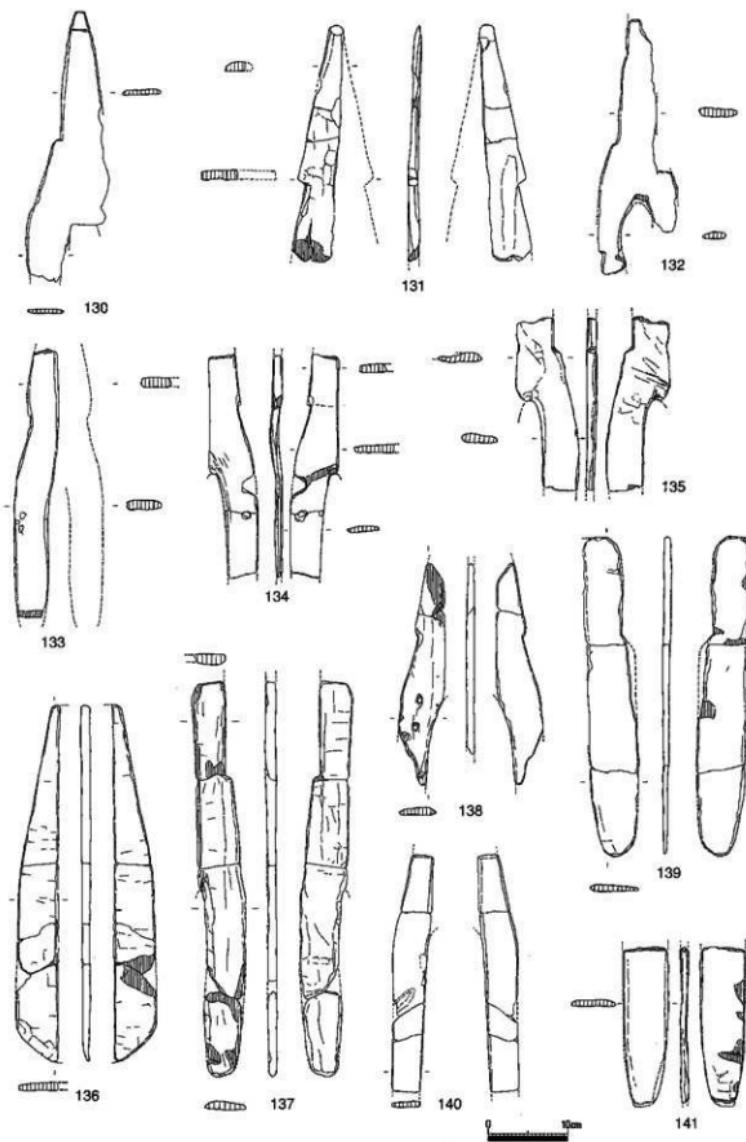
126



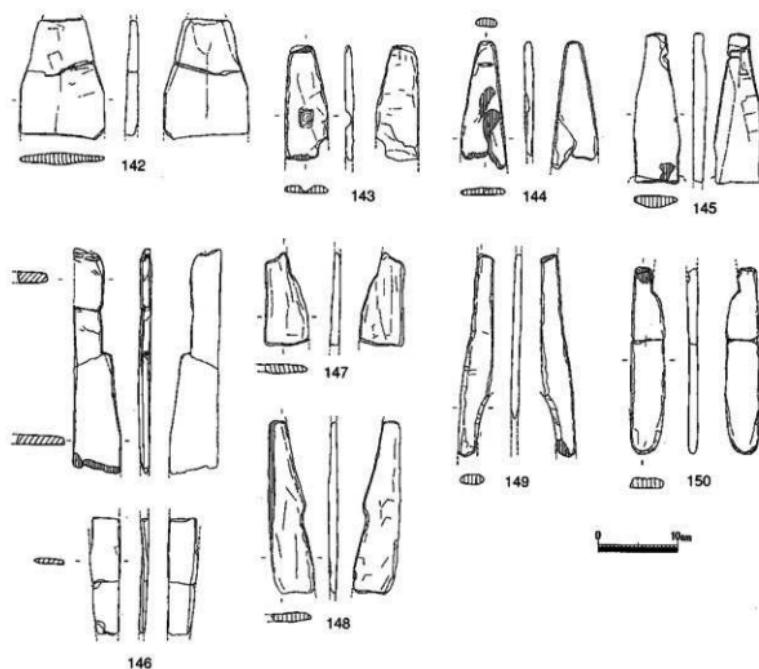
1 cm

第18図 曲柄鋤(5)

4. 鋏具



第19図 曲柄鋸(6)



第20図 曲柄鋤(7)

である。102は三角形状の軸頭で、着柄軸の中間にほば等間隔で2箇所の段がある。刃縁は丸形で、全長45.9cmである。104は着柄軸の形状は99に似るが、より紐かけが強調されている。

105～107はナスピ形鋤で、106は紐かけの下に肩も持たないが、107では紐かけが強調され肩が明瞭である。108は軸頭を台形状にせばめ、軸部には緊締するような段や抉り込みを持たない。刃部は磨滅していく表面には明瞭に加工痕が残る。全長39cm幅10.3cmである。109は着柄軸頭部を台形状にするが紐かけは作らない。下部は肩部の上長さ5cmにわたり両側面から切り込みを入れて紐かけとする。114は完形の曲柄鋤未成品で、着柄軸の形状は108と同様である。刃縁には切断痕が残る。全長49.3cm幅11cmである。115は二叉鋤で、着柄軸中央で最大幅を持ち上下に細くなる。尖形の又部をもつ。117は軸頭を側面から削って幅を狭め紐かけとしている。又部は尖形である。118はナスピ形であるが、着柄軸頭部は117と同様にしている。

121の着柄軸は長い菱形状で、115の着柄軸を細長くしたような形。123は着柄軸頭部に紐かけ用の溝を作る。124は着柄軸部に方形のほぞ孔を持つが明瞭な紐かけがない。角形の又部である。125は左の刃部先端を欠くがほぼ完形のナスピ形である。着柄軸頭部には紐かけを持たない。127は又部

#### 4. 農具

から下の長さが42.5cmある。128には着柄部と刃部の境に横突起を持つ。129は丸形の又部である。130は着柄軸が途中から先端に向け細くなり、端部には紐かけの浅い段をつける。又部は角形。

##### 泥除

泥除はアカガシ亜属の柾目材を横木取りして製作される。2点出土した未成品には側面に切断痕が残っているので、泥除も分割製作を行ったとみてよからう。

151は柄孔周囲の隆起を作り出しているが、後面の内割りは施されていない。上辺は直線的で刃部側の角を落として丸みを持たせている。側面に切断痕が残る。残存長30.3cm幅35cmである。152は151より加工が進み、柄孔は未穿孔であるが周囲から徐々に高まりを作つてほぼ位置決めがなされている。後面は成品の薄さには及ばないが、周縁を残しながら内割りも進められている。周縁の加工や柄孔の穿孔は最終段階にされるものとみられる。全長29.1cm幅29.3cmである。

153・154・163は柄孔部分から横削れした下端側の破片である。いずれも下端中央に小孔がある。製作時からか破損による補修かは別として泥除には上下2つの部品を組み合わせて使うものがある。この場合、下半の部品は上半の部品と緊繩するにしても、さらに紐などにより柄から吊り下げる必要がある。この小孔はそれに使われたと思われる。155～162は柄孔から上端側の破片である。鍼との結合のため上端の両角に孔をもうけるが、156・161のように上端面前面に鍼の泥除装着装置端部がつく段をもつものもある。157・158・159には下半の部品との緊繩用の小孔がある。162は外面柄孔上部にはしっかりとした槽があり、柄は断面方形と推測できる。

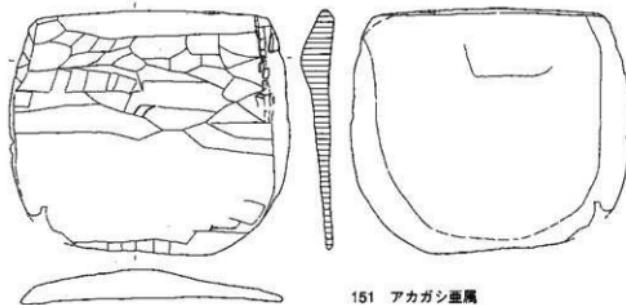
##### 鋤

鋤には身と柄を別材で作る組合せ鋤と一体で作る一本鋤とがあるが、組合せ鋤の柄を別にするといずれもアカガシ亜属の柾目材が使われている。

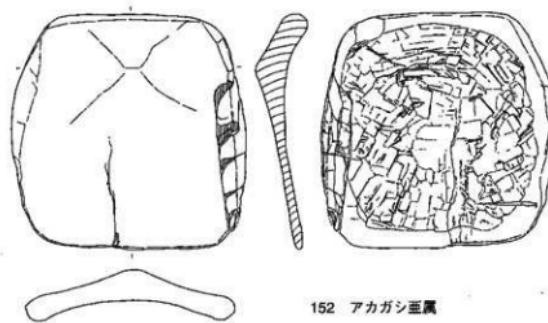
組合せ鋤の未成品には板材段階のもの(164～166)と加工が進み仕上げが近い段階のもの(167・168)が出土している。164は残存長61.9cm幅20cmの板材で、小口から10cm離れて1箇所と折損側の端部にかかって1箇所横凸形のくぼみ加工がみられる。小口から2つのくぼみ加工の中間までの長さが46cmあって、166の44cmに近い長さであるので分割前の未成品と考えられる。165は長さ39.7cm幅16.5cmの板材で、一方の短辺は薄くなっているが切断痕が残り、他方は端面に加工を施してはいるものの厚みを残していることからすれば、端面加工を施している側が上部になるとみられる。166も同様で、長さ44cm幅18.7cmの板材の上端面は、平らに加工しているが厚く縁状に残している。刃縁側の端部には切断痕がそのまま残っている。

167は長さ7.5cm幅4.5cm厚さ3.3cmと長く太い軸部をもつ。後面の上端に縁を残して段状にしていることからすると、すくい具の未成品の可能性も残る。ただ、直柄鍼未成品39(第8図)や泥除の未成品152(第21図)で見えたように、周縁を残して内部を薄く削り込んでいくので、167も上端部に周縁がまだ残っている状態と見ることもできる。168は後面の中央上部に舟形隆起状の削り残しがある。直柄鍼の未成品とも思えるが、軸部を持つことや舟形隆起状の削り残し以外の横断面形状からして組合せ鋤の未成品と考えられる。全長27.4cm幅18.4cmである。

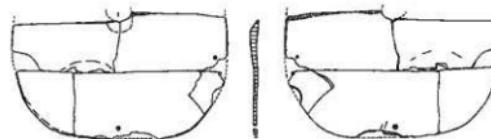
組合せ鋤には平鋤と又鋤とがあるが、柄の装着方法には3者がある。1類は柄の装着溝が前面で袋状にならむるもので、169が1点のみ出土している。2類は装着溝両側で上端面により1対の孔を持ち、これにより紐で柄を緊繩固定するもので、3点出土している。完形品の170では軸部が小さくなつて半ば形骸化している。3類は太くてしっかりとした軸部を持つもので、もっとも出土数が



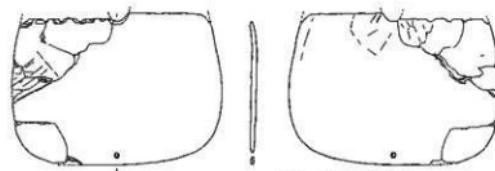
151 アカガシ亜属



152 アカガシ亜属

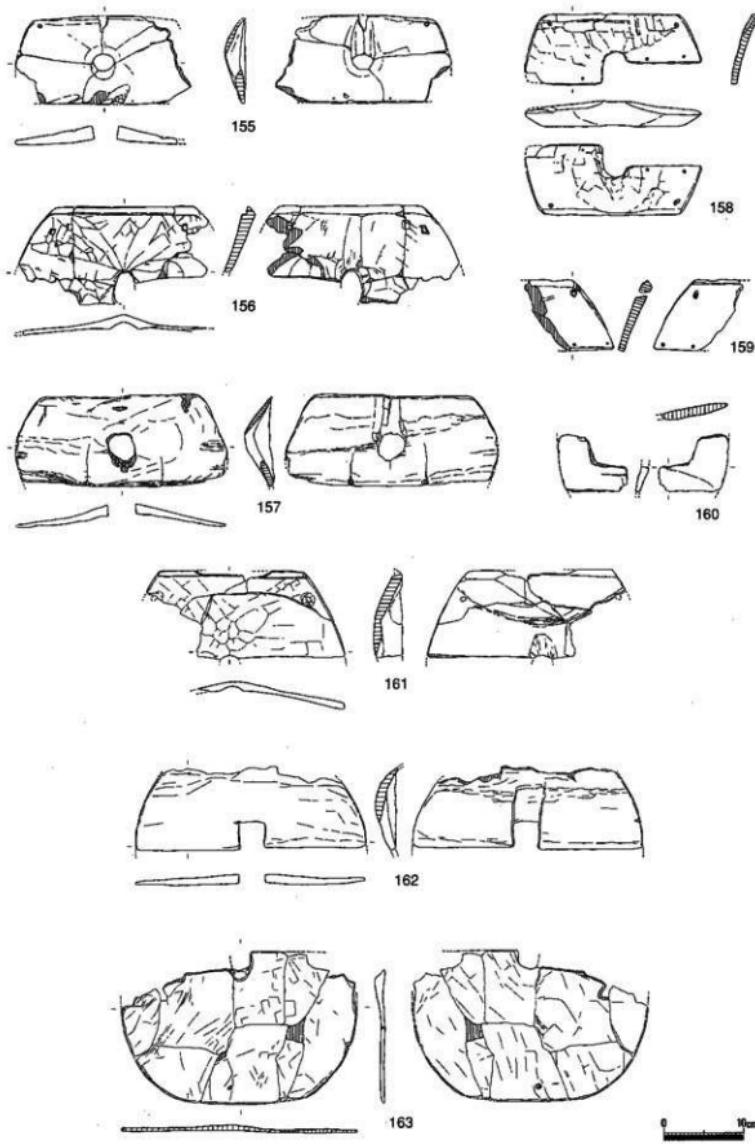


153 アカガシ亜属



第21図 泥除(1)

4. 墓具



第22図 泥除(2)

多い。部分的属性でみると、軸部では紐かけを強調するものとそうでないものとが、肩部ではいかり肩・平肩・なで肩が、肩端部の突出のある・なしが、刃部先端では角形と丸形とがある。又鋤には二又と三又とがあるが、又部の形状は曲柄鍬でみられた角形や丸形はみられず、いずれも尖形である。

169は軸部や袋部を欠くが柄孔が上端面に接し、前面で柄孔周囲の厚みが増すことから1類と考えられる。袋部は欠損しているものの周囲の盛り上がりが少ないとからすれば、装着される柄の先端は平たく加工されていたと思われる。肩部では幅が12cmと狭く、緩やかに広がって刃部中央で最大幅となる、胴張りした平面形も他とは異なっている。170～172は2類である。170には柄の先端が残っていた。柄はツガの心持ち材を使い断面方形にしていて、柄孔との掛かりのための段がある。端部は装着時に身の前面から突出しないように加工されている。身の着柄軸は先述のように幅2.3cm長さ2.5cmと小さく、軸頭の紐かけもしっかりしていない。全長33.8cm幅17.5cmである。171は着柄軸が欠損しているが刃部長42.5cmと長い。170の着柄軸の長さ2.5cmを付加すれば板材の長さとほぼ符合するので、使用に伴う損耗が進んでいないとみてよかろう。これに対し172は21.8cmと短くなっている。刃縁の形状は171が丸形、172は角形である。

175は着柄軸が太くしっかりとしていて、軸頭の紐かけは前面から側面に及ぶ。176・177は顕著ないかり肩で、177は着柄軸が7.5cmと長い。179・180は着柄軸が短く、前面に屈曲している。189は肩の側方への突出が大きい。199は刃縁で幅が狭まり逆三角形状を呈する。着柄軸は長さ7cmとやや長い。全長29.4cmである。201は完形品で、右の刃縁が著しく片減りしている。全長28.5cm幅17.9cmである。209は柄孔から刃縁までは3.8cmしかなく、使用に伴う損耗が著しい。全長16.5cm幅16.0cmである。

178・189・196・206・210・212～217は又鋤である。178・196・210・217でみると、二又の組合せ鋤は又部の幅を一本鋤と異なり狭く作っている。210は又部が中軸から右に偏っており、平鋤を二又鋤に転用している。全长31.6cm幅19cmである。212は組合せ三又鋤で、刃部は又部から先端までの長さが、わずか7cmと短くなっている。全長22cm幅17cmである。214は三つ又鋤で柄が樹皮で緊縛されたまま残っている。

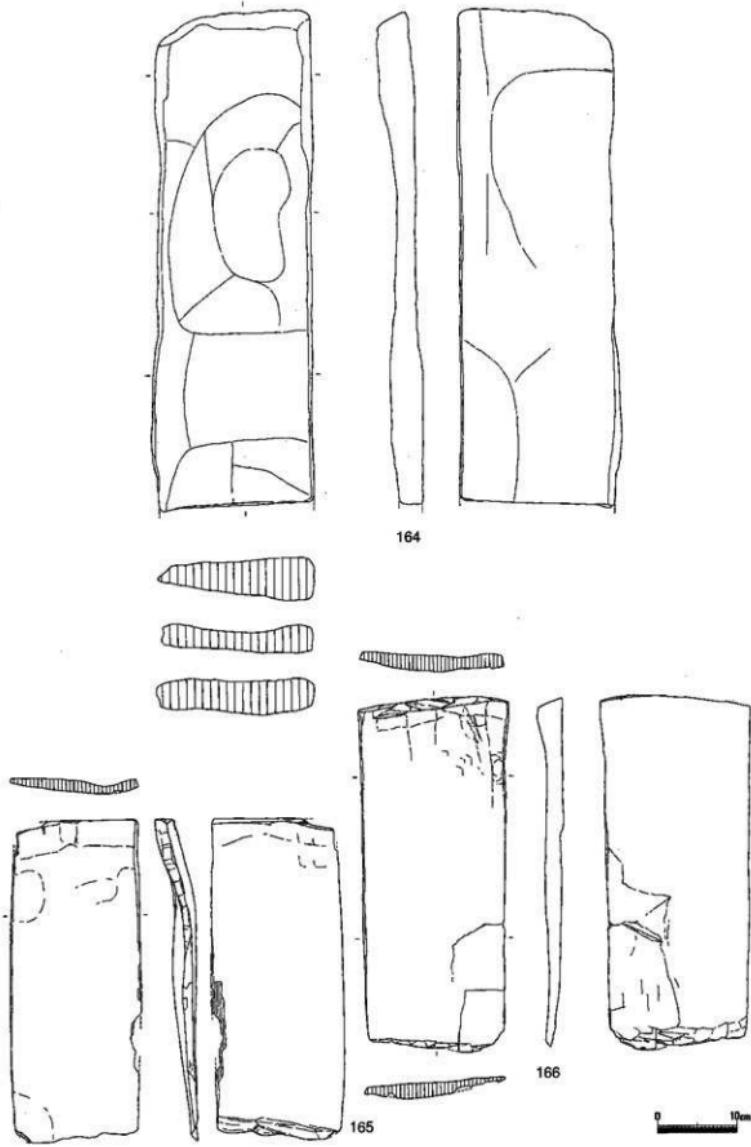
一本鋤にも平鋤と又鋤があって、把手の形状は三角形とT字形がある。また、小型一本鋤では把手が小さな頭部状のものと、円盤状のものとがある。218は二又一本鋤で刃の1本を中ほどから欠くがほぼ完形である。柄は断面形が隅丸の長方形で、把手の形状は三角形である。全長126.7cm刃部幅15cmである。219は刃縁の幅がなくなる逆三角形状を呈するとみられる。身は上半部で湾曲し明瞭に上側面を作り出している。側面から見ると柄は上側面全体からのびている。把手の形状はT字形で、断面円形の柄は長さ65.5cmである。220は顕著ないかり肩を持つ。224・225は身の横断面が湾曲する小型の一本鋤である。224の柄は全長17cmで端部は小さな頭部状を呈する。225には直径6.5cmの大きな円盤状のグリップエンドがつく。227・228は身の横断面が湾曲しない一本鋤で、228は叩き板状の形状をしていて全長33.5cm幅10.2cmである。

#### 掘り棒

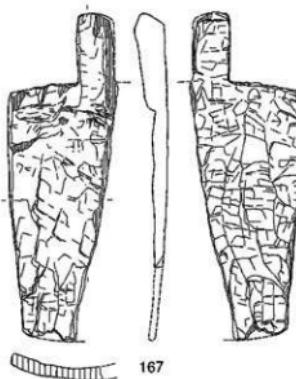
掘り棒は1点出土している。222は幅9cmの梢円形の身を持つ。柄と身は直接接合しないが同一個体とみられる。柄は断面梢円形で、端部はわずかに直径が大きくなっている。残存長85.9cmである。

#### 柄

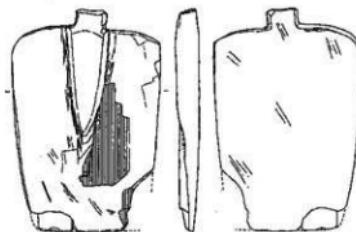
柄には鋤の膝柄・反柄、組合せ鋤の柄などがある。装着部分が破損して棒との区別の付かないもの



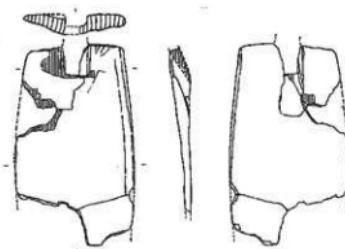
第23図 組合せ鋤(1)



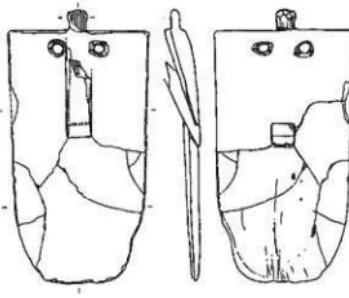
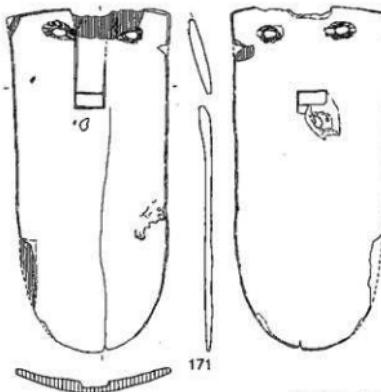
167



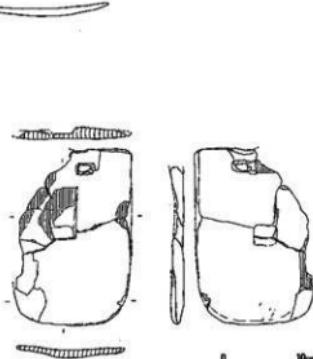
168 アカガシ亞属



169 アカガシ亞属

170 アカガシ亞属  
柄ツガ

171

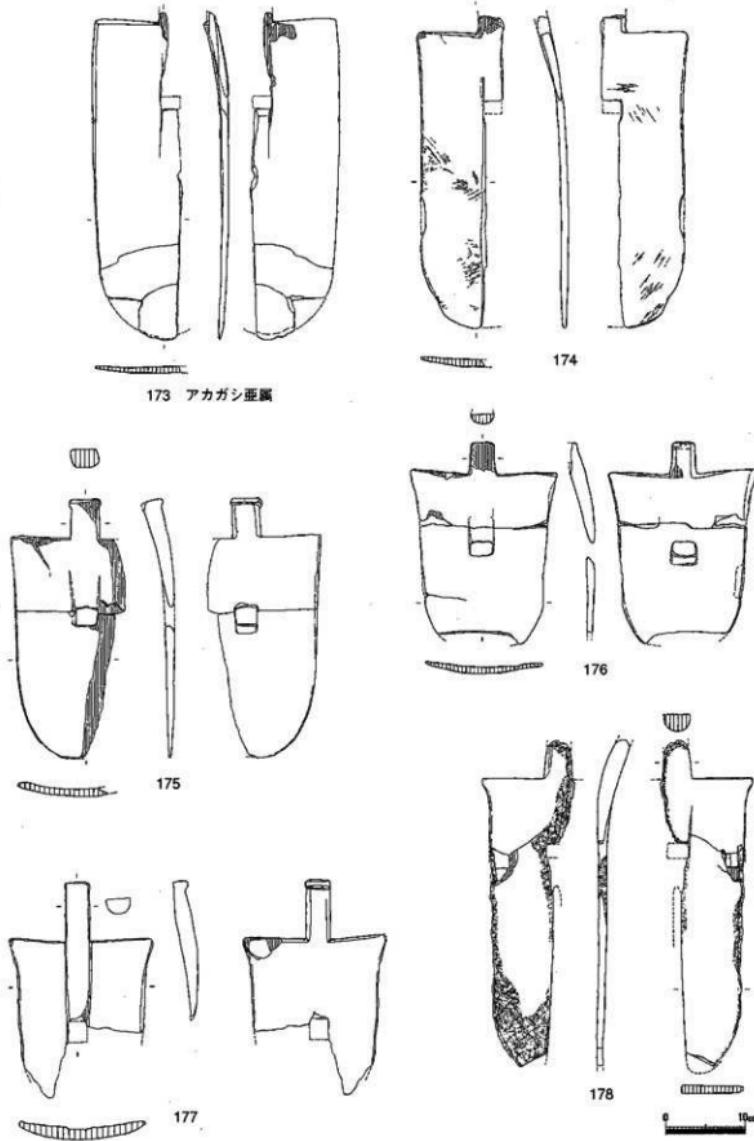


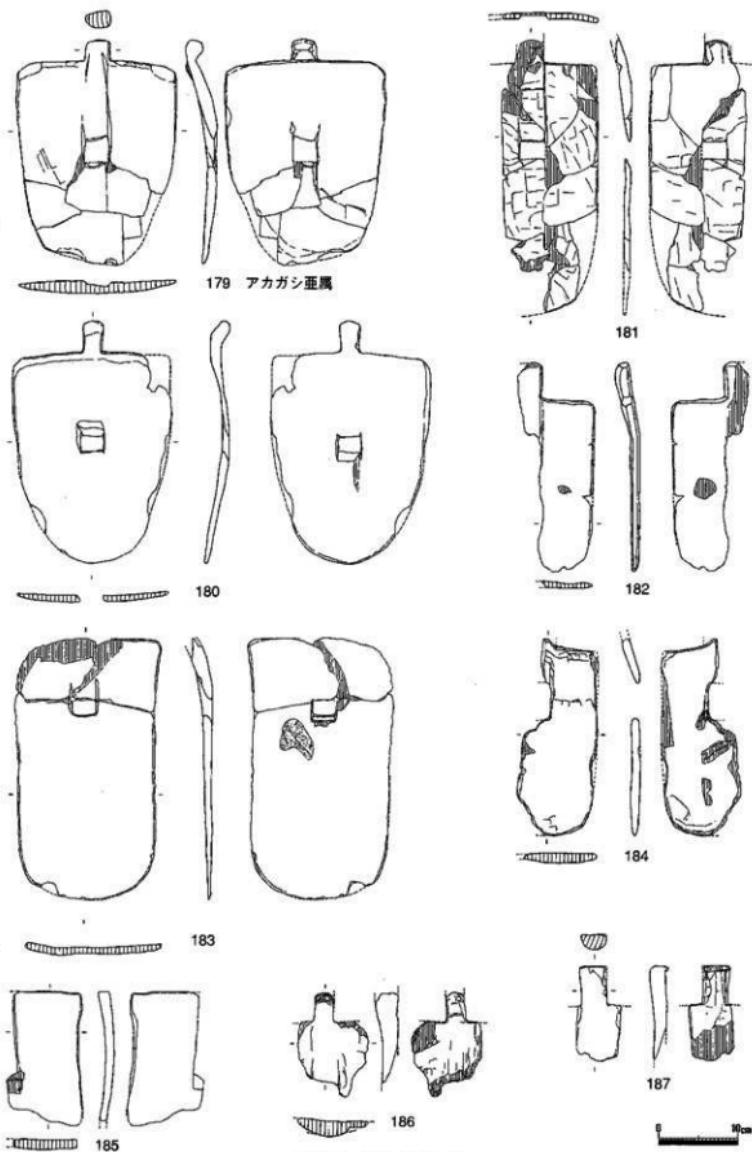
172 アカガシ亞属

10mm

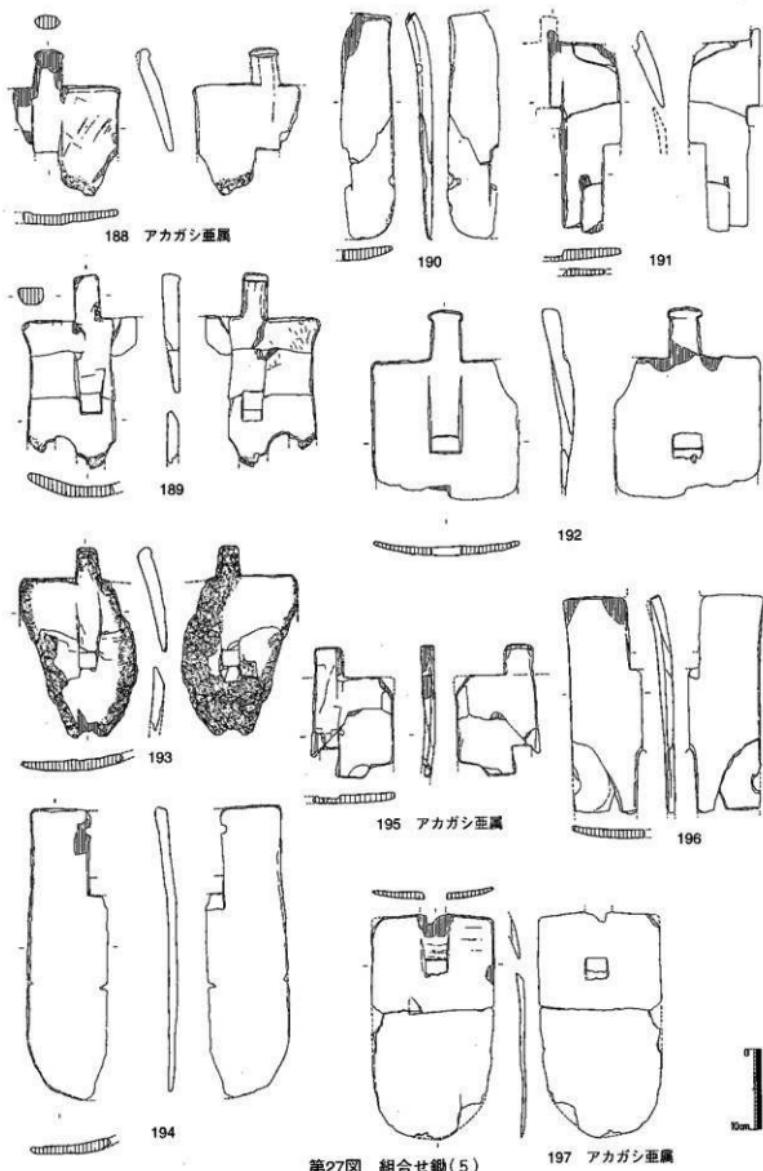
第24図 組合せ鋤(2)

4. 長具

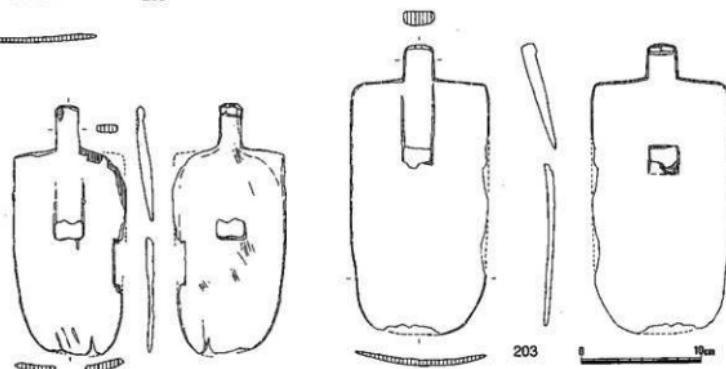
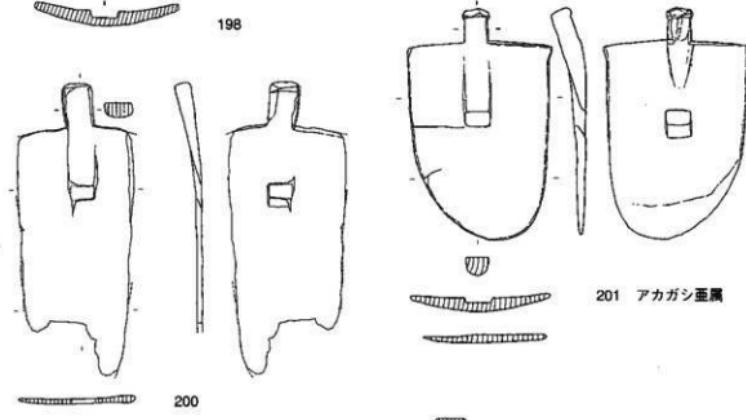
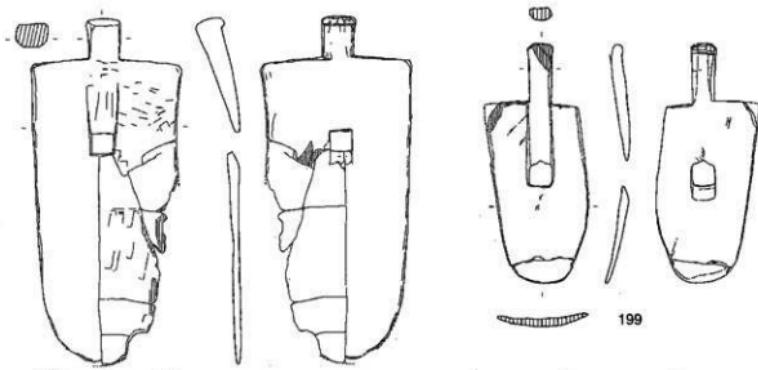




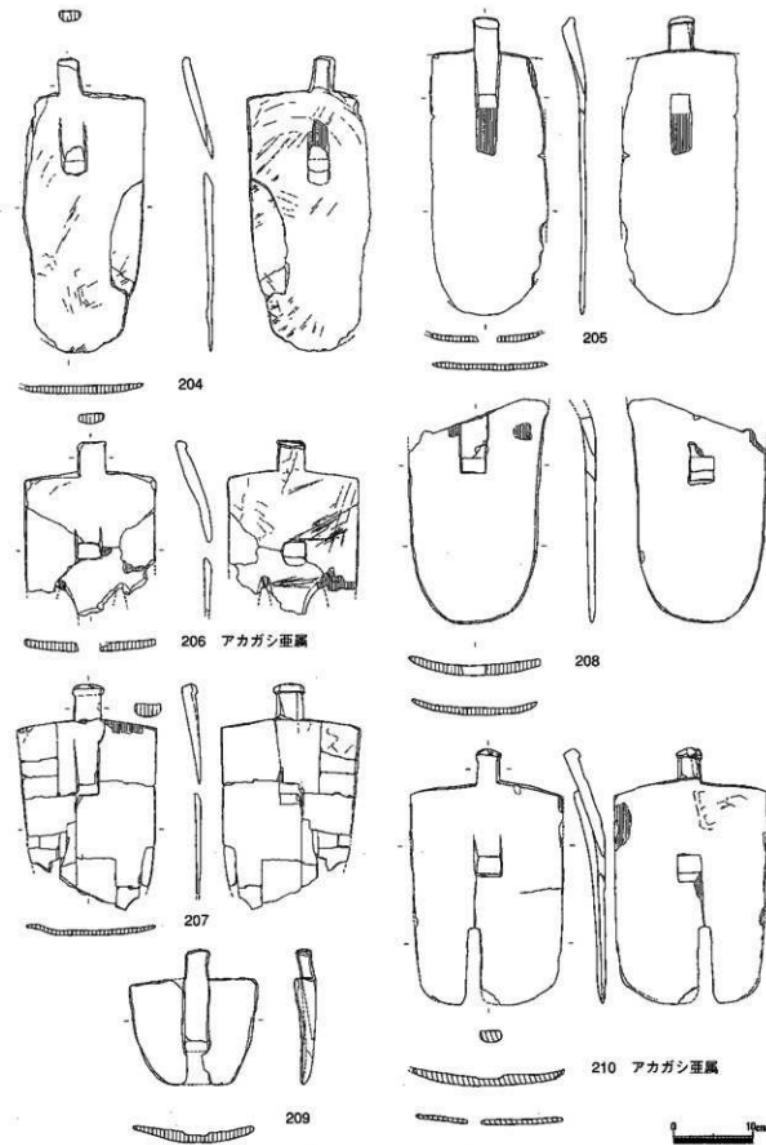
第26図 組合せ鋤(4)



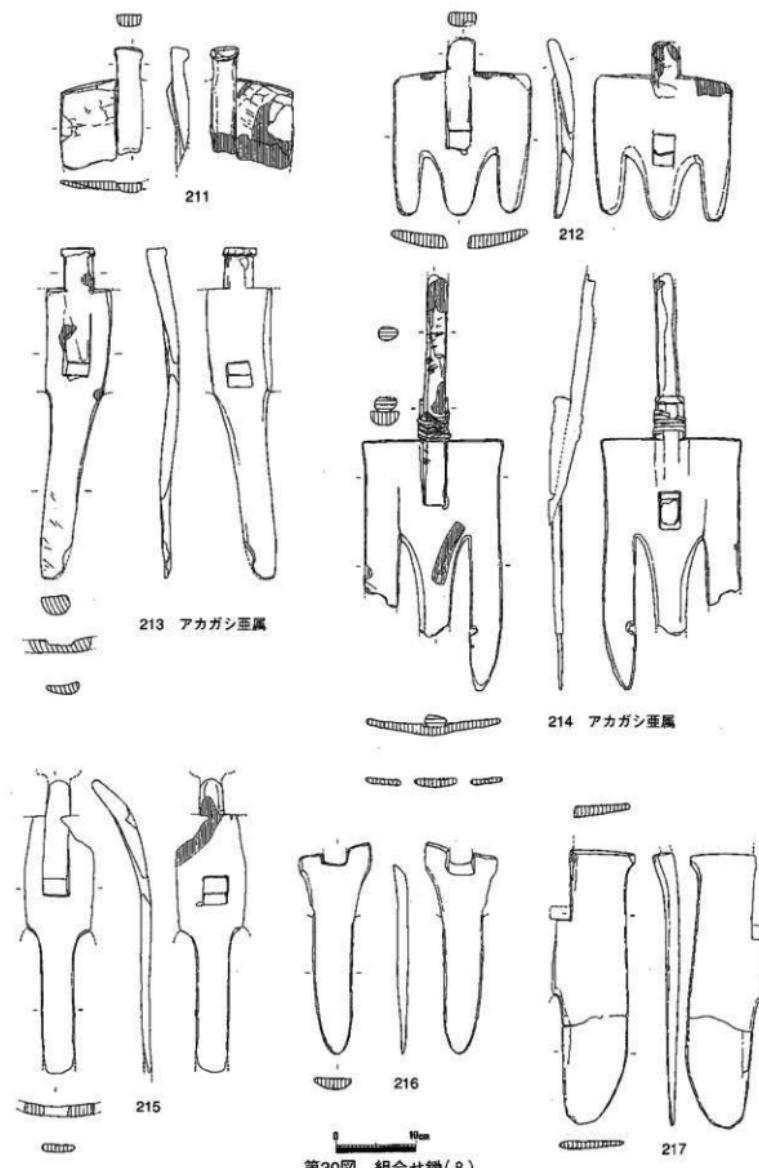
第27図 組合せ鋤(5)



第28図 組合せ鋤(6)

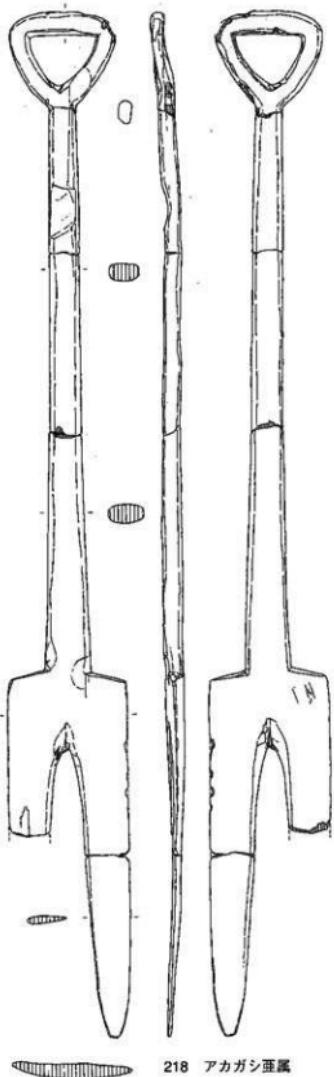


第29図 組合せ鋤(7)

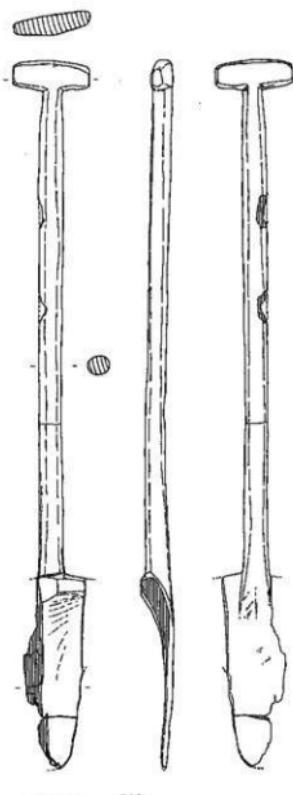


第30図 組合せ鉗(8)

4. 農具



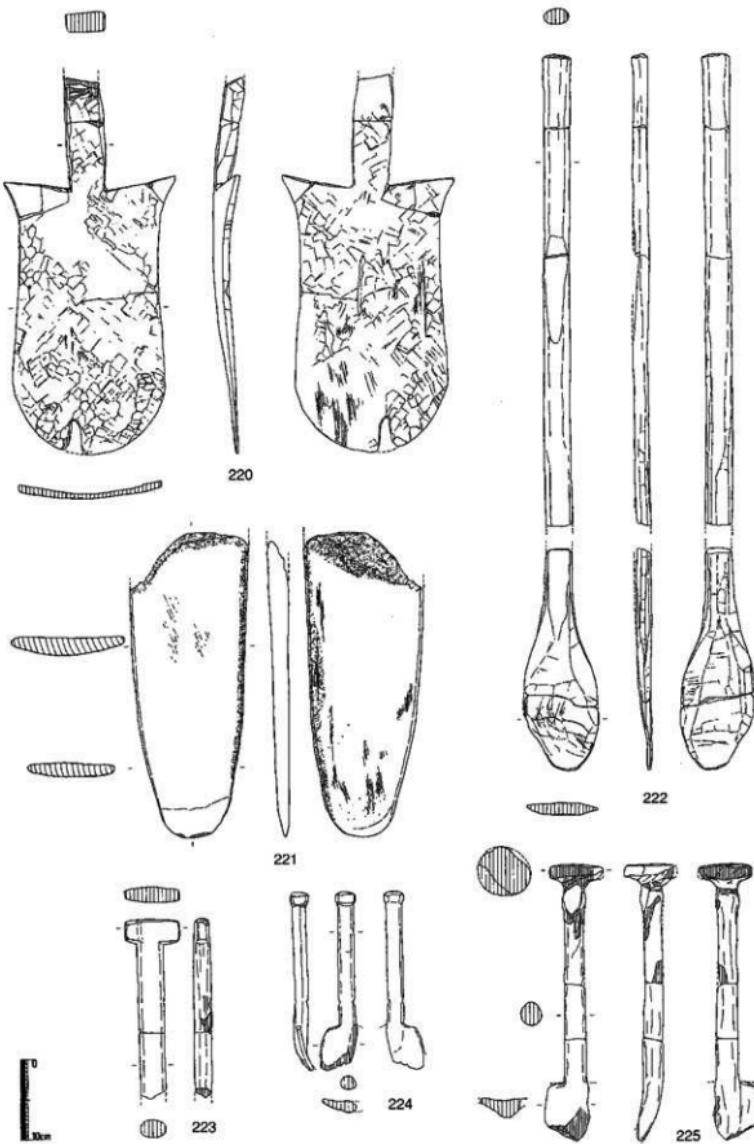
218 アカガシ亜属



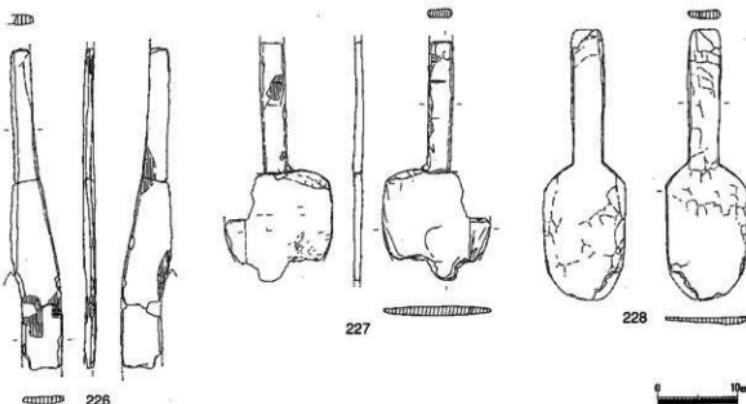
219

0 10mm

第31図 一木鉤(1)



第32図 一木鋤(2)・掘り棒



第33図 一木鋤 (3)

があるが、端部の加工のしっかりしているものや削材を使用しているものを取り上げた。

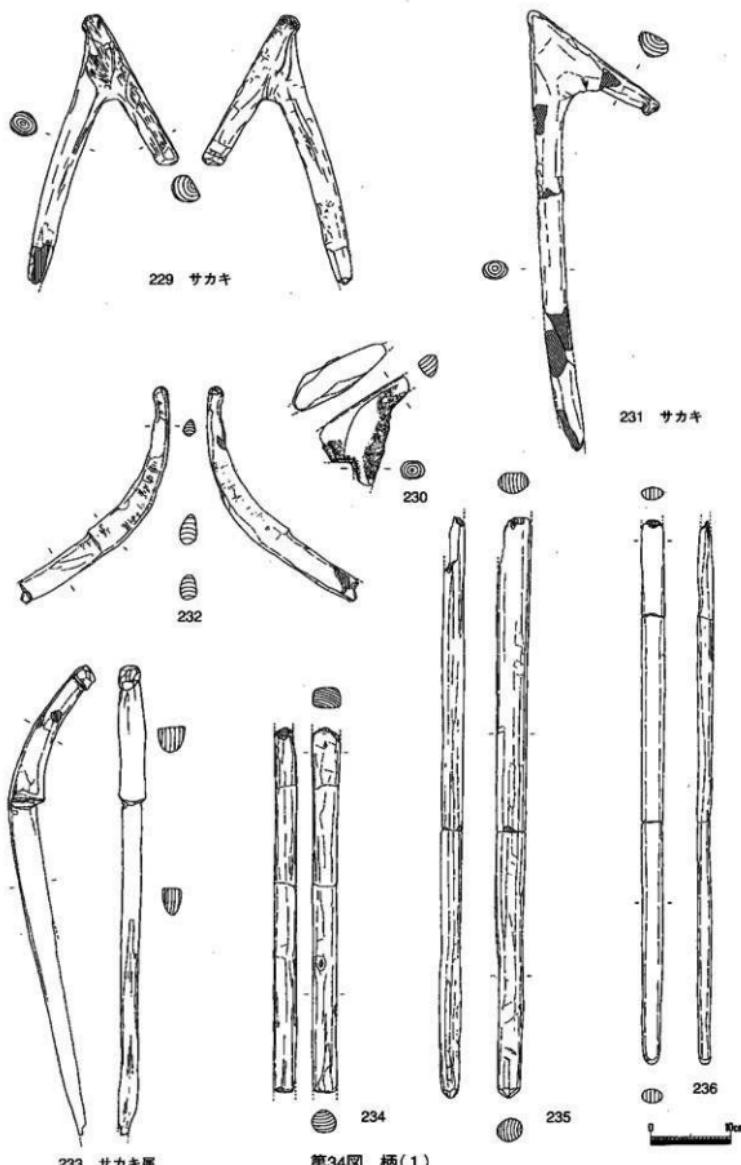
229~231は鍛縫柄でいずれも装着面の幅は3cm前後である。229には台前面の上端・下端に紐かけがあって、サカキの枝分かれ部分を使用している。231もサカキを使った鍛の柄である。鍛台上部の紐かけが不明瞭で、鍛台前面の加工からすると紐かけの間隔は6cmである。232・233は鍛反柄で装着面は湾曲し平坦面を作らない。232は鍛台上下の紐かけは脆弱であるが、233はしっかり作っている。233の樹種はサカキ属である。234は圓の上端部を断面長方形に加工している。235・236は圓の下端部を細くし端面を丸く加工している。

237・238は組合せ鍛の柄で先端は断面方形にして次第に厚みを減じ、端部を三角形に落とす。着柄孔への掛かりの小さな段がつく。237は残存長72.5cm幅2.6cmで、完形の238は長さ46.5cm幅2.8cmである。239・247・249には円形のグリップエンドを作っている。242は針葉樹柾目材で残存長74.6cm直径5.0cmあって、柄にしてはやや太すぎるかもしれない。

#### 臼

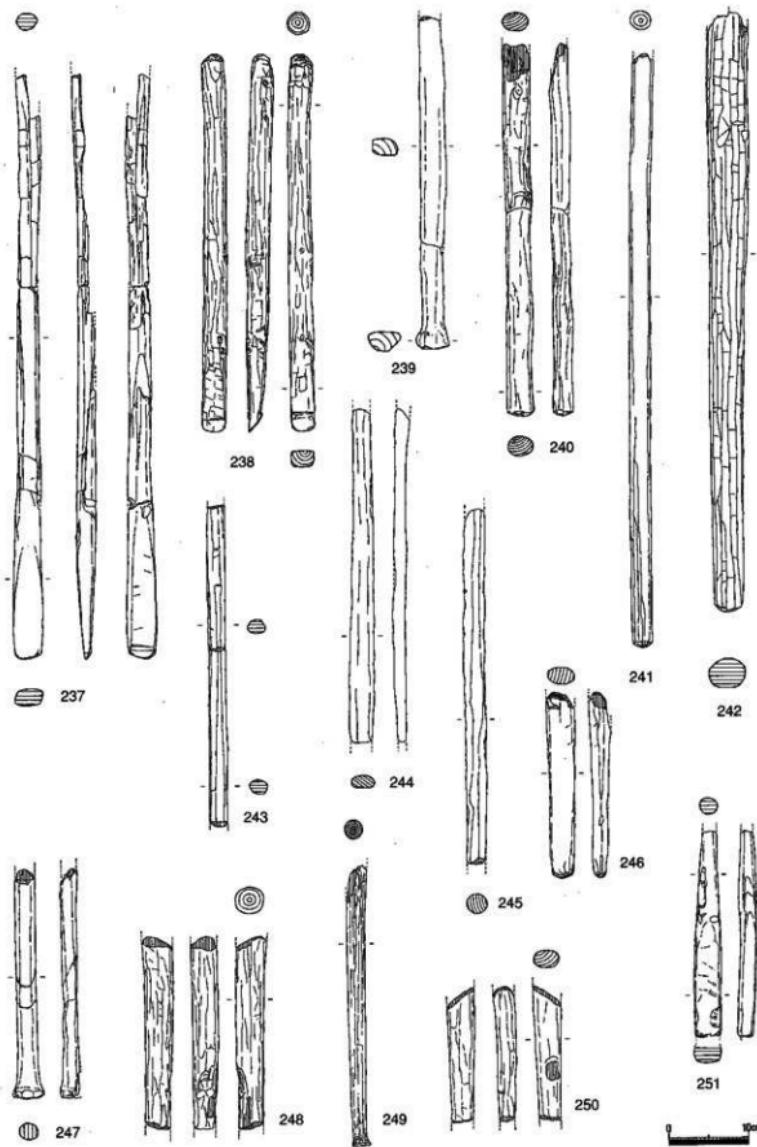
臼は大形と小形に大別される。大形臼は完形品がなく断片ばかりであるが、広葉樹の心持ち材を割り貫いて作っていて、樹種の判明している252はクスノキ製である。把手を持つ資料が5点出土しているが、1個体での把手の数が不明でもあり、中には同一個体が含まれている可能性もある。掘き面の高さがわかる資料はないが、255・258でおよその推測ができる。255では約5cm、258では10cm以下となる。これに対し252では、掘き面が中央部で急に深くなる事がない限り、掘き面の高さは20~25cmと高く復原できる。臼の掘き面の高さと豊秆の長さの関係を明らかにした村上由美子氏の研究<sup>13)</sup>にしたがうと、255・258には掘部までの長さが50~60cmの280や283の様な長い豊秆が、252では30~40cmまたはそれ以下の短い秆が用いられたと推測される。

小形臼には平面形が円形・橢円形双方があって、底部も平坦か上げ底気味に加工して据わりのよ



第34図 柄(1)

4. 農具



第35図 柄(2)

いものと、中心部が突出して据わりが悪いものとがある。据わりの悪い臼は台座の上に乗せられたのだろう。用材は心持ち材・割材が使われていて、判明している樹種はクスノキ・ヤブニッケイ・エノキ・エノキ属である。

252～259は大形臼である。252はかろうじて全形が推測可能な資料である。直径50cm高さ46.8cmに復原でき、搗き面の深さは不明であるが、把手を4本持つとみられる。253は把手の部分の破片で、高さ48.6cmである。255は接合しない3破片からの復原である。256は高さ48.8cm、257は高さ44.4cmである。259は鼓形を呈する臼の底部の破片で、外側には加工痕が顕著に残っている。内面は剥落していて搗き面の高さは不明である。

260～273は小形の臼である。搗き面の深さが4cmに満たない浅めの臼と、それを越える深めの臼とがある。260は底部の小片であるが、クスノキ製である。261は未成品で、上面から搗き面を1cmほど彫り込んだ段階。上面に3×2.5cmの突起が残り、側面及び底部の加工痕が顕著である。底部はとがり気味のため安定が悪い。直径22.6cm高さ11.3cmである。263は平面楕円形で内面中央は磨滅している。264は土圧によりやや変形しているが、ヤブニッケイの心持ち材を使っていて搗き面の深さは6.2cm、高さ13.4cmである。265は内面が平滑で外側には加工痕が明瞭に残る。エノキ属を使っていて、高さ19cmで搗き部の深さ15cmである。266はほぼ完形品で、搗き面は深さ4cmとやや浅め。直径21.5cm高さ13.5cmである。267は266と同じく浅めで、心持ち材を使う。搗き面は炭化して上端部は欠損している。直径19.4cm高さ18.6cmである。270は上端部を欠くが現状で搗き面の深さが6.5cmあり深いタイプである。271も高さの割に深さがある。273は搗き面の深さ1.6cmとごく浅い。樹心の部分は抜け落ちていて残り具合はあまり良くない。エノキの心持ち材を用いている。高さ6.7cm復原直径12.3cmである。

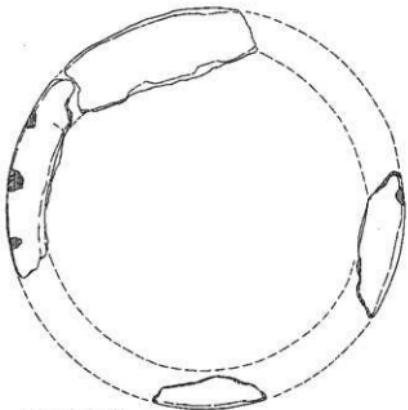
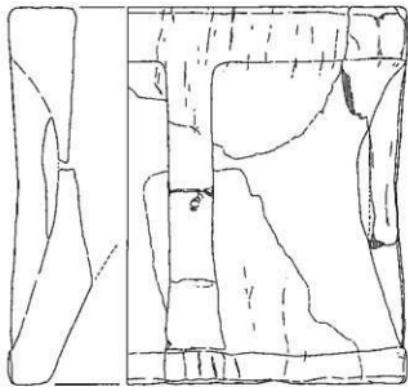
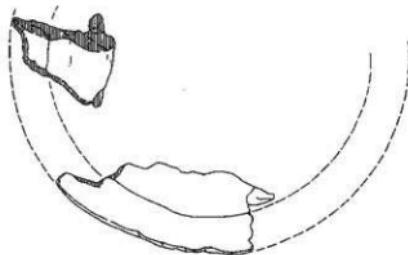
#### 堅杵

堅杵には全長1m以上搗き部直径7cm以上の大型と、それ以下の小型とがある。大型の杵でも広葉樹の心持ち材を用いるものがほとんどであるが、284は広葉樹の削材を用いている。大型の杵では握部に算盤玉形の節帯を1つ持つが、小型の274・275・277・278では搗き部が片方にしかない横槌と同じ形状をしている可能性がある。樹種は大きさを問わずツバキ属の心持ち材を使うものが多いが、ツゲも1点ある。

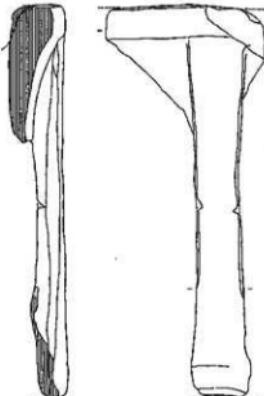
274は小型の堅杵の握部から半分以下の破片である。搗き部から握部には1段もうけて境を明らかにしていて、搗き部端は円形である。残存長37.8cm直径5cmでツゲの柾目材を使っている。275は心持ち材製の小型杵であるが、握部で折損している。搗き部端の形状は丸い。276は大型の杵の1/2弱の破片で、残存している搗き部端は平坦である。残存長42.2cm直径7.6cmでツバキ属の心持ち材を使用している。277は握部なれば折損しているが、握部残存長が12cmあるので節帯を持たないか、横槌形をしているとみられる。搗き部端は平坦で、残存長54.8cm直径5.6cmである。279はミニチュア杵の形をしているが、搗き部端は使用されており両方ともやや円形である。握部には算盤玉形の節帯が付く。ツバキの心持ち材を使い、全長20.8cm直径2.6cmである。

280は大型の完形品で、握部には隆起の低い算盤玉状の節帯を持つ。搗き部端は一端が平坦で他端は丸い。表面は長軸方向の細長い加工痕が顕著である。ツバキ属の心持ち材を使い、全長134.6cm長径7.8cmである。281もツバキ属の心持ち材製の大形の完形品で、握部に隆起の低い算盤玉状の節帯を持つ。搗き部は一端が平坦で他端がややとがり気味で、搗き部と握部との境には段がある。表面は

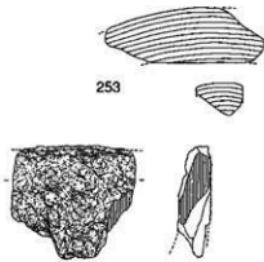
4. 艰具



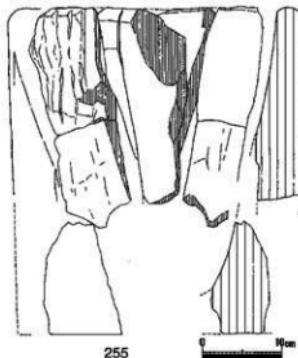
252 クスノキ



253



254

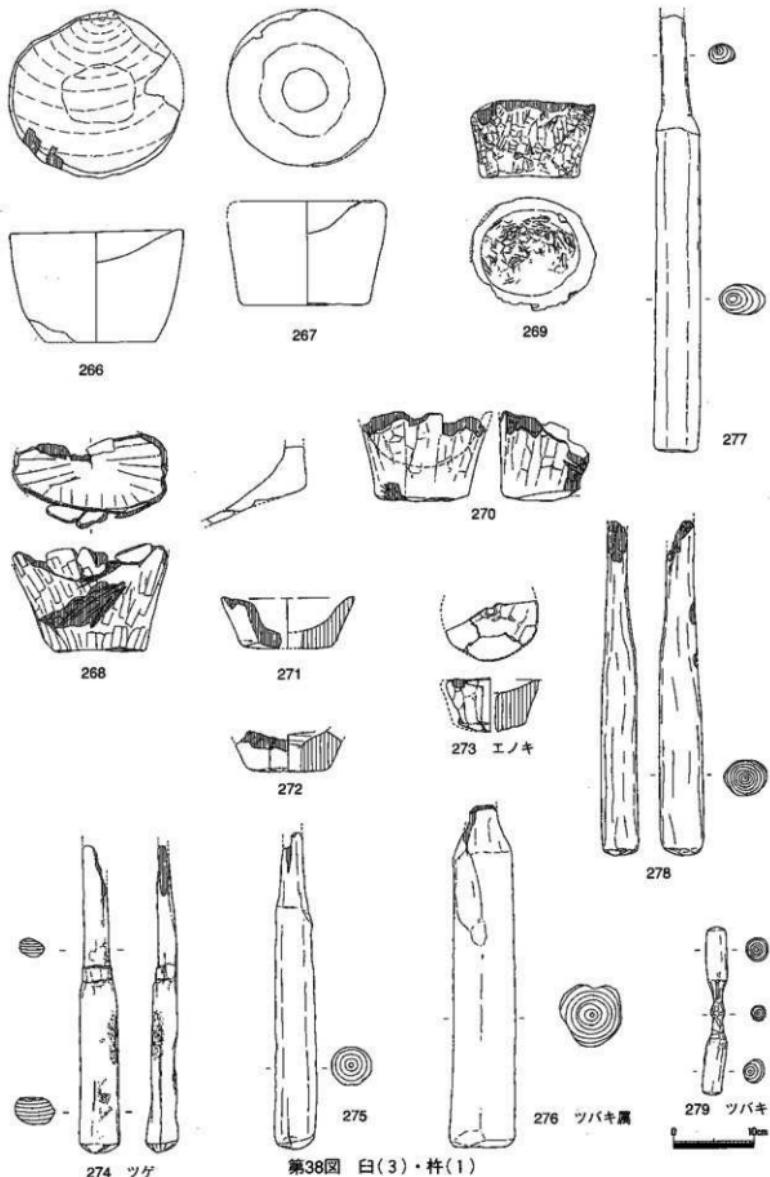


255

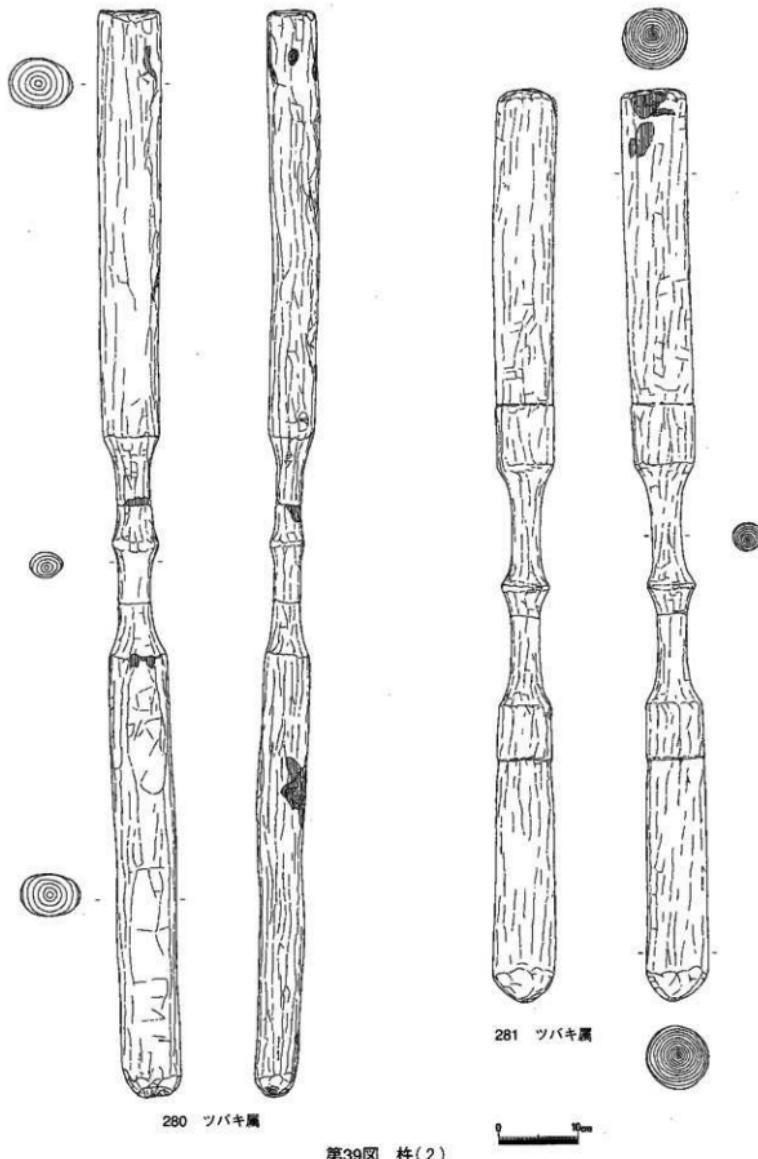
第36図 白(1)



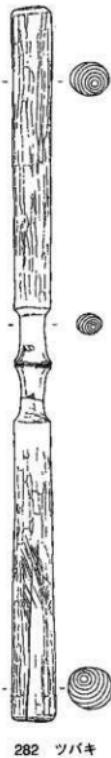
第37図 白(2)



第38図 白(3)・杵(1)



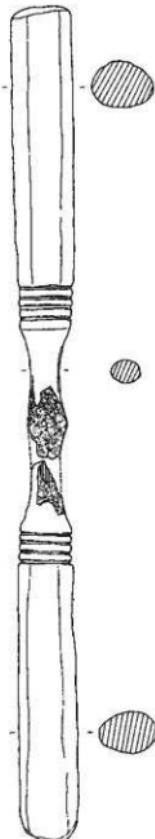
4. 農具



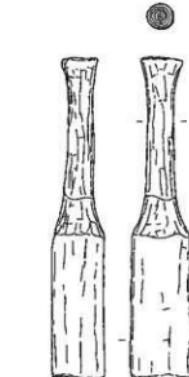
282 ツバキ



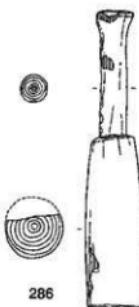
283



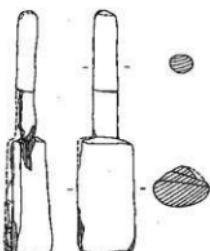
284



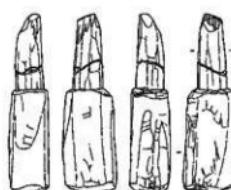
285 ツバキ属



286



287 アカガシ亜属



288



10cm

第40図 杖(3)・横櫛(1)

長軸方向の細長い加工痕が顕著である。全長113.6cm直径7.8cmである。282はツバキの心持ち材を使った、全長88.8cm直径5.5cmの小形の完形品。握部中央の節帯頂点には1条の沈線が彫られている。撓き部端はともに平らである。表面には、仕上げの際の幅5~8mmの細長い加工痕がみえる。283は片方の撓き部の大半を欠くが、復原全長が133cm直径7.8cmとなる大形の杵である。握部に節帯が一つあって、節帯の頂点は幅3~5mmで面取りされている。残存している撓き部端は円形である。表面には仕上げの際の細かい加工痕がある。広葉樹の心持ち材を使用している。284はほぼ完形品であるが、握部で焼けて2つに別れ接合しない。別々に検出したが同一個体と思われる。握部との境には幅広の沈線を4条刻んでいる。撓き部端部は丸と平の双方の形状がある。広葉樹の割材が用いられていて、残存長は153.7cm直径7.5cmである。

#### 横槌

横槌には身と握りの境に明瞭に段を持たせるものとそうでないものとがある。用材としてはツバキ属の心持ち材を使うものやアカガシ亜属の割材・クスノキ属の心持ち材を使うものがある。

285はほぼ完形品で身と握りの境には段を持たない。握りの端部を大きく肥厚させてグリップエンドとする。ツバキ属の心持ち材で、全長39.9cm身の直径7.6cmである。286は身の1面が欠損しているが全形のわかる資料である。身と握りの境には段があって、握りの端部は285と同様に肥厚させる。心持ち材を使っていて全長37.1cm身の直径7.5cmである。287は身の先端がやや太いが長径7cm短径5cmの楕円形で長さが14.5cmあり、身と握りの接点の大半を欠く。アカガシ亜属の割材を使っていて全長30cm身の直径7cmである。288は握りの先端を欠損する。心持ち材を用い、身と握りの境に明瞭に段を作っている。289も同じく身と握りの境が明瞭に区分されている。広葉樹の割材を使っていて、表面は炭化している。290は握り端部が欠損している。身と握りの境には段が無く、身の中央に両面ともに使用痕状のへこみがある。291は身の端部で直径が大きくなっている、身と握りの境は明瞭である。一部炭化している。293は残存状態が悪いがクスノキ属の心持ち材が使われている。

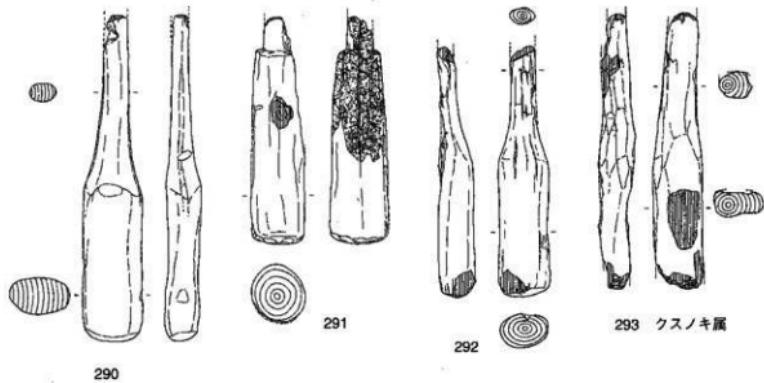
#### 木鎌

鎌形の形状をした木製品であるが、使用方法は明確ではない。ただ、294や306には刃こぼれができるので、実際に使用されたのは間違いなく、幅1cm程度かそれ以下のものが対象であったとみられる。刃部と柄の角度は70°から90°で、刃部の付け根は角も持つものが大半であるが、305は丸みをもたせている。柄は厚さが1.5~2cmの厚手のものと、5mm~1cmの薄手のものとがある。柄の基部は直線のものと刃部側に屈曲するものとがある。樹種の判明しているものではアカガシ亜属の柵目材が使われている。

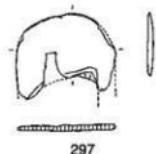
294は身の上部及び先端をわずかに欠くがほぼ完形で、刃こぼれが4箇所ある。柄は薄手で基部を鉤状に内側に曲げている。アカガシ亜属製で、全長35.7cm幅13.1cmである。296は柄を欠損しているが、残存部分で太くなっているので、短い柄の基部付近とみられる。298は刃部を根元から欠損しているが、刃部幅は6.5cmとわかる。全長39.8cmである。299は鉄鎌状の細い身の破片で、明瞭な刃部を持たない。300は一端が鉤状に曲がっているので木鎌の柄の基部未完成と見たが、他例に比べ形がそろわざ別物の可能性もある。

301は鉄鎌の柄のほぼ完形品で、頭部にはわずかに装着のための削り込みがある。基部は鉤状に曲がっている。アカガシ亜属の柵目材で、全長32.8cmである。302は木鎌未完成か。木鎌状だが身が小さい割に柄が太く長いので木鎌とは異なる可能性もある。残存長は41.4cmで身の幅が14.5cmある。

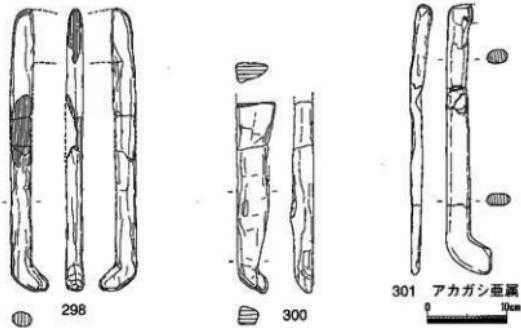
4. 農具



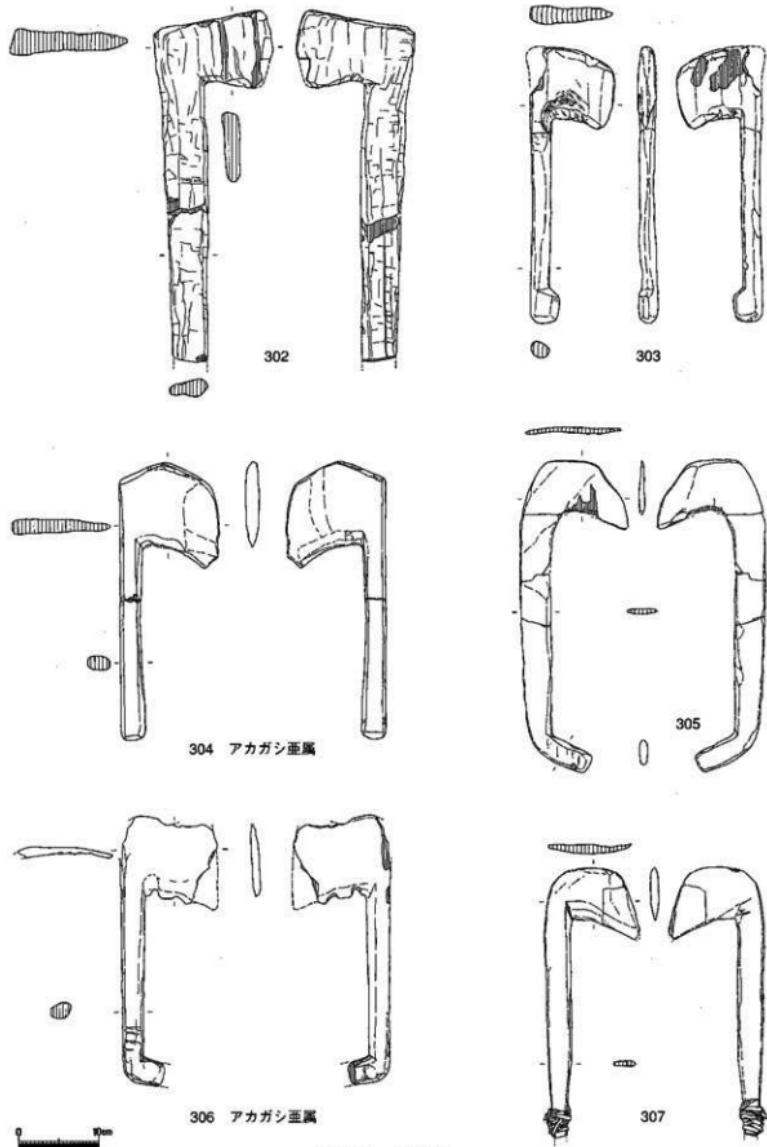
294 アカガシ亞属



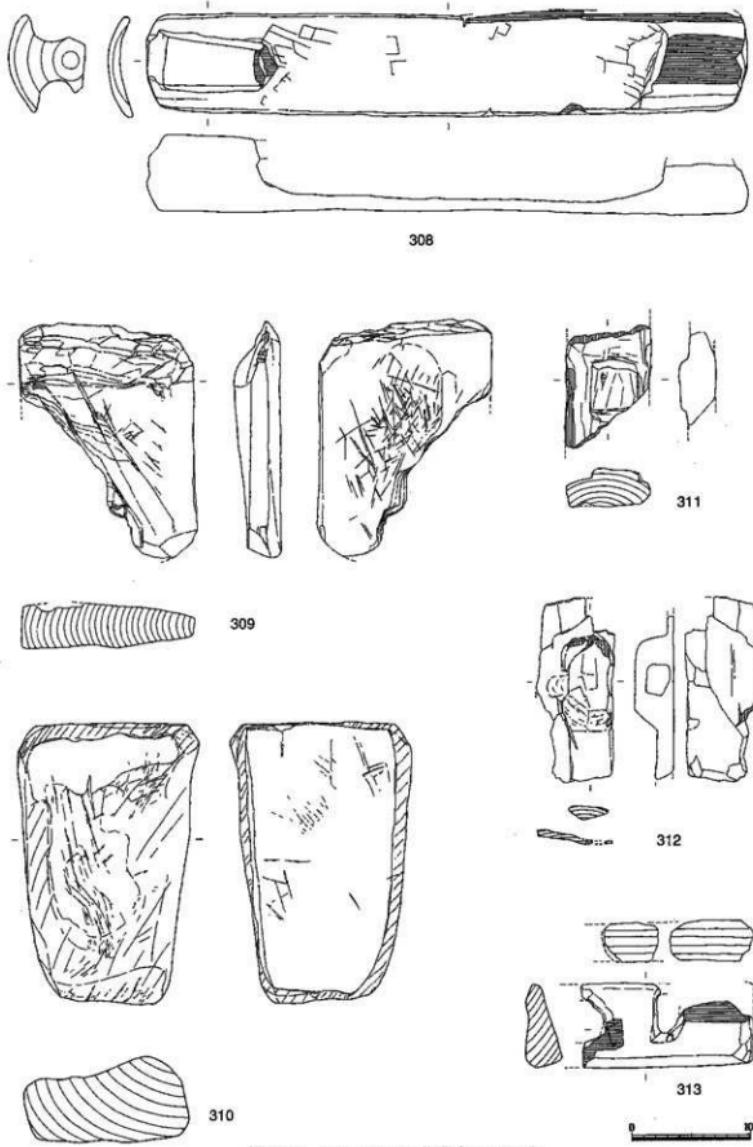
297



第41図 横植(2)・木鋤(1)



第42図 木鎌(2)



第43図 コテ・ソリ・作業台・田下駄

0 10cm

303はほぼ完形品で、柄は厚手で基部を内側に曲げている。全長33.9cmで身の幅10.6cmである。304もほぼ完形品である。刃部は両刃で付け根部分にやや歯こぼれがある。厚手の柄の基部には拡張がみられない。アカガシ亜属の柾目材を使い、全長34.5cm身の幅12.3cmである。305も完形品で、身は細めで付け根部分が丸い。柄は厚さ5mmと薄く、基部を内側に拡張している。全長38.8cm身の幅13.5cmである。306は身の残りが悪いが、両刃の刃部には大きな歯こぼれが2箇所ある。厚手の柄は基部を内側に曲折していてアカガシ亜属の柾目材を用いている。全長32.2cm。307は薄手の柄の基部を欠くが、基部付近に扁平な粒状の植物繊維を巻き付けている。刃部は両刃で柄との付け根部分に小さな歯こぼれが2つ確認できる。残存長33.1cmで身の幅が11.8cmある。

#### コテ・ソリ

308・311・312はコテあるいはソリの破片とみられる。308は隆起部分の基部で折れているとみられる。全長50.1cmで心持ち材を使っている。311は4cm四方の方形隆起を持つ。コテかソリの隆起部分の破損品とみたが小片のため別の製品の可能性もある。312は把手状の部分に2.6×2cmの方形孔を持つ。

#### 作業台

309・310は作業台で、双方とも刃物痕跡が多数ついている。308は柾目材で残存長19.6cm幅14.7cm。309は周辺部が焼損している。板目材を使っていて全長23.4cm幅15.1cm厚さ7cm。

#### 田下駄

313は厚みのある細長い板材に複数の穴をあけている。田下駄の継棒板と考えたが、別物の可能性もある。

## 5. 紡織具

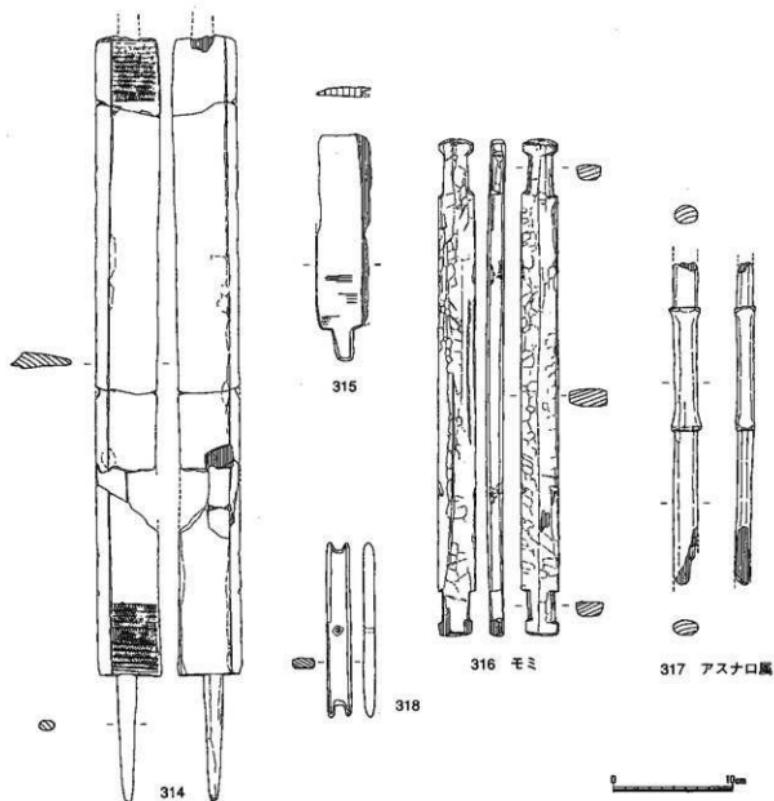
紡織具には、織機の部品・かせ・糸巻きが出土している。織機の部材については、後述の用途不明品の中に該当品を収めているものもあるかもしれない。

#### 織機

314・315は断面くさび形の細長い板の両端に棒状の把手がつく。314の長辺の一方が段をつけて断面三角形状になるのに対し、315ではV字型の切れ込みとなる。兵庫県玉津田中遺跡<sup>(10)</sup>や石川県八日市地方遺跡<sup>(11)</sup>では両者がセットで出土しているので、両者は組み合って使用されたとみられる。314は両端に刻み目紋様が施されている。残存長63.5cm幅5cm。315は端部の破片であるが314と同様に細かな刻み目が施されている。316は完形品で経(布)巻具ないしは腰当て具とみられる。モミの板目材を用いており、加工痕が明瞭に残っている。全長41.3cm幅3.1cm。

#### かせ

317はかせの握部付近の破片で、アスナロ属の割材を使っている。握部は楕円形の断面で長さは10.3cmである。



第44図 紡織具

## 糸巻き

糸巻きは1点出土している。形状だけでは紡織に使われたものか、釣り糸など別の糸を巻いたものかは断定できない。318は両短辺にえぐりをつくり、中央に糸通し穴をあけている。長さ4.5cm幅2cmで板目材を用いている。

## 6. 漁労具

漁労具には網枠・ヤス・櫂を収めた。櫂は舟の付属物であるので本来は運搬具として取り上げる必要がある。アカトリについては後述のように雑具に一括して収めている。

### 網枠

網枠には枝分かれ部分を利用して網枠部分と柄を一体で作る手網と柄を持たず枠木単体からなるものに分かれる。二材を合わせる組合せ式の手網は出土していない。弓との区別が困難な部分もあるが、湾曲の内面を削っていたり、枝の根元がわずかに残っていたりして全体に加工が粗いものを網枠としている。端部の形状には、平面円形のもの、レの字状の欠込を施して頭部とするもの、細く薄くするものがある。

319は手網で、腕木の1本は先端まで残っている。柄は表面を長く細い幅で丁寧に削っている。残存長は121.0cmで柄の直径は2.7cmである。320は両端は切り込んで折り取っていて、表面は枝の付け根部分を残していて表面は加工しておらず網枠の未成品とみられる。U字型に曲げたために、外湾部が割れ裂けを起こしている。長さ111.4cm直径2.5cmの心持ち材である。

321・325・330・332は平面円形の端部を持つ。321は表面全体を加工しているが、湾曲の内側を平坦にしている。残存長は60.8cmで直径1.85cmの心持ち材である。325は端部近くを断面半円形状に削り、端部は半球状の頭部を作り出している。心持ち材で残存長66.6cm直径2.2cmである。330は平面円形の頭部を作り、内湾側の面を平らに削っている。半裁材を使っていて残存長35.2cm直径1.5cmである。332は球形に近い端部の破片であるが、小片のため網枠とは別物の可能性もある。

326・327は1面からレの字の加工を施して頭部を作る。326は332と同様に別物の可能性もある。327は326に比べると深くてしっかりとしたレの字の加工を行っている。残存長75.0cmで、直径2.0cmの心持ち材を利用している。322・323・324・333は明瞭な頭部を持たないが、もう一方の端部との重ね合わせのために端部を細く薄く加工している。

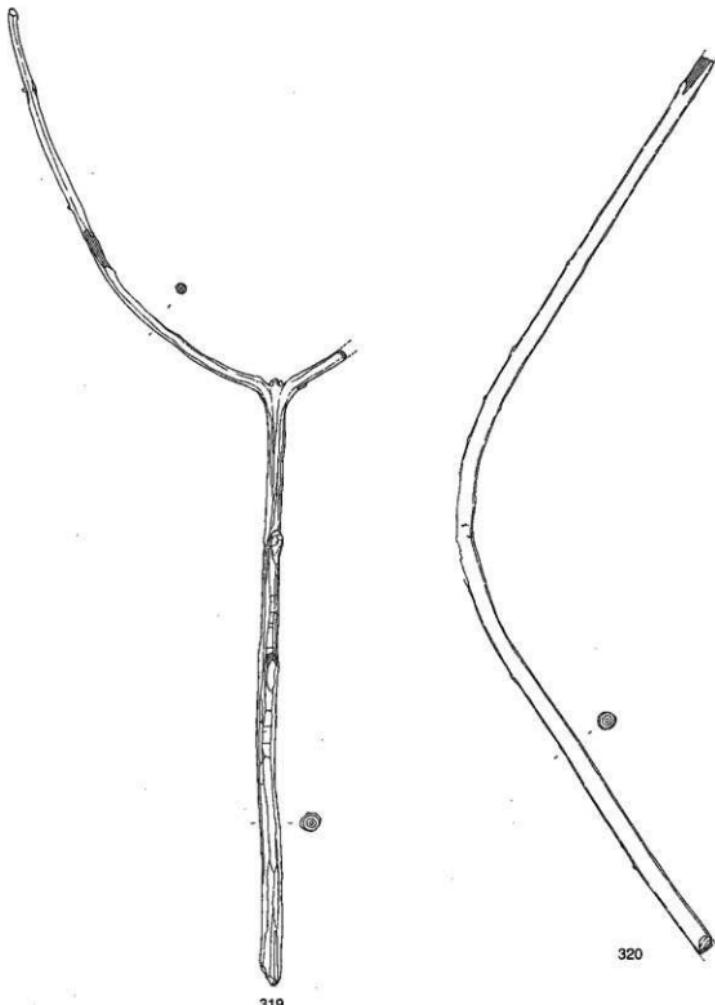
### ヤス

細長くて身と茎との境がないか、あっても茎がごく短いものをヤスとしたが、木櫂の可能性もある。3点出土していて、いずれも削材を利用している。337は身と茎との境には段を持たないが区別はつく。全長8.6cm直径6mmである。338には身と茎との境には明瞭な段があって、全長10.9cm直径8mmである。339は337と同様に身と茎の境には段がないが、337と違って身と茎の境の区別が付かない。全長11cm直径7mmである。

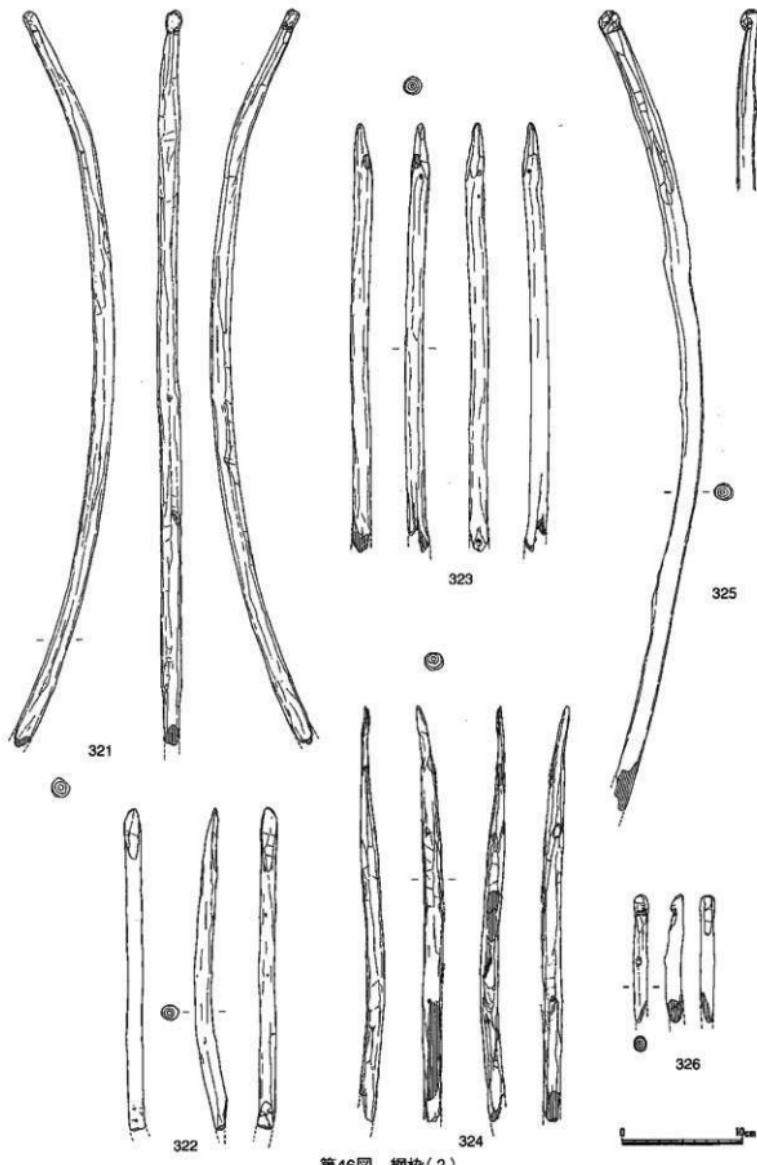
### 櫂

櫂は8点出土していて、すべてが一本式で明らかに組合せ式の櫂といえるものはない。身の形状は平面が細長い木の葉形と角形とがあり、木の葉形では身と柄の境が明瞭ではない。横断面形は木の葉形の身では筋錐形、角形の身では山形となる。樹種の判明しているものではアカガシ亜属が使われている。

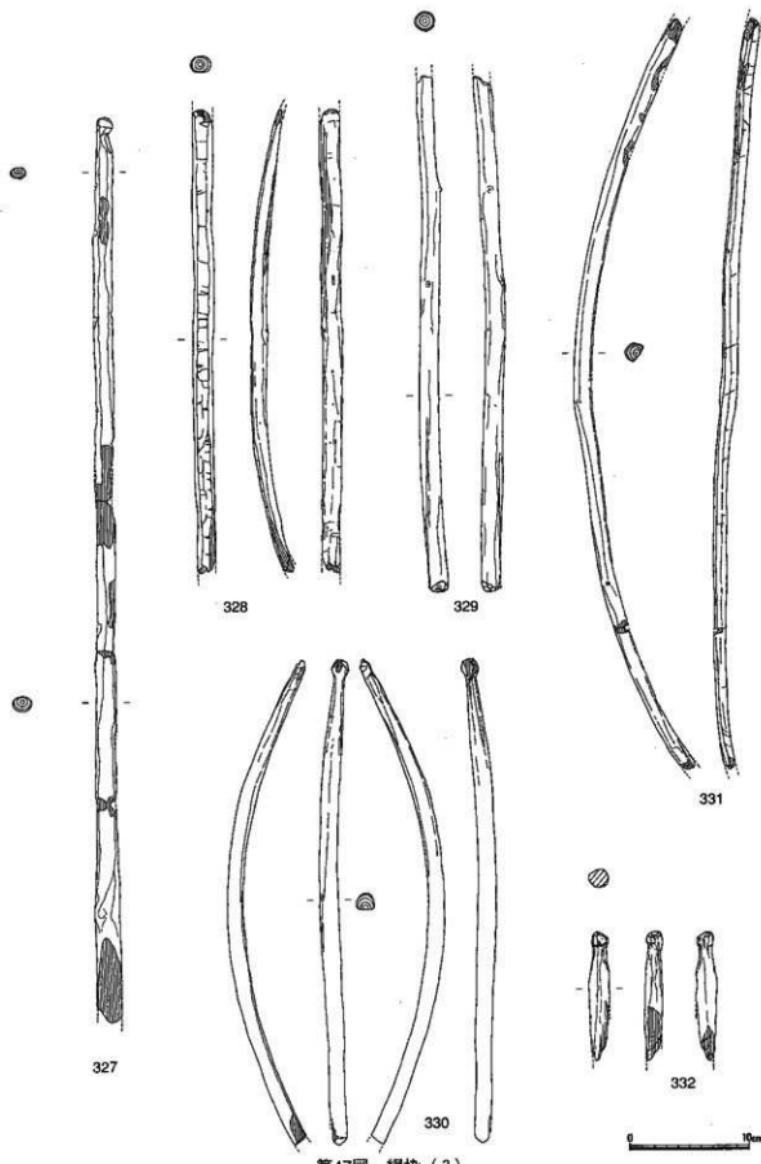
340は柄の頭部を欠く。平面角形の身は肩の下方で一面からわずかに段をもうけて薄くする。反対面には稜が走るので、横断面形は山形を呈する。残存長108.5cmで身の幅10.7cm、柄の直径3.2cmであ



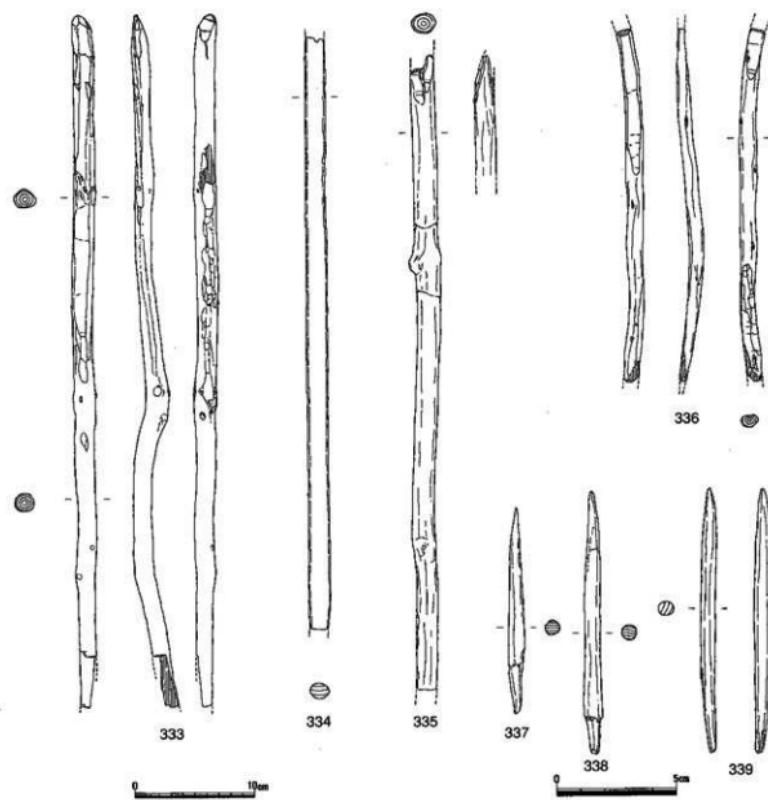
第45図 網枠(1)



第46図 網枠(2)

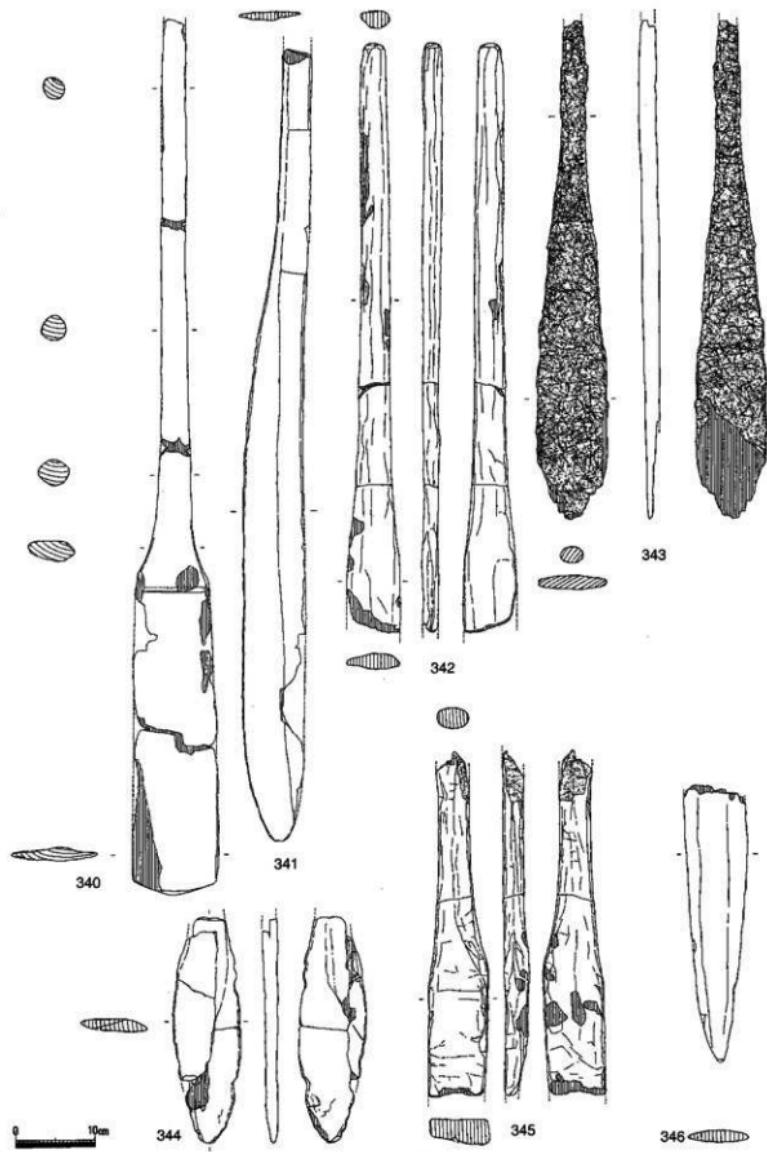


第47図 網枠 (3)

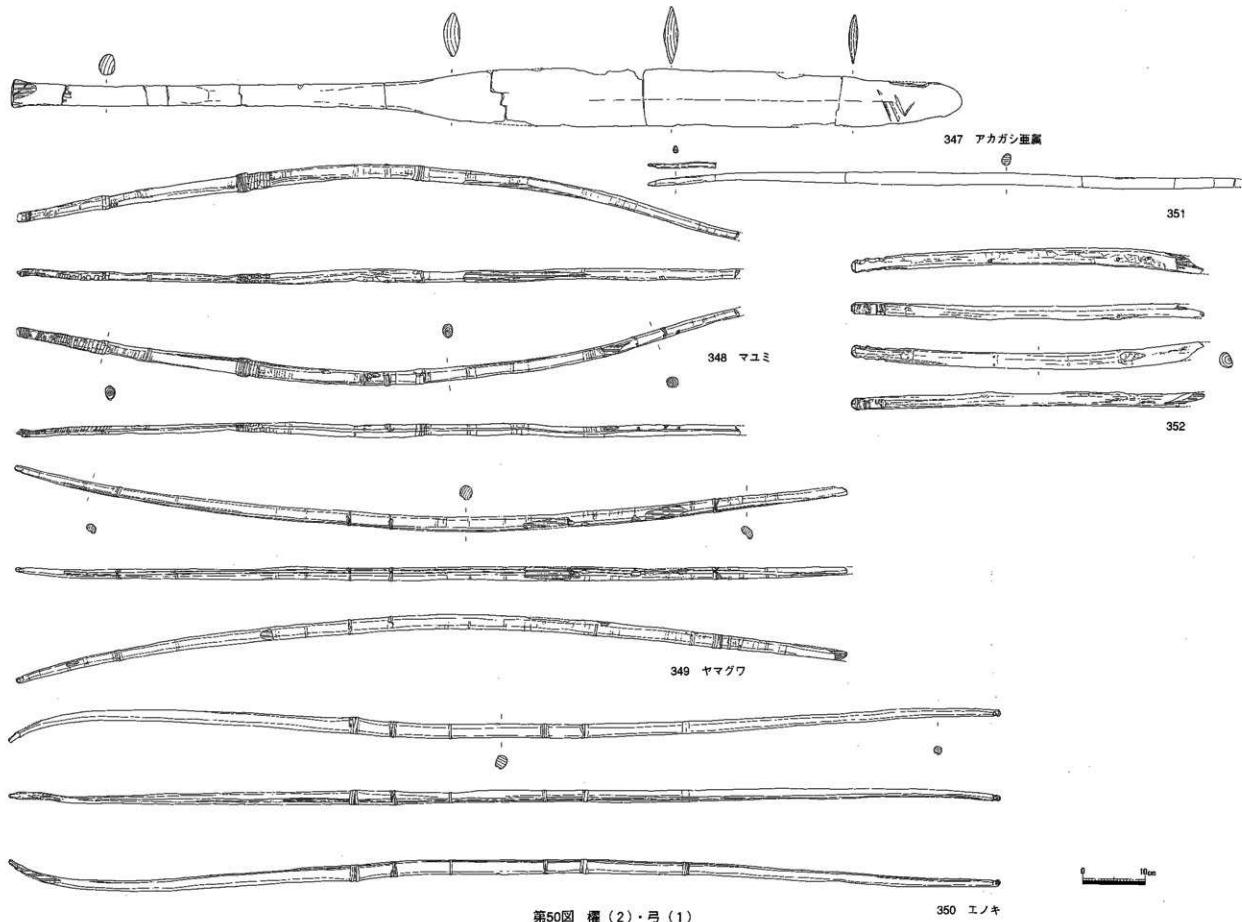


第48図 網枠(4)・ヤス

る。341も柄の頭部を欠損しているが、身の平面は刀形あるいは変形の木の葉形をしている。残存長98.3cmで身の幅は7.4cmである。342は身の先端を欠損しているが、柄の基部が残っていて特に拡張させることなく丸く収めている。343は木の葉形の身で、全体が焼けている。344も木の葉形の身の破片。345は幅7.4cm厚さ3cmの身に梢円形の柄が付く。身の横断面形が四角く厚さもあるので未成品と見られる。347は唯一の完成品で、身の平面は木の葉形で断面はレンズ状を呈する。身は特に長く全長の1/2ほどある。柄の断面は梢円形で端部は肥厚させてグリップエンドとする。アカガシ亞属製で全長が151.3cm身の幅9.2cm柄の直径が2.6cmである。



第49図 標(1)



第50図 樹(2)・弓(1)

## 7. 武器

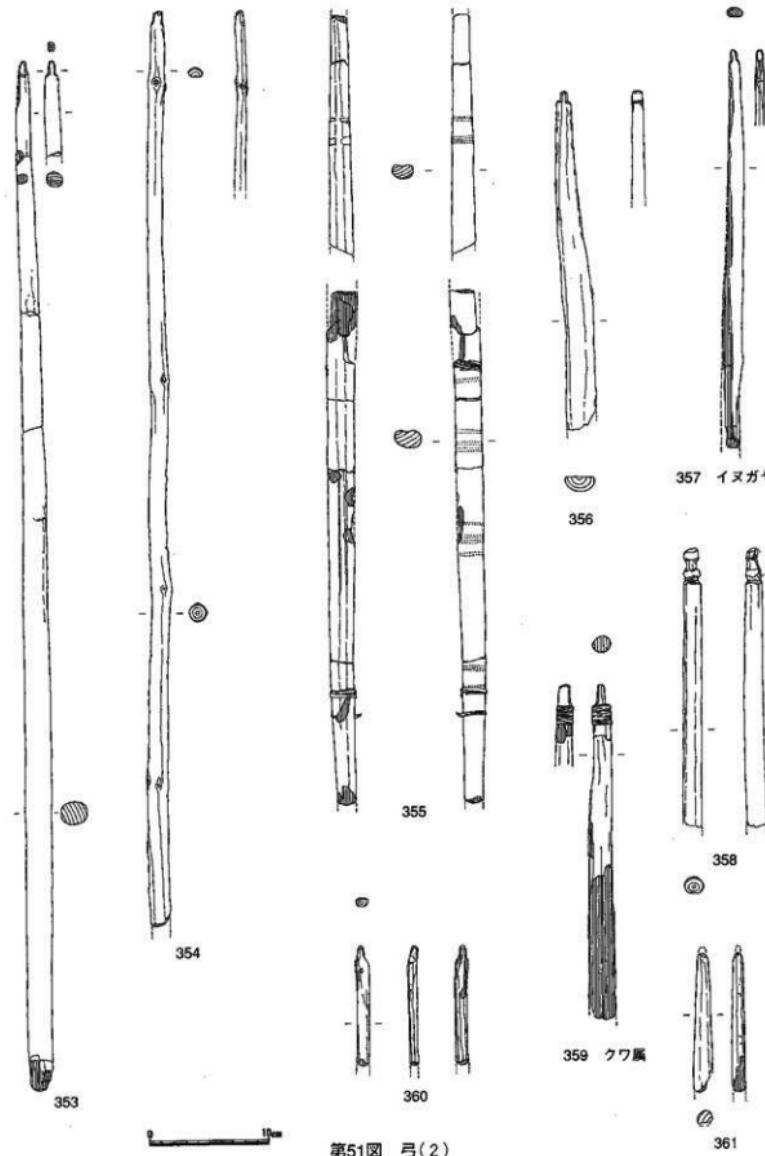
武器には弓・木甲・楯・武器形木製品・棍棒を収めている。

### 弓

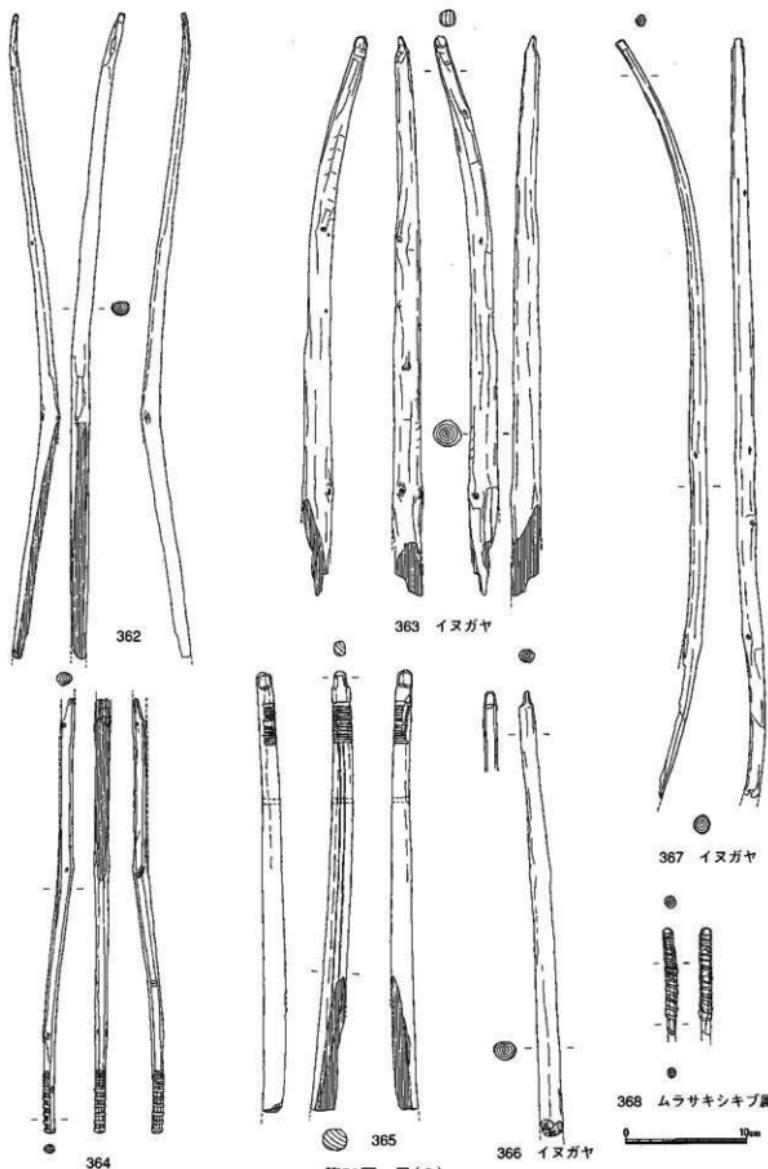
弓には短弓と長弓とが出土している。完形品は長弓の350が1点出土しているだけであるので、そなほかの弓は直接全長では分類できないが、最大直径がおよそ1~1.5cmを短弓、2cm前後からそれを越えるものを長弓と区分している。樹種が判明しているもので見る限り短弓はイスガヤの心持ち材を使い、特に飾り立てをしていない。短弓は樹種や直径からみても網柾と区別が付かないこともあるが、ここでは表面の加工が丁寧で彌の残っているものを取り上げている。長弓は樹種の判明しているものではマユミ・ヤマグワ・エノキなどの広葉樹の割材を使っていて、未同定の弓では針葉樹の心持ち材もある。棒柾が切られている弓もある。また、樹皮紐を結んだり巻き付けたりするものや、黒漆塗りを施すなど加飾している弓もある。武器の分類に入れたが、多くは狩猟と共に用であったと考えている。中には武器に特化した弓もあると思われるが、それを明確にすることは困難である。

348~353・355・356・359・363・365は長弓で、広葉樹は割材を使い針葉樹は心持ち材を用いている。348は黒漆塗りの弓で、両端部を欠損しているが、マユミの割材を使っていて残存長115.8cm直径2.3cmである。棒柾が施されていて、黒漆塗りの上からさらにはば全面にわたって樹皮が巻かれていたが、検出・取り上げ時に多くが脱落した。349は彌に弦かけ溝を作っていて、棒柾も切られている。樹皮紐を縛った箇所は痕跡も含め24箇所ある。ヤマグワの割材を使用していて、残存長133.2cm直径2.3cmである。350はエノキの割材を使った唯一の完形品で、全長159.2cm直径2.6cmである。彌の形態は両端で異なっていて、一方は弦かけ溝をつくり他方は側面から長方形に削りだしている。樹皮の紐を縛った箇所が6箇所ある。棒柾が切ってあり、柾にはどのような使い方をされたのかわからぬが、骨角器が固定されている。骨角器は直角製で、全長14.2cm中央の広いところで幅5mmあって、両端は側部から削ってとがらせている。351は直径1.8cmの割材を使い、残存する彌は両側面から方形に削りだしている。93.9cmが残存している。352は一端が欠損しているものの56.0cmが残っていて、彌は両側面から弦かけを3段に加工している。内湾面を平坦加工しているが、直径1.9cmの心持ち材を使用しているので長弓とみられる。

353も直径2.1cmの割材を用いており85.2cmが残存している。長弓とみられるが棒柾は切られていない。残存する彌は両側面から方形に削りだしている。355は直径2.3cmの割材を使っていて、接合しないが同一個体とみられる。樹皮紐を結んだ箇所は痕跡を含め12箇所あって、棒柾も切られている。356は直径2.5cmの心持ち材を使っていて、中央の太い部分は断面半円形に削っている。端部の形状はほかの彌と同様であるので弓とみてよからう。359は彌の基部に樹皮が巻かれている。クワ属の割材を使っていて残存長27.8cm。363は直径2.5cmのイスガヤの心持ち材製で長弓とみられる。彌は側面の二方から削り出している。残存長46.3cm。365は側面から方形に削りだした彌の下に、側面から前面にかけて節帯5条を作り、やや間隔をあけてさらに5条削りだしている。棒柾と樹皮紐痕跡がみられて、直径1.8cmの割材が用いられている。364cmが残存している。



第51図 弓(2)



第52図 弓(3)

354・357・358・360～362・364・366・367は短弓である。354は直径1.7cmの針葉樹の心持ち材で、弭は端部から1cmを両側面から削り断面方形にしている。残存長75.7cm。357はイヌガヤの心持ち材で、直径1.6cm。弭は側面の二方から薄く削りだしている。358の弭部分には中央に節帯を1つ作り、弦かけを2つにしている。心持ち材で直径は1.5cmである。362は針葉樹の心持ち材を用いた短弓とみられる。直径1.5cmの心持ち材で53.5cmが残っている。364は端部に等間隔に切れ込みをいれて、2本分を切り取り次の1本を残し、これを繰り返して弦かけ溝をつくって弭としている。針葉樹の心持ち材で、直径1.2cm残存長35.8cm。366はイヌガヤの心持ち材を使った短弓と思われる。弭は側面の二方から薄く削りだしている。一端は焼損している。367は直径1.4cmの短弓とみられる。イヌガヤの心持ち材で残存長62.8cm。

368は弓とは断定できないが、ムラサキシキブ属の心持ち材に樹皮を巻き付けている。太さが異なっているが、348と同様に樹皮巻きであるので、ここで報告する。残存長は8.8cm直径1.0cmである。

#### 木甲

木甲には、複数の小片を組み合わせる組合せ式<sup>(12)</sup>と前胸後胸からなる一木式<sup>(13)</sup>とが出土している。弥生時代の組合せ式木甲は長崎県原の辻遺跡・里田原遺跡、佐賀県立ヶ里遺跡、愛媛県阿方遺跡、岡山県百間川兼基遺跡、石川県八日市地方遺跡などから前期ないし中期の資料として出土している。このなかで生立ヶ里遺跡例だけは黒漆が塗られておらず白木のままである。生立ヶ里遺跡や南方(濟生会)遺跡ではある程度まとまって出土しているが、それでも1領を復原するには部品が不足しているし、他の遺跡例で補足しようとしても、複数形式が存在する可能性もあって復原は困難である。組合せ式木甲の利点は薄板材を使うことによる軽量性と機動性、そして規格的な部品を組み合わせる事による生産の効率性であろう。板の薄さに伴う強度不足については、必ずしも単体での着用を考える必要もなく、革製の内衣を着るあるいは内衣に縫いつけるといったことも想定してよいのではなかろうか。

南方(濟生会)遺跡出土の組合せ式木甲は、厚さ3～5mmで長方形や台形の広葉樹の板材を用い、相対する2辺に縫じ合わせ用の小孔をあけている。また、これとは別に上下の板とをつづる飾り紐を通す孔がある。表面には黒漆が塗られているが、甲片の重なり部分や縫じ紐の部分をみると組み合わせたあとで漆を塗布したことがわかる。全部で35点出土しているがすべてが同一形式のよろいの部品となるのか、複数形式のよろいの部品が混在しているのかは判断がつかない<sup>(14)</sup>。ただ374から403までは1箇所に集中して出土しているので同一個体の可能性がある。検出時には黒漆の膜面のみしか残っていないものもあった。

各部品は全体の中での部位がわかるものは少なく、天地も判断がつかないものが多い。369については岡山県百間川兼基遺跡ではほぼ全形のわかる類例が出土しており、それによるとおよそ全長18cm全幅12cmに復原されるので、前後はわからないが脇の中央あたりを構成する部品と思われる。370は前身でたとえると左肩から脇にかけての部品と推定され、長崎県原の辻遺跡出土例が近い。漆の塗布は縫じ紐にそって漆が盛り上がって残っている箇所があるので、各甲片を縫じ合わせた後で行なわれたことがわかる。上下の端部の漆の残りからみると、上下の甲片の縫じ合わせは上端部と下端部を重ね合わせるものと接するものがあるようだ。内面の上端ないし下端に面取りを施している甲片が少なからずある。これは前後方向の動きを持たせるためとも思われるが、縫じ合わせてから漆を塗るのでは意味をなさない。甲片の形状や部位は厳格に伝えられてはいるが、工夫の意図や製

作手順までは正確には伝えられていない事も考えられる。縫じ孔とは別に飾り紐を通す孔があつて、上下の飾り紐間に紡錘形に黒漆の光沢が変化した部分があつて、漆の塗布後に飾り紐がかけられていたことがわかる。なお、図の上下は必ずしも使用時の上下を示すものではない。樹種はクワ科・クワ属・アカガシ亜属・サクラ属・ニレ科・ムクロジが使われている。

369は方形の甲片の左半分の部品で外面と上端面・側面には黒漆が塗られている。上下の辺に縫じ孔があり、上辺の孔列間では縫にそって漆が浮き上がっている。下辺の孔列上端から下は漆が剥落している。左辺に上下を通す飾り紐の孔があつて、上下の孔間に紐の当たった痕跡がみられる。クワ属の厚さ4mmの柾目板で全長18.7cm残存幅6.3cmである。370は左胸から脇にかけての部品で、下半の脇へ向かう部分を欠く。上辺中央には小孔が縫に2つ並んであって肩ひもを通すと見られる。下辺には縫じ孔が6つあけられている。また、脇縫り部分の縫じ孔2つが残存している。外面は黒漆塗りで左側面や下辺の縫じ孔の下にも黒漆が残っている。器壁は中央がやや厚く、内面下端には面取りがある。クワ属の柾目材で全長17.5cm残存幅6.5cm厚さ5mmである。371は平面が上に開く台形を呈する。縫じ孔は上辺に5つ下辺に3つ、中央やや上と右下に1つずつある。外面は黒漆塗りで上端面や両側面にも漆が付いているが、下辺は縫じ孔の上部から下が露胎している。左上から右下へ通す飾り紐孔がある。アカガシ亜属の柾目材で全長6.9cm幅5.4cm厚さ3mmである。

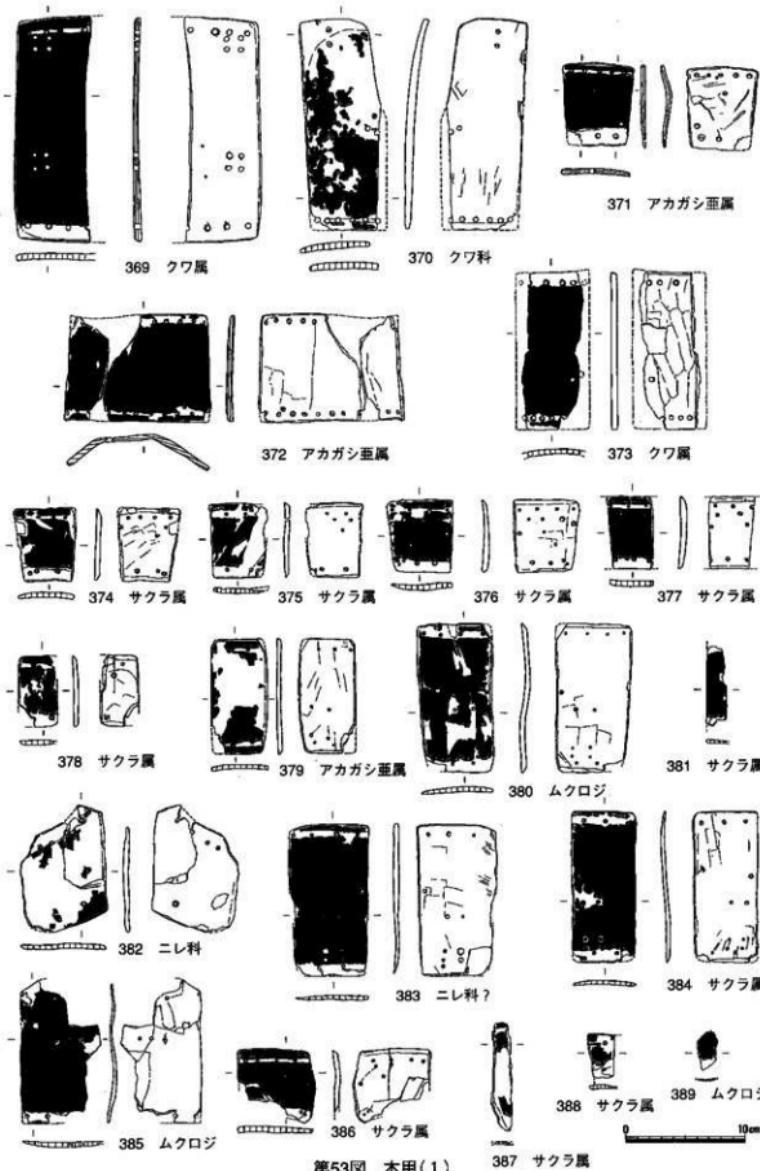
372は他の甲片が縫長の長方形か正方形に近い平面形であるのに対し、372のみ横長の長方形である点が異なっている。両長辺に縫じ孔があり、縫じ孔間は漆がはがれているが、上下の端部には残っている。アカガシ亜属材で残存幅12.1cm長さ8.0cm厚さ5mmである。373は長辺を欠くが、縫じ孔は4つ以上あつたとみられる。外面の黒漆は上端の縫じ孔列の下端線から上には塗られていない。下端面にも漆が残っている。内面には粗い加工痕が残っていて、上端部は面取りをしている。クワ属の柾目材で、全長13cm残存幅5cm厚さ5mmである。

374～377は平面が上に広い台形で、下辺の縫じ孔列の上端から下方には漆が塗られていない。縫列の縫じ孔とは別に飾り紐孔がある。内面は上端・下端とも面取りがされている。374はサクラ属の厚さ4mmの柾目板で、左上から右下方向へ通す斜めの飾り紐孔がある。黒漆は上端面と左側面にも付いている。全長6.1cm幅5.1cmである。375は飾り紐孔が右上部に逆三角形に3つある。サクラ属の柾目材で全長6.2cm幅4.6cm厚さ4mmである。376は縫じ孔の他に飾り紐孔が7つある。上部中央の飾り紐孔と右側辺の孔との間に黒漆膜の変質がみられるので、少なくともこの2孔には飾り紐が通されていたとみられる。サクラ属の柾目材で全長6.1cm幅5.1cm厚さ4mmである。377は上部にハの字形に飾り紐孔が4つある。サクラ属の柾目板で全長6cm幅3.8cm厚さ5mmである。378はサクラ属の柾目材で全長5.9cm幅3.2cmとほかの甲片に比べて小さい。厚さ4mmである。

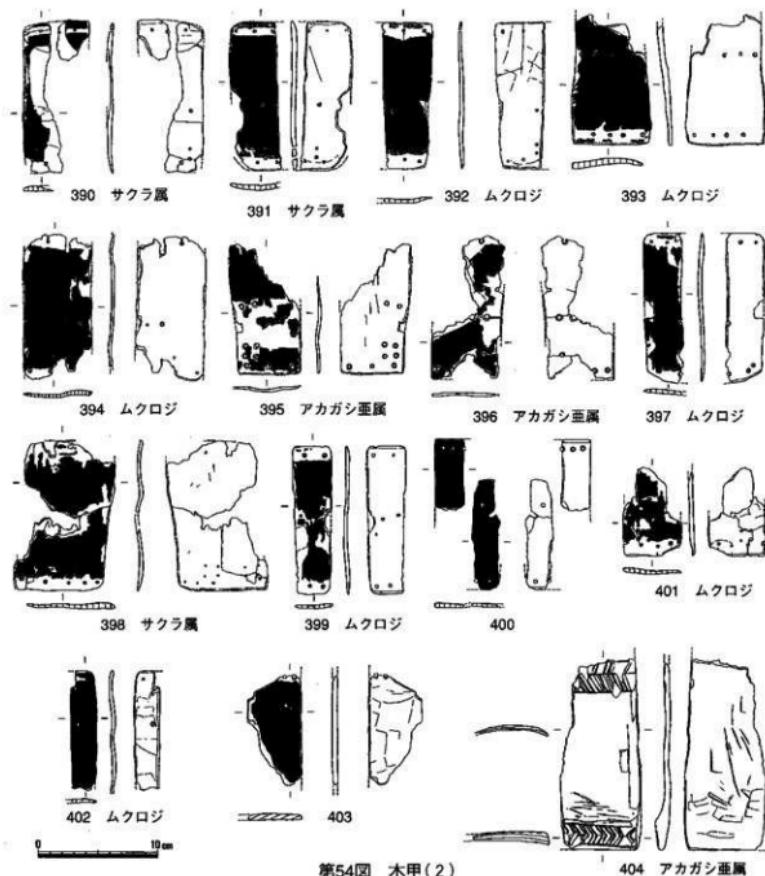
両短辺には縫じ孔が3つずつがたれているが、下辺の縫じ孔列では縫じ紐幅で漆がはがれている。右下辺には飾り紐孔4つが方形に配置されている。アカガシ亜属の柾目材で全長9.6cm幅4.7cm厚さ4mmである。

380・383・384・390～392・397～399は幅は異なるものもあるが、長さは12.3～12.5cmとほぼそろっている。380は飾り紐孔が右下端に6つ、右長辺中央に小孔1がある。ムクロジの柾目材で全長12.4cm幅6.3cm厚さ4mmである。381はサクラ属の柾目板。382は短辺が湾曲していて下端面には漆が残っている。襟ぐりや脇縫り部分かとも思われるが、下端に縫じ孔列がないので確証がない。ニレ科の柾目材で全長10.5cm幅7.2cm厚さ4mmである。383は飾り紐孔が右下端に6つ、右長辺中央に小孔

7. 武器



第53図 木甲(1)



第54図 木甲(2)

が1つある。飾り紐孔周囲には円形に膜面の変化部分があるので、飾り紐に結び目を作っていた可能性がある。ニレ科? の柾目材で全長12.5cm幅6.7cm厚さ5mmである。384はほぼ完成品。縫じ孔は両短辺に3つ、飾り紐孔は左下端に6つある。飾り紐孔に接して円形に漆膜の変化部分がある孔がみられる。左長辺中央に小孔1あり。サクラ属の柾目材で全長12.4cm幅5.2cm厚さ3mmである。385は上辺・下辺1個辺を欠くため全形は不明であるが、下辺には4以上の縫じ孔があけられていたと思われる。中央やや上辺よりには小孔3つが1cm間隔であけられ、左端の小孔には上3.4cmの位置に対応すると思われる小孔が見られる。当初と比べ厚さが減じられていると見られる。ムクロジの柾目材で残存長11.9cm幅6.7cm厚さ3mmである。386・387・388はサクラ属の柾目材で、389はムクロジの柾目材である。

390は1側辺部がほぼ完存する破片で、幅は推定値である。上辺・下辺の縫じ紐孔のほか、上下の甲片との縫り紐用の小孔も右下部に2つみられる。サクラ属の柾目材で、全長12.5cm幅5.5cm厚さ4mm。391は縫じ孔は両短辺に3つずつ、飾り紐孔は中央下端に3つある。上2つの飾り紐間には漆膜面の変化がみられ、同じ孔の周囲にも円形の変化部分がある。サクラ属の柾目材で全長12.3cm残存幅4.4cm厚さ4mmである。392は縫割れしていく縫じ孔は短辺に3つずつ残存し、飾り紐孔は中央下端に3つある。ムクロジの柾目材で、全長12.2cm幅4.1cm厚さ4mm。393は下辺に縫じ孔が4つ、飾り紐孔が中央長辺より横並びに3つある。ムクロジの柾目材で全長10.8cm幅6.6cm厚さ5mmである。

394は両短辺に欠損部があるが、縫じ孔2以上がある。右下側部には飾り紐孔がある。ムクロジの柾目材で長さ11.9cm幅5.7cm、厚さ2mmにやせている。395は縫じ孔は下端に3つ、飾り紐孔は右下端に6つある。アカガシ亜属の柾目材で長さ10.7cm幅5.9cm、厚さは2mmにやせている。396は横縫じ孔は推定5つで、飾り紐孔は4つが残存する。ほかに左長辺中央に小孔1あり。アカガシ亜属材で長さ11.9cm幅6cm厚さ2mmである。397は一方の短辺が弧状になる。ムクロジ材を使い全長12.4cm幅3.2cm厚さ3mmである。398は飾り紐孔が4列ある。ムクロジ製で長さ12.5cm幅8.4cm厚さ5mmである。399は上辺・下辺に縫じ孔それぞれ2つと中央部に小孔3がある。ムクロジの柾目材で全長12.3cm残存幅3.2cm厚さ3mmである。401・402はムクロジ製である。

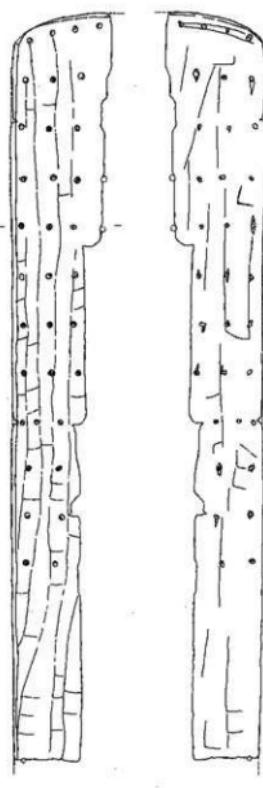
404は一木式の木甲とみられる。下縁の小片で、下端と上端破損部に横継杉紋を方向を違えて彫刻している。無紋様部分に赤色顔料がついている。アカガシ亜属材で残存長15.8cm幅6.7cm厚さ3.5mmである。

#### 櫛

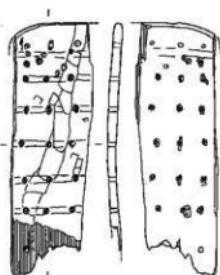
櫛はモミ属の板目材を使用し、当間隔に紐縫じ用の小孔が多数あけられているが、横の間隔よりも列間が広いものが多い。出土点数は多いが、この小孔のため小片に割れていて、全形は言うまでもなく全長や全幅がわかる資料もない。天地もほとんどが不明であるが、小口面と側面とでなす角を落として小口面を弧状にしている側が上端面とみられる。また、端面が平坦で小孔列が少ない側が下端面と考えられる。出土資料中最も残存長の長い408をみると小口面から離れると小孔列がまばらになるので、中間部では小孔列を密に施さないものもあるようだ。こういった部分の破片は不明品中の有孔板の破片と区別が付かない。各小孔間は、種不明だが蔓植物を紐として通している。416では出土時に下面となっていた裏面につるが残っている。また、小孔内につるが2本残っている例も多いが、つるが残っていないなくとも小孔間につるのあった部分のみ周囲より白く色落ちしている例も多い。厚さは5~12mmの幅があるが、7~9mmが最も多い。

405は小口面が湾曲しており上端部と見られる。小孔列は上端部の湾曲に沿って1列と、その下に水平方向に列間ほぼ4cmで11列があって、その下端から破面となっている次の小孔列まで16cm間隔があいている。小孔内には紐が残っているものもある。板目材で残存長61.9cm幅8.2cm厚さ1.2cmである。406も上端部の破片で角がやや丸い。小孔には蔓が1本ないし2本残っていて、横の小孔間は表裏面ともに筋状に日焼けを免れている。モミ属の板目材で残存長20.8cm幅6.8cm厚さ8mm。407は上下の端部を欠く中間部の破片である。列間4cmの小孔列が17列残存していて、小孔間には色落ちした縫痕跡がある。モミ属の厚さ8mmの板目材で長さ74.8cm幅15cmが残っている。

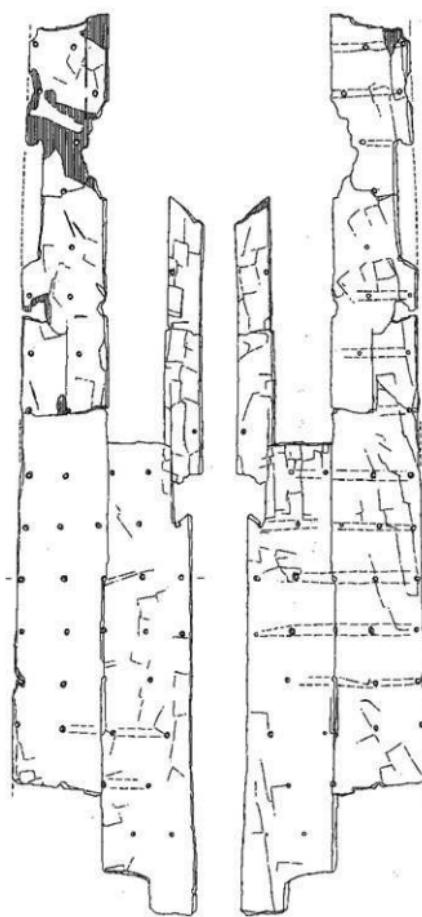
408は横幅の残りは悪いがもっとも長い資料で残存長が87.4cmある。幅が5cmほどしか残っていないが、小孔は縦方向にもそろっておらずまばらである。厚さ8mmのモミ属の板目材である。409は上端



405



406 毛ミ属



407 毛ミ属

第55図 横(1)

0 10cm

部の破片で、側辺との角は丸みを持たせている。小孔列が12列残存していて、上の2列は近接しているが、あとは3.5cm間隔でほぼ均等に配置されている。小孔内にはつる状の紐が残っている。厚さ1.2cmの板目材で、残存長40.3cm幅11.3cmである。410は小口側に2.5cm間隔で小孔列が2つあって次の小孔列とは間隔が28.5cmあいているので、こちら側が下端と思われる。残存長40.8cm幅9.5cmで、厚さ1cmの板目材を使っている。411は直交する2辺と小孔列7列が残る。厚さ1cmの板目材を用いており、長さ26.5cm幅7.3cmが残っている。412は小孔が縦に3つあるが、間隔が6cmあるので中間部のまばらな箇所とみられる。厚さ9mmの板目材である。413は上端部の下5cmに小孔列があってそこから下端部の小孔列までは15cm離れている。414は上端が弧状で、近接する小孔列が2列ある。以下列間4~5cmで9列あるが、4列目と5列目は16.5cmあいている。また、縦方向には互い違いに孔を配置している。残存長は58.6cmで幅6.2cm厚さ8mmである。

416は小孔列が7列残っているが、上の2列は接近しているので端部が近いと思われる。表面の小孔列間に色落ちした紐痕跡があつて、裏面では小孔列間に2本をねじった紐が残存する。厚さ1cmの板目材で、長さ21.5cm幅11.5cmが残存している。419は小片ばかりで接合しないが同一個体と思われる。420は3.5cm間隔の小孔列が13列残るが、中央は15cm間隔があいている。一部が焼損している。板目材を使っていて残存長58.4cm幅7.3cm厚さ9mmである。421は厚さ7mmの板目材を用いている。上端に小孔列が2列1.5cmと近接してあるが、縦方向は互い違いにしている。下方には5cm間隔で5列あり、さらに15cm離れて1列ある。長さ46.4cm幅12.3cmが残っている。422は小孔列間が7cmあいている。424は端部付近の小孔列をやや密に配置するが、縦方向の通りが悪い。小孔にはつる状のものが2本残っている。

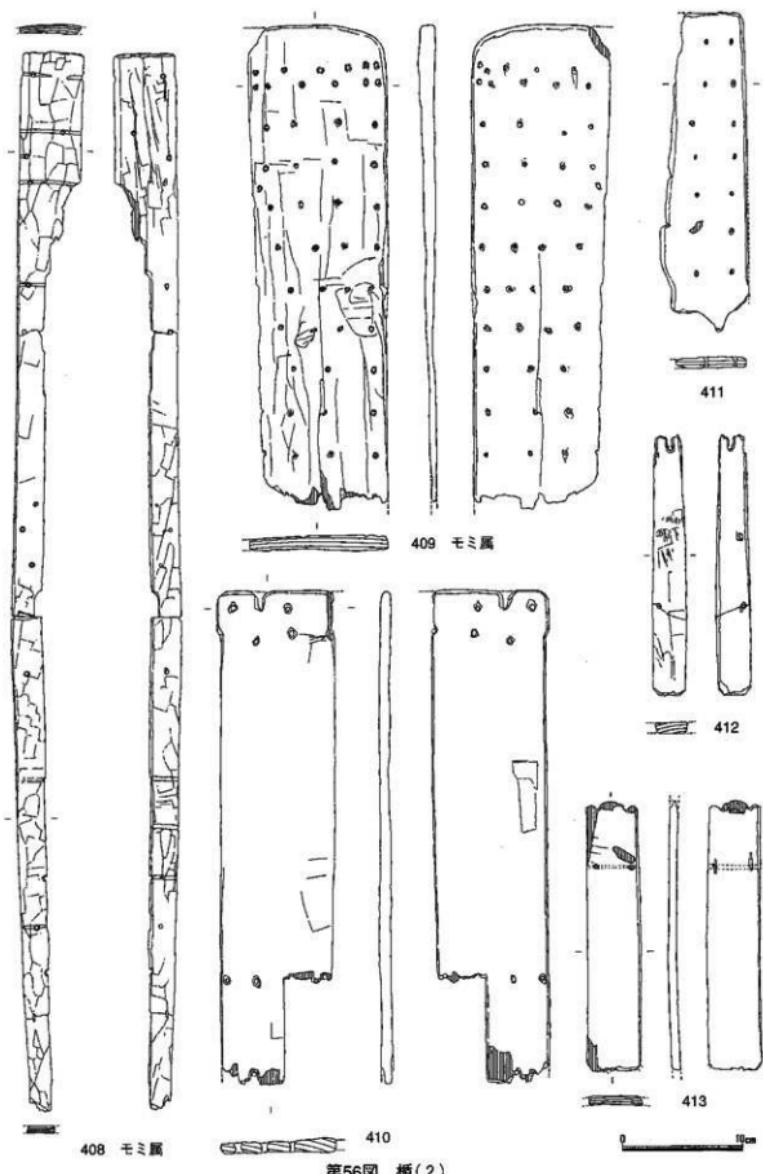
425は上端部を両面から削って薄くし、数mmの刻みを密に施している。小孔列間は2.5cmで、小孔間も1.5~2.5cmと密にしている。小孔間には紐痕跡がある。他に接合部不明の破片6点がある。残存長48.0cm幅11.8cm厚さ7mmである。428は縦4~8cm横2.5~3.5cmで小孔列が6列あり、小孔内にはつる状の紐が2本残っている。431は厚さ1.0cmのモミ属製の板目材を使った上端部の破片で、小孔列13列が残っていて上辺の2列は幅1cmと接近し、他は3.5~4cm間隔でほぼ均等である。残存長43.15cm幅6.2cm。432は下端部の破片と思われ、角に小孔4を方形に配置する。小孔列は9cmの間隔で2列ある。

434は残存長22.7cm幅4.3cmの小片であるが、中央に打製石鎚が刺さっている。5cm間隔の小孔列が4列あって、厚さ8mmの板目材を使っている。438は小孔がまばらで、縦方向の通りも悪い。439は小孔が多数あけられているが、縦横どちらの方向にも列をなさない。440・441は小片だが、表面に赤色顔料が塗られている。

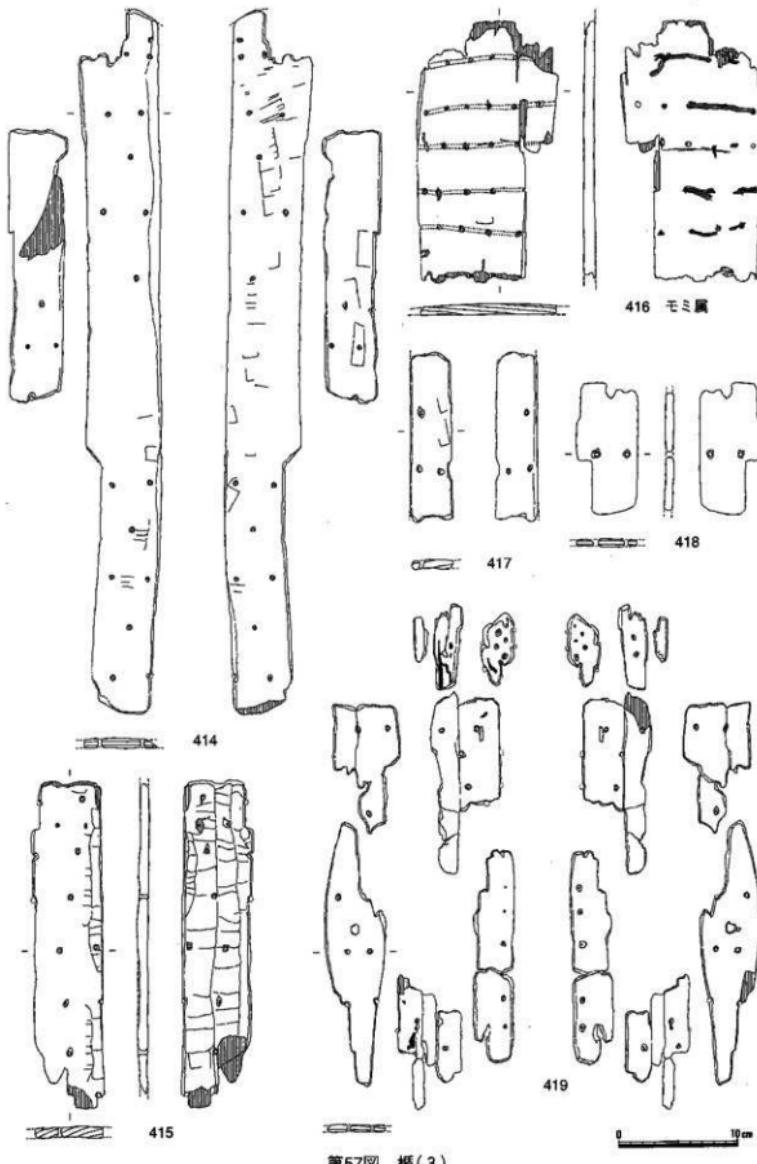
#### 武器形木製品

武器形木製品には戈形・剣形・刀形・槍形・鎌形などがある。

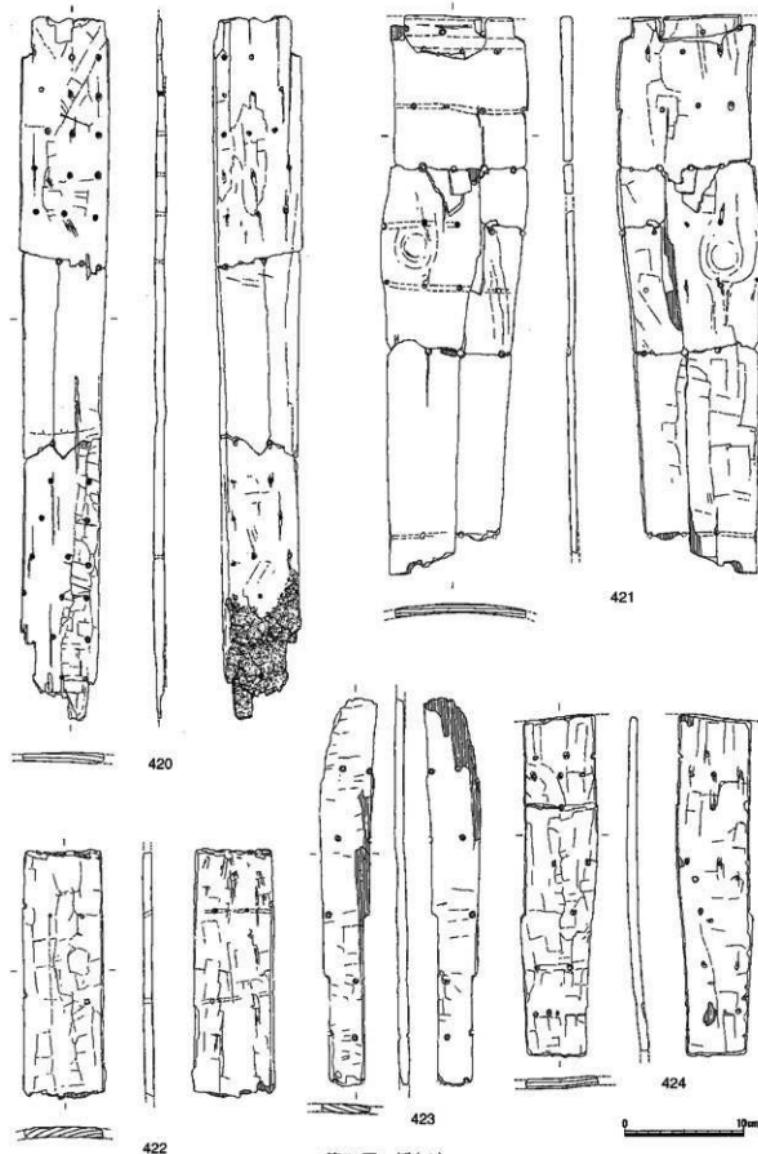
442はクスノキの柾目材を使った残存長91.6cmの巨大な戈形木製品で、鋒部分を欠く。基部がわざかに左右非対称のため戈形と考えられる。鋒と基部に刃部表現があるが、身の中央部は断面四角形で刃部を表現していない。443は黒漆塗りの戈の柄である。戈の装着部分に茎孔と溝がきってある。装着溝の中間からやや上にあけられた長方形の茎孔は、手前で5×0.7cm奥で4×0.7cmで奥に長さが短くなっている。装着溝は長さ15cmあるが溝底は必ずしも平らではない。装着部側面には横位の綾杉紋が間隔を置いて3条施されている。綾杉紋の上下には3~5mm幅の漆の剥落部分があって、木甲の縦じ紐部分の剥落状況とよく似ている。頭部は弧状に湾曲していて、湾曲の内側に円孔が2つ



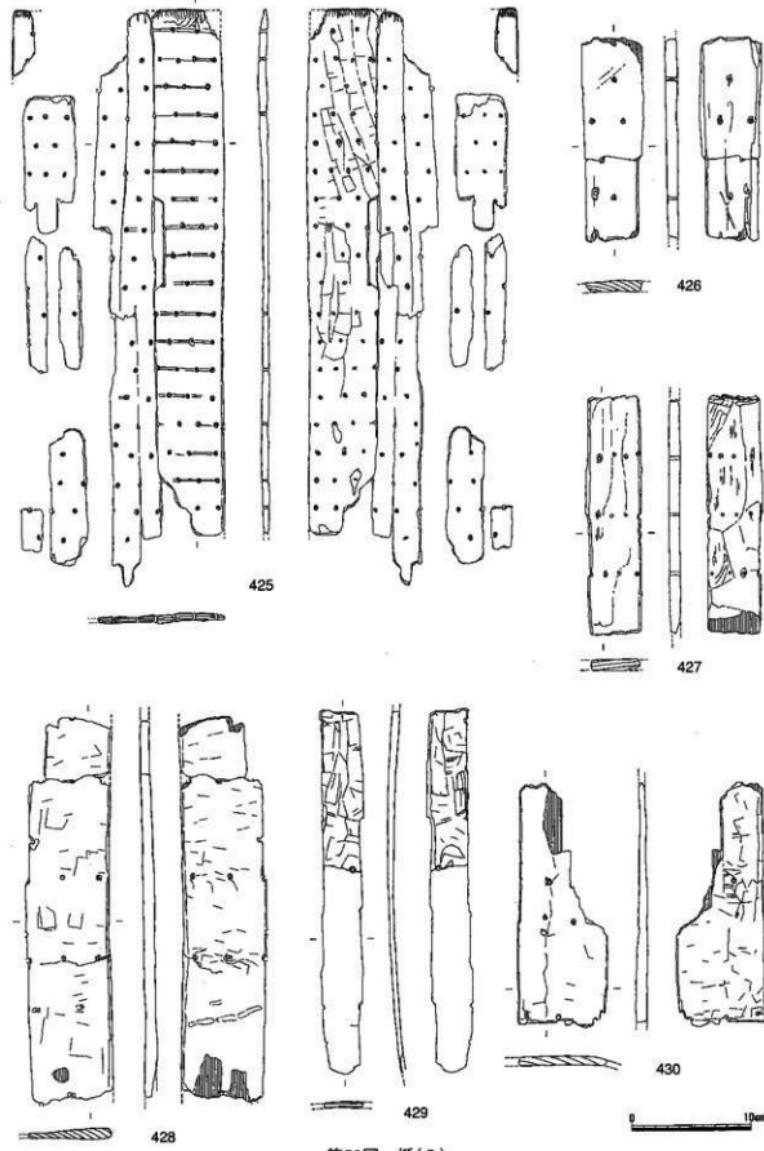
第56図 横(2)



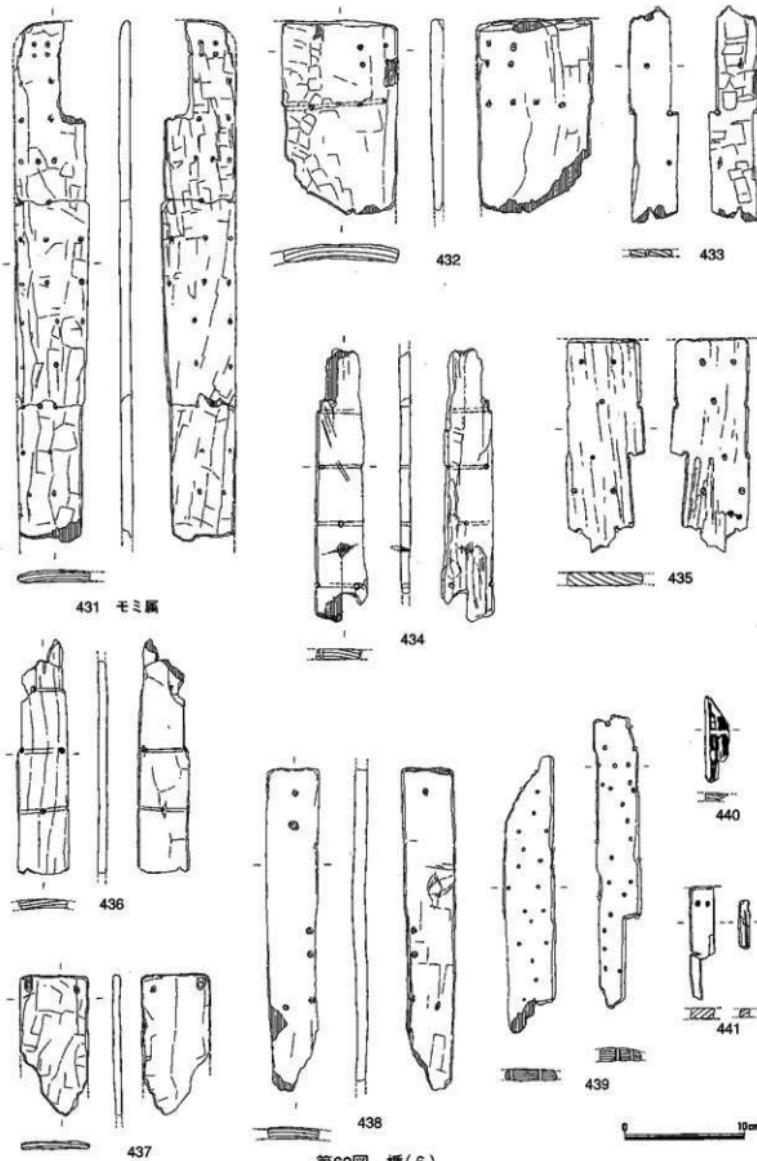
第57図 桶(3)



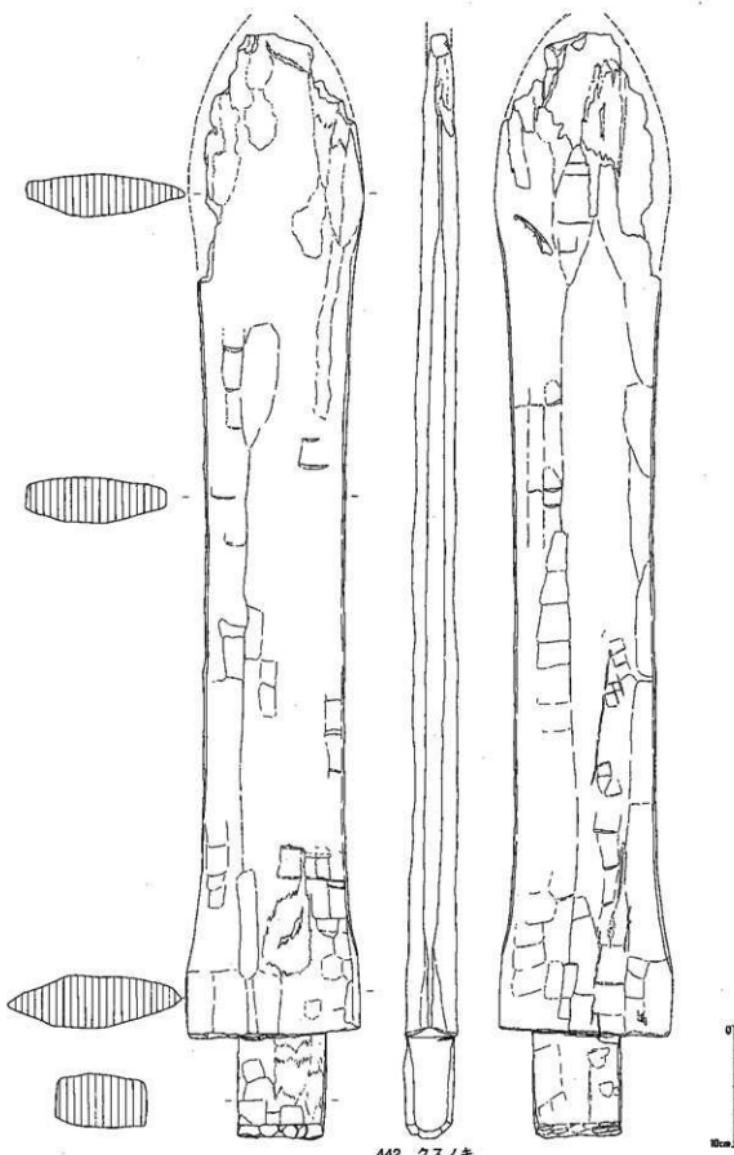
第58図 梢(4)



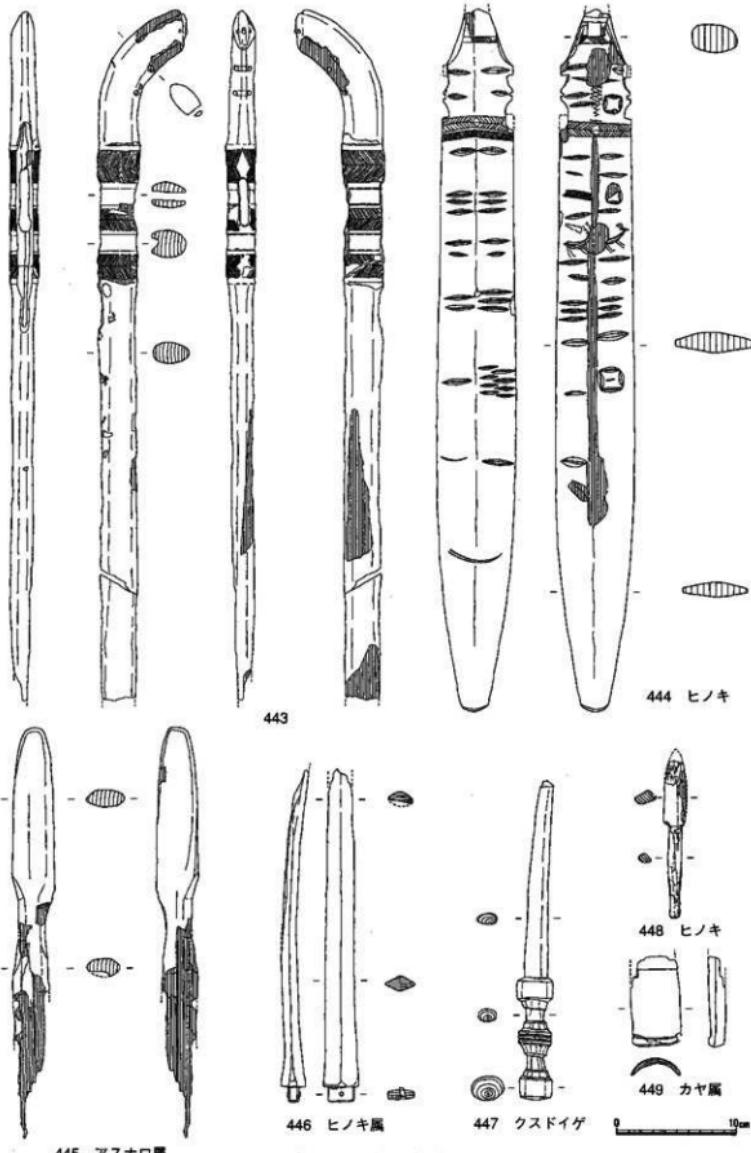
第59図 櫃(5)



第60図 標(6)



第61図 武器形(1)



第62図 武器形(2)

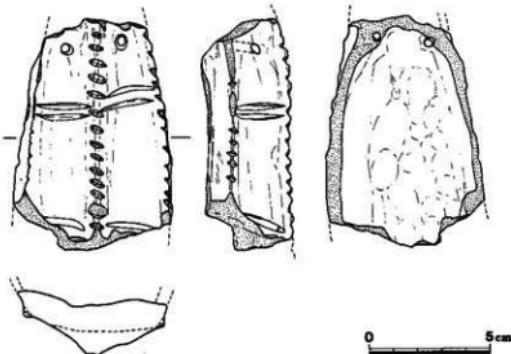
あけられている。房重しのためとみられる。戈の装着は湾曲の外側面になる。残存長57.2cmである。この柄に装着された戈は、黒漆塗りの木戈で、太く台形状の茎が中心よりやや上に付いていて、柄とは6箇所で緊縛されたと考えている。さらに、柄との一体性を重視するならば戈にも柄から連続して綾杉紋が施されていたと想定している。<sup>100</sup>

444はシカや木の葉状の彫刻や線刻を表裏両面に施した剣形木製品である。ヒノキの柾目材製で、柄の側が欠損していて残存長58.3cm幅6.5cm厚さ2.3cmである。身は一応両刃であるが、鎬は緩く刃部は面取りされていて、鉤は丸くなっている。柄は側面が緩く内湾し、厚みを増しつつびでて前面には幅1.3cm深さ5mmの方形彫り込みがある。この方形彫り込みに別作りの把が装着された可能性も考えられる。身と柄の境には側面からレの字状の切れ込みを上下対照形に施し、1cmある切れ込みの間には2mm幅で溝を彫り込んでいる。

複合錐齒紋・綾杉紋・斜格子紋などの細線紋様のやシカや木の葉状の彫刻には鋭利な金属器が用いられたことは明白である。細線紋様は基本的に全幅にわたって施されているが、半分幅の斜格子紋や鎬部分に施された斜格子紋のような例外もある。シカや木葉状の彫刻は外側を垂直に内側を斜めに刃物を入れてレの字状に彫って輪郭を取っている。シカは鎬をはさんで2頭が右向きに彫られていて、鎬部分の傷のため損傷を受けているが角の割線が残っていて2頭ともオスであることがわかる。角と両脚は細線で描かれていて、足先を前方にまげてかぎ状に表現する点などは土器絵画と共通している。

木葉状の彫刻は鎬を軸として1・2・4・5・6・9の単位があり、多くが数に進いはあっても、表裏同じ位置に施されている。表面の方が彫刻が多いが裏面との対応関係を重視するとすれば、多い分については追加的のものとも見える。木葉状の彫刻を四角に組合せたものも単位の1つとみることができよう。この単位を持った彫刻は、文字や数字といった記号のようなもので、この剣形木製品は記録物として使われたのであろう。

この剣形木製品444の類例は管見の限り知られていないが、西川津遺跡出土の鐸形土製品<sup>101</sup>に共通性を見ることができる。鐸形土製品は、弥生前期の貝塚の直上から出土していて、長さ9.5cm最大幅6.5cmで上下・両端とも欠損しているが、外面中央の稜に刻み目刺突文が施されている。残存部の中央やや上にこの稜をはさんで2個1対でヘラ描き沈線が施されており、下端の破損部にも同様の沈線が3つ見られる。破損部を含めて2単位が残っているだけで、確かにることはわからないがこの鐸形土製品も記録物として製作されたのではなかろうか。



第63図 西川津遺跡出土鐸形土製品

445は槍形の木製品で、鋒は丸くてとがっていない。身は長さ15cm幅3.5cmで1.4cmの厚さがある。柄は付け根部分のみ残っている。アスナロ属の柾目材を使い、残存長34.1cmである。446はヒノキ属の柾目材を用いた鉄剣形木製品で、鋒を欠いていて現存長27.5cmである。身の断面は幅2.5cm厚さ1.3cmの菱形である。長さ1.3cmの方形の茎には中央に目釘が残っている。447は刀形木製品で、鋒は折れているが断面三角形状の身に節帯を3つ持つ把がつく。中央の節帯の頂部には沈線が2条刻まれている。イギリ科クスドイゲの心持ち材が使われていて、残存長26.4cmである。448は7.5cmと長い茎を持つ木鎌で、鋒及び左側部を欠いていて身の断面形は菱形である。ヒノキの柾目材を用いていて、残存長は13cmである。450は墨漆塗りの刀形木製品である。身は4.5×3.0cmの楕円形で、鋒を欠損している。身と茎の間に4.5×3cmで幅1.5cmの楕円形の鍔を持つ。茎は丸く加工された先端に向け幅を減じる。鍔上面は漆がはがれていて、茎の根元部分にも漆が残っている。サクラ属の柾目材で残存長42.5cmである。

451～455は銅剣形木製品である。模倣の忠実度の順に並べると451→455→454→452・453となる。451は細形銅剣を模・剣方・脊やその研ぎの表現など細部まで忠実に模倣してて、各地から出土する銅剣形木製品の中でももっとも忠実度の高い資料である。鋒はやや痛んでいる。関の上部、脊の両脇に1対の円孔を持つ。断面円形の茎は根元部分で直径1.5cmあってやや先細りとなる。長さは2cmである。モミ属の板目材で、全長26.5cm剣方下部で幅3.9cm厚さ1.9cmである。452は銅剣形木製品であるが、451と対照的に箋や剣方などのない扁平な形をしている。関部には円孔を2つ持つ。茎は長さ1.5cmと短い。アカシヤ属の柾目材が用いられ残存長15.8cm幅4.0cm厚さ6mmである。453も452と同様に身・茎とも扁平できわめて簡素な形態である。スギの板目材を使い残存長17.4cm幅3.2cm厚さ8mmである。454は剣方や脊などの表現を欠くが、身の断面形や円孔横から間にかけて幅が狭くなる点など銅剣模倣の意識がみられる。モミ属の板目材で残存長15.6cm幅3.1cm厚さ1.3cmである。455は451について忠実度が高い。鋒を欠き、基部に2孔をうがつ。身と剣方の境を意識しているのが分かる。茎は断面円形である。二葉マツ類の柾目材を使い、残存長17.2cm剣方下部で幅4.1cm厚さ1.2cmである。

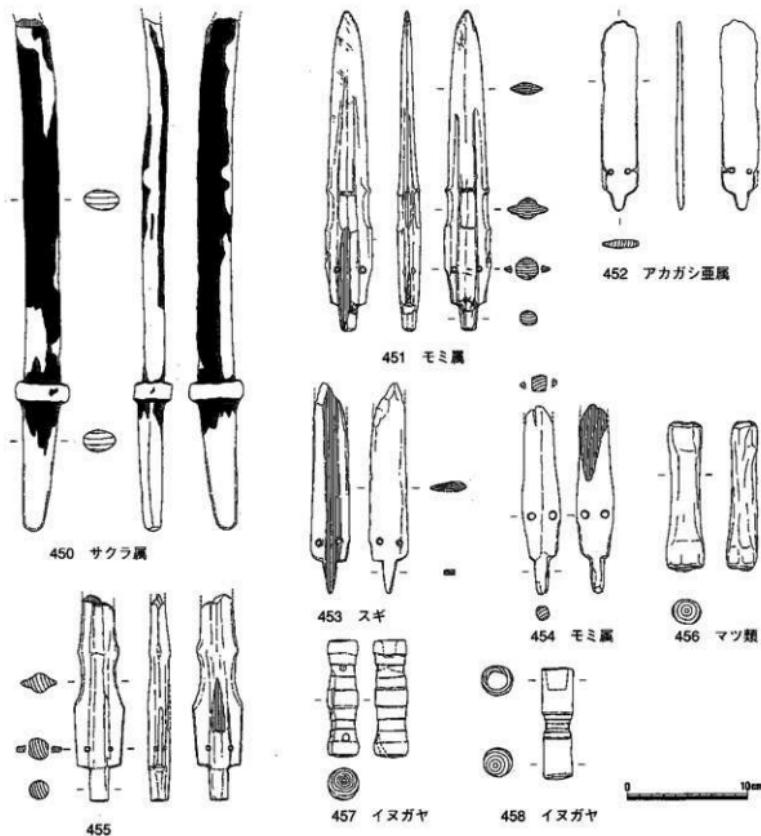
#### 鞘

鞘は1点のみ出土している。449はカヤ属の板目材で、両小口に縁を作りわずかに厚みを持たせている。側辺は面を作らず薄く削って仕上げられている。上下2枚を組み合わせて使用すると思われる。全長7.5cm幅4cm厚さ4mmである。

#### 劍把

劍把は未成品を含め3点出土している。直径2.5cm程度長さ8.3～12.4cmのイスガヤなどの針葉樹の心持ち材を用いる。刀形木製品447の把ほどの加工はされていないが、2ないし3の節帯や房垂らし用の円孔を持つ点などが共通している。また、茎孔は円形があるので、銅剣あるいは銅剣形木製品に装着されたとみられる。

456は剣把の未成品で、両小口部分を節帯となるように太くしているが、茎孔や円孔はあけられていない。直径2.5cmの心持ち材で長さ12.4cmである。457も剣把未成品で、両端と中央に低い節帯を持つ。一方の小口中央には直径1.2cm深さ1.5cmの穴を開けている。また、その下で端部から2.4cmの所には両側から円孔を開けかけているが貫通していない。下端の節帯には斜めに円孔が開けられていて、房垂らし用と見られる。イスガヤの心持ち材で、長さ9.7cm直径2.5cm。



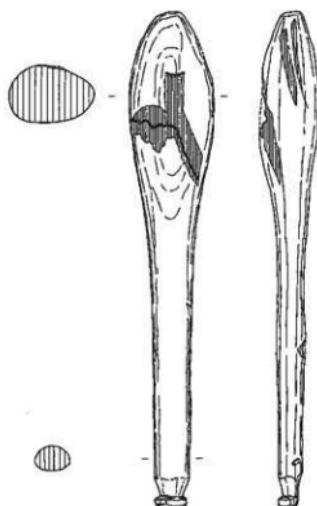
第64図 武器形(3)

458は剣把の完形品で、中央くびれ部に円孔がある。茎孔は深さ1.7cm直径1.5×1.7cmの楕円形である。イヌガヤの心持ち材を使っていて長さ8.3cm直径2.6cmである。

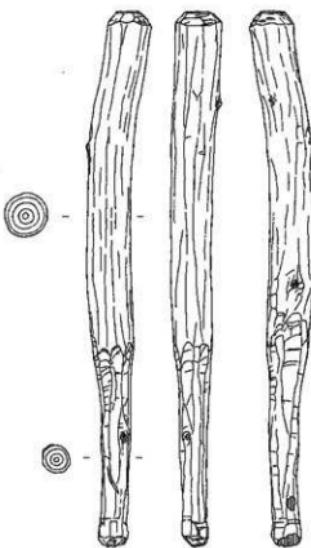
#### 棍棒

アカガシ亜属などの堅い木を使った棒状品で、明らかな握部を作っているものを棍棒とした。狩猟漁労およびそれに伴う宗教的行為にも使われたものがあると思われるが、ここでは武器として括して取り上げた。

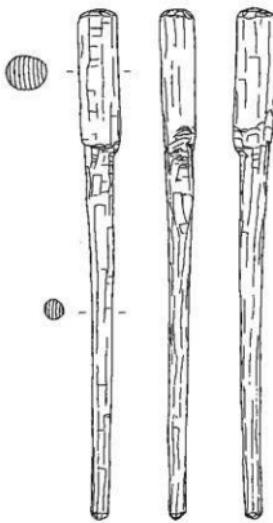
459はアカガシ亜属の柾目材を使ったほぼ完形品で、身は平面楕円形で、握部には紐かけを持つ。全長41.2cmである。460は直径3.9cmの心持ち材を使っている。加工痕がよく残っていて特に握部は顕著であるが、枝の根元の加工が粗い。全長44.4cmである。461も全長42.3cmの完形品である。他の棍



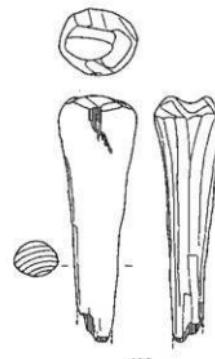
459 アカガシ木属



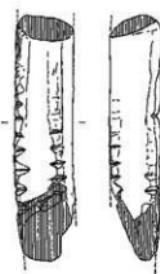
460



461 クワ属



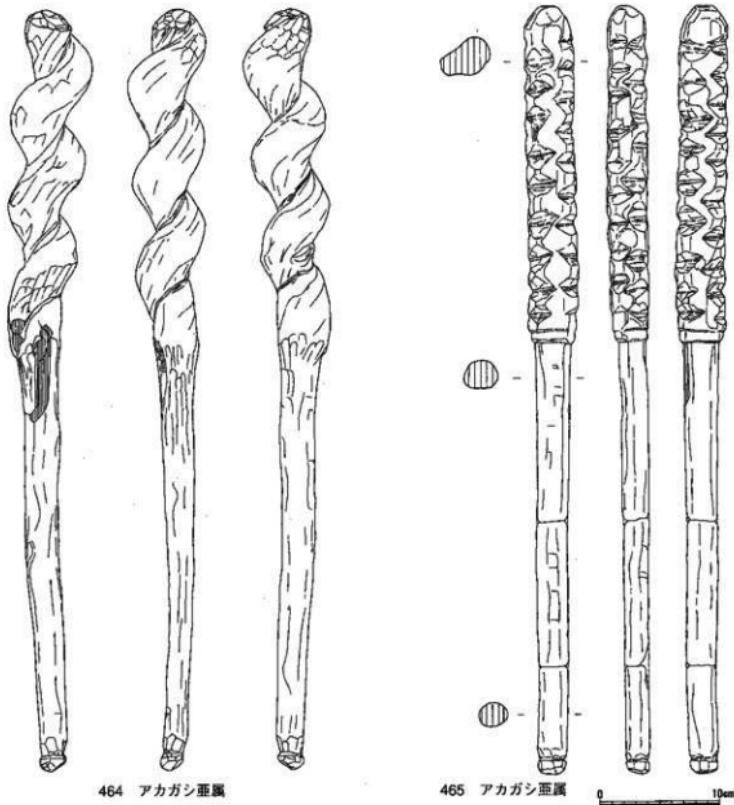
462



463

第65図 棍棒(1)

0 10cm



第66図 棍棒(2)

棒と違ひ身は11.5cmと短く、徐々に細くなった握部端には紐かけを作らない。身の太い部分を握って指揮棒の様な使い方をしたかもしれない。クワ属の柾目材を用いている。462は装着孔から折れた石斧直柄を利用していて、装着孔の折損部分を面取りしている。

463は20.3cmしか残っていないが、太さが4.8cmで断面が方形の身の四方の角に刻みがあって、いわゆるさらさら状木製品と似ている。465との類似性から棍棒に含めた。464は身がねじれた形をしていて、蔓が巻き付いてできた部分を利用したと思われる。握部端は平面5角形のグリップエンドにしている。ほは完形品でアカガシ亜属の心持ち材を使っている。全長63.2cmである。465もアカガシ亜属の柾目材を使った完形品で、身の4角に大きな刻みを交互に9ないし10段いれている。握部端には紐かけを作っている。全長63.8cm身の太さは4.1cmである。

## 8. 服飾具

服飾具にはかんざしと衣笠状木製品がある。かんざしには1本歯と2本歯があるが、歯の先端や断片では木針との区別が付かないが、明確な木針が出土していないのでかんざしに含めている。

### かんざし

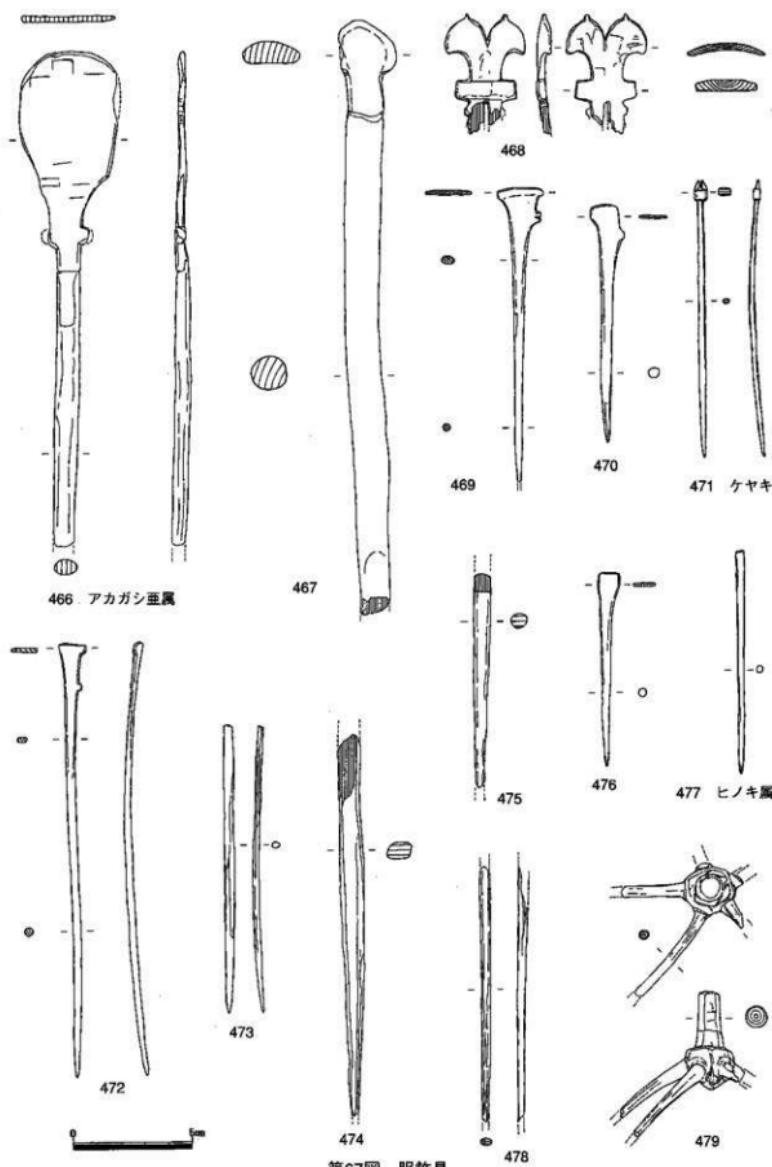
かんざしは13点出土していて、そのうち2本歯は1点である。先端の欠損している466や、やや太い467はかんざし以外の製品の可能性もある。469・470・472・476の頭部は、南方(済生会)遺跡から出土している骨角器のかんざしと類似した形状をしている。骨角器では先端の摩滅しているかんざしと類似した形状の穿孔具・刺突具があるが、木製品ではあきらかに摩滅しているものがないので、かんざしと考えておきたい。

466は断面楕円形の軸部に扁平な隅丸方形に近い頭部を持ち、頭部と軸部の境には棘突起が両側につく。アカガシ亜属の柾目材を用い、残存長20.5cmで幅4cm厚さ6mmである。467は直径1.5cmの軸部に幅2.4cmでやや扁平な半円形の頭部を持つ。柾目材を使っていて残存長24.6cmである。468は唯一の2本歯のかんざしである。頭部は乳房を2つ連ねた様な形状で、厚さ3mmと薄く内湾させて仕上げている。板目材を使っていて、残存長5cm頭部幅3.3cm厚さ5mmである。469は先端が折れているが、撥形に聞く頭部の片側面に中央に刻みを入れる方形の突起が付く。柾目材を使い残存長12.3cm頭部幅1.9cm厚さ3mmである。470は469と類似した頭部を持つ。469には横突起の頭部に刻みがあるのに対し470には刻みがない。柾目材を用いていて全長9.9cm頭部幅1.4cm厚さ4mmである。471は完形品で、頭部には2つの角状の突起が付く。ケヤキの柾目材を使っていて全長11.5cm太さ2mmである。472は469や470に類似した頭部を持つ完形品である。柾目材で全長18cm頭部幅1.1cm厚さ4mmである。473は厚さ2mmと薄く扁平な歯である。476は完形品で、円形の軸部と扁平でやや方形に近い頭部とからなる。柾目材を使い全長8.1cm頭部幅9mm厚さ3mmである。477も完形品であるが頭部を作らない。直径3mmのヒノキ属を使っていて全長8.3cmである。

### 衣笠状木製品

479は小形の衣笠状木製品で、中心から均等に分岐する5本の枝を利用していている。枝が下に開くとすると、軸部は独楽のようになっており、下端は円錐状になり上部は直径9mm長さ2.3cmのつまみ状になる。浅岡俊夫氏の多枝付木製品Ⅰ類にあたる。<sup>(註)</sup>

8. 服飾具



第67図 服飾具

## 9. 食事具・容器

杓子形・さじ・縫杓子・横杓子・ジョッキ・コップ・高杯・合子・鉢・皿・盤・槽・蓋・台などは、食事具・食器・容器に当てはめようすると、それぞれの境界が不明瞭な部分が多くあるので、ここでは一括して取り上げた。これらの中には、表面が黒色化していて柿渋などの漆以外の樹脂が塗布されたと思われるものもある。

### 杓子形

480は杓子形木製品の完形品で、身の平面形が梢円形に近く周縁が薄くなっている、しゃもじ形をしている。柾目材が使われていて全長29.3cm身の幅6.2cm厚さ1.1cmである。

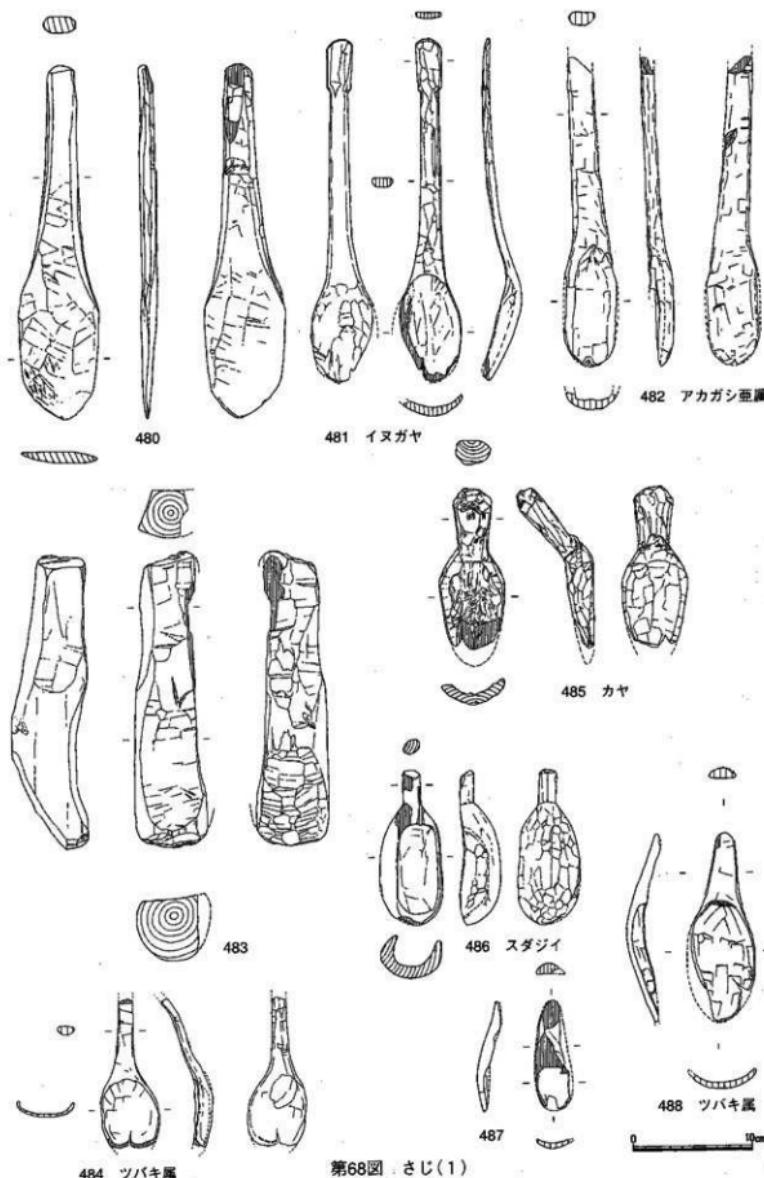
### さじ

さじは身の口縁と柄の付け根が段差を持たずに直線的につながるものと、身と柄が角度を持ってつながるが柄に反りがないもの、身と柄が角度を持ってつながり、身の先端から柄の基部までの側面観がS字状をなすものに分かれる。身の長さは3.5cmと小さなものから15cmに復原できる大きなものまであるが、10cm前後が最も多い。樹種はカヤ・イヌガヤ・アカガシ亜属・ツバキ属・スダジイ・ヤマグワ・シキミ・サカキ・ツゲ・シャシャンボなど種類が多い。

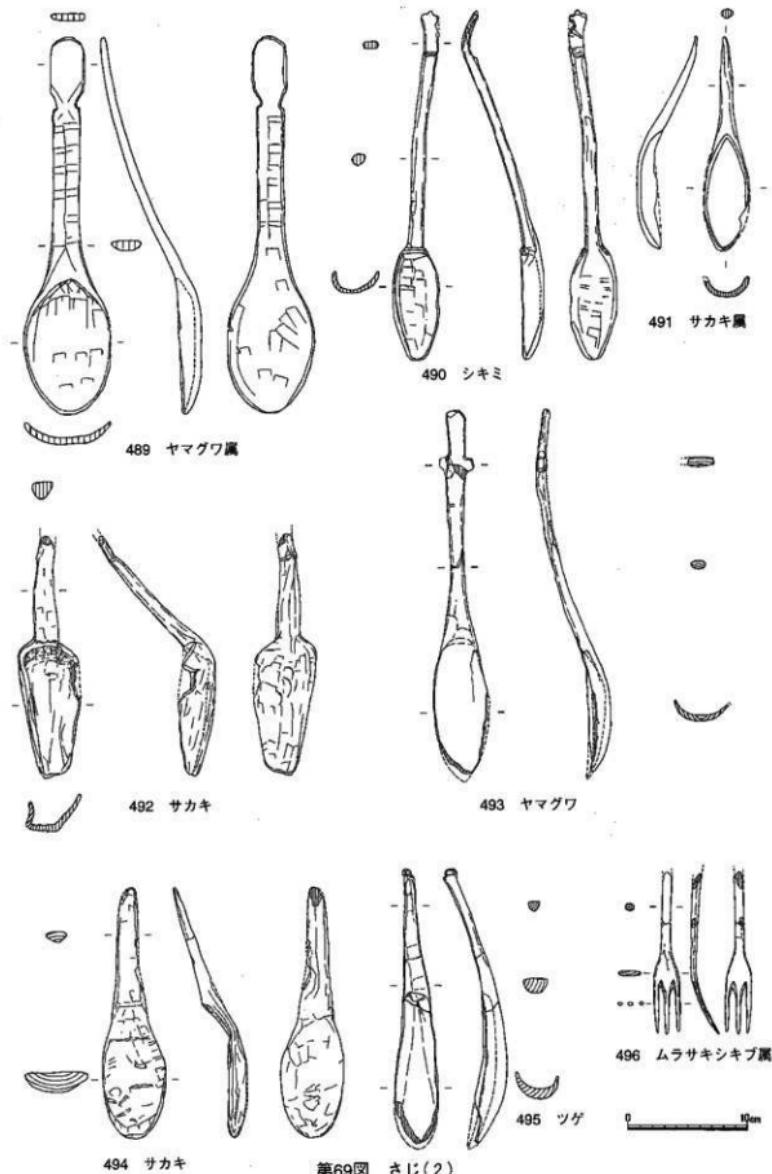
食事具としてのさじの評価は、佐原真氏は出土数の少なさや定形化されていないことを持って、食具として的一般性を否定された。しかし、最近では石川県八日市地方遺跡や鳥取県青谷上寺地遺跡でもさじが多数発掘されていて、再評価されるべきと考える。

481は身の先端および左側部を欠いていて、残存長28.4cm身の残存長9cm幅8.8cmである。イヌガヤの柾目材を使っていて、内外面には細かな加工痕が残っている。側面はS字形で柄が身の付け根からわずかに外湾しつつのび、方形の基部を作り出している。482は柄が身の付け根から直線的にのびていて、全体に雑に削られているので未成品の可能性もある。アカガシ亜属の柾目材を使っていて残存長25.5cmである。483は身の成形を始めた段階の未成品で、細かい加工痕が顕著に残っている。心持ち材を使っていて全長24.6cm幅6.0cmである。484は身の先端と柄の基部を欠く。身は円形に近く、柄はほぼ直線的にのびる。ツバキ属の柾目材で残存長12.2cm身の幅4.9cmである。485は柄の短いさじで、長さ14.3cm身の幅5.4cmが残っている。加工痕は明瞭で、刃線痕もきれいに見える。身の内面には加工により毛羽立った部分があるので未成品である。カヤの板目材が用いられている。486は柄の先端を欠くが、身は梢円形でやや深みがあり小型の横杓子状の形をしている。内外面の加工痕が顕著で、スダジイの柾目材を使っている。残存長12.8cm身の幅5.2cmである。487は身の先端が欠損していて、残存長9cmである。身の平面形が円形ないし隅丸方形で、長さ3.5cm幅2.9cmほどの特に小さいさじである。柾目材を使っている。488は身の長さが9.8cmであるのに対し柄が6cmと柄の短いさじである。ほぼ完形で、ツバキ属の柾目材を使い、残存長15.5cmである。

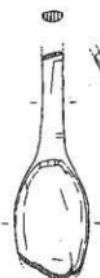
489はヤマグワ属の柾目材を使った完形品で、側面観はゆるくS字状にカーブする。身は11.2×7.3cmの梢円形である。柄の先端を丸くして、先端から6cmの所に両側からレの字の切り込みを入れて頭部を作っている。全長31.2cm身の幅7.2cmである。490も全長28.8cm身の幅3.8cmのほぼ完形品で、柄の付け根は上部・側部とも身と段差をつけて境を強調している。柄はわずかに内湾しつつのび、少



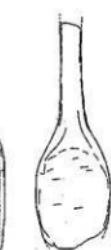
第68図：さじ(1)



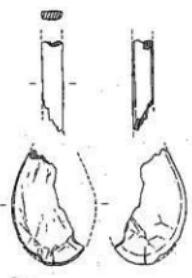
第69図 さじ(2)



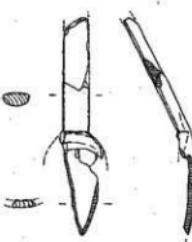
497 クワ属



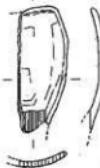
498



499 シャシャンボ



500 イヌガヤ



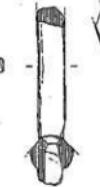
501



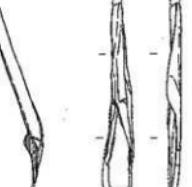
502



503 ケヤキ



504 サカキ



505



506



507



509



510



511



512 シャシャンボ



513



514



第70図 さじ(3)

し扁平に削った基部は逆に外湾させている。シキミの柾目材を用いている。491もサカキ属の柾目材製のほぼ完形品である。身は平面紡錘形で、柄の先端をとがらせている。全長17.8cm身の幅3.8cmである。492は平面方形に近くやや深めの身の付け根から、ほぼ45°の角度で直線的に柄がのびている。サカキの柾目材を用いていて残存長20cm身の幅5.2cmである。493は先端部をやや欠損しているが完形に近い。基部に横突起があって、側面観はごくごく緩いS字状をなす。身は復原すると11×4.6cmの楕円形である。ヤマグワの心持ち材を使っていて残存長20cmである。494は全体の形はほぼできあがっているが、身の内部を削っていない未成品である。柄は上面が45°の角度で立ち上がったのち角をつけて立ち上がりを緩くしているが、下面ではほぼ直線的にのびている。サカキの心持ち材で、全長20.8cm身の幅5.2cmである。495は中華料理のレンゲを細くした様な形のさじで、柄の端部に突起がある。側面観はやや内湾している。ツゲの柾目材を使ったほぼ完形品で、長さ22.7cm身の幅3.6cmである。

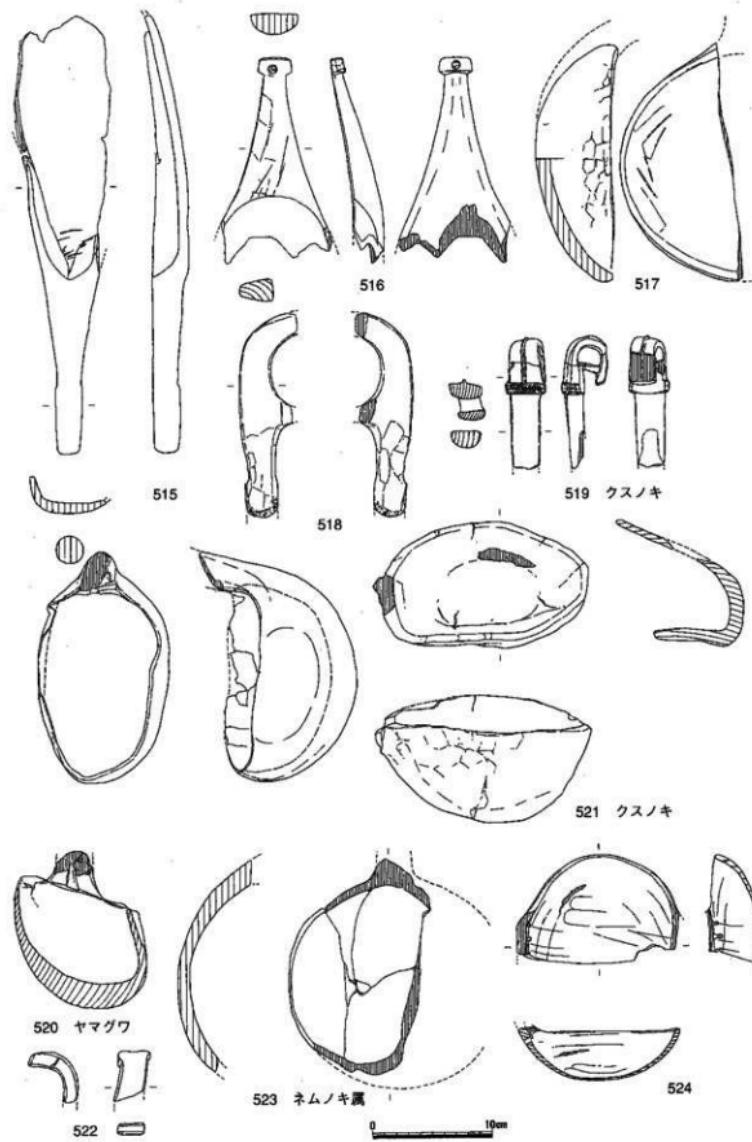
496は3本歯のフォークである。歯の先端はやや丸みを帯びながらもとがっていて、身は柄の付け根部分から先端にかけて湾曲させている。ムラサキシキブ属の柾目材を用いる。残存長13.4cm幅2.1cmである。2本歯のフォークが石川県八日市地方遺跡で報告されている。<sup>100</sup>これにもムラサキシキブ属が使われていて、本例と用材が共通する。

497は先端・基部を欠損しているが、全体に仕上げが丁寧なつくりで、クワ属の柾目材を使っている。498は接合しないが同一個体と思われる。499は基部および身部の大半を欠損しているが、柄の付け根部分にやや高まりがあつて柄が直線的にのびる。シャシャンボの柾目材が使われている。502は接合しないが復原すると長さ約15cmになる身の長く、柄の短いさじである。503は身の大半を欠くが、ケヤキの柾目材製のさじである。504は幅が2.5cmほどの細長い身のさじで、サカキ製である。512はカレースプーンくらいの大きさのさじで、柄は口縁部のやや下からのびている。シャシャンボの柾目材を使っている。500はイヌガヤ、504はサカキ、506はカヤを用いている。

#### 杓子

杓子には身の口縁と平行に柄が付く横杓子と、直角に付く縦杓子がある。樹種はイヌマキ・ケヤキ・ケヤキ属・ヤマグワ・クスノキ・アカガシ亜属・ネムノキ属などが用いられている。柄は直線なものと湾曲するものと両者がある。横杓子の身の形状は楕円形と円形とがあるが、総じて浅いものが多い。椀は小形で平面円形の縦杓子の身とは破片では区別が付かないで、ここで一括して取り上げた。

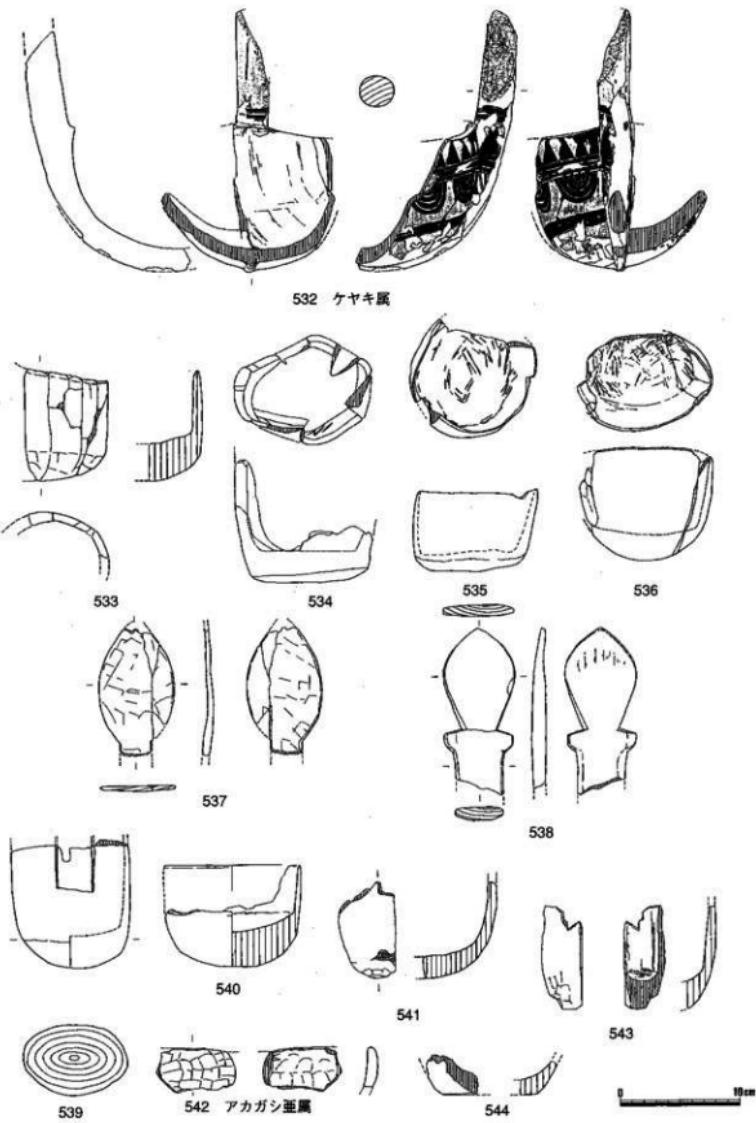
515～517・523・524は横杓子で、518・519・522は横杓子の柄とみられる。515は細長い横杓子で、さじに形態が似るが身の残存長21.5cmと長ないので横杓子に収めた。柄の端部から5.5cmのところでわずかに段を設けて基部を作る。柾目材を使っていて残存長は36.3cmである。516は身の大半を欠くが楕円形の身が付くと思われる。柄の端部には横長方形の基部を作り中央に円孔を開けている。517は円形で浅めの身の半分ほどの破片で、やや湾曲する柄が付くとみられる。残存長19.7cmである。518は横杓子の柄で、環状の基部は半分に折れている。519もクスノキの柾目材製の横杓子の柄で、頭部の側面観は頂点の丸いA字形をしていて、外面に1条の節帯を持つ。基部と断面半円形の握部との境に幅9mmの隆起帯を作り、上面・両側面中央の沈線および沈線の上下と隆起帯両端に線状の刻みを施す。522は環状に湾曲した横杓子の柄の基部の破片で、先端側部にわずかに突起を持つ。523は身の半分ほどの破片で柄の付け根から折れている。ネムノキ属を使っている。524は厚さ2～



第71図 矛子(1)



第72図 柄子(2)



第73図 拘子(3)

3mmのごく薄い縦約子の身で、後補か否かは不明であるが、柄を緊縛するために小孔を3つ設けている。

520・521・525～544は縦約子である。底部は丸底と平底がある。520・521・532は湾曲する柄を持つとみられる。520はやや横に押しつぶされているが、身は平面横円形で深さがあり丸底の縦約子で、柄の上面には溝が切り込んである。ヤマグワ製である。521は520と同様に身はやや横に押しつぶされているが、平面横円形で丸底の縦約子でクスノキ製である。525は人形状を呈する基部を持ったほぼ完形の縦約子である。底部は平底である。身の内面は加工痕が粗く残った未成品で、小さな傷が背面に達して穴があいているため失敗品と見られる。加工痕が顕著に残っていて、刃こぼれ痕も観察できる。イスマキの心持ち材を使い全長47.3cm身の直径10.9cm高さ10.5cmである。526は525と同様に入形のような形をした縦約子柄で、頭部背面にくぼみ状の痛みがある。花弁状の頭部の下に肩を作り、胸に当たる部分に7条の沈線を刻んでいる。最下段の沈線の下7mmに径5mmの円孔をあけ、そこから下にスリットが入る。ケヤキ製の精巧品である。527は柄の基部を欠損し身は土圧により変形している。クスノキ製の丸底の縦約子で、残存長27.85cm身の高さ8.5cmである。529～531は平底で、529は柄を根元から欠損している。530は縦約子の身あるいは椀で、底部内面に上から当てた加工痕がよく残っている。

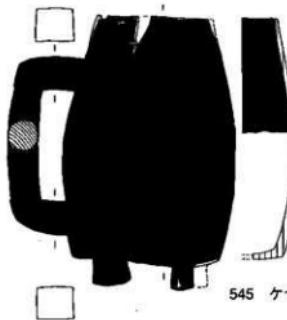
532は赤紋を施した縦約子である。黒漆地に赤漆で鋸歯紋・直線紋・重弧紋・列点紋などを反転させて描いているので、赤漆地に黒漆で施紋しているように見える。柄の付け根は丸底の身の底部まで細くなっている。柄にも直線紋が施紋されているが大半は焼損している。ケヤキ属の柾目材を使っていて残存長21.6cmである。537・538は525や526と同様の人形状をした縦約子柄の基部である。534～536・539～544は縦約子の身または平底の椀の破片で、536・539は内底面は平たくしているが外面は丸い。いずれもおよそ直径11cm高さ10cmで、542はアカガシ亜属製である。

#### ジョッキ

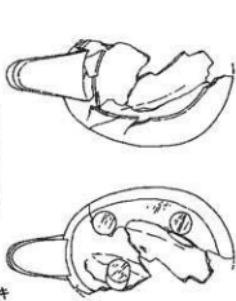
体部の側面に把手の付くジョッキには、円柱ないし方柱状の脚を4つ持つものが多い。樹種はケヤキ・クワ属・サクラ属が使われている。

545はケヤキを使った精巧品である。高さ22.6cmで平面がやや横円形の身は、底部からやや上で最大径となり口縁ですばまっている。外面及び内面上半には黒漆が塗られていて、口縁部に樹皮による補修がある。把手は大振りに作っている。把手の基部は断面方形で、長さが5.5cmあって側部への出も大きい。握部は断面円形で持ち手にあわせてわずかに湾曲させている。また、握部と基部の境は明瞭に区別されている。体部の曲面は把手の位置にあってもいささかも狂うことなく、20cmもの深さに刺り込んだ上に器壁を3～5mmに仕上げていて、しかも厚みが波打つことなどない。一見した限りでは把手を組み合わせて作っているかのように見えるが、一木づくりである。底部には四脚が付く。

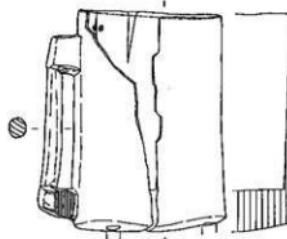
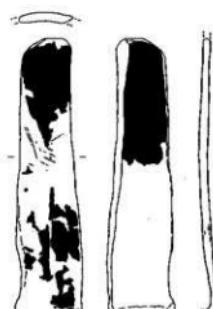
546は四脚を欠損しているが、直径のやや小さめの脚がつく。把手もやや華奢で、基部と握部の境はついているものの、握部が直線的で側部への出も3cmで少ない。底部は3.5cmほどの厚みを残す。口縁部下に補修孔が1対ある。545に比べると全体に作りが粗い。クワ属の材を使っている。547は口縁部の破片で、把手の上半が残存している。把手は基部と握部の境を作っておらず、握部は直線的である。作りは546よりも丁寧である。548は把手の破片で、基部側面に綾杉紋を刻む。基部との境を明瞭につけた握部は断面円形で、持ち手にあわせてわずかに湾曲させている。クワ属の材を使



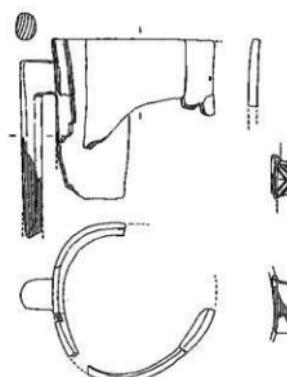
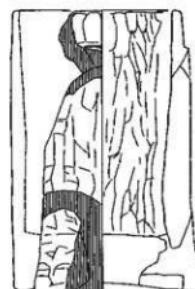
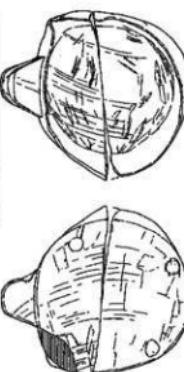
545 ケヤキ



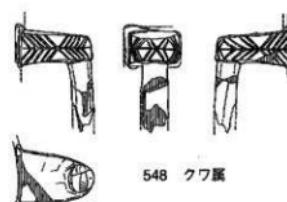
549



546 クワ属



548 クワ属



第74図 ジョッキ(1)

っている。549は縦割れした体部の破片で、外面および内面上半に黒漆がぬられている。550は脚の付かないジョッキで、把手を欠損している。体部内面には縱方向の加工痕が粗く残っている。直径15.6cm高さ23.3cmである。554はジョッキの体部の破片で、表面は丁寧に仕上げられている。サクラ属の柾目材が使われている。555はクワ属のジョッキで四脚が付く。把手は基部の付け根から欠損している。作りはやや粗い。556はジョッキかコップの破片だが、厚みを持たない平底の底部からするとジョッキの可能性が高い。558は直径14cmのジョッキ底部の破片で、やや扁平な四脚を持つと見られる。把手の基部と見られる隆起部がある。

第75図は八日市地方遺跡から出土したジョッキで、高さが14.5cm口径は8.9cmある。体部中央で細くなる鼓形をしていて、北陸から山陰地方で多用される組合せ式の底板が付く。外形や底板の組合せ・脚の有無などの違いはあるが、把手の作り方に南方(済生会)遺跡出土ジョッキと共通点が見られる。器壁が均等な厚さを持っている点や外面の曲線が把手の付け根部分でも変化がない点は、高い製作技術が駆使された精巧品といえよう。

#### 異形杓子

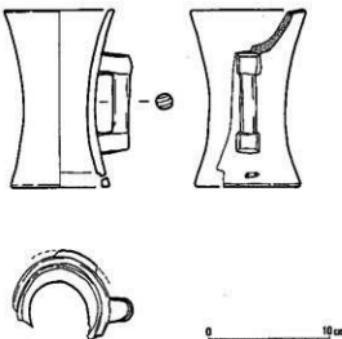
557は身の一方に真上に延びる柄がつく脚付の杓子形の容器であるが、柄の先端が失われていて柄の全形が不明であることや脚付であることから、杓子とは別の用途であると考えるが、用途に即した器種名も提示できないので、異形杓子と仮称しておく。ツバキ属の心持ち材製で、残存長20.4cmである。底部には作り出しの脚が3つ付くが1つは消失する。底部内面には、刃物を上から当てた加工痕跡が残る。

#### コップ

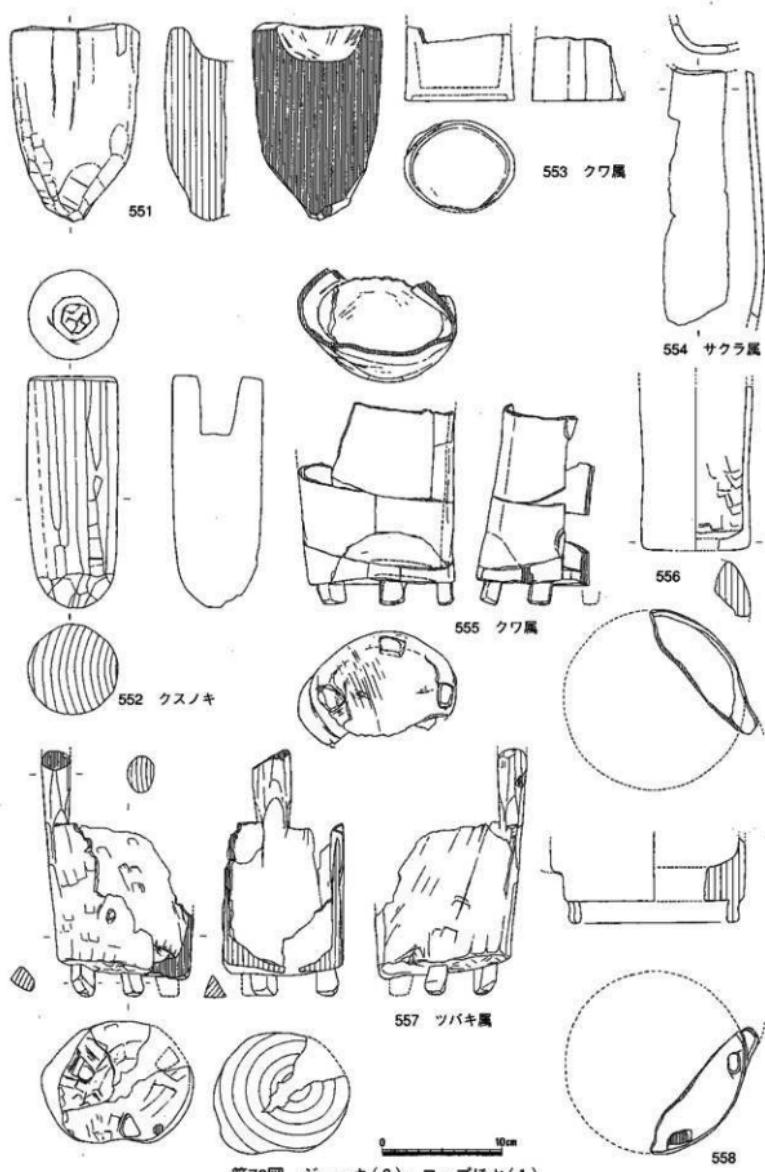
コップは未完成品も含めて6点出土していて、口径7~11cmで高さ14~20cmある。丸底のものが多いが、563のように小さな円形の底部を持つものもある。樹種はイチイ・イヌガヤ・クスノキ・クワ属を用いている。

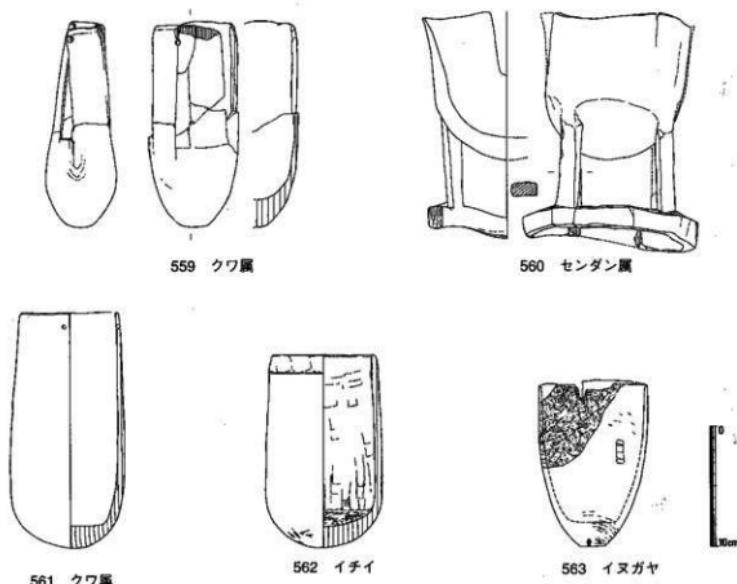
551は縦割れしたコップの未完成品で、底部は尖底に削り始めていて、内削りも3cmほど行っている。口径10.8cm高さ16.5cmである。仕上がりは563のような形であろう。552も丸底のコップの未完成品で、上部から5cmほど内削りを始めている。クスノキの柾目材で、口径7.5cm高さ19.3cmである。仕上がりは559や561のような丸底で直立するコップになったであろう。553は上面觀は楕円形で、長径端は面取りし底面は高台状を呈する。コップと言うよりは小形の合子の可能性もある。クワ属を用いて底部幅9.1cmである。

559は土圧により変形しているが、ほぼ完成品である。丸底で体部の直立する削りの深いコップで、口縁部には補修孔がある。クワ属製で、高さ17cm口径7.5cmである。561も丸底で体部の直立した削りが深いコップで、口径はやや狭くなり8cm、深さは17.6cmで口縁部に補修孔がある。胴部の厚さは中



第75図 八日市地方遺跡のジョッキ





第77図 コップほか（2）

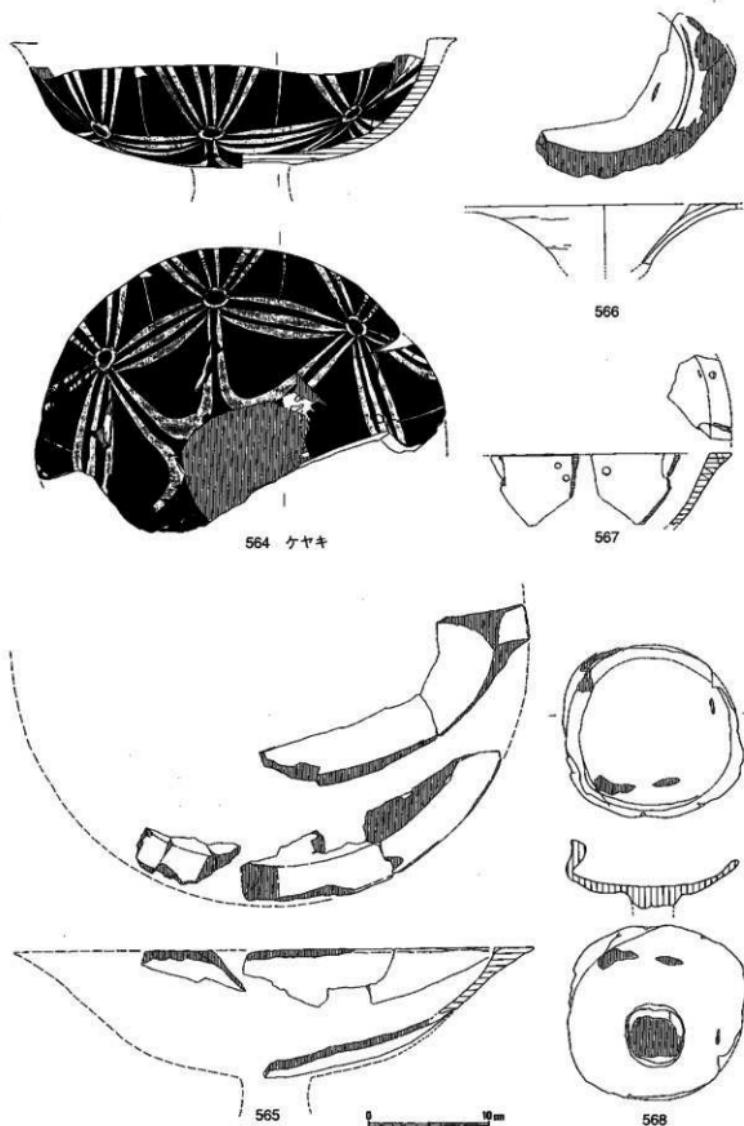
央で5mm。クワ属製で、高さ19.5cmである。562は口縁部下1.3cmに段をもたせて肥厚させ、口縁端部をせばめる。内底面は未調整で、ガザガザと毛羽だったままの状態である。イチイの心持ち材を使い、高さ16cm復原口径8.5cmである。563はほぼ完形のコップで、底部は直径2cmの円形である。土圧による変形を受け、一部に炭化がみられる。イヌガヤ製で高さ13.8cm口径9cmである。

560は脚付カップ形容器である。高さに対し口径の小さいコップとは異なるが、ここで報告する。体部は口径と高さがほぼ等しいカップ形をしていて、環状の脚台に4本の棧がついて丸底の体部とつながる。センダン属を使った一本づくりで、高さ19.9cmである。

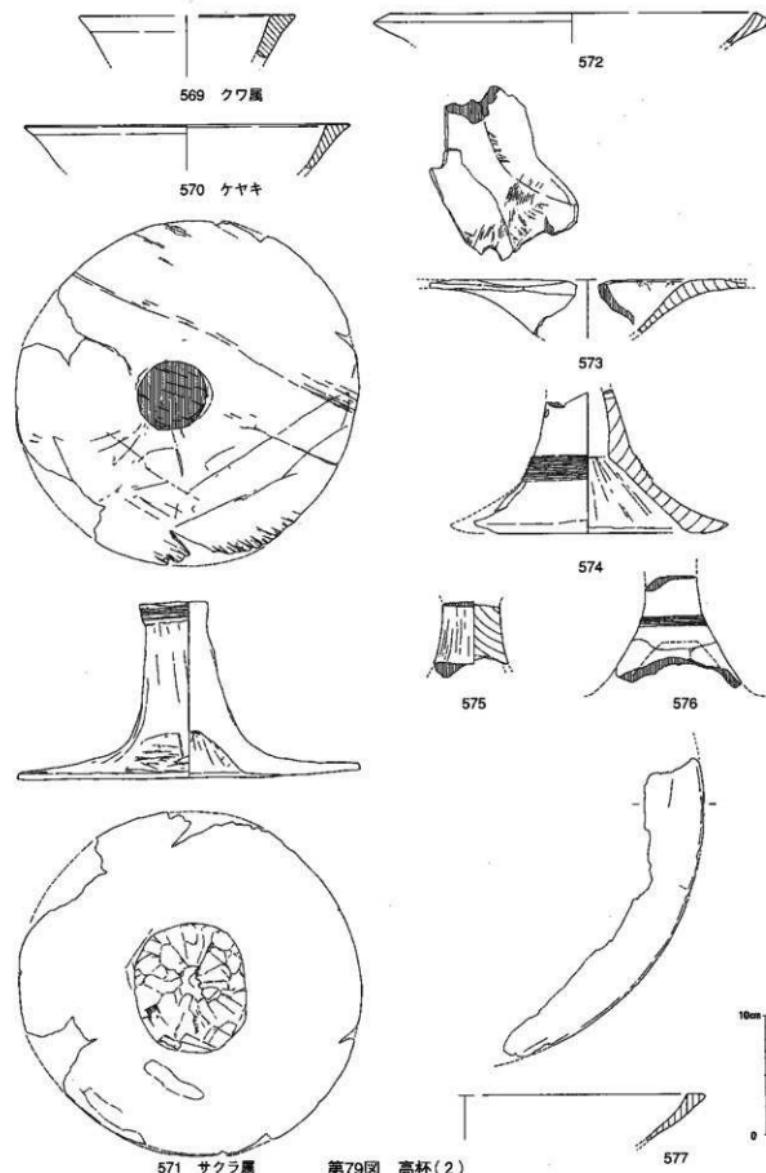
#### 高杯

高杯は口径30cmを越える大形高杯とそれ以下の小形高杯に分かれ、大形高杯には赤彩紋を施したものがある。小形高杯の中にも杯部と脚部を別材で作る組合せ式高杯がある。樹種はケヤキ・クワ属・サクラ属が用いられている。

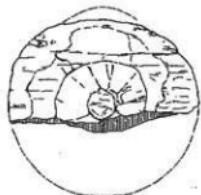
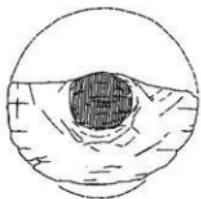
564は大形の赤彩紋高杯で、軸部を根元から欠損しているが組合せ式と思われる。黒漆地に赤漆紋様を施している。赤漆紋様は杯部中央に小円を8つ均等に配置し、各円から軸部方向にU字形に線を引き隣の円と結ぶ。水平方向には3本の線で隣の円と結ぶが、上下の線はそれぞれやや弧状になっている。口縁方向には2本1単位として真上・右上・左上に伸び、また水平線の中央からも他に比べ細い線が1本真上に引かれている。各線は始点と終点がそれぞれ細く中程が広くかかれている。口縁部を欠くが、口縁はわずかに肥厚するものとみられる。ケヤキの横木取りである。565は破片で



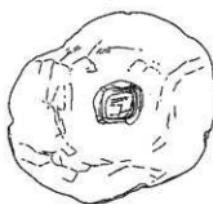
第78図 高杯(1)



第79図 高杯(2)



578 クワ属



579 サクラ属



580

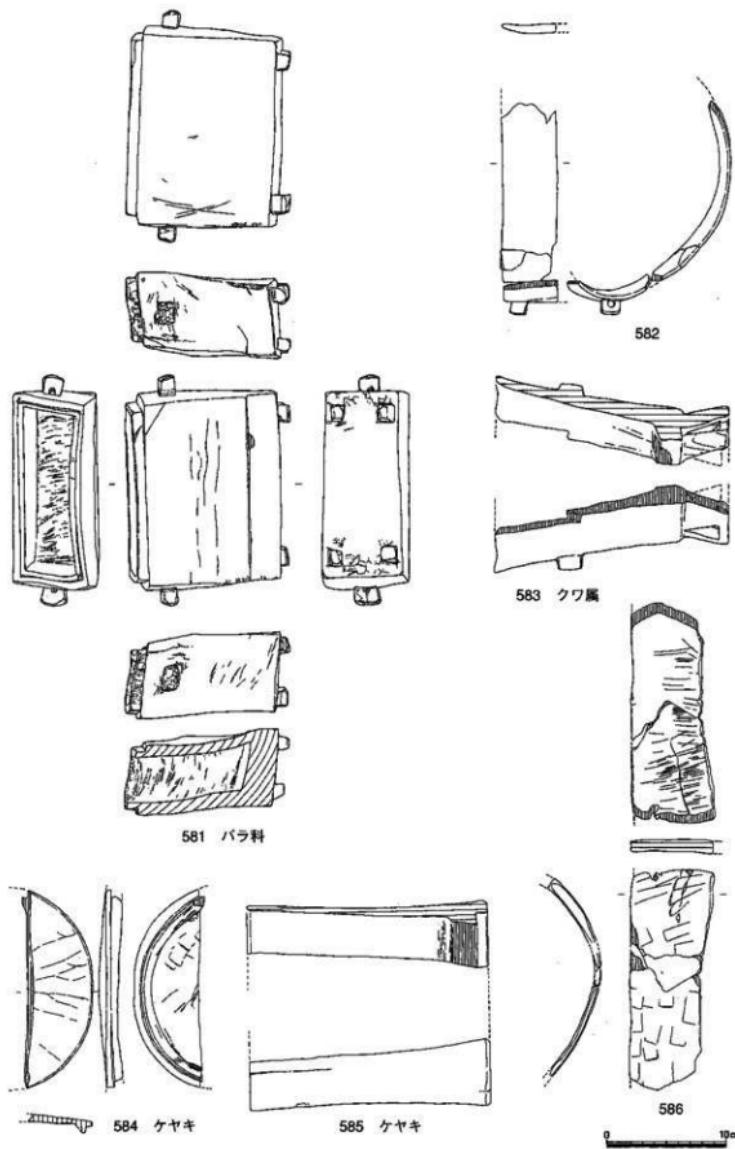


第80図 高杯(3)

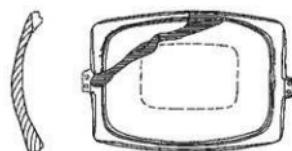
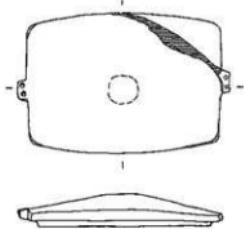
あるが復原口径43cmになる大形高杯である。口縁部は水平にやや肥厚している。566・573は広い水平口縁を持つ小形高杯である。566は水平口縁と杯部上端との境にはわずかに段があるが、573には段がない。

567・569・570・572・577はあまり肥厚しない口縁部の破片である。567には蓋縫じ孔と補修孔がある。569はクワ属製、570はケヤキ製である。568は土圧により変形しているが、小形高杯の杯部が軸上部で折損していて、口縁部はわずかに肥厚している。577は復原口径40cmの大形高杯の口縁部の破片で、全体に丁寧な加工をしている。

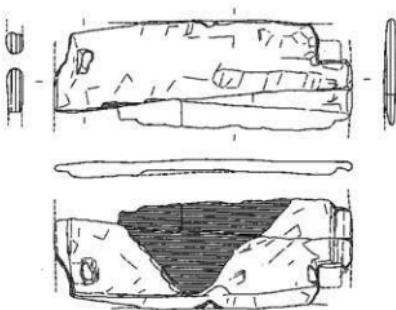
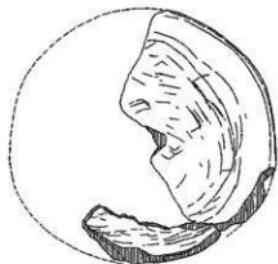
571・574～576・578～580は脚部の破片である。571は径が28.5cmの大形高杯の脚部で、軸部の残存上端には沈線3条が彫られている。脚部内面は9.5×10.5cmの隅丸方形で深さ4cmに削っていて、粗い加工痕が残っている。サクラ属材を用いている。現状で高さが14.5cmがあるので、二材の組合せ式と見られる。574は組合せ式の高杯脚部の破片で、残存部分はすべて内削りがされている。軸部上端は欠くが対面する1対の円孔がある。軸部から脚部へ裾広がりになる変換点に6条の低く細い削り出し突帯を持つ。脚部復原径は23cmである。575・576は軸部の破片で、576には沈線が3条ある。578は脚部径15.85cmで、軸部には4条の沈線が2段ある。クワ属製である。579は三材を組合せる高



第81図 合子(1)



587 センダン



589

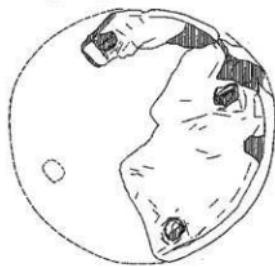
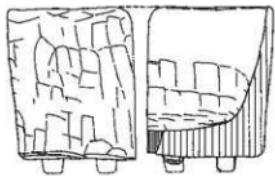
10cm

杯の脚部で、上縁に方形のはぞ孔がある。サクラン属製で脚部径17.5cmである。580は脚部1/4の破片で、復原径は21cmである。

#### 合子

合子には平面形が四角形・円形ないし梢円形のものがあって、脚の付くものと付かないものの双方がある。樹種はケヤキ・クワ属・バラ科・センダンなどが用いられている。

581は四脚のつく四角い合子で、短辺上部には円孔を持つ方形の耳が付く。口縁部には蓋受けがあって、印籠蓋が付くと見られる。内面は底部まできっちりと角付けがされていて、内底面には加工痕が顕著に残っている。バラ科の材をつかっていて、幅19.2cm長さ6cm高さ12cmである。



588

#### 第82図 合子(2)

582は円形の合子の口縁部の破片で、直径5mmの穴を開けた1.3×1.5cmの方形の耳を持つ。583の体部は底部から口縁部に向けて直線的に開く。底部から小さな段をもうけてやや下に開く脚台部には三角形の透かし孔を持つ。体部中央やや上に方形突起

が付く。クワ属製で高さ19.4cmである。585は全周の1/8程度が残存している精巧品で、厳密には円形か楕円形かは不明である。体部は中程でやや細くなっていて、高さ1cmの脚を作りつけている。ケヤキ製で高さ20cmである。586は円形合子の口縁部の破片で補修孔がある。588は底部の1/2を欠損しているが、1.5cm四方の小さな脚が3つ残存しており、四脚であったと見られる。胴部内外面や脚周囲には加工痕が顕著に残っている。直径21.4cm高さ13.5cmである。

584・587・589は合子の蓋である。584は円形ないし楕円形の蓋の1/3程度の破片である。加工痕が顕著に残っていて、特に外面は加工による凹凸が見られるので未成品の可能性もある。ケヤキ製で、残存幅16.3cm高さ2cmである。587は甲盛りのある方形合子の蓋で、長辺はやや外湾する。短辺中央に円孔を2つ持つ紐孔突起がつく。センダン製で、丁寧に仕上げられている。全長17.3cm幅10.8cmである。589は長軸に沿った1/2の破片で、4隅に方形孔を持つ。内面に1~1.5cm幅の段を持たせている。板目材を使い全長24.7cmである。

#### 深形容器

深形容器には尖底容器・鉢形容器などがあるが、尖底容器以外は全形が不明のため深形容器として一括してここに収めた。

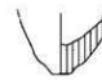
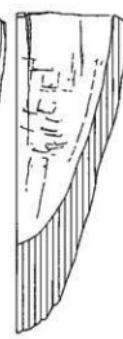
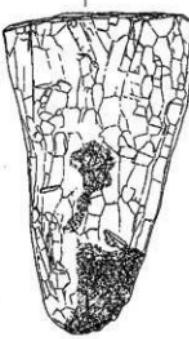
590は尖底気味の丸底の深形容器の未成品で、内割りの途中である。底部は内面まで焼けて炭化しており、外面には加工痕が顕著に残っている。モミ属の心持ち材を使っていて、口径15.8cm高さ26.8cmである。591は尖底容器の底部の破片である。コップの底部の可能性もあるが、ほかのコップに比べて加工が粗いので尖底容器とした。残存幅7.2cm高さ4.6cmである。592は平面隅丸方形の深形容器の上部1/4の破片である。593は波状口縁の鉢形ないし深い皿形である。594は深い鉢形で楕円形を呈し、クスノキ製である。595も平面楕円形ないし隅丸方形深い鉢形である。596は底部を欠損するが尖底の深い鉢形とみられる。復原口径は27.4cmで、全周の1/3が残る。602は深さ7.8cmの円形ないし楕円形の鉢形容器で、こぶのような部分を利用しているように見える。

#### 皿

皿には平面形が円形・楕円形・方形・隅丸方形などがあって、高台や脚がつくものと付かないものとがある。平面形や深さでは区別しにくい盤・槽もここで一括して紹介する。大きさでは直径ないし長辺が15~50cm以上まであって20cm~35cmが最も多く、たとえていえば、個別の皿から宴会用の大皿まで各種がそろっている。樹種はサカキ・ケヤキ・アカガシ亜属・クスノキ・ハルニレなどが使われている。

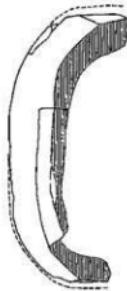
597は二方向に脚を持つ皿未成品の失敗品と見られる。脚付き皿の失敗品とするならば、一方の脚の付け根を取り払っているので、脚のない皿に転用をしようとしているかもしれない。598は楕円形の浅い皿で、残存長14.1cm幅11.4cmである。599は復原口径約20cm高さ6.8cmの円形のやや深い皿で、外面の焼損が著しい。600も円形の皿で径6cmほどの底部をわずかに作り出している。601はごく低い円形の高台を持つ皿である。

603・604は四脚の付く楕円形ないし隅丸方形の小形の皿で、603はサカキを用いていて復原長16cm幅12cm高さ3.5cm、604は復原長18.5cm幅12cm高さ2.4cmである。605・610は長辺にそって細長い脚を2つ持つ皿である。605は縱割れした1/2程度の破片で、全長14.2cm高さ4cm、610は長さ14cm幅1.2cm程度の脚が付く楕円形のケヤキ製の皿で、全長30.5cm高さ7.8cmである。606は長方形の四脚を持つ皿の小片。607はサカキの板目材を使った上に開く角形の皿で、全長23.5cm復原幅11cm高さ3.8cm

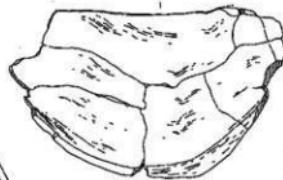


591

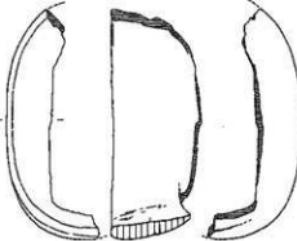
590 モミ属



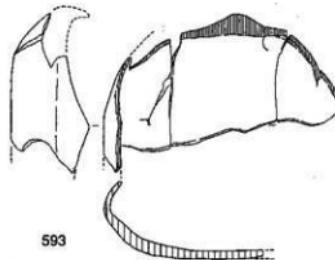
592



594 クスノキ



595

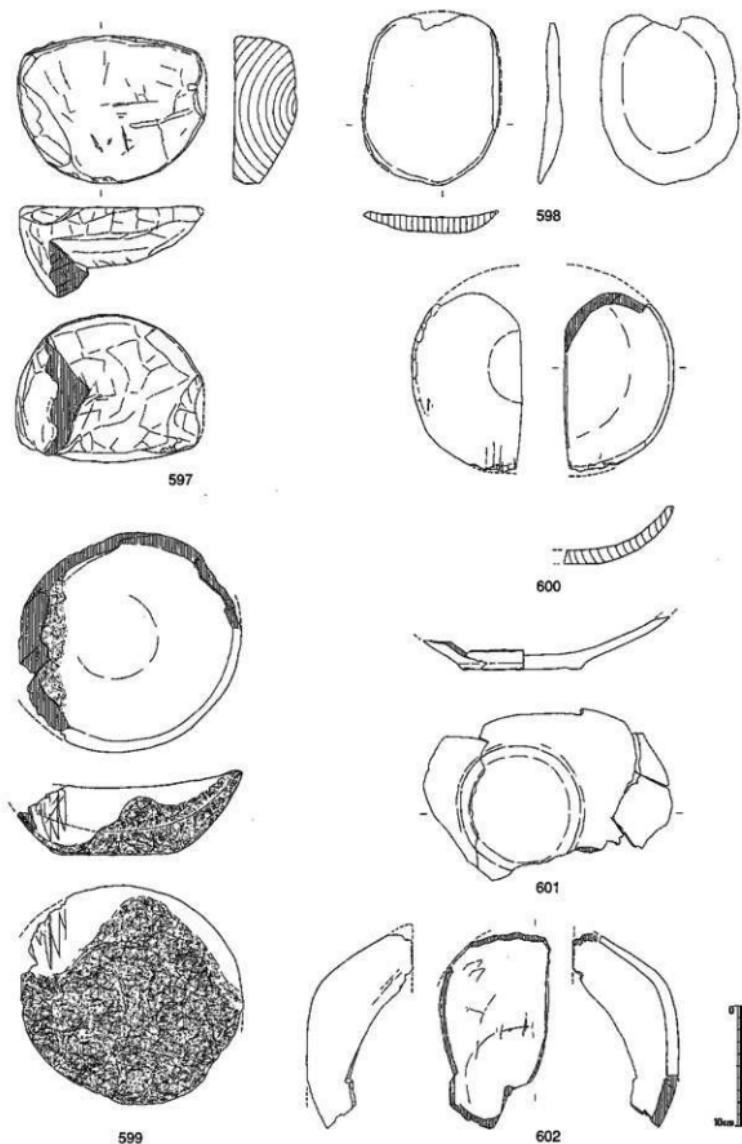


593

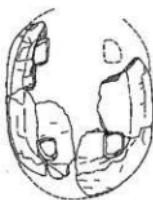


596

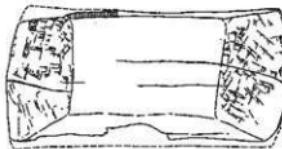
第83図 深型容器



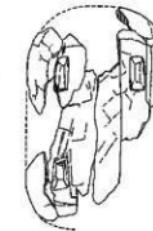
第84図 盆(1)



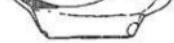
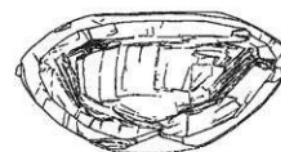
603 サカキ



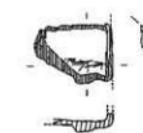
607 サカキ



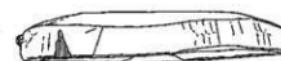
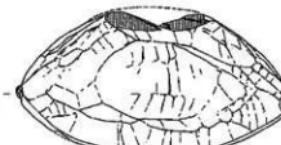
604



605



606



608 クスノキ



第85図・皿(2)

のはば完形品である。608もほぼ完形品で、不整形の浅い皿である。加工痕が全体に残っていて未成品と思われる。クスノキ製で全長22.8cm幅11.3cm高さ4cmである。

609は隅丸方形のやや深いケヤキ製の皿。四脚は側面から見ると、小口の立ち上がりにかけて三角形につけられていて、皿の底部も接地する。残存長26.9cm高さ4.5cmである。611・613・614は梢円形の皿の一部で、611の方が613に比べ立ち上がりが緩い。612は角をやや丸く作ったアカガシ亜属製のはば完形の皿で、全長26.7cm幅10.3cm高さ4.0cmである。615は隅丸方形の皿で、底部には20.2×10.5cm四方で高さ1mmほどの高台を持つ。全長32.6cm幅14.3cm高さ2.6cmである。616は長方形の皿で、側部は土圧により変形している。長さ34.6cm幅11.7cm高さ4.5cm。617は梢円形ないし隅丸方形の皿で、長軸に沿って半分に割れた破片である。

619はアカガシ亜属製の方形の浅い皿で、片側の側部を欠損している。全長27cm残存幅17.2cm高さ4.4cmである。620はクスノキ製の方形ないし長方形の底部に厚みがある皿で、外面や端部に水流穴ができるで表面の残りは悪い。全長28.7cm高さ7.6cmである。622はやや胴張りのする長方形の深皿の小口片で、外面は炭化している。624は断面三角形の高台を持つ皿の破片。

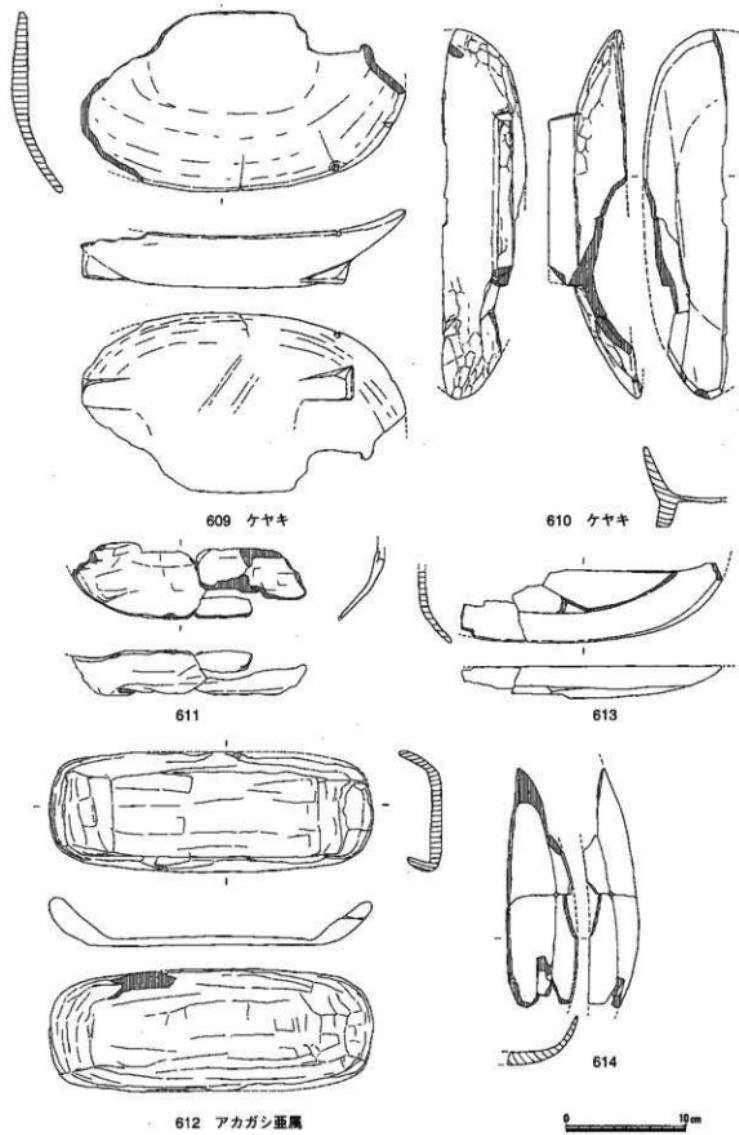
626～628は大形で浅い皿である。626はハルニレ製の円形の大皿で、直径約28cmの底部から斜めに立ち上がる。口縁部は肥厚せずほぼ水平である。直径48cm高さ3.5cmである。627は円形ないし隅丸方形の皿で、輪郭を取っただけのごく低い直径9cmの底部を持つ。628は直径2.5cm高さ1.3～1.5cmの円柱状の脚4つを持つ梢円形の大皿である。長軸方向に中央で割れたため、樹皮紐で縛縛して補修している。クスノキ属製で、残存長51.8cm幅35.2cm高さ7.4cmである。

629は赤彩紋を施した異形の皿。土圧により変形を受けているが、木の葉形の身の頂部に短い把手状の張り出しが付く。把手状の張り出しあは片方が残っているが、他方は付け根部分の痛みがあって張り出しがあったかどうかは断定できない。630がその可能性もある。片側の口縁に半円形の突起が2つ付く。外面には黒漆地に赤漆紋様を施すが、剥落が著しく詳細は不明である。ケヤキ属を使い残存長30.6cm幅15.3cmである。630は629の上に乗って出土した。赤漆と黒漆で直線紋を施していく、方形の透かし孔の端部で折損している。632は平面が木の葉形の皿で接合しない複数の破片から復原している。アカガシ亜属製である。

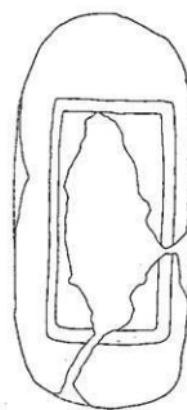
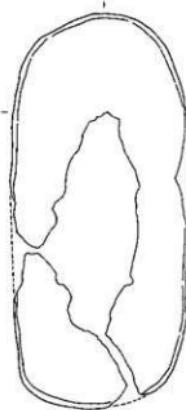
633は634のような脚付盤の脚台で、4本の脚を持つ。丁寧な加工を施した精巧品である。634は脚付盤で、脚を付け根から欠失しているが、細長い接地部の両端と中央からのびた3本の柱が身とつながる脚を2つ持つ。身は梢円形の浅い皿形である。サクラ属を用いていて残存長18.6cmである。635は平面梢円形で丸底気味のクスノキ製容器で、内面に加工痕が残っている。637はハリギリ製の長方形の皿で、継ぎれした1/2の破片である。舟形をしていて、短辺の立ち上がりは側面に対しやや緩やかである。丁寧な仕上げを施している。全長26.3cm高さ5.7cm。638は丁寧な加工を施した精製品の中央部の破片。精製の腰掛ともよく似ているが、復原長が26cmとなることから脚付の皿と考えられる。イヌガヤ製である。640は底部から側部にかけての小片で、ハリギリ製の細く浅い皿と思われる。642は幅の狭い舟形容器で、全長17.8cm幅4.5cm。643は小さい皿形であるが、心持ち材を使っていて、さじの身の破片の可能性もある。644はクスノキを使った舟形容器の一部で、部分的に樹皮が残っている。

647は四脚の付く方形の大形の皿で、四脚のうち2つが残っている。クワ属を使って丁寧に加工している。残存長35.6cm高さ8cm。648・650は大形槽の小口の破片である。651は短辺の立ち上がり傾

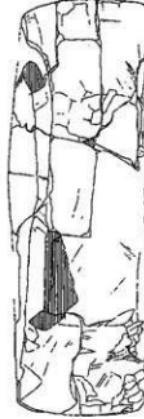
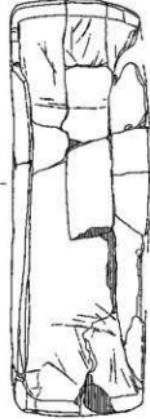
9. 食事具・容器



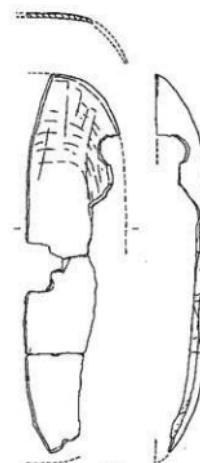
第86図 皿(3)



615



616



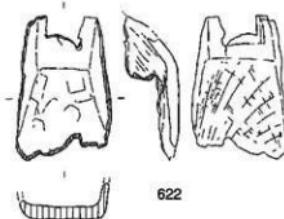
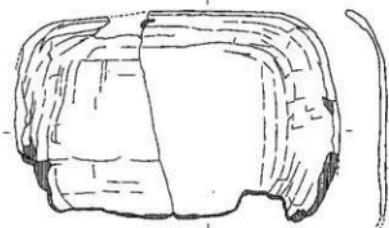
617



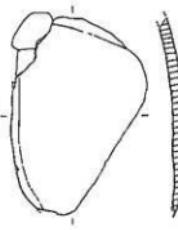
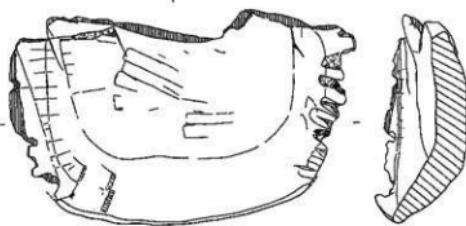
618



第87図 皿(4)



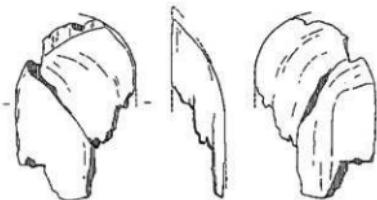
619 アカガシ亞属



623



620 クスノキ



621



624

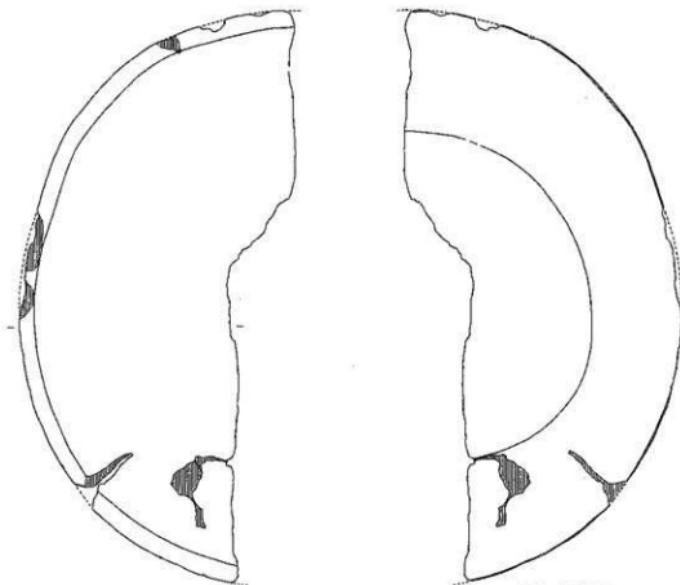


10mm

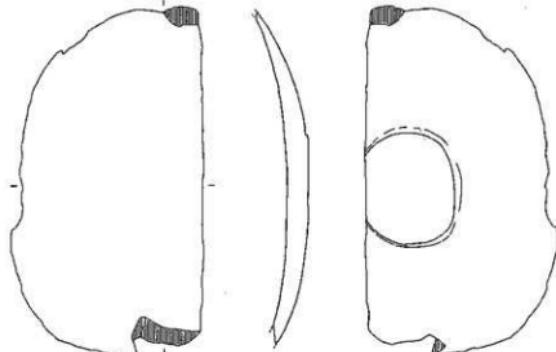


625

第88図 盆(5)



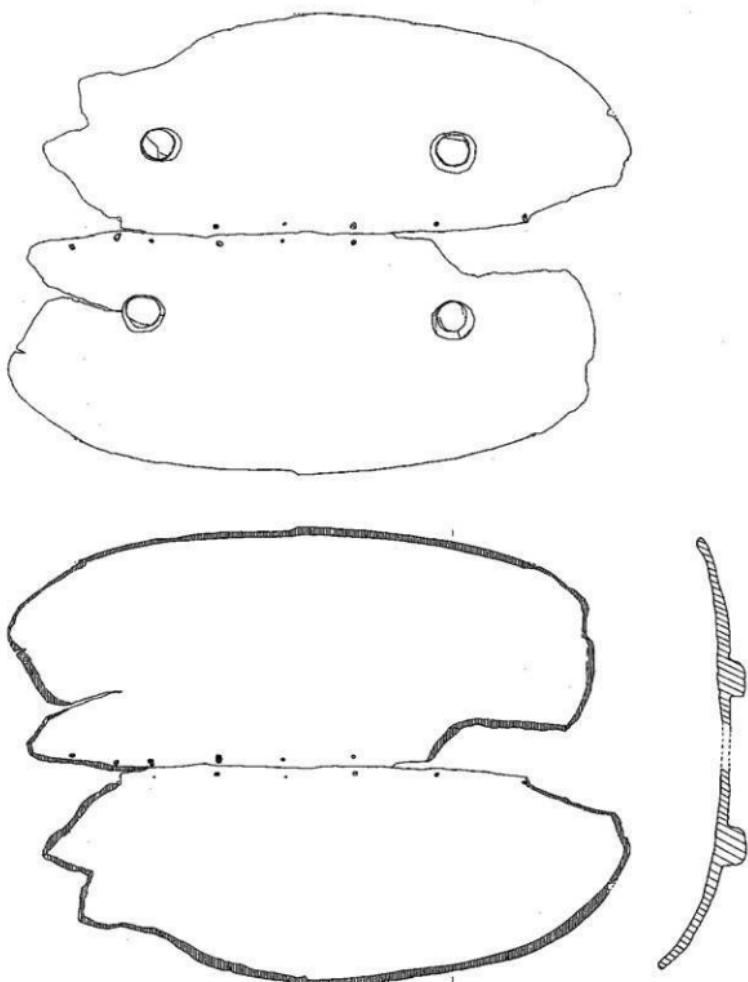
626 ハルニレ



627



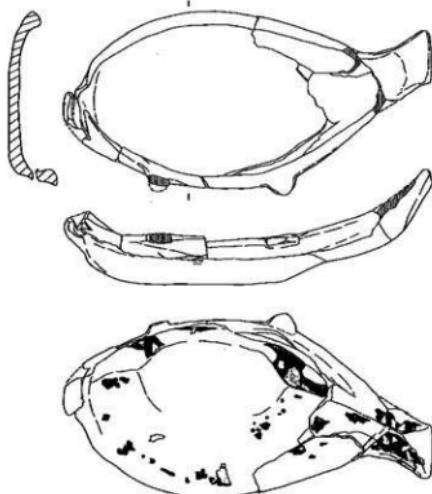
第89図 皿(6)



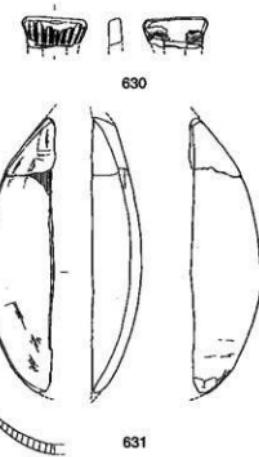
628 クスノキ属

0 10cm

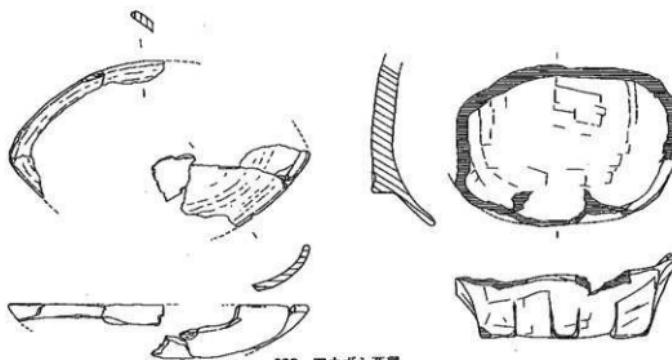
第90図 血(7)



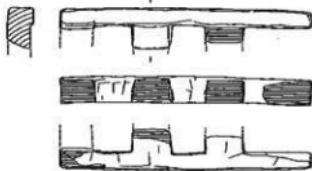
629 ケヤキ属



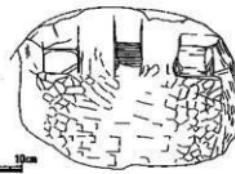
631



632 アカガシ亜属

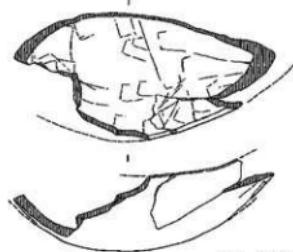


633

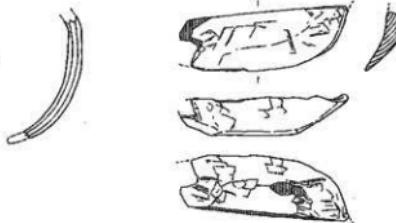


634 サクラ属

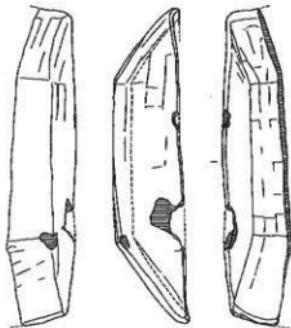
第91図 盆(8), 槽・盤(1)



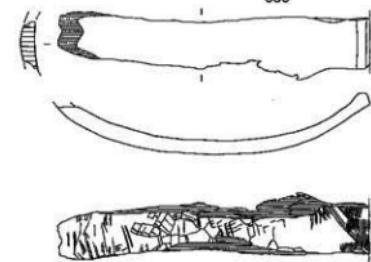
635 クスノキ



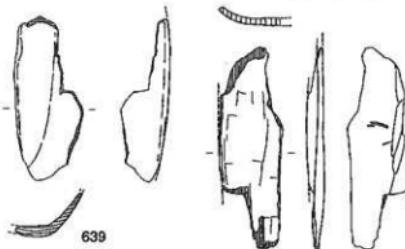
636



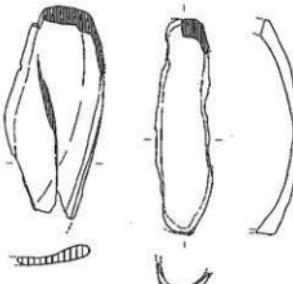
637 ハリギリ



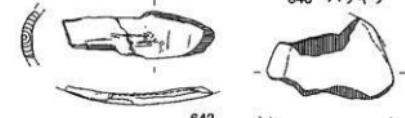
638 イヌガヤ



639



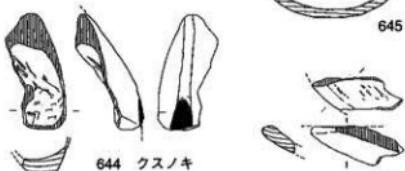
640 ハリギリ



641

0 10mm

642

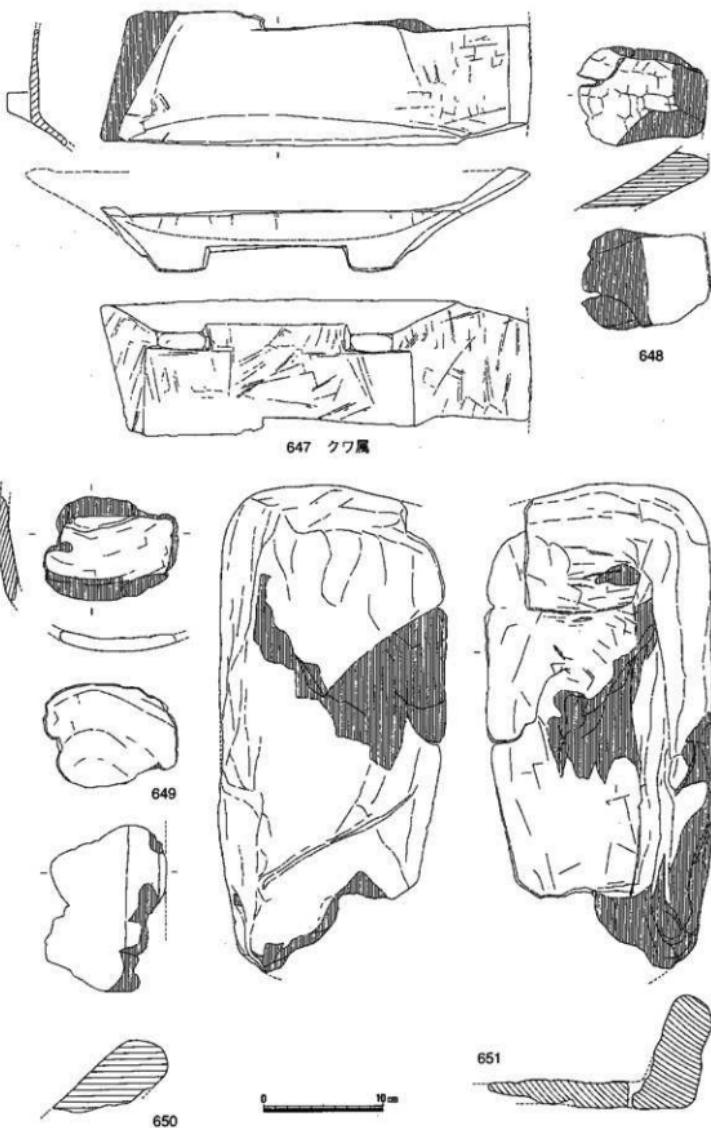


642 クスノキ

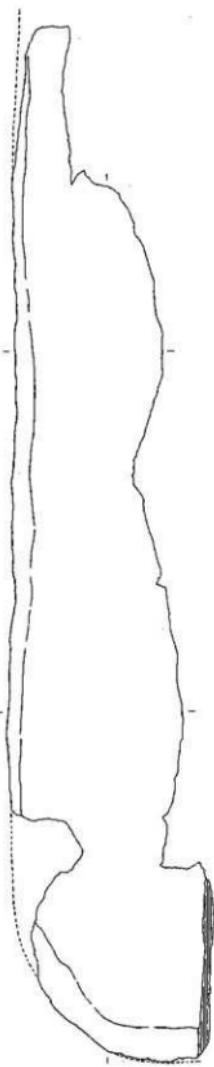
643



第92図 檜・杉(2)



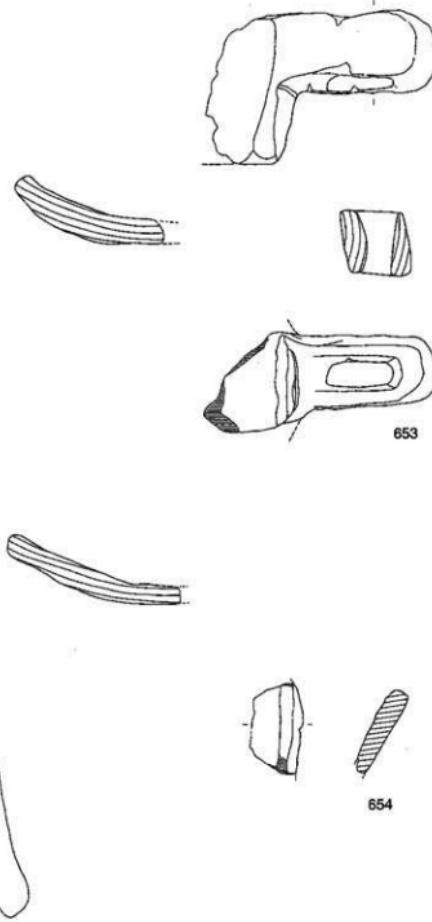
第93図 槽・盤(3)



652



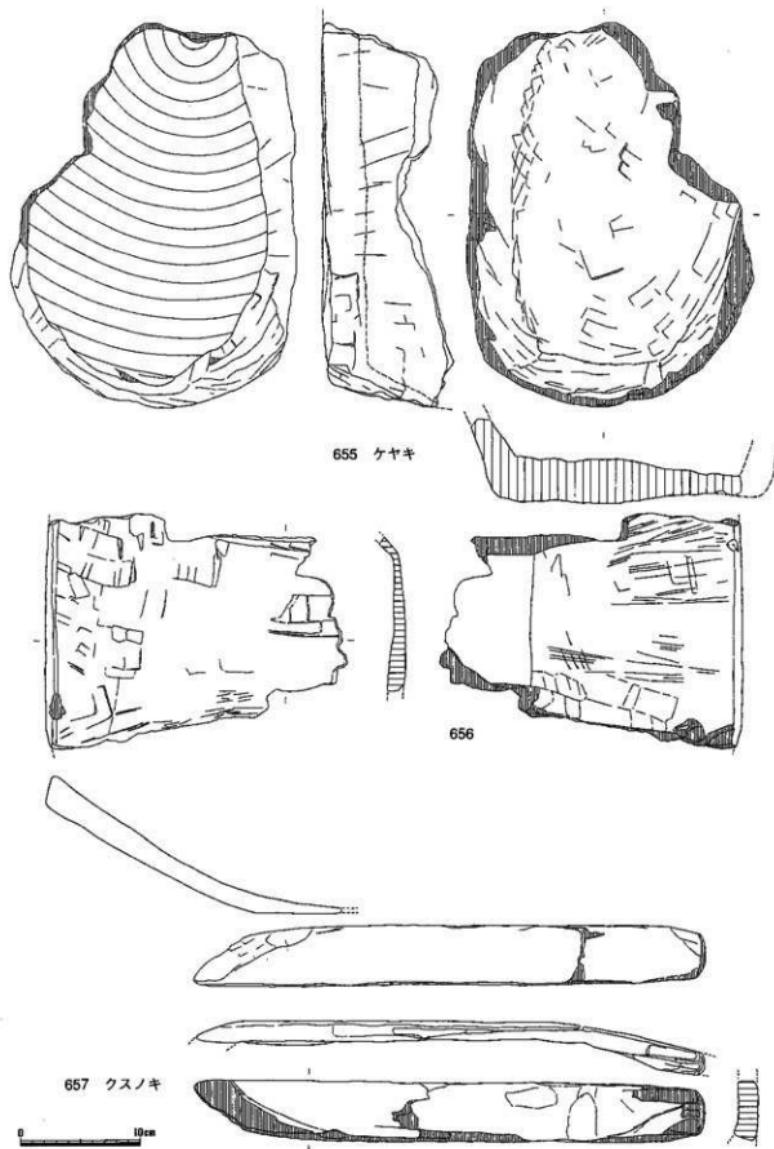
653



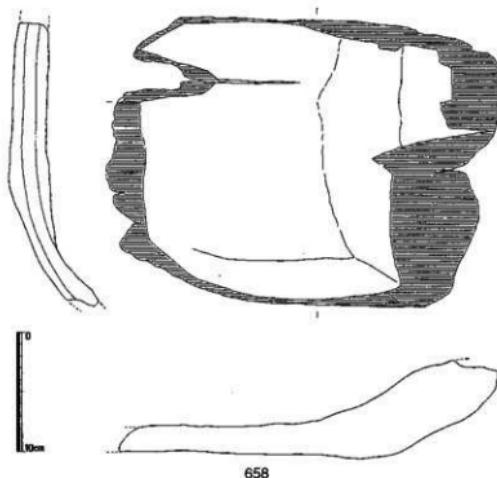
654

0 10mm

第94図 槽・盤(4)



第95図 槽・盤(5)



第96図 槽・盤(6)

斜のやや緩い長方形の盤で、残存長40cm高さ10.7cmである。652は大形槽の底部の破片で、残存長85.3cmである。653は大形槽の把手の部分で、側面に長さ $5.5 \times 2$ cmの方形孔がある。

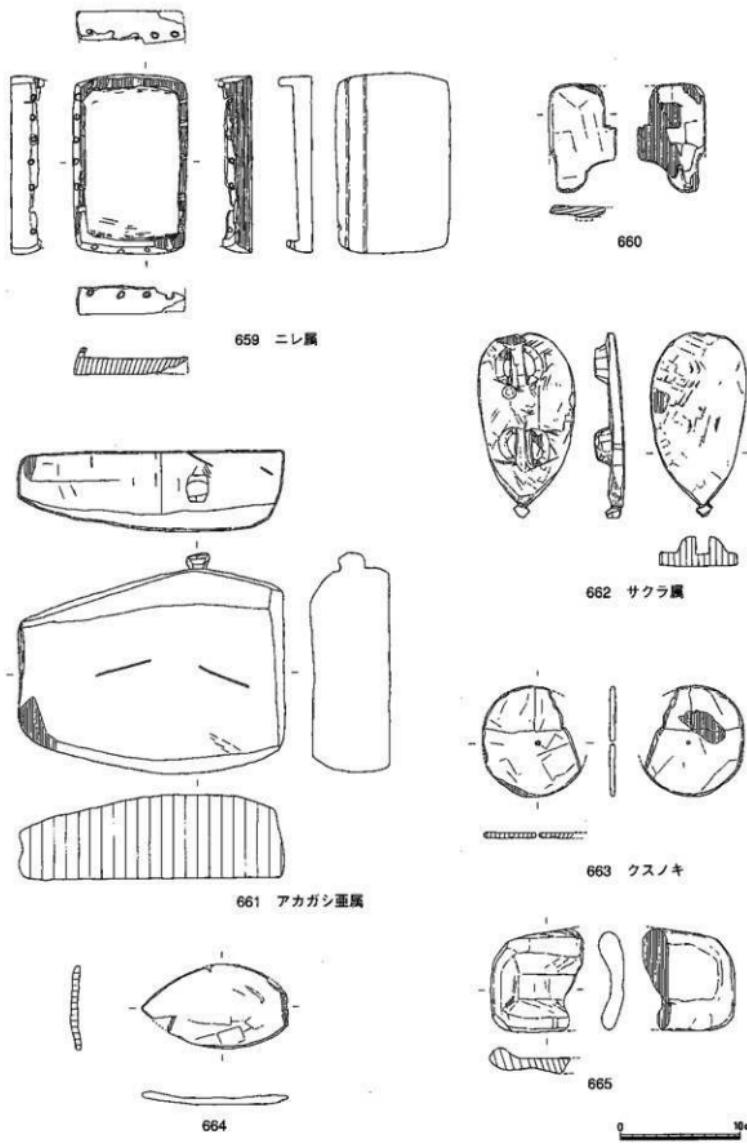
655はケヤキの心持ち材を使った盤で、外側面は大型の工具でバサバサと削っている。残存長31.8cm高さ10.9cm。656は大形槽の小口の破片で、丁寧に加工を施している。657は大形の皿の底部の破片で、クスノキを使っている。残存長42.5cm。658も盤の小口部分の破片で、全体に炭化がみられる。

#### 底・蓋・台ほか

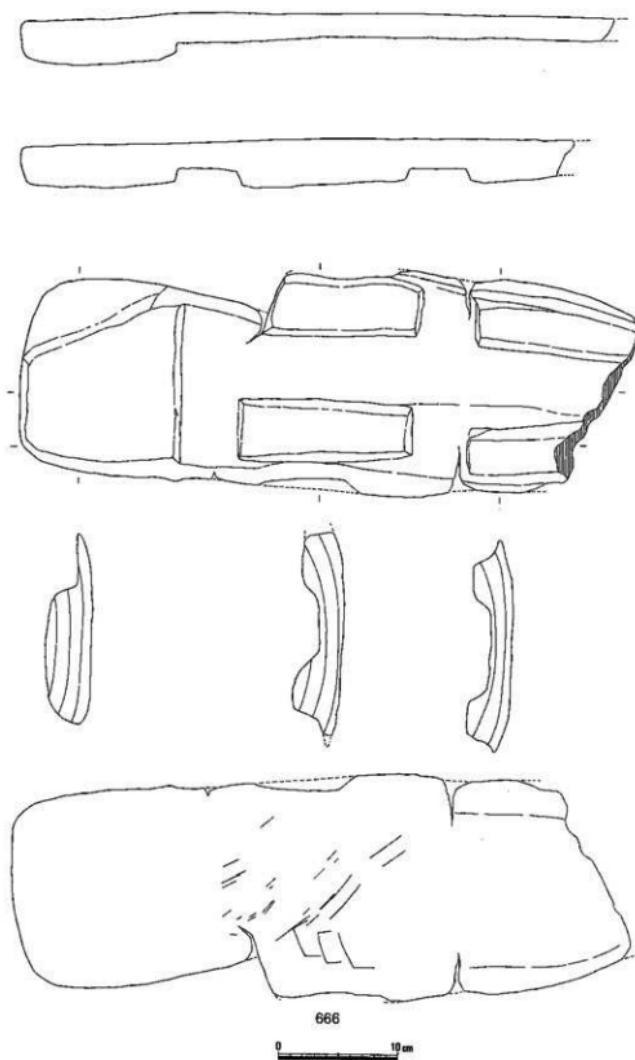
659はニレ属の柾目材を使った容器の底である。底部から1cmほどに立ち上がる体部には長辺で6～7個、短辺で4～5個の小孔をあけている。体部が編物となる容器の底部と見られる。全長14.8cm幅9.4cm高さ2.7cm。

660・662・666は台である。660は小片であるが、方形の低い脚を持つ。662は木の葉形の板の先端部に小さな算盤玉形の頭部をついている。底部には横円形の突起を中央で分割して2個1対とした四脚を持つ。サクラ属の柾目材を用いていて、全長15.4cm幅8cm高さ2.5cmである。666は大形の台で一端を欠損している。中央部に小口部分と同じ厚さで長方形の四脚を割りだしている。板目材を使っていて、残存長51.6cm幅18.7cm高さ3.8cm。

661は容器未成品かもしれない。横長の6角形の頭部に小突起がついている。アカガシ亜属の柾目材が用いられ、残存長18.4cm幅21.5cmである。663は直径9.2cm厚さ5mmの小さな蓋で中心に小孔がある、表裏とも薄く加工痕が残る。クスノキの柾目材製である。664は縦約子柄の木の葉形頭部に似るが、それにしては薄く、縦断面がわずかに湾曲するので、木葉状皿とみられる。長さ12.2cm幅6.9cm厚さ7mmである。665は長方形の浅い皿形容器の破片か？外形はそれほどでもないが、見込み部分では角をきちんと持たせている。見込み部分の幅が2cmと狭いうえ、側面の立ち上がりも緩く皿以外の可能性もある。



第97図 底・蓋ほか



第98圖 台

## 10. 楽器

楽器は、板作りの琴と槽作りの琴があわせて5点が出土している。いずれも琴板で、槽作りの琴の底板や側板は出土していない。ただし、後に述べる組合せ式箱の部材の中に琴の底板や側板が含まれていることも考えられる。

### 琴

琴は667・671が槽作りの琴、668～670が板作りの琴である。いずれも破片のため全形がわかるものがない。667で全長と復原幅が670で幅がわかる程度である。5点の内4点が截頭円錐形の弦かけ突起を作っていて、残り1点は方形の突起である。

667はほぼ中央で縱割れになっている。頭部側4cmのところに長さ1cm幅4mmの長軸に沿った槽円形の孔があり、集弦孔とみられる。これを元に復原すると、5弦で幅12cmの琴板に復原できる。尾部側の小口板を止めたとみられる釘孔が1つ、側板を止めたとみられる釘孔が3つあり、側板を止めた孔には木釘が残っている。表裏両面には加工痕が残る。針葉樹の板目材を使っていて、全長63.3cm残存幅6.9cm厚さ1.2cmである。

668はクスノキの柾目材製の琴板で、残存部分は長さ39.5cm幅6.4cm厚さ1.3cmである。669はアスナロ属の柾目材を使っていて、表裏両面とも加工痕は顕著に残っている。残存部分の長さ26cm幅5.1cmで、厚さは8mmである。671は残存幅が4.5cmあるが、突起が1つあるだけなので、他の4点に比べて弦かけ突起の間隔が広くとられているとみられる。側縁の短辺沿いに円孔が1つあって、表面には多数の刃物キズもみられる。アスナロ属の板目材が使われていて、長さ40.5cm厚さ1.5cmである。

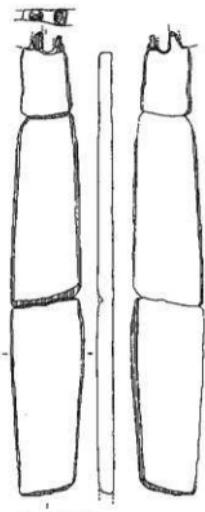
670は弦かけ突起を5つ持つ板作りの琴である。表面には5～6個を1単位とした小孔が列をなしで、1～1.5cmの列間をとって5列あけられている。破损部分にも小孔があるので少なくともこのようない小孔列群は2群あったとみられる。小孔列は左右のどちらかが尾部に近く斜めになっていたり、ほぼ均等な列間をとっていることからすると、通常のあり方とは異なるが、この小孔には琴柱が差し込まれたのではなかろうか。スギの柾目材製で長さ15.2cm幅9.4cm厚さ1cmである。



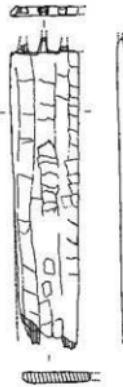
667



668 クスノキ



669 アスナロ属



671 アスナロ属



670 スギ



第99図 琴

## 11. 祭祀具

祭祀具には威儀具・陽物形などがある。676は三角柱状の頭部と考えられ、三角形を互い違いに配した装飾的彫刻がある。全体の形状は不明であるが、祭祀具の一部とみられる。

### 威儀具

握部を持っていて身に紋様を彫刻した木製品およびそれに形態的に類似する木製品を威儀具とする。

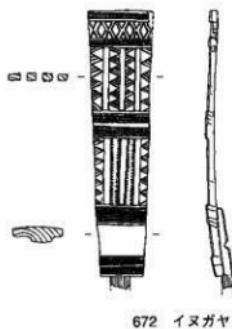
672はわずかに湾曲したイスガヤの板目板の外側に、幅の狭い帯状で横線と小さな三角形の刻みをいた部分(刻目紋様帶)と、それよりも一段彫り下げて透かし彫りをいた広い部分(透かし彫り紋様帶)とを交互に作り出している。刻目紋様帶の横線と三角形の刻みは対になっていて、基本的には文様帶の中央を境に三角形の頂点は上下を向くようになっている。透かし彫りは、上から三角形と菱形・長方形・長方形・なしとなっている。上段の長方形透かし彫りの棟にはいずれも鋸歯紋をいれている。下段では、中2本の棟に側縁に沿って三角形の刻みを、外2本の棟には鋸歯紋をいれている。一番下の透かし彫り紋様帶に透かし彫りがないのは、裏に柄の根元を作り出しているためである。上端面は削られているが、わずかに残った凹凸から三角形と菱形の透かし彫り紋様帶で折れたものを再加工していることがわかる。裏面上端には切れ込みが8箇所見られる。この切れ込みは糸をかけるためのもので、従ってこの木製品は弦楽器であるとも考えられた。しかし、三角形や長方形の透かし孔の部分にも付いているので、糸かけではなくむしろ透かし孔を彫る際に何らかの理由で付いたものと考えている。柄の根元には端部から3cmの部分に溝が切ってあって、あるいは別材の柄との結合強化を図るためにとも思われる。残存長23cm幅5.3cmである。

673・674は断面円形の握部を持つ。673の頭部は $2.5 \times 2\text{ cm}$ の方形で、上・下縁に綾衫紋と中央に内向きの三角形刻目を3面に施し、上端には3本の爪が付く。頭部と握部の中間部は側面を裏面側から表面側を5mm程度残して削りを入れている。握部下端にT字型の孔あり、房を垂らすためとみられる。イスガヤの柾目材を使った精巧品で、残存長29.3cmである。674は残存状態が悪いがイスガヤの心持ち材製で、握部の両端には斜めや格子の細線を施していて、下端には房垂らし用と思われる円形突起がつく。握部から上には棒状のものが付いているが頭部は欠損していて形状は不明である。675はイスガヤの心持ち材製で、身はやや内済し基部の中心をさけ外側に接してたちあがる。頭部はやや圭頭状で炭化している。茎は基部のほぼ中心であるがやや内側よりにつく。残存長23.7cm基部幅2.8cm。

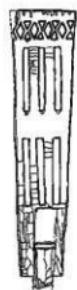
### 陽物形

陽物形は3点出土している。677は小形品で、中軸に孔が貫通しているが、樹心が腐朽により抜け落ちたとも考えられる。基部に削り込みが1周する。加工痕が顕著で、一部には刃先の食い込みや基部では刃こぼれ痕もある。イイギリ属の心持ち材製で、全長8.6cm直径2.9cm。678はクスノキ属の柾目材製で、基部にも段をもち下端ははがれたように見える。転用品の可能性もある。長さ16.6cm直径1.7cm。679はほぼ完形品で、やや扁平で前面觀を重視した表現である。677・678と異なり基部を作らない。柾目材を用いていて、全長11.3cm幅4.8cm厚さ2.3cmである。

11. 祭祀具



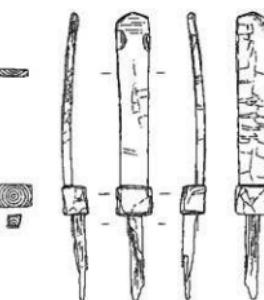
672 イヌガヤ



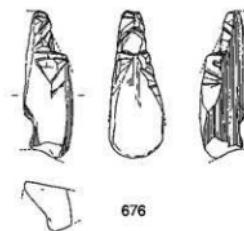
673 イヌガヤ



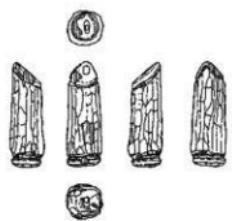
674 イヌガヤ



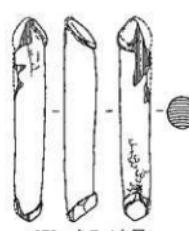
675 イヌガヤ



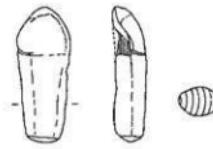
676



677 イイギリ属



678 クスノキ属



679

0 10cm

第100図 祭祀具

## 12. 雜具

雜具には箱・腰掛け・机・ハケ状木製品・ヘラ状木製品・叩き板状木製品・発火具・把手・すくい具・自在鉤・鉤状木製品・竿受け・器具部材がある。

### 箱

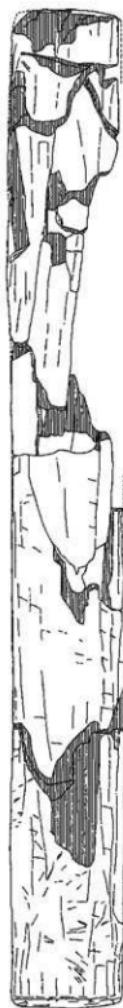
箱には丸底の削抜式の箱と板材を組み合わせた組合せ式の箱がある。

削抜式箱は心持ち材の上面を削って平坦にし、片方の小口から差し入れた蓋を受けるために他方の小口に段を作ったり、内側面上端に蓋の側縁が通る蓋溝を作ったりしているものと、両小口上端面を削り落とすものがある。これに伴う蓋は挿入蓋とあわせ蓋が用いられたとみられる。削抜式箱のすべてが樹種同定されているわけではないので確かなことはいえないが、オニグルミの中広形を除くと、広葉樹製の箱には蓋溝が切られておらず、針葉樹製には蓋溝がもうけられているので、広葉樹・針葉樹で作り分けがなされていた可能性もある。大きさでは小形・中細形・中広形・大形の4者がある。樹種はマキ属・イヌマキ・イスガヤ属・タブノキ・オニグルミ・サカキなどが用いられているが、あとでも述べるようにサカキ製の小形箱は舟形容器の未成品の可能性もある。

差込式の蓋は、これまでの木の組合せ方法と異なり、組合せのための移動距離が長くなっているため、組合せ部の密着度を高めようとすると、加工のより高い達成度が求められることになる。合がんな出現以前にあって、加工精度の高さを内在的に指向する木をスライドさせて組み合わせるという方法は、指物を生み出すもの一つであったと考えられる。

組合せ式の箱では底板・側板・小口板があって、天板は出土していない。底板には側板・小口板を組み合わせる溝が、側板には小口板を組み合わせる溝が彫ってあって、それぞれを木釘で留めている。組合せ式の箱と一括したが、この中には槽作りの琴の部材が含まれる可能性もある。各部材組合せがわかる状況で出土した青谷上寺地遺跡の琴で見ると、底板は小口板を受ける溝を付けてはいるが、側板用の溝は彫られていない。699は同様に作られているので、これは槽作りの琴の底板の可能性がある。

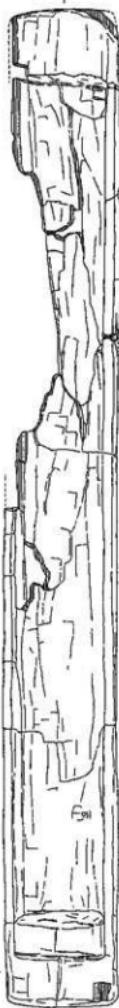
680～694は削抜式の箱である。680は大形の箱で側内面の蓋溝は持たない。タブノキの心持ち材で全長83.1cm幅9.5cm高さ5.4cmである。681は大形箱の小口部分の小片である。683は唯一出土した削抜式箱の蓋で、短辺の片方に $2.5 \times 2.8\text{cm}$ の方形のつまみをつける。両側縁は上面から斜めに厚さを減じている。カヤ属の板目材で、全長38cm幅9cm厚さ1.5cm。684は中細形箱のほぼ完成品で、内側面上端には蓋溝がある。内底面には加工痕が顕著に残っている。マキ属の心持ち材を使っていて全長42.5cm幅11.4cm高さ7.3cmである。685は大形箱の長辺口縁部の破片で、直接接合はしないが同一個体と見られる。内面に蓋の側縁が通る溝がある。686は全長60.2cm幅8.85cm高さ7.6cmの大形箱で、土圧により横に変形している。蓋溝は無い。687も大形箱の底部の破片で、片側には小口溝が残る。削抜式で小口溝を持つのはこの箱だけである。本来、削抜式であれば小口板を別材で作る必要はないので、破損した箱を短く切って小口を付け直したものと見られる。裏面には加工痕が顕著である。イヌマキ製で、残存長59.7cmである。688は小形の箱で、両小口は四方から凸型に削り落としている。小口上面は双方とも解放しており、蓋はあわせ蓋と考えられる。全長14.3cm幅6.4cm高さ4.5cmである。



680 タブノキ



681

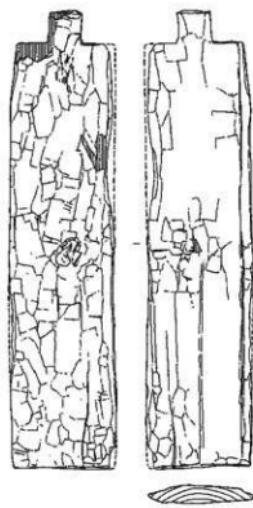


682

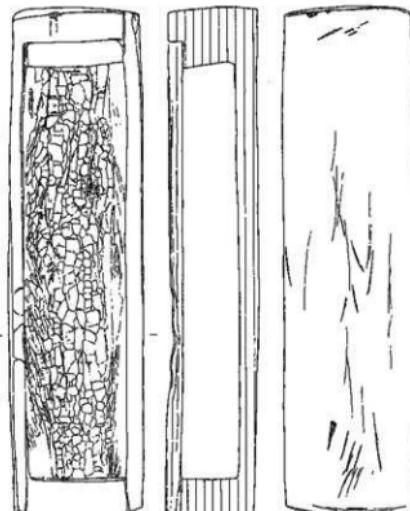


0 10 cm

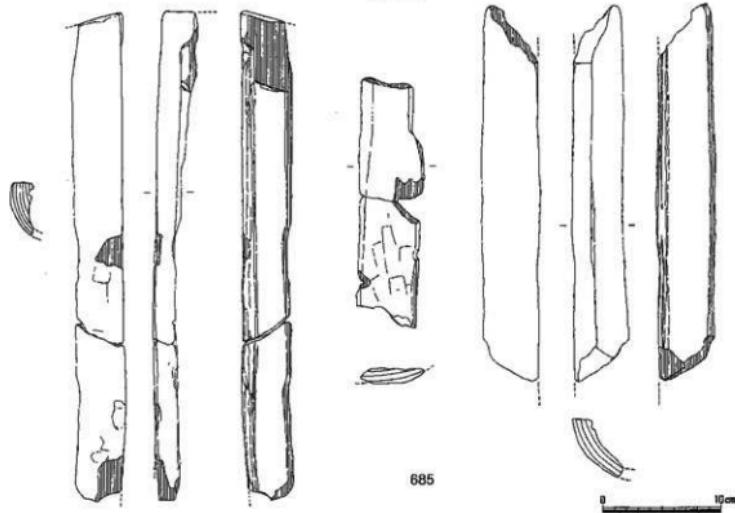
第101図 箱(1)



683 カヤ属



684 マキ属

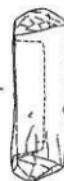


第102図 箱(2)



686

687 イスマキ



688

0 10cm

第103図 箱(3)

689はオニグルミ製で全長49.8cm幅26.5cmの中広形の箱で、蓋溝が内側面にある。土圧による変形が著しい。691は小形の箱で、内側面上端には蓋溝がある。一方の小口内底面に段が残っていて未成品と見られ、内外面の加工痕は顕著に残っている。イヌガヤ属の心持ち材で全長14.5cm幅6.2cm高さ4.9cmである。693・694は小形の未成品である。693は上面を切り落とした状態で内例りは始めておらず、両小口も切り落としたままである。心持ち材を使っていて、全長15.9cm幅5.4cm高さ4.2cmである。694は底部の小口側を削っていて舟形容器の未成品の可能性もある。全長18.7cm幅6.2cm高さ3.5cmでサカキの半裁材を加工している。

695～704は組合せ式箱である。695は箱の側板で、木釘孔が残っていて小口板とは2本で底板とは3本で留める。小口板と組合せ部分は溝を彫っていないくて少しあたりをつけた程度である。天板とは中央付近の2孔で紐止めしたとみられる。モミ属の板目材で、全長38.4cm幅9.5cm厚さ1.5cmである。696はモミ属の板目材製の底板で、幅約1cm深さ5mmで小口板・側板を装着する溝を彫っており、小口板と側板との組合せは小口板を側板が挟む型式である。小口板は木釘2本で側板は3本で止める。木釘孔には1つを除き木釘が残っていて、全長38.9cm幅10.9cm厚さ1.5cmである。697は全長8.3cm幅8.7cm厚さ1.2cmの板目材製の小口板で、2短辺と1長辺にそれぞれ釘孔が2つある。698も小口板とみていたが、他の箱の組合せ方とは異なるので箱以外のもの可能性もある。各辺の中央付近と1つの角に円孔を持つ。モミ属の板目材で、長さ7.6cm幅7.9cm厚さ1cmである。

699は箱底板の完形品で、両小口に小口板を押す溝がある。小口板・側板結合のための木釘孔が残る。小口板を側板が挟む型式で、先述のように琴の底板の可能性もある。両面とも加工痕が顕著で、ヒノキ属の板目材が用いられ、全長42.8cm幅13.7cm厚さ1.4cmである。700は針葉樹の板目材製の側板で、両小口から2.5cmの所に小口板をあわせるための溝をもうけている。底板との結合には約2cmの間隔を持った2対の木釘孔が5組、小口板には溝中央に1つ釘孔が見られる。内外面には細かな加工痕が残っていて全長31.6cm幅6.2cm厚さ8mmである。701は底板で木釘が3つ残存している。702も側板で小口部分に端部まで通らない溝がある。長端面には木釘が3つ残存している。703も箱の側板と思われるが、円孔や小口溝の反対面にも小さな溝状加工を施すなど他の側板とは加工が異なっているので、別の部材の可能性もある。円孔のある長辺に木釘が2つ残っていて、元々2枚あわせかあるいは補修かとみられる。704も側板で、内外面とともに黒漆塗りがされている。塗りのない長端面には木釘のあとがある。

#### 腰掛け

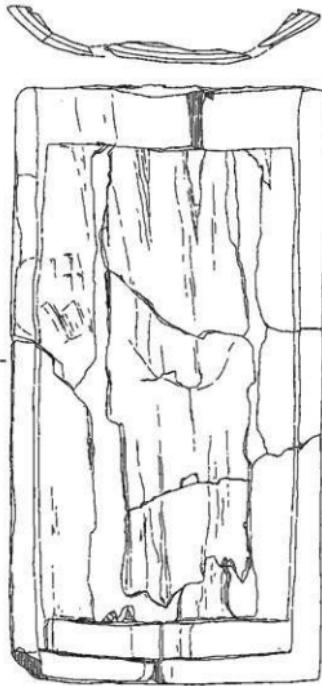
一本式の腰掛けが2点出土している。いずれも半裁材を使い、座板を樹皮側にして木取りを行っている。脚はともに座板の縁から内に引いて作り出している。705は方形の平板な座板を持つ腰掛けの縦割れした破片で、小口側の一端も欠く。残存長27.1cm幅11.8cm高さ9.5cmである。706は1/2に縦割れした腰掛けで、梢円形の座板の中央をくぼませている。脚は長さ23cmで一端に直径1.2cmの円孔を持つ。残存長31.6cm幅11cm高さ7cmである。

709は組合せ式の腰掛けの破片で、小口から8cmまでは裏面を削って段を作っている。ほぞ孔部分で切断しているとみられる。残存長15.7cm幅12.7cm厚さ2.2cmである。

#### 机

707・708は机の天板とみられる。脚は出土していない。707は復原長85cmの机の天板で、両端の裏面を段状加工した内側に内傾した方形孔がある。丁寧な作りで、表裏とも加工痕が残る。一端は

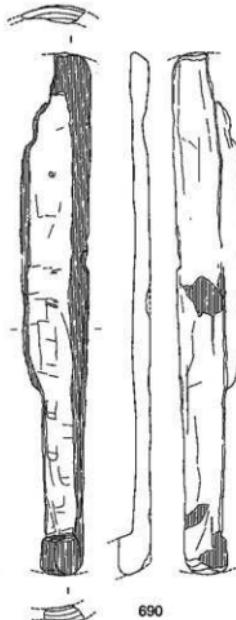
12. 錆具



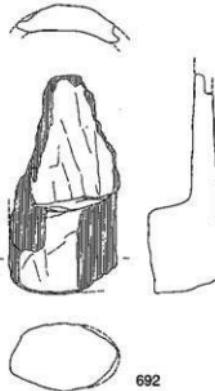
689 オニグルミ



690



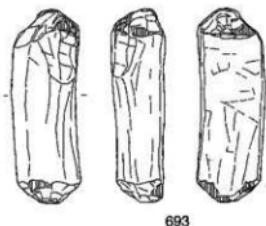
691 イヌガヤ属



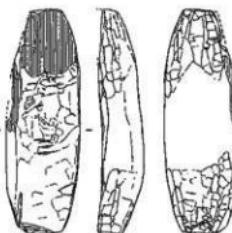
692

0 10cm

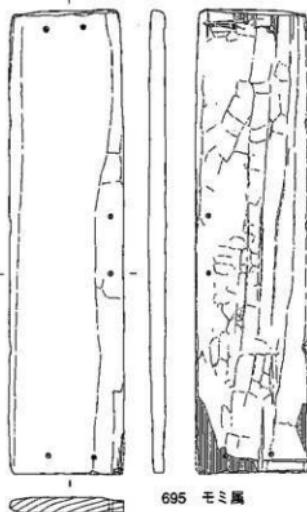
第104図 箱(4)



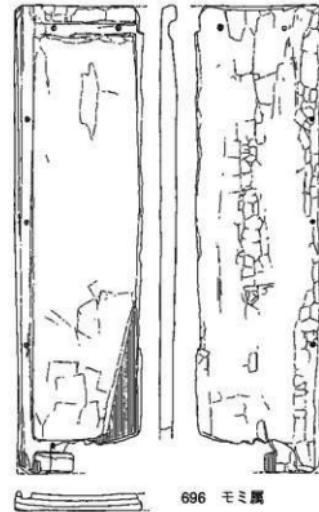
693



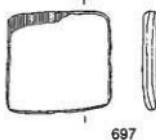
694 サカキ



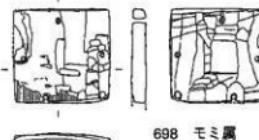
695 モミ属



696 モミ属



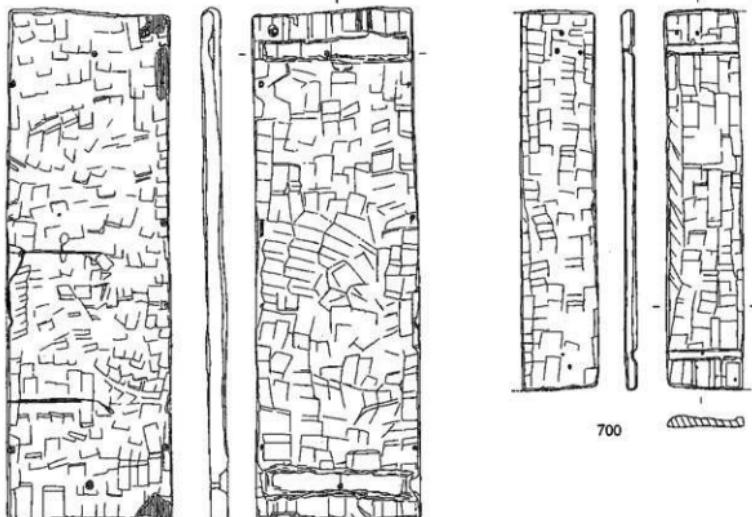
697



698 モミ属

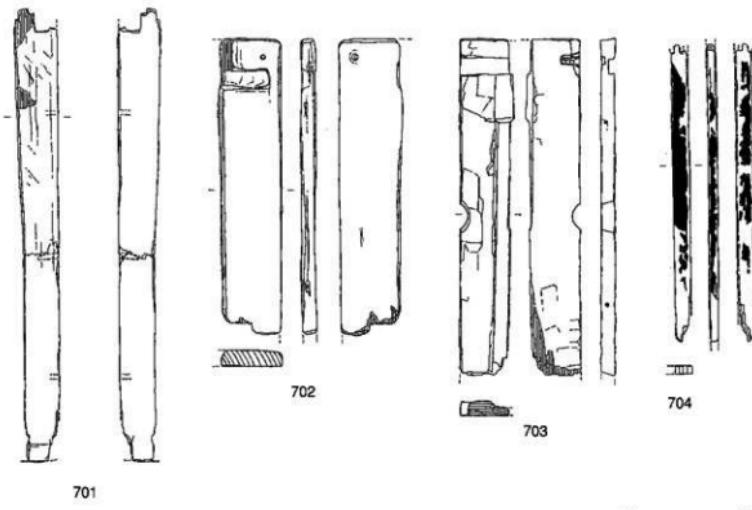
第105図 箱(5)

12. 雜具



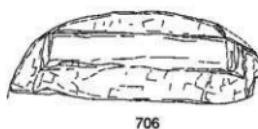
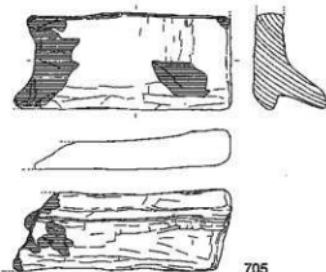
699 ヒノキ属

700

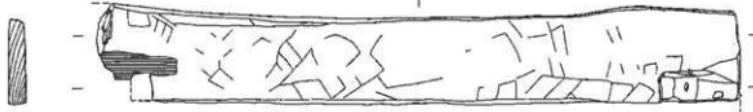


701

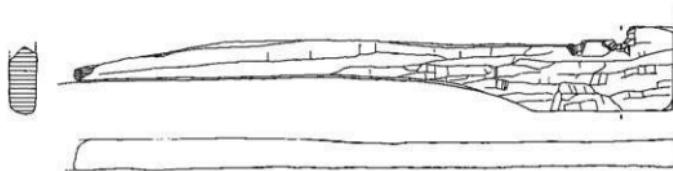
第106図 箱(6)



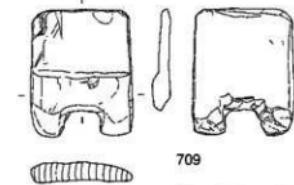
706



707



708



709



第107図 腰掛け・机

切断されている。板目材を用いていて残存長80cm幅11.9cm厚さ5.3cmである。雀居遺跡出土の雄組合せ式大型机では、段状加工の部分で外枠(棟)どうしが組み合い、この部分に彫られたはぞ孔に脚が挿入される。707では段状加工部分にははぞ孔を作っていないので、この加工は組合せのためではなく、意匠的なものと思われる。708は一端を欠くが、長さ74.9cm幅10.4cm厚さ約4cmの広葉樹の柾目板を、側面中央から弧状に削っている。小口部分には長軸に沿って方形孔を2つあけ、小口面を特に丁寧に加工している。

#### ハケ状木製品・ヘラ状木製品

710~712・719・721は方形の身に柄が付くハケ状木製品で、713~718・720・722~726はヘラ状木製品である。710は柄の中ほどを欠失しているが、直径1cmの軸に5.4×2.7cmで厚さ5mmの方形の頭部がつく。柾目材を使っていて残存長30.3cm身の幅2.7cmである。711は2.5×1.8cmの楕円形の柄に8×4.7cmの方形状の身がつく。板目材が用いられ、残存長21.3cm身の幅2.8cm厚さ1.9cmである。712は幅2.3cm厚さ9mmの断面方形の柄に8×3.5cmの方形の身がつく。コウヤマキの柾目材を使い残存長25.6cm身の幅3.5cm厚さ1cmである。719は身が断面長方形で柄は扁平な円形を呈する。明晰な肩を持たず緩やかに幅を減じて柄となる。板目材で、残存長14.2cm身の幅2.9cm厚さ7mmである。721は身の先端を丸くして裏から薄く削っている。長さ8.6cm身の幅3.5cm厚さ8mmである。

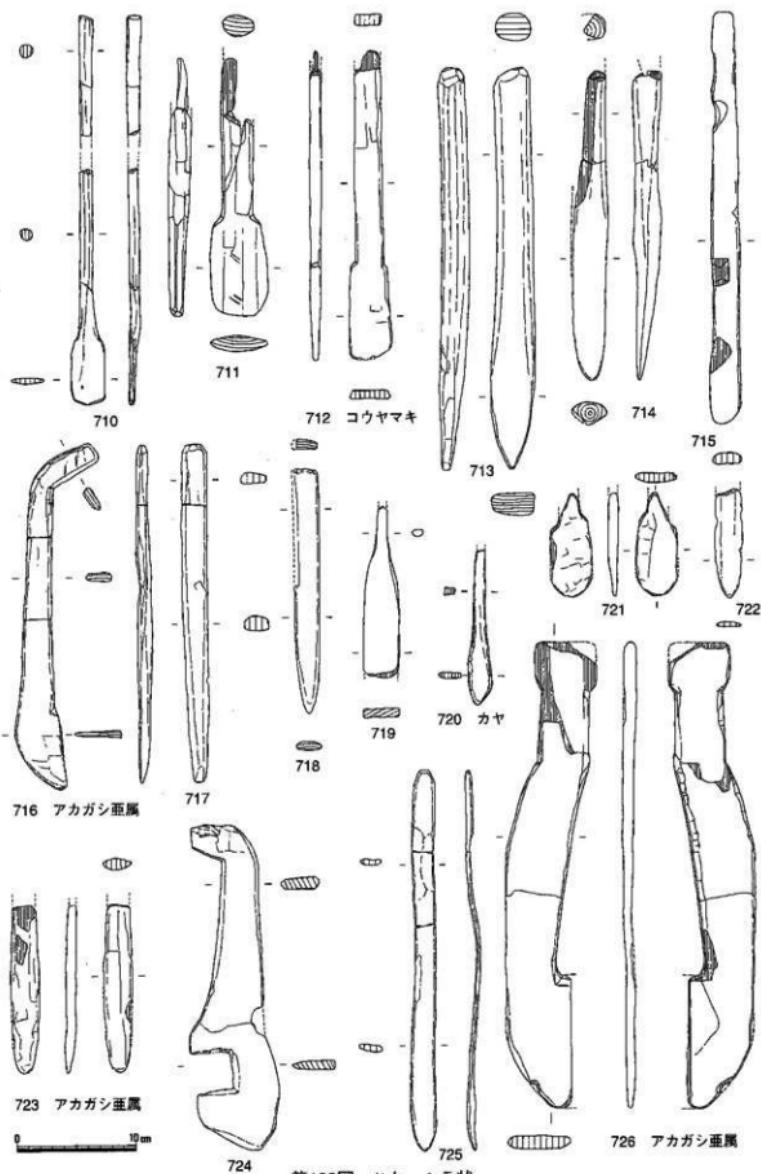
ヘラ状木製品には身が両刃形・片刃形・直線刃形の3者がある。713は両刃形のヘラ状木製品の完形品で、先端は両面から削って薄くしているが側部には面が残っている。全長33.3cm幅3.7cm厚さ2.2cmで柾目材を使っている。714は両刃形で、身がやや長くわずかに湾曲させている。心持ち材を使い、残存長25.5cm身の幅2.7cm厚さ1.8cmである。715は柾目材を使った直線形で、残存長39.2cmと長く幅1.5cm厚さ1cmである。716はアカガシ亜属の片刃形の完形品である。外湾する刃部を持ち、基部は鉤状に曲げている。全長28.6cm幅4cm厚さ5mmである。717は直線刃形で全長28.1cmの完形品で、刃部は片面から薄くしている。幅2.1cm厚さ1.3cmで柾目材を用いている。718は先端が両側から均等に狭まってとがり、竹べらの形によく似ている。板目材を使い全長20.3cm幅2cm厚さ6mmである。

720は小形の片刃形で、刃部はやや鈍く両刃にしている。カヤの柾目材を使い残存長12.9cm身の幅2.7cm厚さ1.2cmである。722は両刃形の先端部の破片で、723も先端が丸いが両刃形アカガシ亜属の柾目材を使う。724は片刃形で、716とは対的に基部先端を内側に突出させる。身部中央の刃部側に3cm角の欠込がある。ややとがった刃部先端は使用のよると見られる摩滅がある。柾目材で全長27.1cm幅7.4cm厚さ1cmである。725は全長31.6cmと細長い両刃形の完形品で、先端は両側と裏面からとがらせ、基部は両側から幅を狭めながら面を持たせている。柾目材で幅2.6cm厚さ5mmである。726は片刃形であるが、スリットのある曲柄平鍬の転用再加工品ともみられる。アカガシ亜属の柾目材を使い、全長38.7cm厚さ1cmである。なお、後述する第189図1225も刃部側面がやや内湾する直線刃形のヘラ状木製品である。

#### 叩き板状木製品

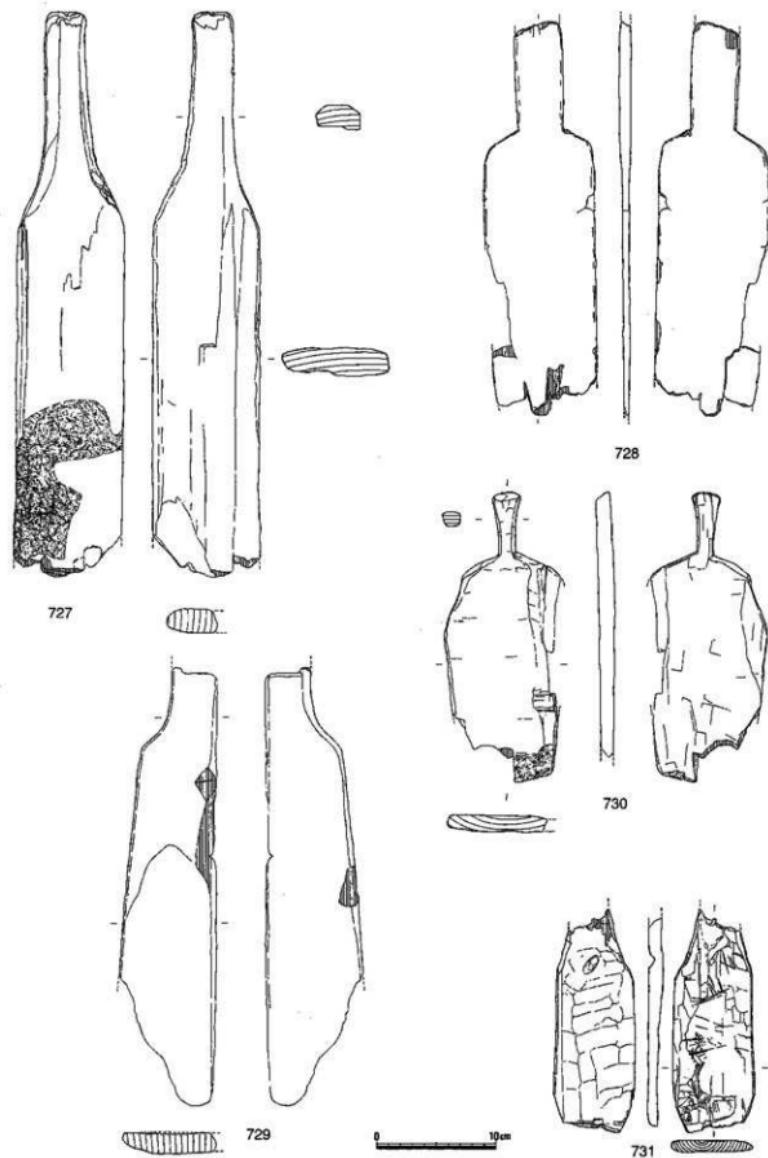
727~734は羽子板に形状が似た叩き板状の木製品である。形態・大きさとも様々で、必ずしも土器製作に用いられたとは限らない。

727は残存長46.7cm身の幅9cm厚さ2.4cmで、一部に炭化がみられる。板目材を使っている。728は柾目材を使い残存長48.7cm身の幅13.8cm厚さ1.5cmで、把手の付け根がやや細くなっている。729は縦割れしているが、身が広いタイプ。730は楕円形の身に、付け根の細くなった短い把手が付く。一

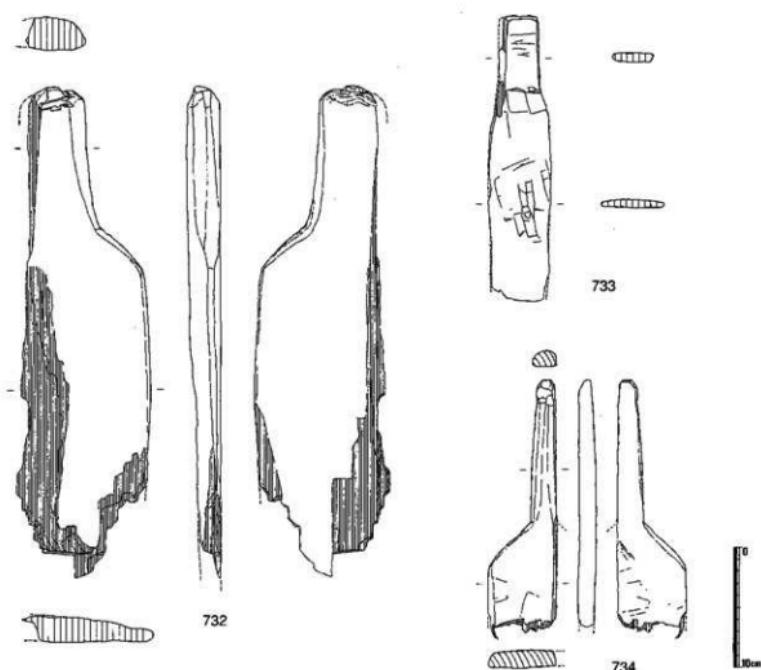


第108図 ハケ・ヘラ状

12. 雜具



第109図 印き板状 (1)



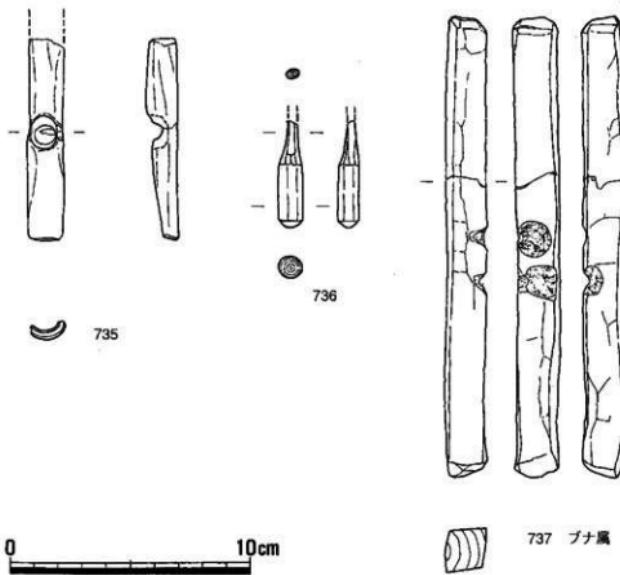
第110図 叩き板状(2)

部炭化した部分がある。板目材を用いて残存長24.1cm幅9.7cm厚さ1.4cmである。731は身の破片で、先端には切れ目を入れ折り取ったような痕跡がある。板目材で、加工痕が明瞭に残っている。残存長18.4cm幅6.8cm厚さ1.2cm。732は縦割れした右1/4の破片で、柾目材を使っている。身は側部に向か薄く加工している。残存長40.6cm幅11.2cm厚さ2.7cm。734は縦割れした左1/4の破片。把手端部に頭部を作る。残存長21cm幅5.7cm厚さ1.5cmで柾目材を用いている。

#### 火きり臼・火きり杵

発火具は火きり臼(735・737)と火きり杵(736)が出土している。2点出土した火きり臼はどちらも火きり穴が1ないし2箇所で木片の両側に及んでいて、V字形の刻みは施されていない。小形の携帯用とみられる。

735は火きり穴を中央に1つのみ持つ。心持ち材を使っていて、残存長8.2cm幅1.5cm厚さ1.3cmである。737は長さ18.8cm幅1.7cmの四角い棒材を利用し、火きり穴を2箇所持つ。ブナ属の柾目材で全長18.8cm幅1.6cm厚さ1.7cmである。



第111図 火きり臼・杵

736は摩擦部の直径1cmで軸部が細くなっていることから、雇い柄に装着して用いると考えられる。摩擦部が炭化している。心持ち材を使い残存長4.4cmある。

#### 把手

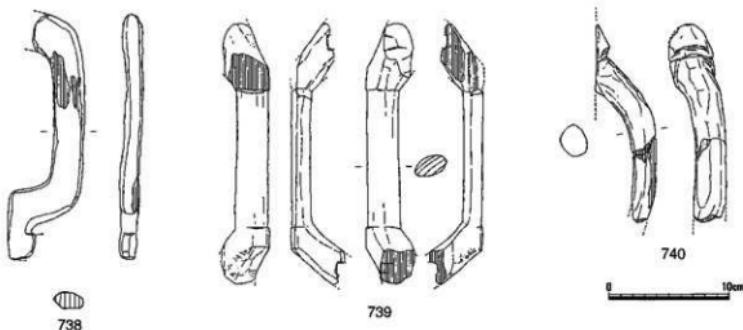
把手は3点出土しているが、何にとりつけられた把手かはわからない。

738はコの字状の把手で、一方の基部を欠くが残存していて基部には紐かけを作る。板目材を使っていて、残存長22cmである。739は基部の両方ともが本体との紐緊縛用の方形孔部分で折損している。握部と基部の角度は鈍角に開いたコの字形である。柾目材を用いていて全長21.5cmである。740は握部が孤状になる把手で、基部には紐かけがある。残存長15.4cmである。

#### すくい具

ちりとり形の木製品をすくい具<sub>（）</sub>として掲げる。舟の底にたまつた水をくみ出すアカトリと称されることが多いが、深さのあるものは良しとしても、浅いものや側部を持たないものまでもアカトリと言うのは無理があろうし<sub>（）</sub>、身幅の狭いもの以外はきっちりとした平底の舟が前提となろう。アカトリとの区別を決める基準が定まるまではすくい具と総称しておきたい。樹種は判明しているものではクスノキないしクスノキ属である。

741は大形で深みのあるすくい具の未成品とみられる。横断面楕円形、縦断面逆台形で広い小口面に $7.5 \times 5 \times 5$ cmの突起がつく。全体に加工痕は顕著であるが、表面の劣化により観察しにくくなっ



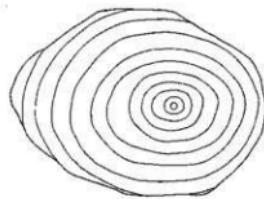
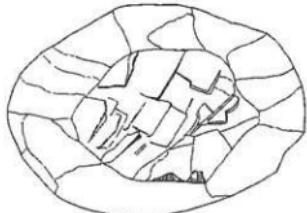
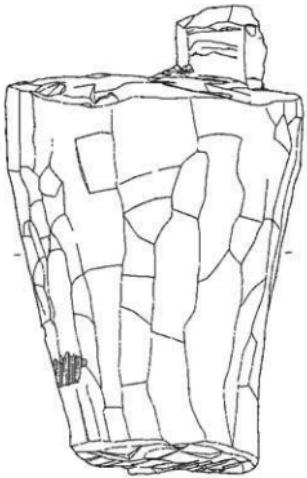
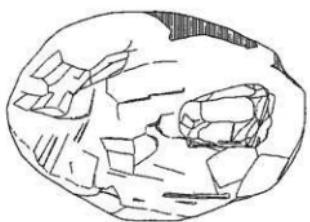
第112図 把手

ている。心持ち材を使い、全長39cm幅24.8cm厚さ16.4cmである。742は前端部の小片で、前内側面に加工痕が顯著に残っている。743は身の半分および把手を欠き、残り具合はあまり良くない。クスノキの横木取りで残存長17.5cm幅9.8cm高さ2.6cmである。744・745はほぼ同じ段階の未完成品であるが、745には先端に切断痕が残っていて、744の方がより加工が進んでいる。744は外形の粗成形段階。内削りは始めていない。幅4～5cmの加工痕が残る。柾目材を加工していく全長35.3cm幅13.9cm高さ5.8cmである。745はおよそ外形を成形した段階の完成品で柾目材を使い、全長28.8cm幅13.5cm厚さ6.2cmである。

746は前端面上部に方形孔がある。組合せ式の把手をこの孔に差し込むか、あるいはこのまま親指を入れて使用するとみられる。クスノキ製で全長28.5cm幅20.9cm高さ5cmである。747はクワ属の柾目材製の完成品で、高さ2.7cmと身に深さがないので、舟のアカトリではなく固体のすくい具と考えられる。表裏面とも加工痕が細かく残っている。全長28.5cm幅16.4cmである。748は把手を持たない。柾目材が用いられていて全長16cm幅12.3cm高さ5cmである。749は身の基部から把手にかけての破片で、把手端部を大きく円盤状に肥厚させてグリップエンドとしている。身の内法幅が4cmと狭い割りに深さが4.5cmあり、身の中央ではさらに深くなると思われる。アカトリの可能性もある。クスノキ属材の横木取りで残存長16.5cm幅7cm高さ6.6cmである。750は左側部の破片で把手を欠く。長さ13.3cm幅5.7cm高さ1cmで縦木取りである。

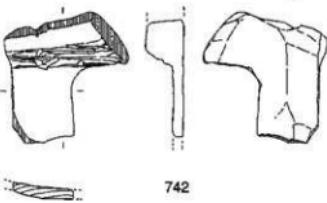
751は側刃のない方形の身に、身の幅から徐々に細くなる把手が付く。ほぼ完成品で身の先端に炭化が見られる。縦木取りで全長31.9cm身の幅13cm高さ1.5cmである。752はちりとり形の小形の完成品である。身は先でやや広がる台形状で深さは基部部分で2.7cmと浅く、長さ3.8cm幅3cmの小さな把手が底部から取り付く。クスノキ属材の縦木取りで全長20.5cm幅11.8cm高さ3.8cmである。753は身の縦半分の破片で、把手を欠き、側刃を持たない。縦木取りで残存長23cm高さ6cmである。754は前面と把手の破片でクスノキ材の縦木取りで残存長13.9cm幅14.8cm高さ5.2cmである。755は小形品で先端が炭化し、側部を持たない。把手の端部には球形の頭部を作る。加工痕が顯著に残っている。縦木取りで全長16.3cm幅10.5cm高さ2.4cmである。

12. 雜具

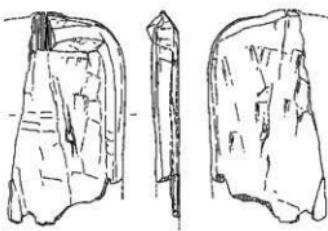
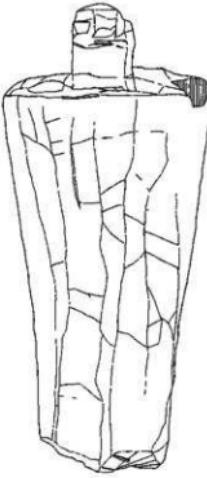


741

第113図 すくい具(1)

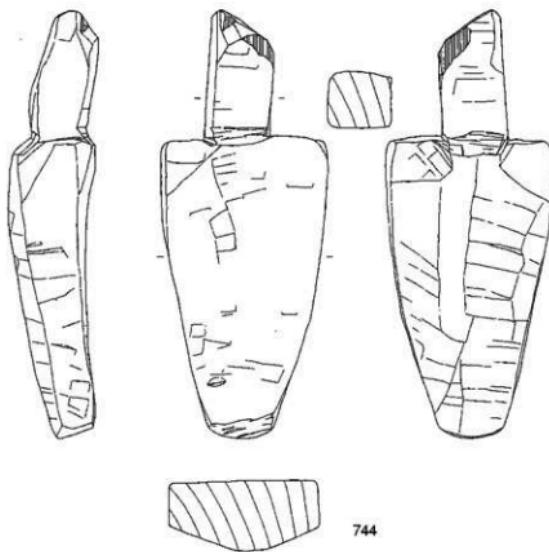


742

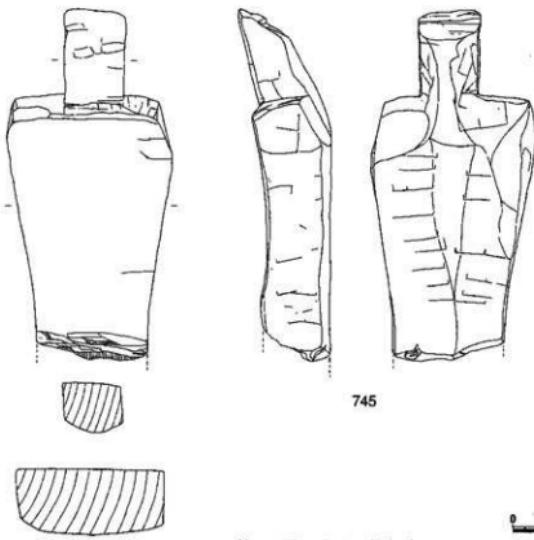


743 クスノキ

10mm



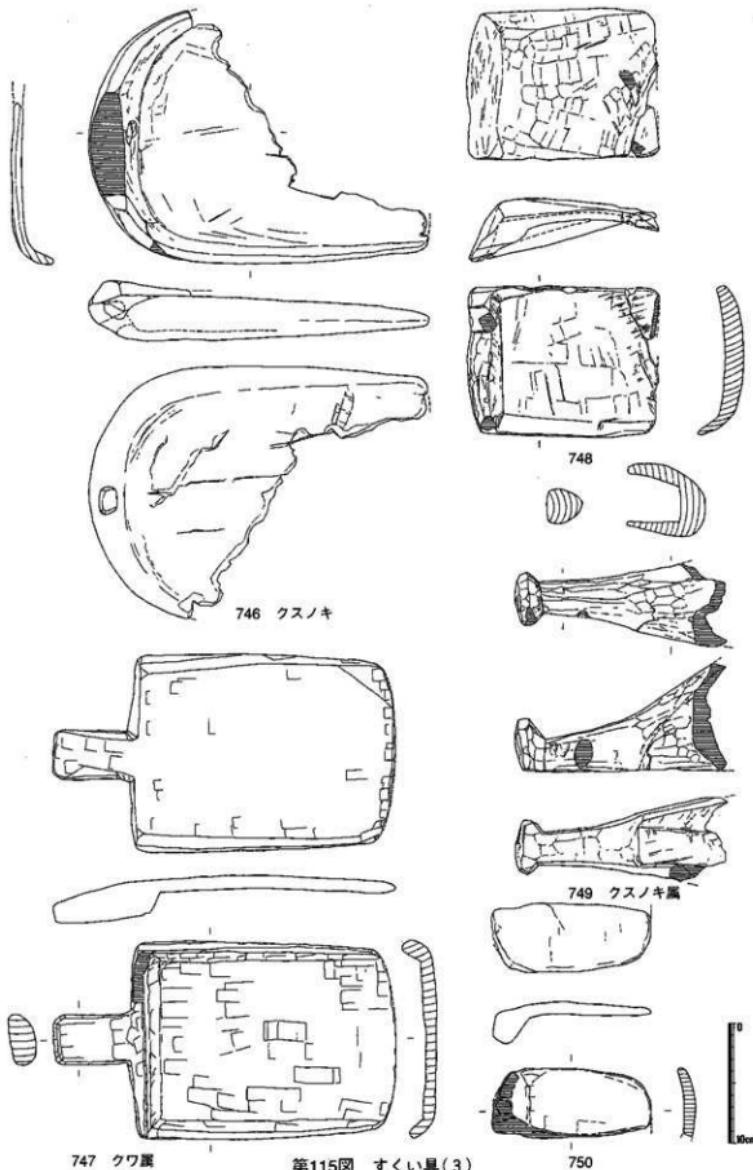
744

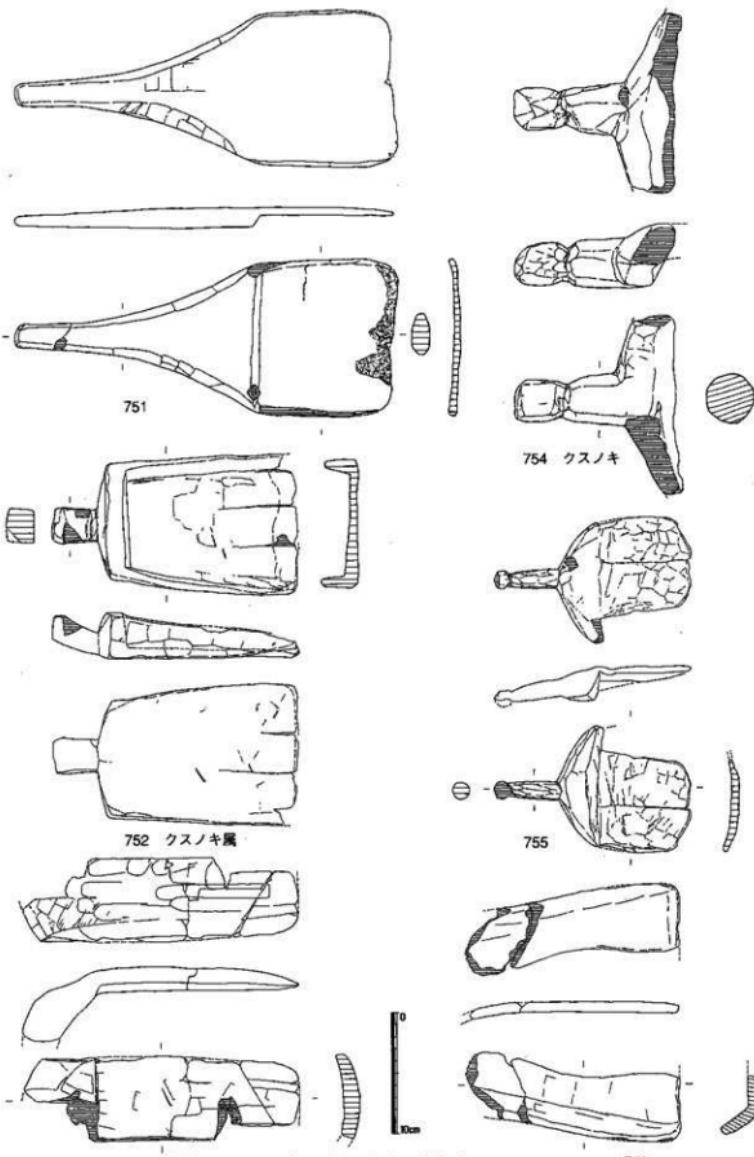


745

0 10cm

第114図 すくい具(2)





第116図 すくい具(4)

### 鉤状木製品・多枝付木製品

幹と短く切った1ないし数本の枝を利用した木製品のうち、枝が上に開くものを鉤状木製品、反転させて下に開くものを多枝付木製品とする。鉤状木製品のうち枝が1本のものは自在鉤と呼ばれており、ここでもそれに従う。多枝付木製品については浅岡俊夫氏が整理されている<sup>(3)</sup>。ここでは衣笠とされる。I~III類を除き、別の用途とされる、IV類を収めている。

757~761・765・766は自在鉤である。757は軸部背面を削って面を持たせていて、鉤手の付く面を前面と仮称すると右側面に繩かけ状の加工が一つ施されている。長さ14cmの鉤手は先端をとがらせている。加工痕が顕著に残っていて、軸部中央の節回りや基部の加工は粗い。残存長は44cmあって、軸の太さは3.5cmである。758はほぼ完形品である。通常とは逆に枝を軸部に幹を鉤手にしている。軸部には小さな頭部を削り出して作っていて、鉤手の先端は鉛筆状に削って尖らせている。全長35cmで鉤手の長さ18cmである。759はケヤキを使った自在鉤で、9.5cmと短い鉤手は先を細くして先端は丸い。又部はややすれている。全長28.6cmである。760は鉤手の先端を欠く。軸部には長さ2cmの頭部を作り出し、頭部から済曲部にかけて外面に面取り加工を施す。残存長19.3cm。761は小形の自在鉤の完形品で、軸部には長さ2cmほどの頭部を作り出し、鉤手先端はとがらせている。全長は21.6cmで、鉤手の長さ11.5cmである。

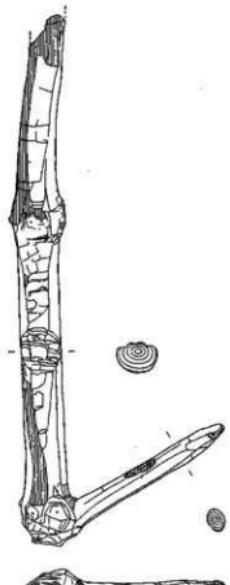
762~764は鉤手が2ないし3つ付く鉤状木製品である。762は上下2箇所に枝分かれ部分を残している。上の枝部は欠損しているが、下の鉤手は長さ9~10cmにして先端を細く加工している。残存長54.6cmである。763は幹と太い枝1本細い枝1本を利用している。細い方の鉤手先端には頭部を作り出しているが、ほかは欠損のため不明である。全体に炭化している。残存長40.5cm、鉤手の長さは太い方が21cm細い方が14cmである。764は平面三角形の頭部を持ち、鉤手は枝3本を利用して先端を尖らせていている。全長26.6cmのほぼ完形品で、軸部下端を丸く加工している。

767~770は多枝付木製品である。767・769は後面を面取り加工していて、繩かけを軸部の上・下端部に作っている。767の鉤手は枝3本を利用して先端はとがらせている。加工痕が顕著に残っている。全長25.8cm。769はイヌガヤ属製で全長21.8cmである。768は軸部上端に1.1cm四方の方形孔を持つ。770は1本が折れているが隣り合わせの枝2本を使用していて、全体に加工痕が顕著である。残存長19.5cmで鉤手の長さは12cmである。

### 竿受け

竿受けは枝分かれの部分を利用して、軸部に数箇所の繩かけを作っていて、枝分かれの内側に又繩りを施し、左右どちらかの側面に平坦加工を施す木製品である。背負子に形態が似るが、平坦加工を施すならば背負子であれば背中に当たる後面にこそ必要であって、側面には必要がない。側面に平坦加工を施した木製品については、柱などに縛り付けて又部に竿などの棒状品をかけて使用する竿受けと考えている。771のように、枝部先端とそれに平行する軸部の繩かけを結んで蔓がかけられた状態で出土した。こうした蔓のかけられ方も、この木製品が背負子ではなく竿受けとして使われた事を示すものと考えられる。この蔓は風などで竿がはずれないようにするためのものであろう。

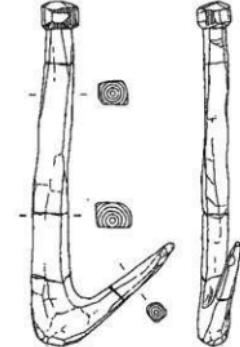
771は完形品で、蔓がかけられている箇所以外では軸部の上・下端および又部と下端中間に繩掛けを作る。半円形の又繩りは小さめで深い。左側面を顯著に平坦加工する。全長66.7cm。772は頭部と枝部先端を欠くが、残存長107.7cmと長い。又繩りは顯著ではなく、左側面を平坦加工する。773は全長97.3cmの完形品である。枝の先端と幹の繩かけを撲たつる状の紐でつなぐ。繩かけは他に3箇所



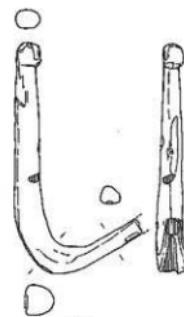
757



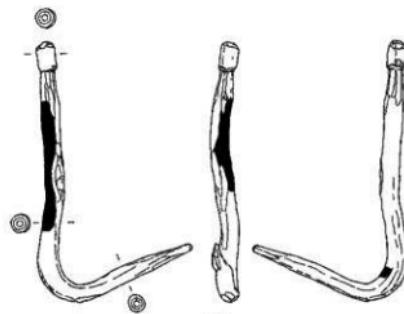
758



759 ケヤキ



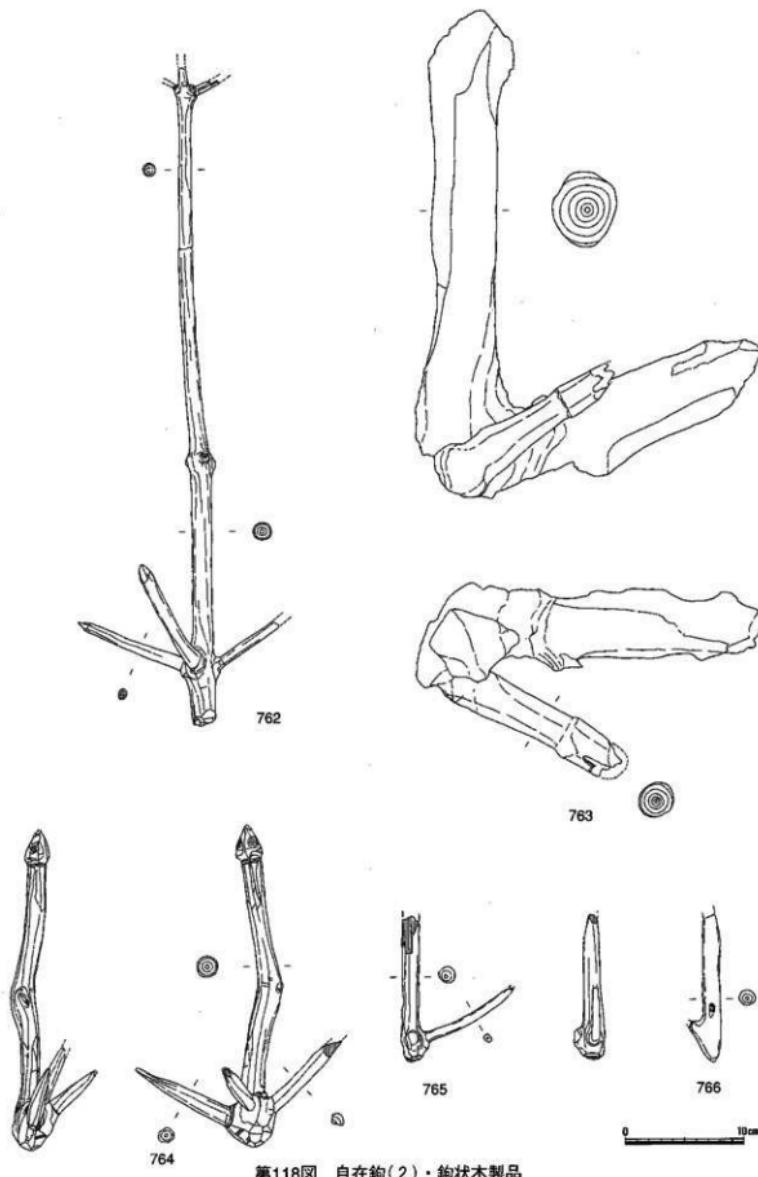
760



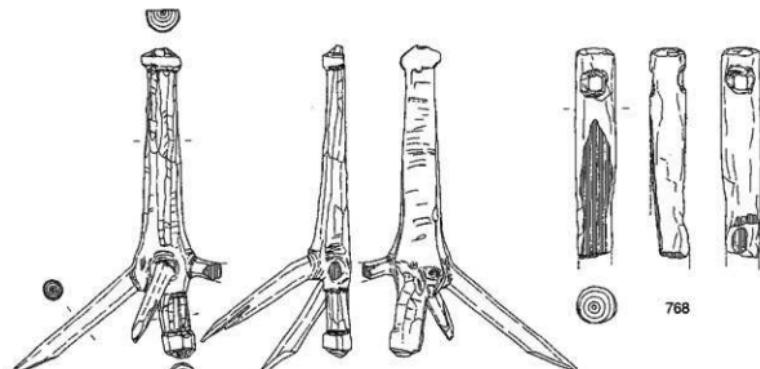
761

10cm

第117図 自在鉤(1)

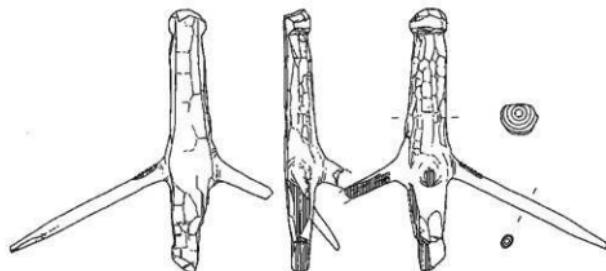


第118図 自在鉤(2)・鉤状木製品

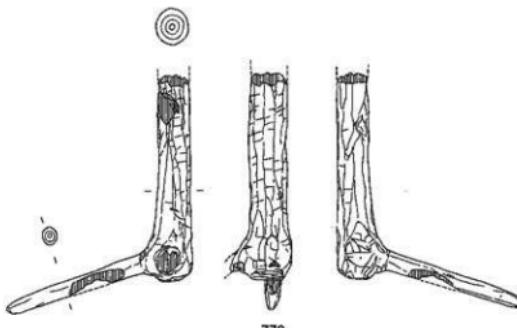


767

768



769 イヌガヤ属



770

0 10cm

第119図 多枝付木製品

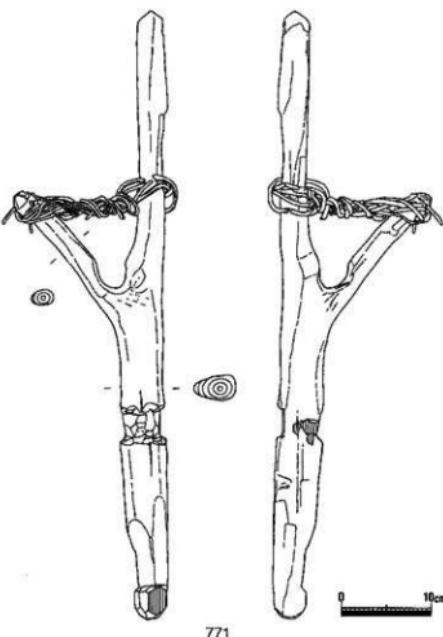
あって、又縫りも行っている。クスノキ科の材を使い樹皮が残る箇所がある。774は771・773と同様に枝の先端と軸部の繩かけをつなぐ掛つたる紐が残ったほぼ完形品。繩かけは他に2箇所あって、左側面を平坦加工する。又縫りはそれほど顕著ではない。樹種はクヌギ節を使っていて、全長67.5cmである。775は又部の破片で又縫りがある。枝部先端には3面に繩かけを作り出す。777は軸部上半と枝部を欠くが、左側面を全面にわたって平坦加工を施している。

778は全長90.7cmのほぼ完形品である。軸部下半の左側面を平坦加工し、繩かけは5箇所あるが、又縫りはみられない。779は又部から上部の破片で、両端を欠損している。枝部は接合しないが同一個体と思われ、先端に球形の頭部を作り出している。又部には又縫り加工を施している。780は上下両端を欠損していて、枝部先端は球形の頭部を持つ。繩かけは3箇所あって、又縫りは顕著である。783は右側面を全面にわたって平坦加工し、節帶をつくって繩かけとしている。綫方向の幅の狭い加工痕が顕著に残る。全長73cm。

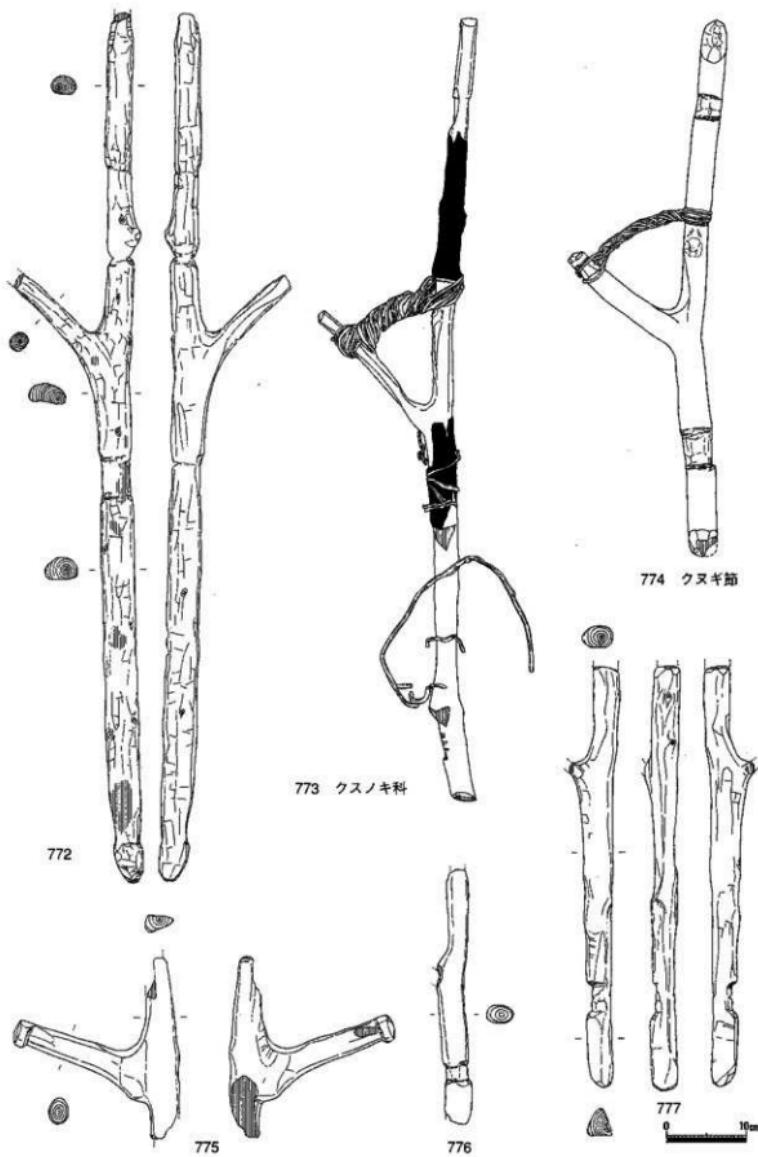
784は他の竿受けよりも太く長い木を使用していて、全体に加工が粗い。径の太い下部には左側面に幅2cm前後の平坦加工をおこなう。全長は130.2cmある。785は上端と枝部を欠損するが、大きな又縫り加工を施していて、繩かけは3箇所ある。右側面の平坦加工は又部の下で顕著である。残存長82.1cm。786は上部・枝部を欠損する。繩かけは3箇所が残存し、又縫りは顕著である。右側面を平坦加工する。

787は右側面を平坦加工する。特に大きな又縫り加工を行い、加工痕が顕著に残っている。又部上部の軸部後面には枝の付け根を残していて、繩かけを使ったとみられる。788は上・下端及び枝木を欠損する。左側面を全面にわたって平滑に加工している。繩かけは3箇所で、残存長66cmである。789は繩かけ加工も施されているが、枝が又部をわずかに残しつつも削り落とされていて、竿受けとは異なるかもしれない。樹皮が一部残存していて、残存長は61cmである。790・791は保存状態がよくないが、790では左右両面、791は右側面に平坦加工を施していて、ともに又縫り加工が見られる。792は上端と枝部を欠損しているが、両側面を平坦加工する。

793は上・下端を欠損する。繩かけや左側面の平坦加工はわずかで、残存長は68.3cmである。枝部

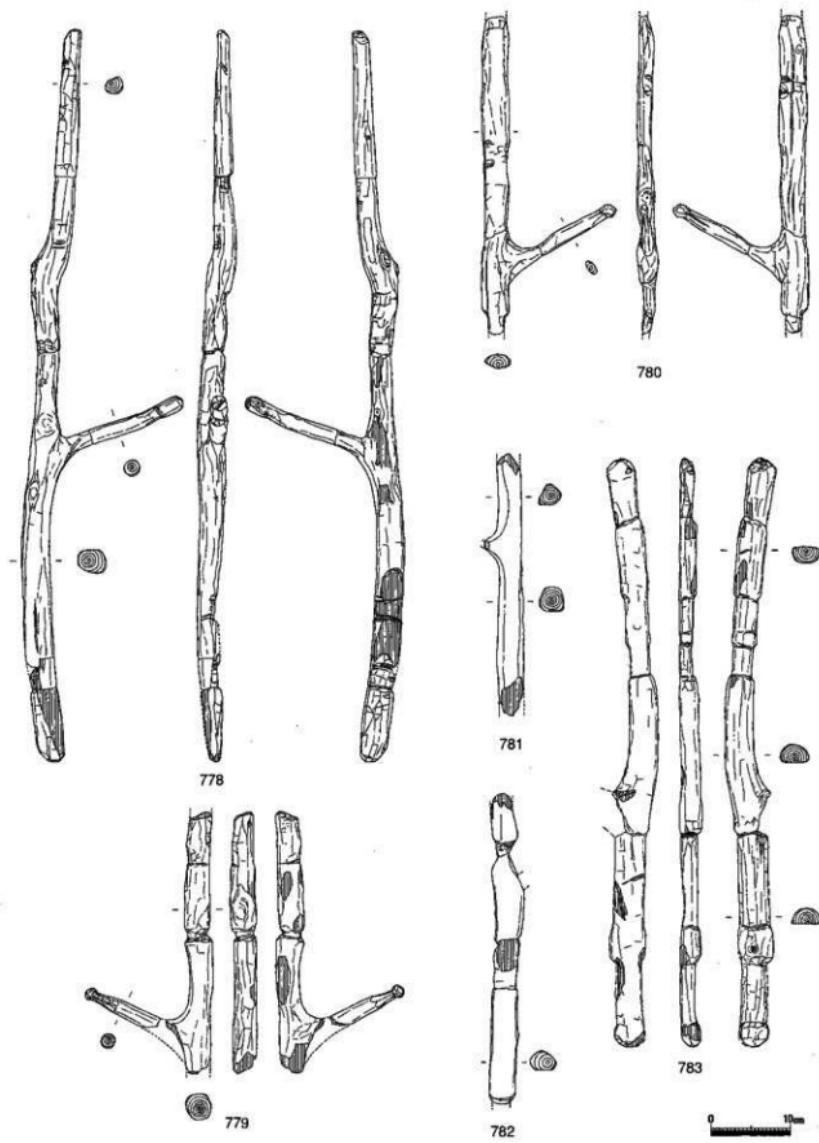


第120図 竿受け(1)

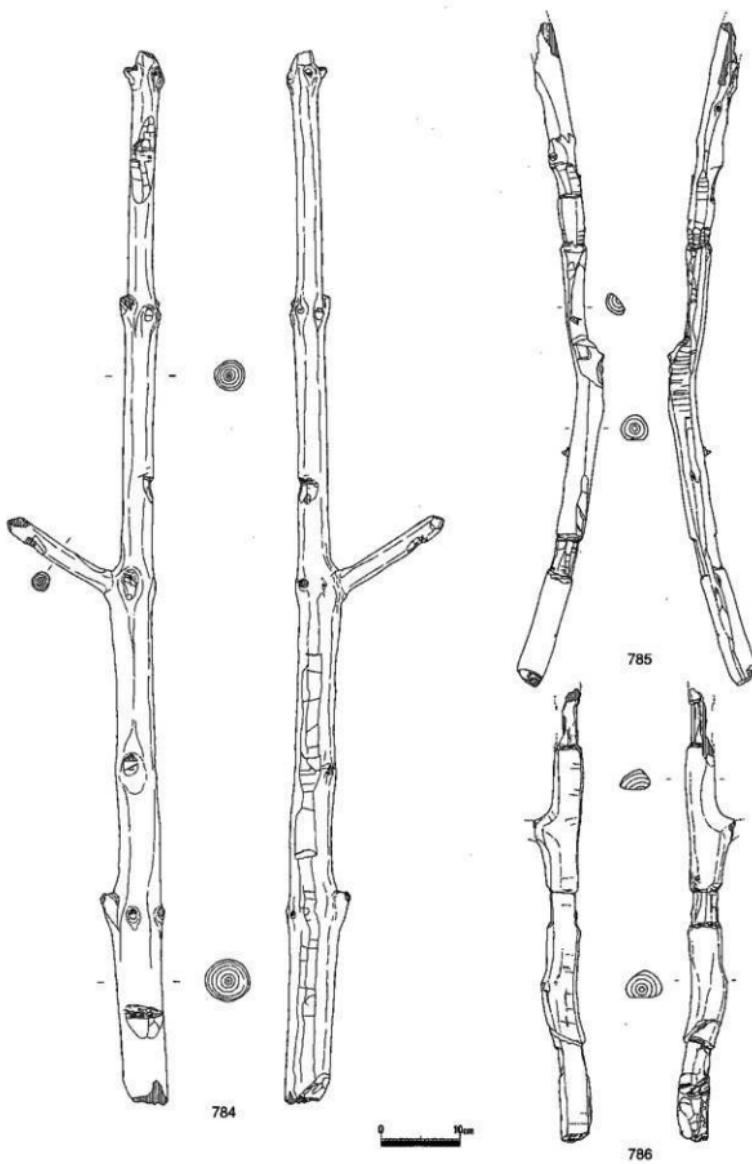


第121図 竿受け(2)

12. 緊具

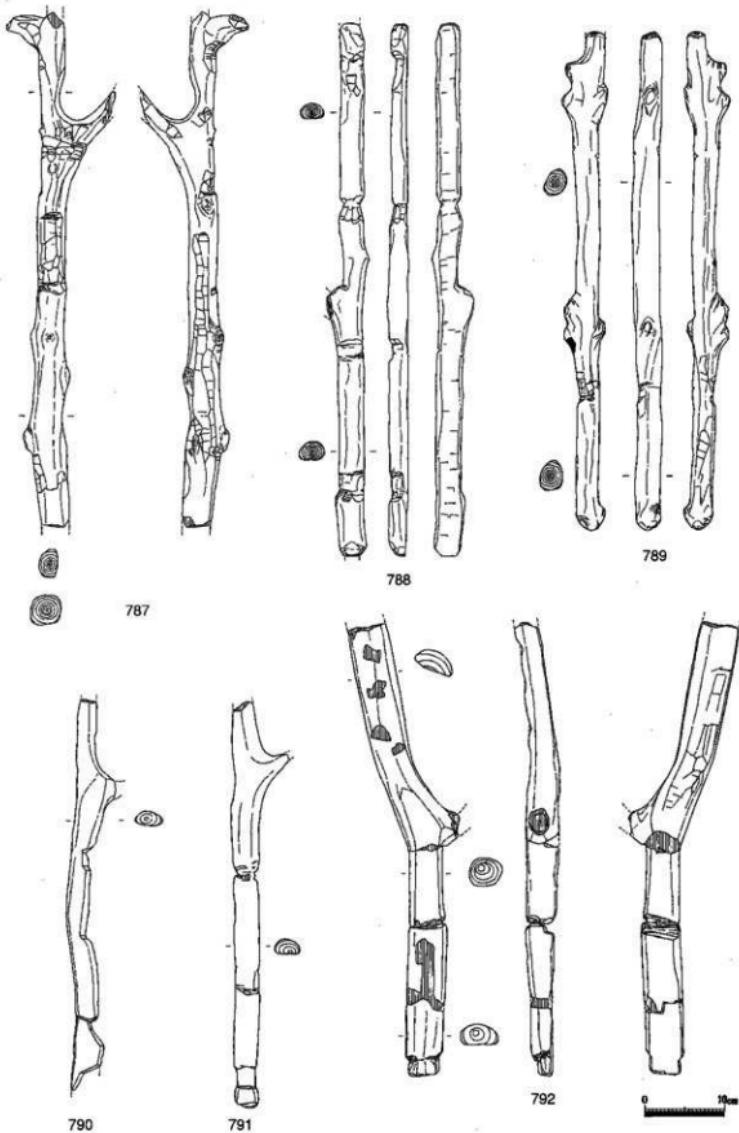


第122図 竿受持(3)

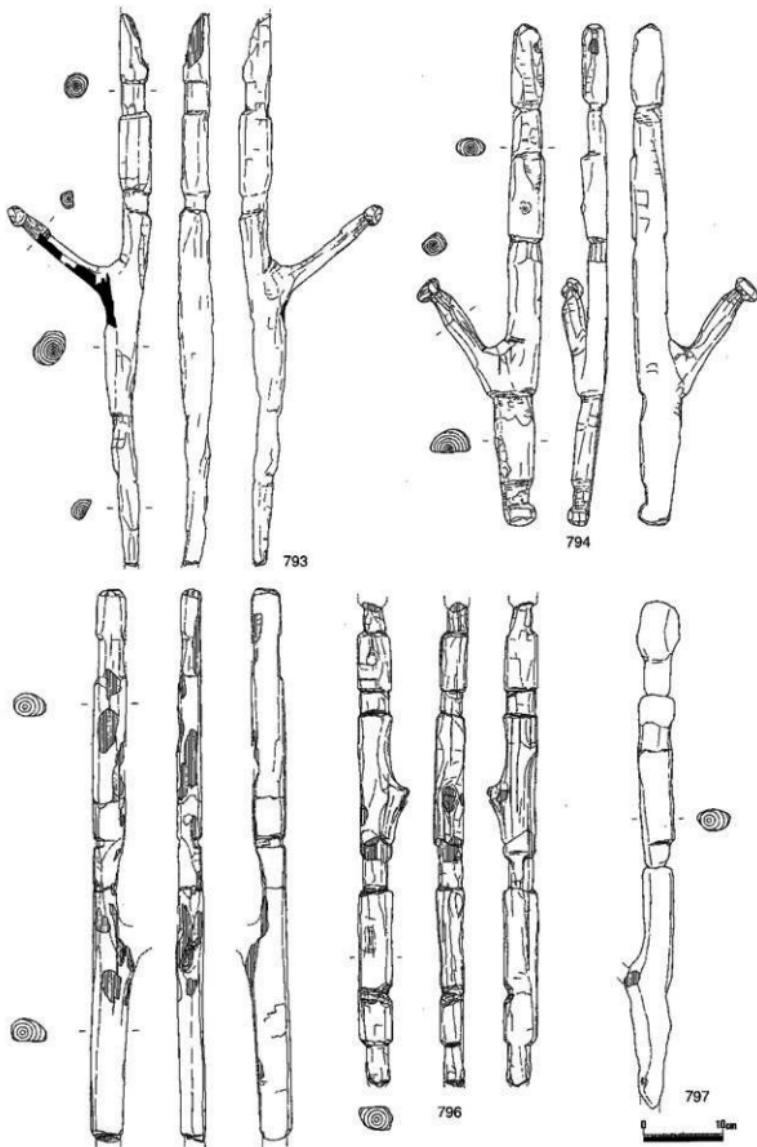


第123図 竿受け(4)

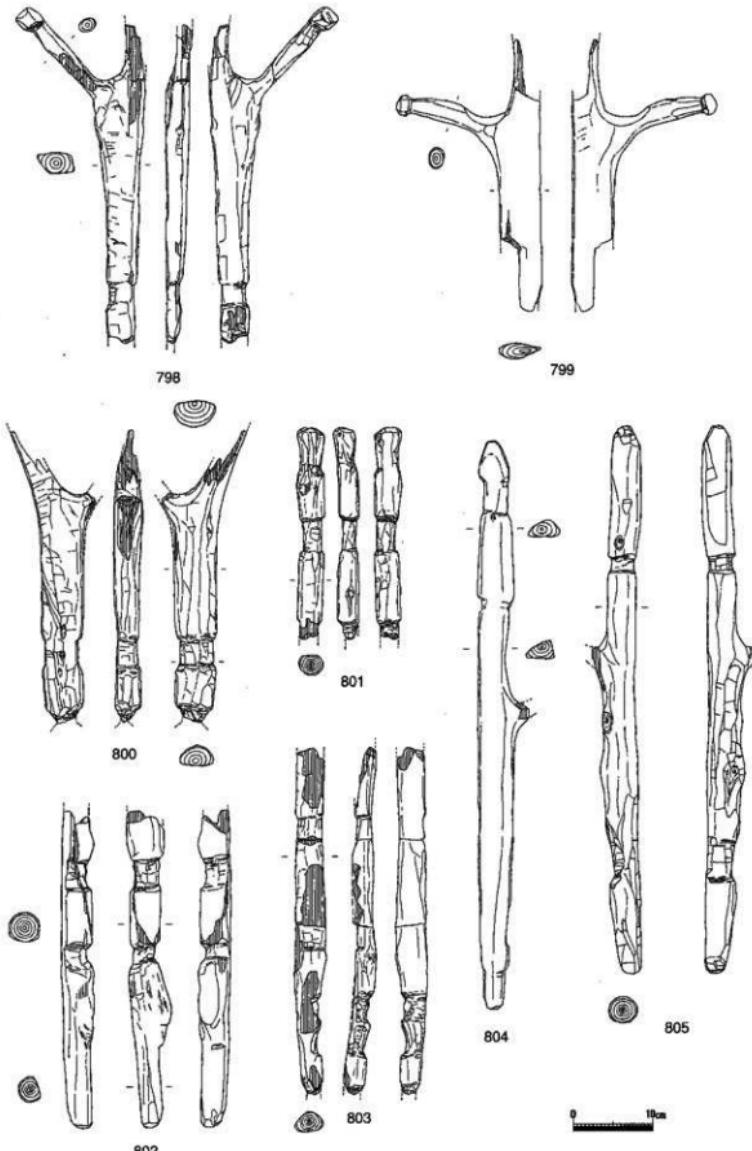
12. 雜具



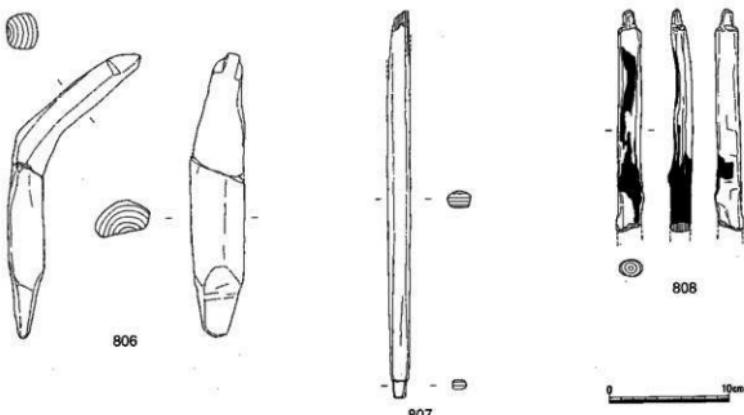
第124図 竿受け(5)



第125図 竿受け(6)



第126図 竿受け(7)



第127図 器具部材

先端には球形の頭部を作り出し、又縁取り加工も行っている。794は全長62cmの完形品で、やや角張ったU字形の又縁取り加工している。左側面は全体にわたって平坦加工が施されその平滑度は高い。縄かけは4箇所あって、枝部先端には円整状の頭部を作っている。795は下端と枝部を欠損していて、縄かけは2箇所残存する。右側面を全面にわたって平坦加工する。796は両端及び枝部を欠損している。縄かけは5箇所あって、右側面を平坦加工をする。798は丸形の頭著な又縁取り加工があって、又部の下は左右両面とも平坦加工を施す。

#### 器具部材

806～808は端部にはぞ加工が施されていて、何らかの器具の部材とみられる。後に掲げた不明品や棒の中にも器具の部材が含まれている可能性もある。

806は緩い山形の形状をした完形品で、一端は側面からほぞをつくり、他端は断面方形で尖り気味にしている。とがり気味の端部は転用に伴う切断の可能性もある。全長は23.5cmである。807は断面五角形の棒状品の端部にはぞを設けている。柾目材を使っていて残存長32.3cm幅1.9cm厚さ1.4cmである。808は端部に丸形のほぞ加工を施し、一部に樹皮が残っている。残存長18.35cm直径2.15cmである。

## 13. 建築部材

建築部材には、はしごや扉板・柱・桁材・垂木などのように大きさや形状・仕口などから使用部位をある程度把握できるものの他に、何らかの器具や器材だと想定しづらいものや素材・残材も含んでいる。

### はしご

はしごは半裁材を加工して作られている。完形品ではなく、足かけが4段残っているものが一番長い。また、縦割れしているものがほとんどで、幅のわかるものは815の1点のみである。上端部の残っている813では最上段の足かけの上部に円孔をあけている。使用時あるいは保管時の引っかけに使われたとみられる。下端部は二又に分けている。

809は縦割れのため左側が欠損しているが、残存長が163.3cmあってもともと長く残っている。下端は二又にしていて、足かけは43~45cm間隔で4段ある。下から2段目の足かけの上部に方形孔と円孔があけられている。810・811・812は足かけ部分の破片である。813は縦割れした左側上部の破片で、足かけは2段が残っていて間隔は43cmある。最上段と上端面の中央に円孔がある。残存長122.4cm。814は下端部の破片で、下端は809と同様に二又になる。足かけは2段残って間隔は45cmで、99.9cmが残存している。815は唯一全幅のわかる資料で、16.5cmある。直接接合はしないが同一個体と思われ、残存長122.2cmである。上端部には813のような円孔はあけられていない。

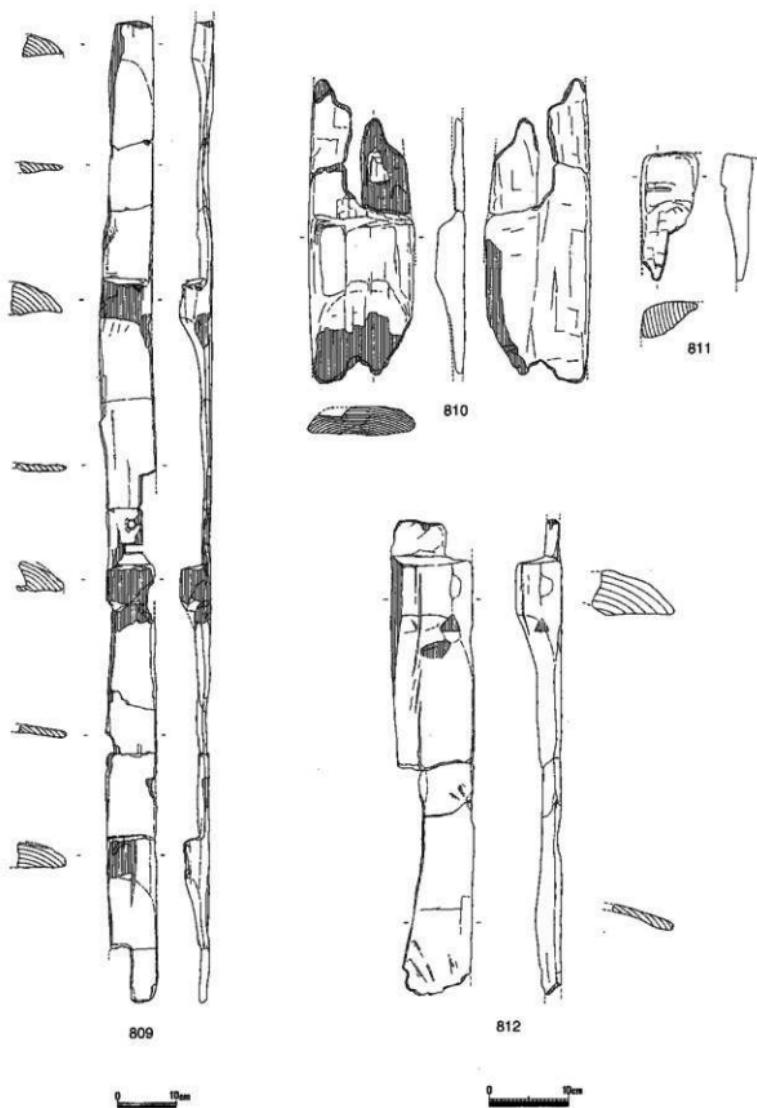
### 扉板

扉板は1点出土している。816は幅36cm現存長1.4cmの軸部を持つ。軸の短さからすると下辺とみられる。軸のある側刃と反対の破面に長さ7.5cm幅1.5cm以上の方形孔がかかっている。これが扉の開け閉めときに手を入れるためのものと思われる。板目材で、残存長90.1cm幅21.6cm厚さ3cmである。

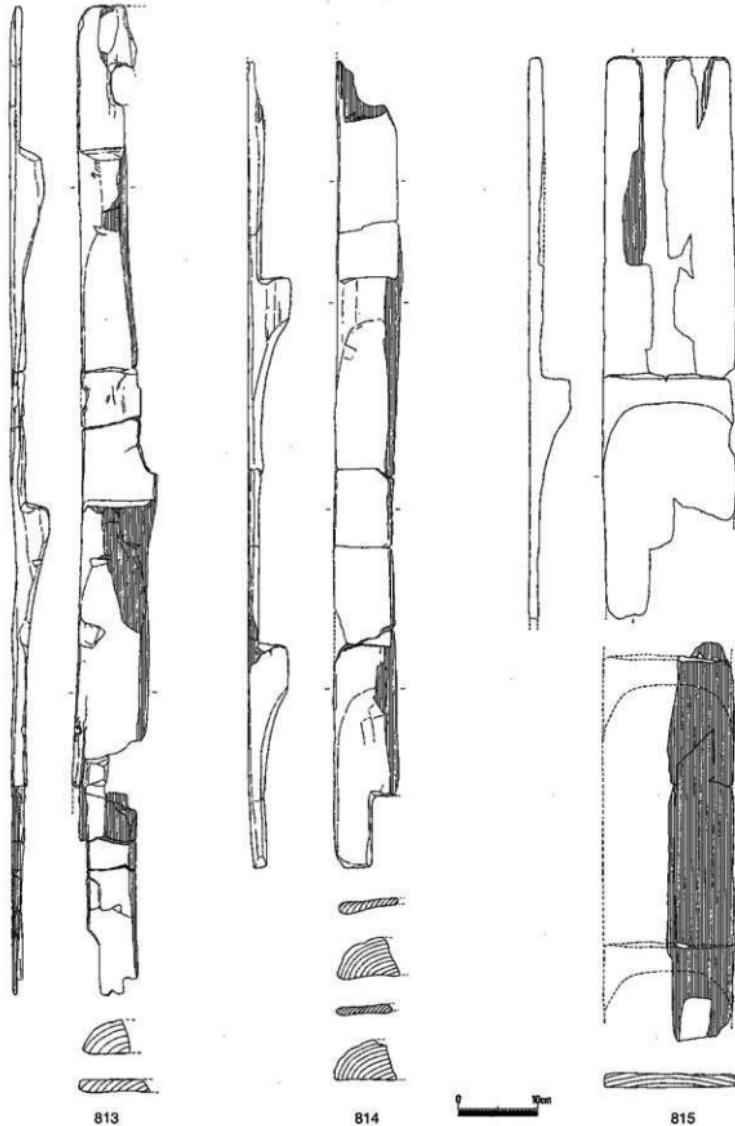
### 柱

柱は上端の桁材を乗せる部分を、木の枝分かれ部分をそのままあるいは加工を施して利用する柱と、上端面に断面コの字形の加工を施す柱がある。横断面が円形の円柱が多いが、柱の転用・再加工とみられる材の中に1辺の長い材があるので、方形柱もあったのではないかと思われる。直径は10~16cmのものが多く、明らかに20cmを超える柱は出土していない。

817~822・824・826・827は又部を利用した柱である。817は又部上部の幹側内面を長さ12cm幅6cmでレの字状に切り落として、桁材を受ける面を作っている。又部の下10cmのところに幅4.8cm、又部の幹側の上15cmのところに幅3cmの繩の縛縫用と思われる欠込がある。残存長99.2cm直径14cmである。818は又部の破片で、又部の幹内側を幅3.8cm長さ14.4cm以上にし字型に切り落とす。残存長41.5cm直径14cm。819は直径8cmの丸柱で、又部の幹側を角に加工している。67.4cmが残っている。820は直径6cmとやや細めの材を使っていて、節の部分は未加工のままである。残存長が122.5cmある。821は直径12.9cmの柱で、又部は幹側をL字形に加工する。下端は切断されていて残存長は90.5cmである。822は樹皮が残されたままである。又部の加工はわずかで、残存長96cm直径9cmである。823は直径13cmの柱材で、一端は切断されている。824は細い枝別れ部分を利用して、又部から18~30cmの所に深さ1cm前後の欠込がある。直径10cmで、下端は焼けている。



第128図 はしご(1)



第129図 はしご(2)

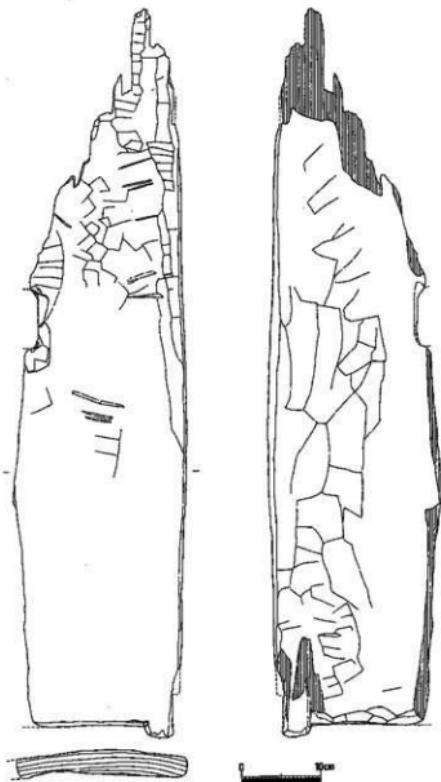
825は図の上部側が炭化し細くなっていて、炭化部に3.5cm角の欠込がある。直径12.4cmの材を使っている。827は上端・下端とも切断していて、転用をはかけている。828には一端に切削痕があって、樹皮がついたままである。残存長121cmで直径13.6cmである。829にも樹皮が残っている。830は直径12.8cmの材で、全体に炭化している。

831は桁材を受けるために上端を幅8cm深さ6cmでコの字形に加工している。下端は転用のため切断されている。残存長67.4cm 直径19.7cm。832は欠込が施されている。833は上端が幅4cmの貫穴ないし輪葉込の部分で欠損している。直径7.5cmの材である。834は直径12cm残存長148.8cmの柱材で、一部炭化している。835は転用のため切り取られた残りと思われ、残存部分の表面には加工痕が残る。直径を復原すると約27cmとなって、唯一20cmを超える可能性のある資料である。

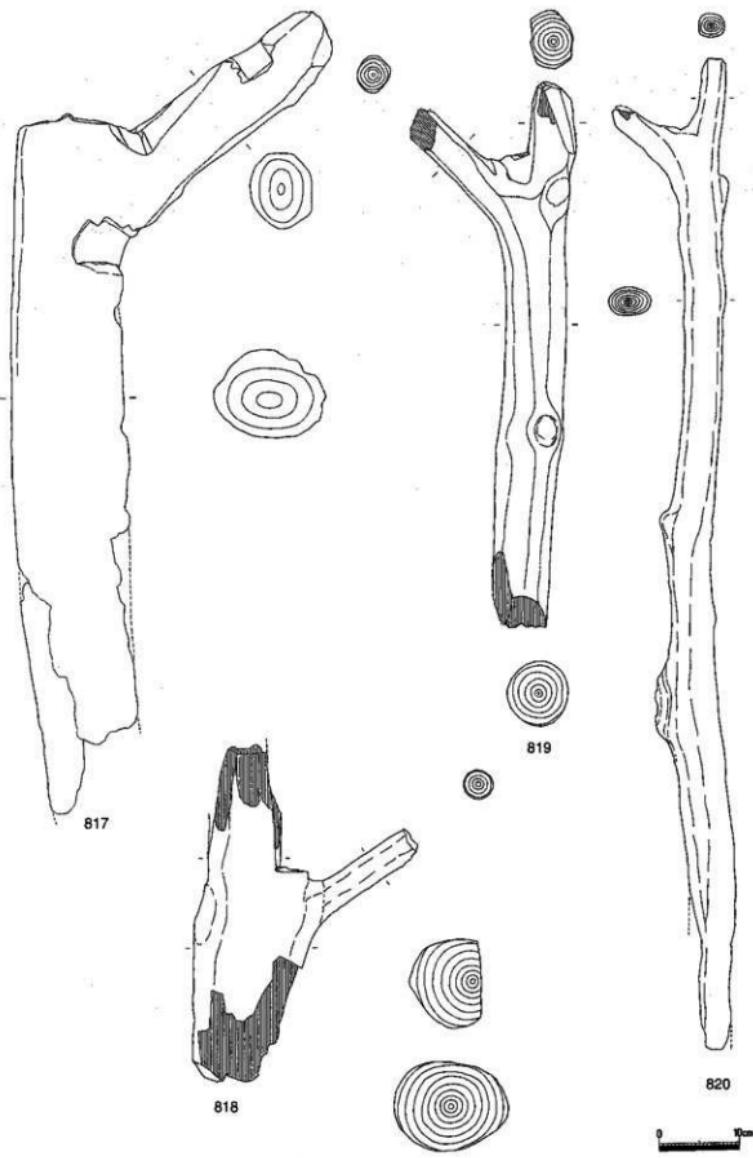
残存長173.3cm。

#### 横架材ほか

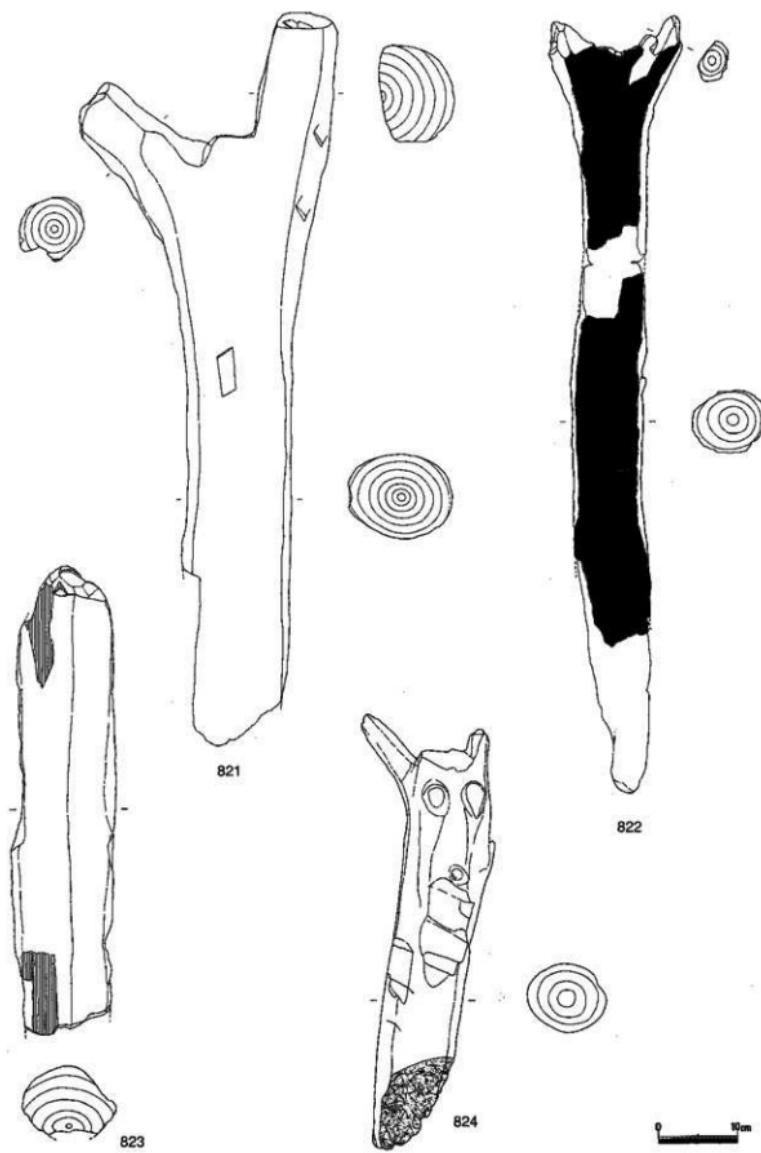
836～859は桁や梁などの横架材などである。836は幅11.8cm厚さ1.9cmの樹心を残した柾目板で、幅5～6cm長さ9～10cmの方形孔を83cmあけて2つ設けている。一方の小口を斜めに切断していて、残存長は125.3cmである。837は幅8cm厚さ4cm残存長137.7cmの柾目の角材である。838にも836と同様に5×9cmの方形孔が2つあるが、その間隔は51cmである。柾目材で残存長83.2cm幅8.6cm厚さ2.9cmである。839は一端が方形孔の部分で折損していて、13cm離れて片側穿孔で円孔があけられている。840には幅7cm深さ3.5cmのコの字状の欠込を施している。841は小口から10.5cmのところに長さ5.8cmの方形孔がある。柾目材で残存長73.4cm厚さ1.9cm。842にはコの字状の欠込が2つ、レの字状の欠込が1つ施されている。枝払いなどの表面加工は雑で、残存長82.7cm直径4cmである。843は直径5cmの心持ち材を使い一端に幅1.8cm深さ1.5cmの欠込を作っている。残存長116.5cm。844も直径5cmの心持ち材を使っていて、一端に幅4.5cmで段状加工を行っている。残存長は121.1cmである。845は両端に



第130図 扉板



第131図 建築部材(1)

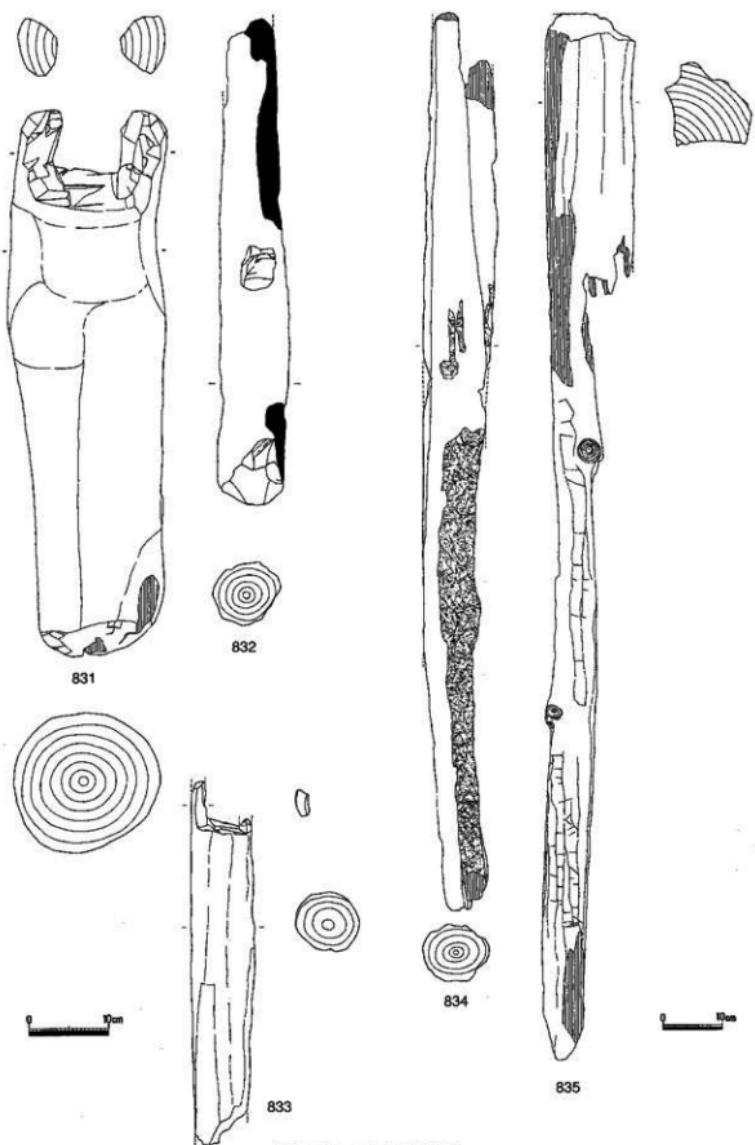


第132図 建築部材(2)

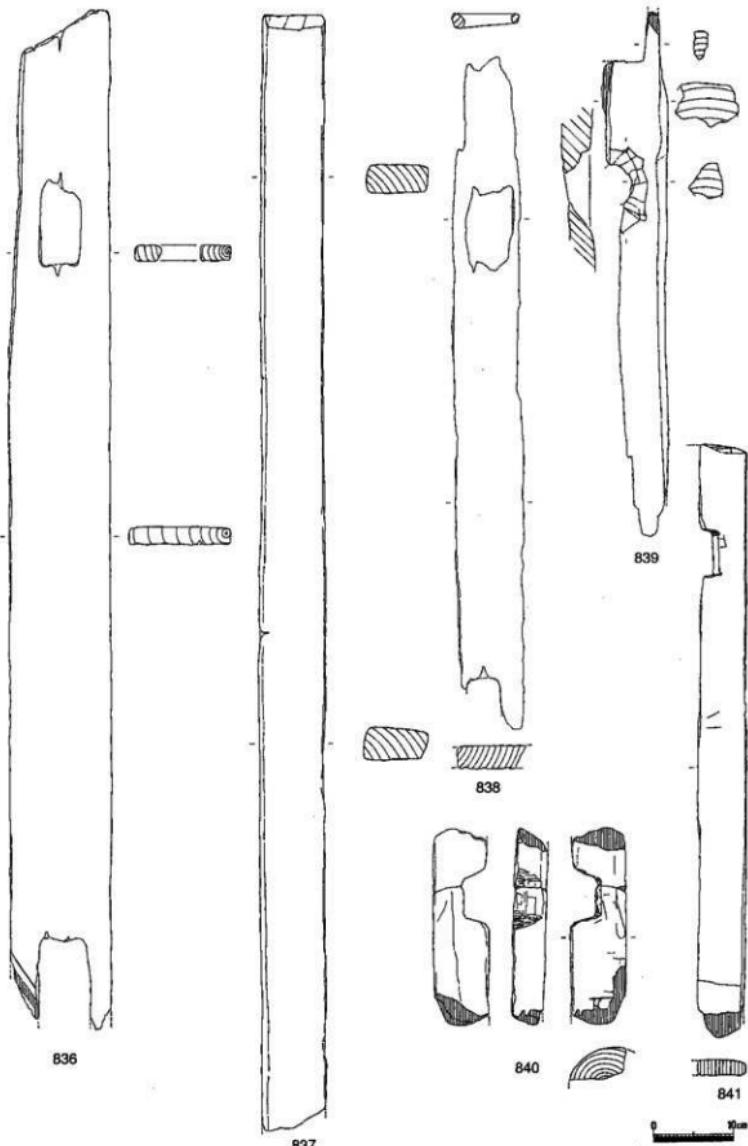
13. 建築部材



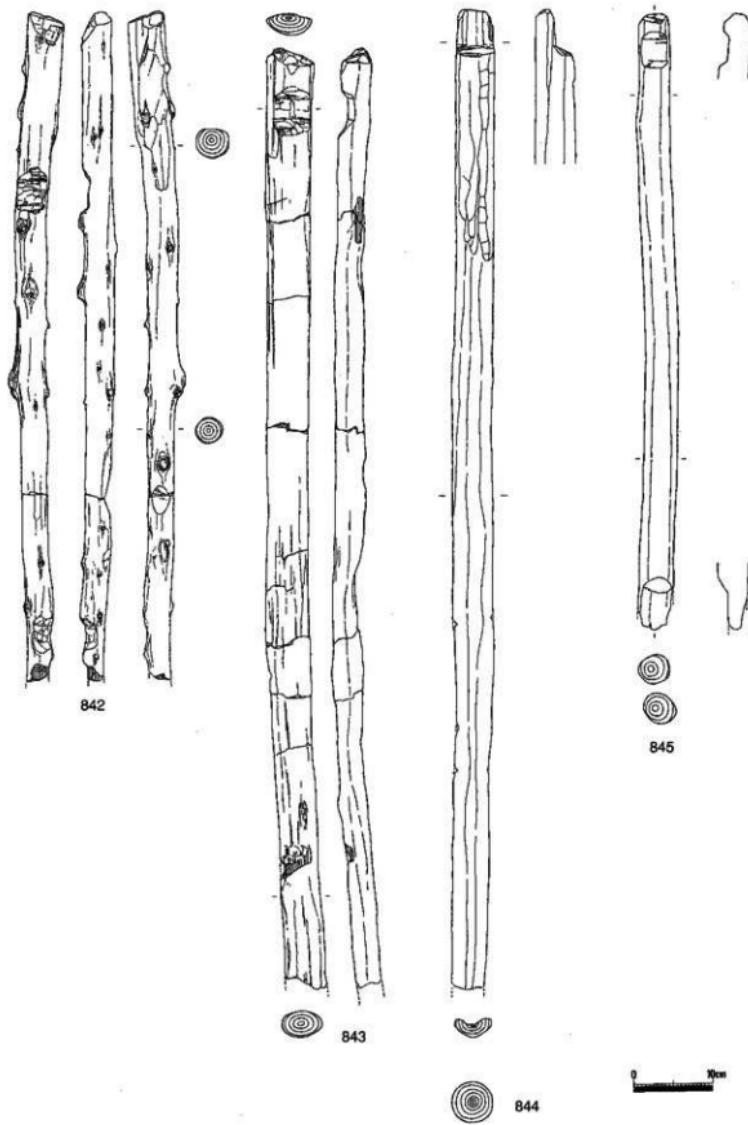
第133図 建築部材(3)



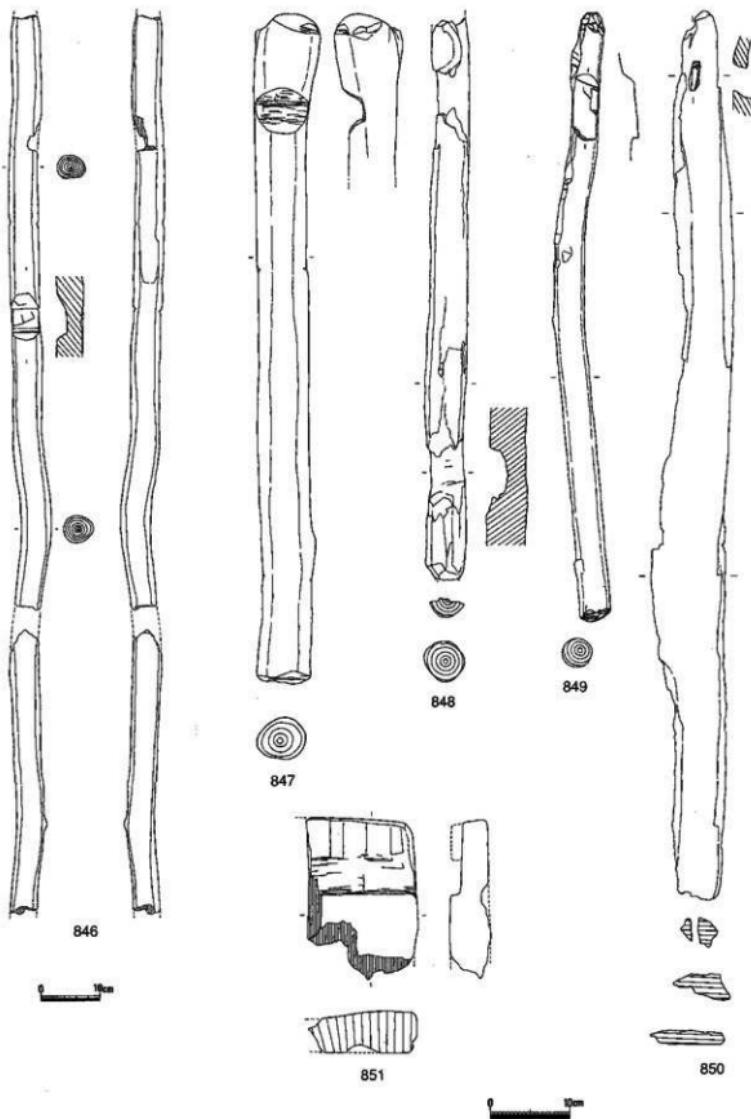
第134図 建築部材(4)



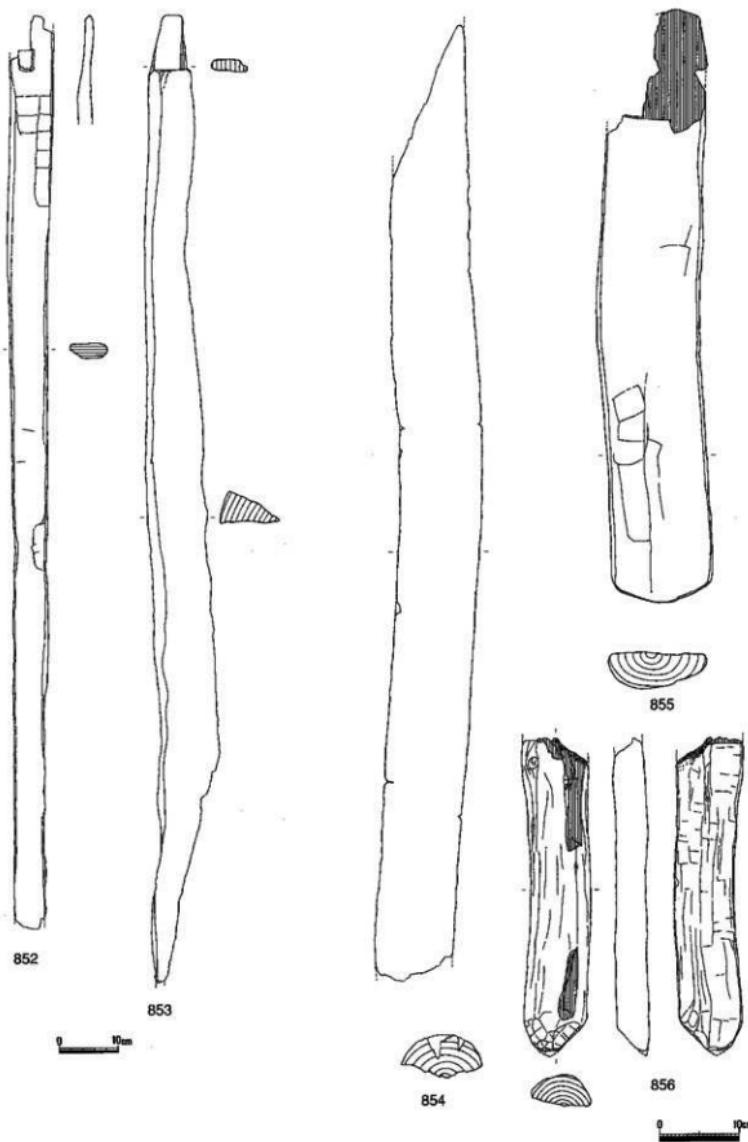
第135図 建築部材(5)



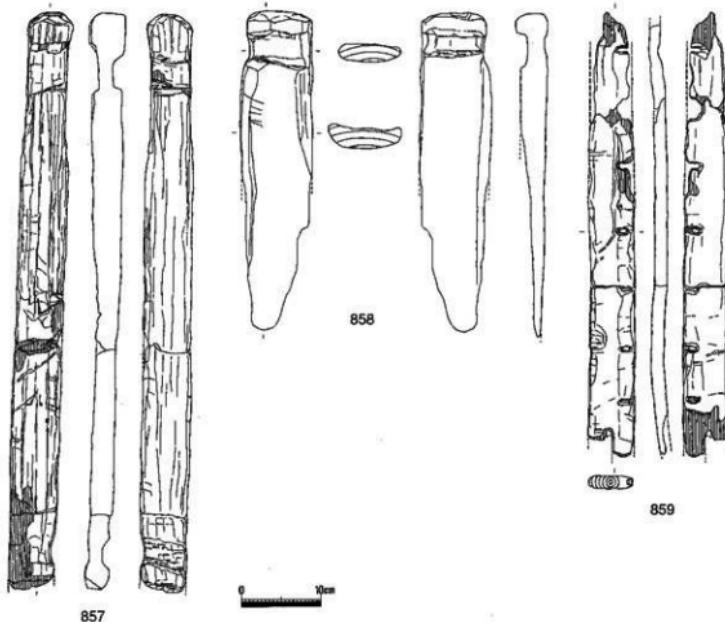
第136図 建築部材(6)



第137図 建築部材(7)



第136図 建築部材(8)



第139図 建築部材(9)

長さ4.5cm幅3.1cmのコの字状の欠込がある。直径約4cmの心持ち材で、長さ76.3cmが残存している。

846は直接接合しないが直径5cmの心持ち材で、端部からの位置は不明ながら中間部にコの字状の欠込が1つある。残存長141.7cm。847は直径8cmの心持ち材で、端部から10cmのところに幅6cm深さ3cmのコの字状の欠込がある。残存長82.9cm。848は残存状態が悪いが、両端に幅5cm深さ2.5cm欠込がある。直径5.2cmで長さ69.4cmが残存している。849には一端に斜め方向の欠込があって、反対側の端部は切断されている。直径3.8cmの心持ち材で全長75.4cmである。850は片側の端部に斜めにあけた3.5×1cmの方形孔がある。板目材で残存長110.2cmである。851は厚さ5cm幅14cm以上の板の小口部分に幅4.5cm深さ1.3cmの溝状加工を施している。

852は長さ150cm以上幅7cmの板目材で、一端を長さ13cm以上にわたって厚さ2~1.5cmに薄く削り、その中央に縦3cm横2.2cmの方形孔をあけている。残存長150.9cm厚さ2.5cm。853は一端にほぞをつけている。残存長160.2cmで、横断面が三角形をしているので、転用のため削られた残りである。854~856は半裁材。857・858は端部の両面に細長い溝状加工を施している。857ではもう一方の端部にも溝状加工を施しているが、こちらは1面のみである。全長71.5cm幅6.3cm厚さ4cm。858は残存長39.5cm幅9cm厚さ5cmである。859には長辺沿いに梢円孔5つと残存端部側中央に円孔が1つ残っている。心持ち材で残存長55cm幅5.7cm厚さ1.6cmである。

## 有孔板材

860～895は方形孔・円孔を1～数箇所あけた板材である。860は全長91.1cm幅17cm厚さ3cmの板目材で、1長辺沿いの中央と両端に直径2cm程度の円形孔を持つ。861は長軸に対して斜め方向にあけた2孔1組の円孔がほぼ平行に47cm離れて2組ある。円孔間は約10cmである。板目材で残存長84.6cm幅11.5cm厚さ1.1cm。862は全長93.5cm幅8.2cm厚さ1.7cmの板目材で、1.7×1.3cmの方形孔が1つある。863は角の1つを斜めに切り落としていて、切り落とされた角に寄せて円孔を1つあけている。864は大きさは不明であるが長い孔の部分で折れている。865も小口部分の孔で折れている。

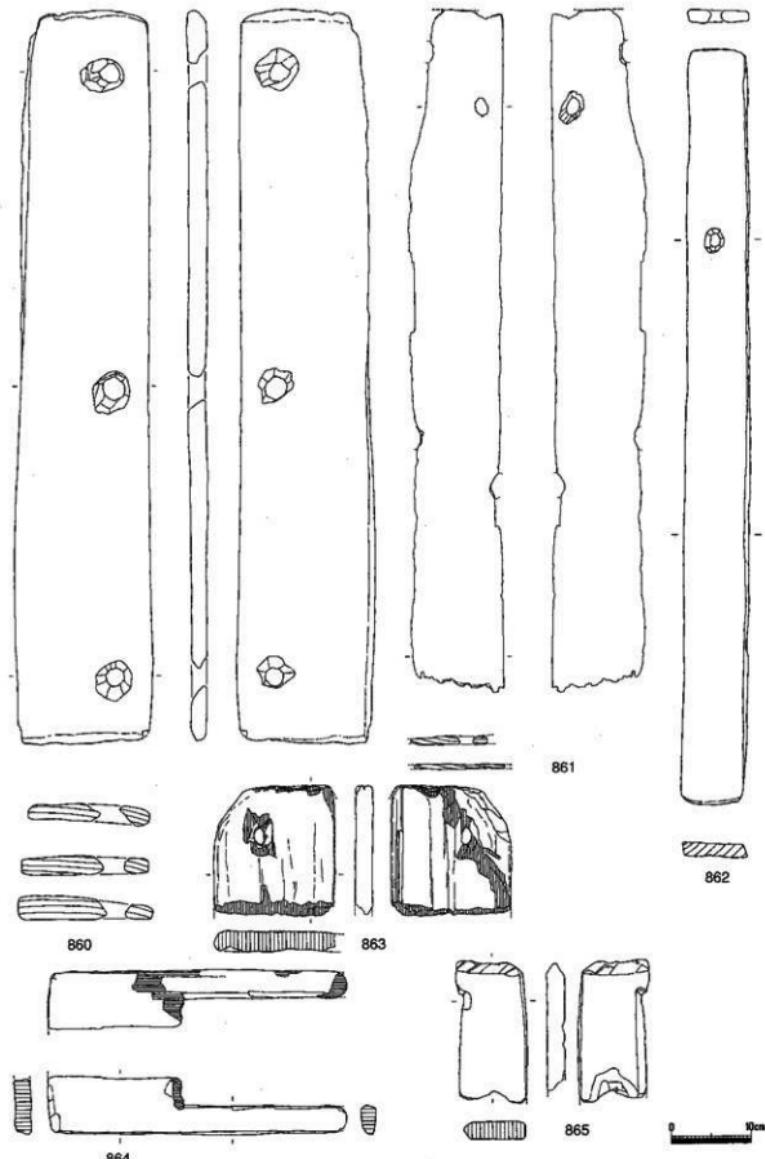
866は長辺沿いに円孔ないし方形孔がある。その中间で材中央に不整円孔をあけ、この円孔から長辺端部まで表裏両面とも溝を彫っている。一端はこの溝部分で折損。板目材で残存長88.8cm幅28.5cm厚さ2.8である。867は厚さ2.7cmの板目材で横断面は樹心側にやや湾曲している。不整方形孔が1箇所ある。残存長79.4cm幅15.1cm。868は元は大きな板材の一部とみられ、2.2×4.7cmの方形孔があつて割れ口にも幅の広い方形孔が2つある。板目材で、残存長26.7cm幅24.3cm厚さ3.2cmである。

869は幅14.8cm厚さ2cmの板目材に3×2cm位の方形孔を4つあけている。幅3cm以上の加工痕が認められるが、明瞭には読みとりにくい。残存長86cmである。870は幅11cm厚さ1cmの板目材で、残存長は90.7cmある。871は成形段階の柾目材。片面は割裂き様の凹凸を削っている途中で、残存長84.9cm幅16.6cm厚さ1.8cmである。元は厚い板材を割り裂いて再加工している可能性もある。872も幅12cm厚さ3.2cmの柾目材の表面を平滑にしている段階で、残存長73.8cmである。873は全長111cm幅13.2cm厚さ3cmの柾目材で、表裏面の加工痕が顕著に残っている。874は一端には粗い切断痕があり、転用後の残材とみられる。不整円孔が1つ残っている。厚さ2.6cmの柾目材である。875は厚さ2.5cmの柾目材で小LJ側の一端は溝状加工の部分で折れている。他に大小の孔が1つずつあけられている。

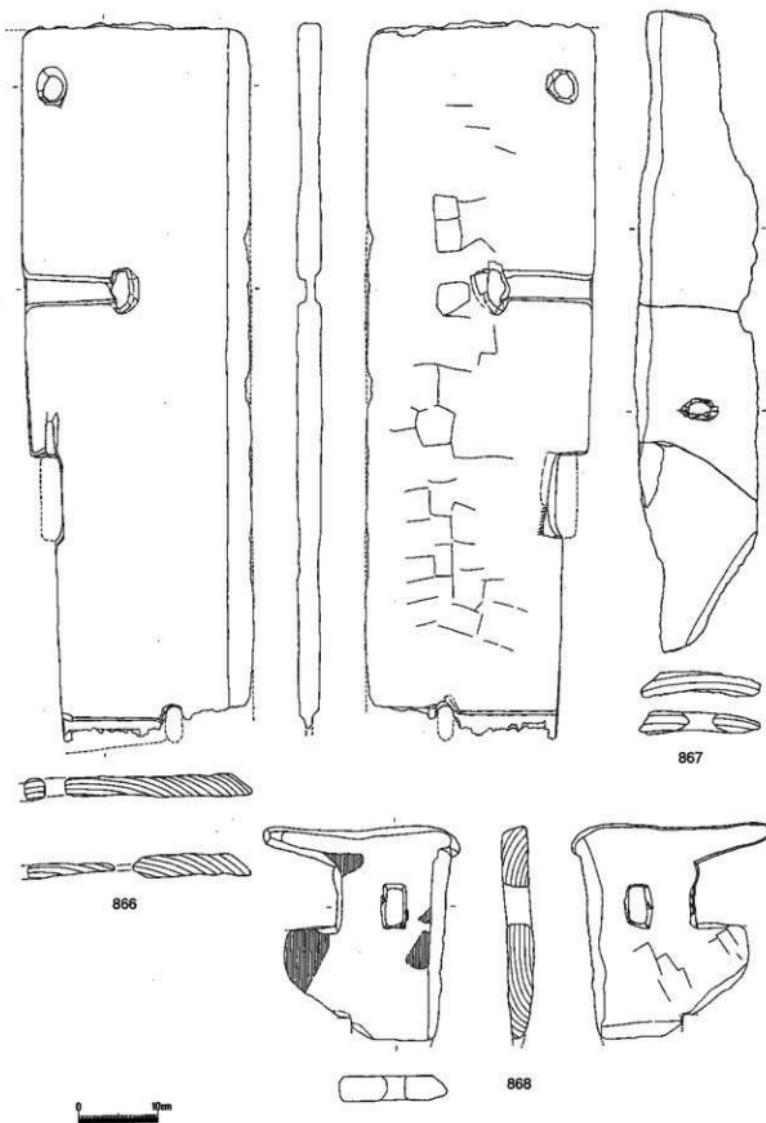
876は長さ80cm以上幅9cm以上の板目材で、不整方形孔が1つある。全体的に炭化していて、残存長80.4cm幅9.4cm厚さ2.3cmである。877は厚さ1.7cmの板目材に2.5×5cmほどの方形孔が3つあけられている。残存長60.2cm幅13.8cmである。878は厚さ1.6cmの柾目材で、方形孔が5つあけられているが特に規則性は認められない。残存長39.3cm幅9.5cm。879は厚さ2cm幅12.9cmの柾目材で、方形孔が3箇所あけられている。小口面は一端は平坦で他端は両面から切断されており、材の転用がはかられたとみられる。全長38.8cm。880は中央に6.5×2.3cmの方形孔がある。板目材で、残存長27.2cm幅12cm厚さ2.2cmである。881は幅6.3cm厚さ1cmの柾目板の角に1cm角の方形孔が1つあけられている。長さ34.8cmが残存する。882は両端が方形孔の部分で折れている。他に方形孔1つと方形の削り込みが1ある。板目材で、残存長42.8cm幅9.8cm厚さ1.5cmである。883は幅9.1cm厚さ8mmの柾目板に円孔4つと非貫通孔1つを施している。残存長は52.8cmである。

884は長辺の一方を長さ121cm幅5cm以上にわたり長いC字状に削り込んでいる。4×6.5cmの方形孔が1つ、2～3cmの方形孔が4つあって、表裏とも加工痕が観察されるが、表面の凹凸が著しく各々の単位を読みとりにくい。板目材で、全長205.3cm幅21.9cm厚さ2.5cmである。885は一端が幅9cm長さ8.5cm以上の方形孔の部分で折れている。887は小口側に幅11cmを厚さ1cmに薄く加工して段を設けている。方形孔は段の中央小口よりに1つと他に2つつけられている。板目材で、残存長53.1cm幅9cm厚さ1.5cmである。888はほぼ中軸に近く小口部分に寄せて方形孔を2つあけている。板目材で残存長40.9cm幅13.5cm厚さ1.6cmである。899は小口部分に設けられた5cm四方の方形孔で折れている。

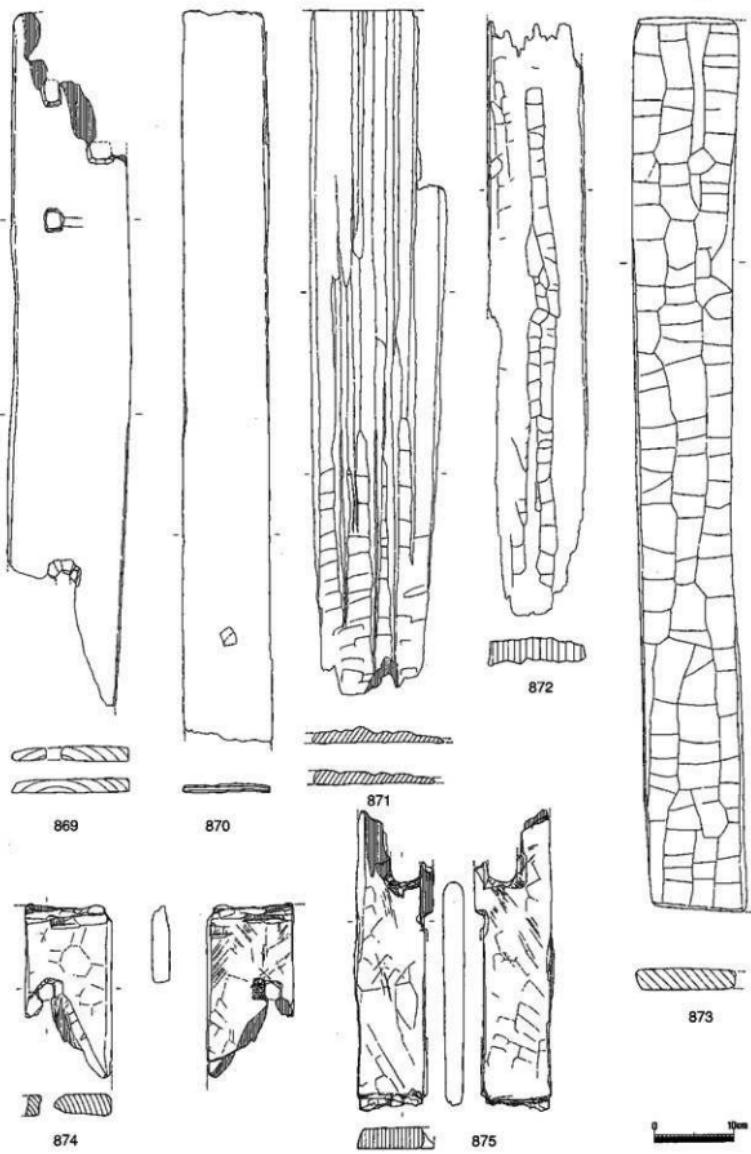
890は長さ107.5cm幅12cm厚さ1.2cmの柾目材で、不整円孔が2つあけられている。891は一端を長軸



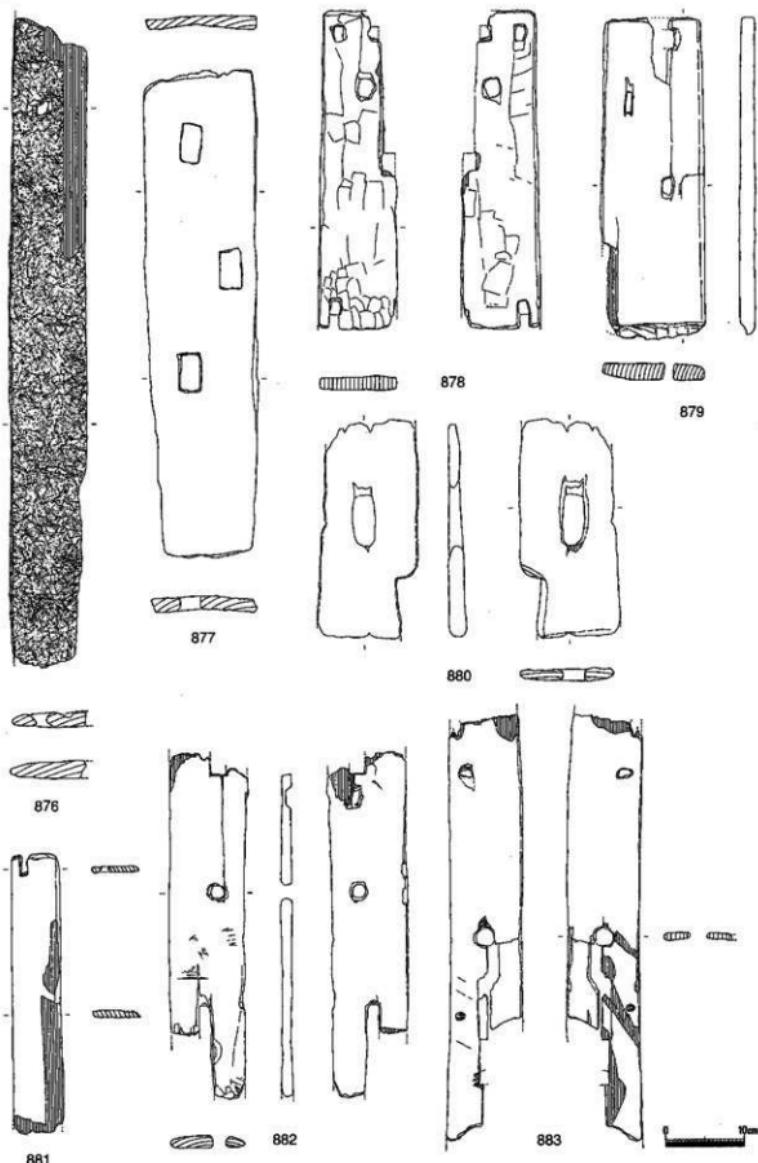
第140図 建築部材(10)



第141図 建築部材(11)



第142図 建築部材(12)

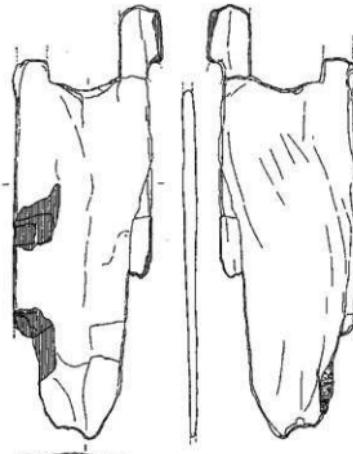


第143図 建築部材(13)

13. 建築部材



884



885

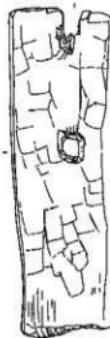
886



887



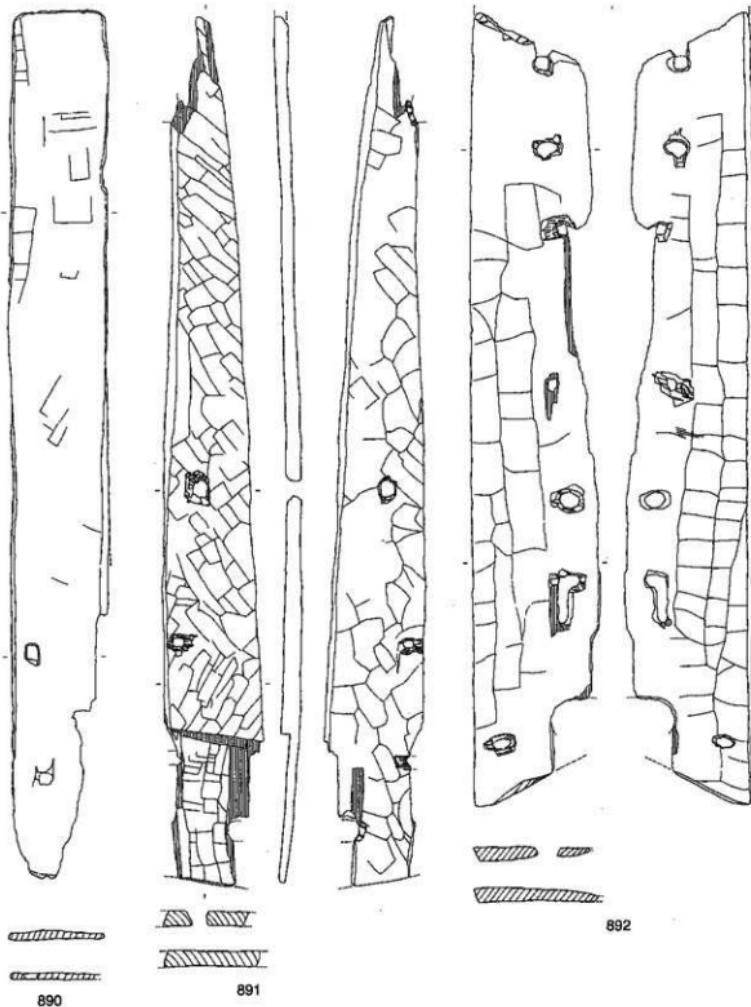
888



889



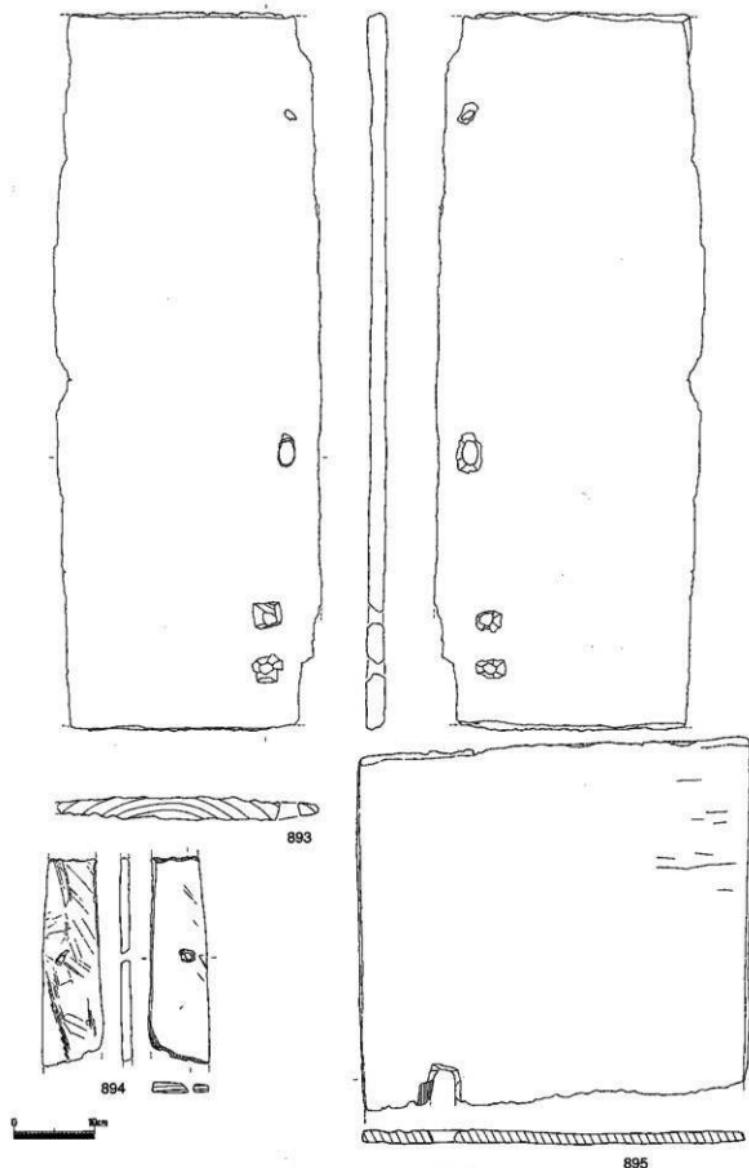
第144図 建築部材 (14)



第145図 建築部材(15)



13. 建築部材



第146図 建築部材(16)

方向に対し、幅18cmで斜めに段切りしている。段の中央部分に円孔が1つと、ほかに方形孔が5箇所にあけられている。表裏とも加工痕が顕著に残っている。樹心に近いところまで利用した柾目材で、残存長107.5cm幅12.1cm厚さ2.1cmである。892は一方の小門を斜めに切り落としている。残りの悪い長辺に沿って円孔が5、L字孔1、楕円孔1があけられ、鋭角の角にも1つ円孔があけられている。表裏両面とも3~4cm程度の加工痕が残るが、表面の早材と晩材の遺存の差が顕著なので、加工痕の横端が早材部に当たると読みとれない。板目材で残存長98.2cm幅15.6cm厚さ1.9cmである。893は全長88.9cm幅28cm厚さ2.6cmの大形の板目材で、長辺沿いに楕円孔2つと方形孔2つがある。方形孔2つで隣の板との接合を補助する棒を緊縛するとみられる。895も方形孔を持つ長さ44cm幅43cm厚さ1.5cmの大形の板目材で、元は長い板を切断している。

### 垂木

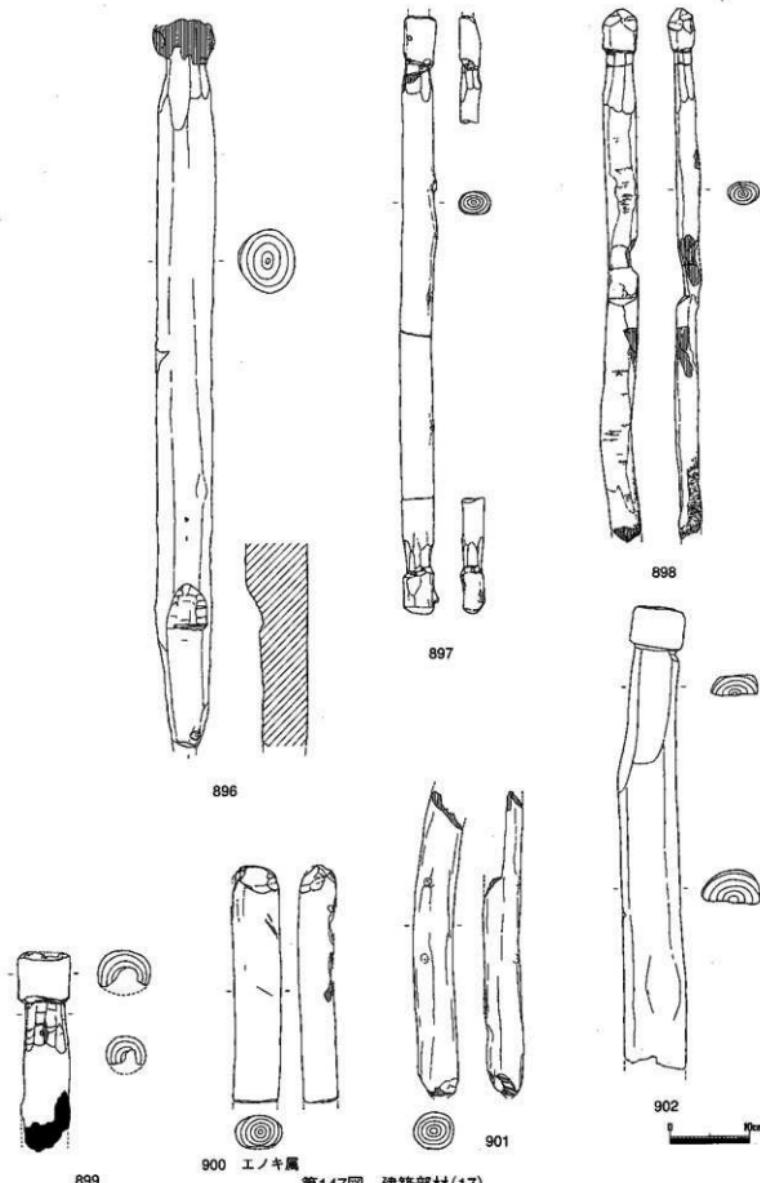
896~919は棒状・有頭棒状のものの内、特に長いもの太いものを垂木として取り扱った。平面方形の頭部を持って、鉛筆を削るようにしてその塊をついているものが多い。表面の加工痕が顕著で、丁寧に仕上げられている910・911・912・916・917などは垂木以外の製品の可能性もある。

896は直径7.8cmの心持ち材を使い、平面方形の頭部を作っている。頭部から75cmのところにレの字形の加工を施していて、一部に炭化がみられる。残存長90.2cm。897は直径4.9cmの心持ち材を使い、一端は頭部状の加工の部分で折れている。長さ74cm。898は直径3.8cmの心持ち材を使っていて一部に樹皮が残る。残存長65.7cm。899は直径6.6cmの心持ち材で、大きめの方形頭部を持つ。一端は焼損している。900は端部に頭部を作らず丸く収めている。直径5.8cmでエノキ属の心持ち材。902は直径7.7cmの心持ち材を使っていて、長さ5cmの頭部を持つ。現状では半裁されている。残存長57.2cm。

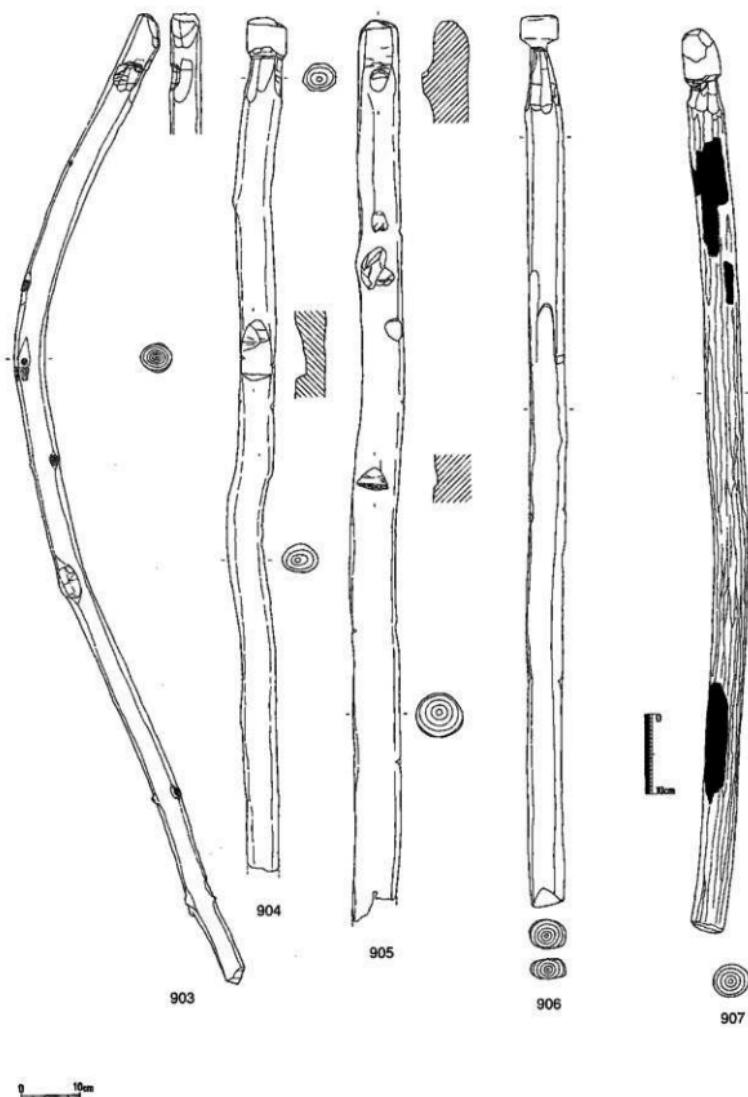
903は直径5.3cm全長161.4cmの心持ち材で、弓なりに湾曲している。一端にレの字形の欠込がある。904は直径6.6cm残存長141.7cmの心持ち材で、頭部から60cmのところに長さ10cm幅6cm深さ1.8cmのレの字状の欠込がある。905は900と同じく頭部を作らない。直径7.7cmの心持ち材で、端部から8cmまで幅4.5cmほどで平坦にしている。小さなレの字状の切れ込みを4箇所施す。残存長149.5cm。906は直径6.1cmの心持ち材で、一端はレの字形の欠込部分で折損している。残存長143.1cm。907は卵形の頭部を持つ。長軸方向の細かい加工痕が全体に残っているが、一部に樹皮がついている。直径5.5cmの心持ち材で、残存長112cmである。908は直径2.9cmの心持ち材で、半裁されている。残存長225.1cm。909は直径5.3cmの心持ち材で、端部付近には加工がみられるが、枝の根元は未加工である。残存長115.9cm。910は直径3.6cmの心持ち材で、全面に長軸方向の細い加工痕が顕著に残っている。残存長122.5cm。

911は長三角形の頭部を持っていて、頭部側を長さ25cmにわたり平坦加工を施す。反対側の端部は繩かけ状の部分で折損している。表面の加工は丁寧で、長軸方向の幅の狭い加工痕が顕著である。直径3.8cmの心持ち材で、残存長86.2cmである。912は直径2.7cm長さ125.1cmの心持ち材を、一端は球形の頭部をつくり、他端は鉛筆状に尖らせている。913は直径4.5cmの心持ち材の一端をやや細く加工していて、加工痕がよく残っている。残存長70.8cm。914は直径6.8cm、915は直径5cm。916は直径4.2cmの心持ち材で、端部に向かいやや細く削っている。加工痕は顕著に残っていて、残存長117.7cmである。917は長さ約119cm直径3.8cmで、表面には細長い加工痕が顕著にみられる。919は900・905と同様に一端を丸く加工している。直径5.85cm。

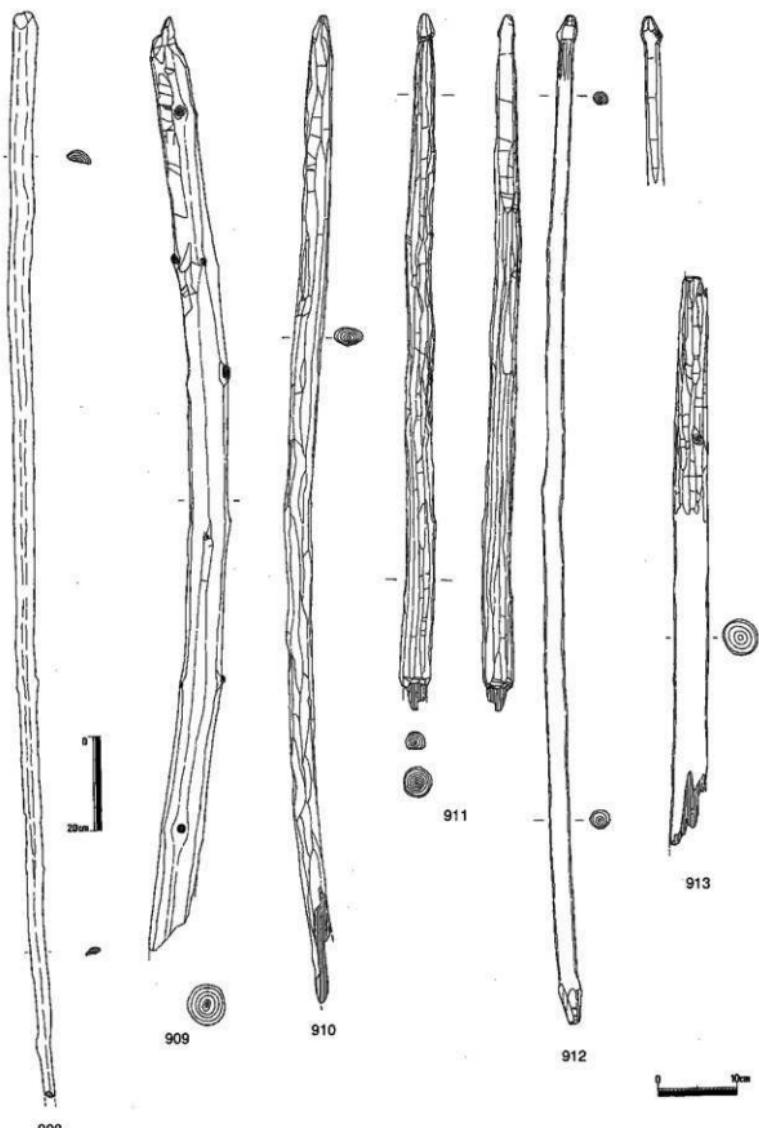
13. 建築部材



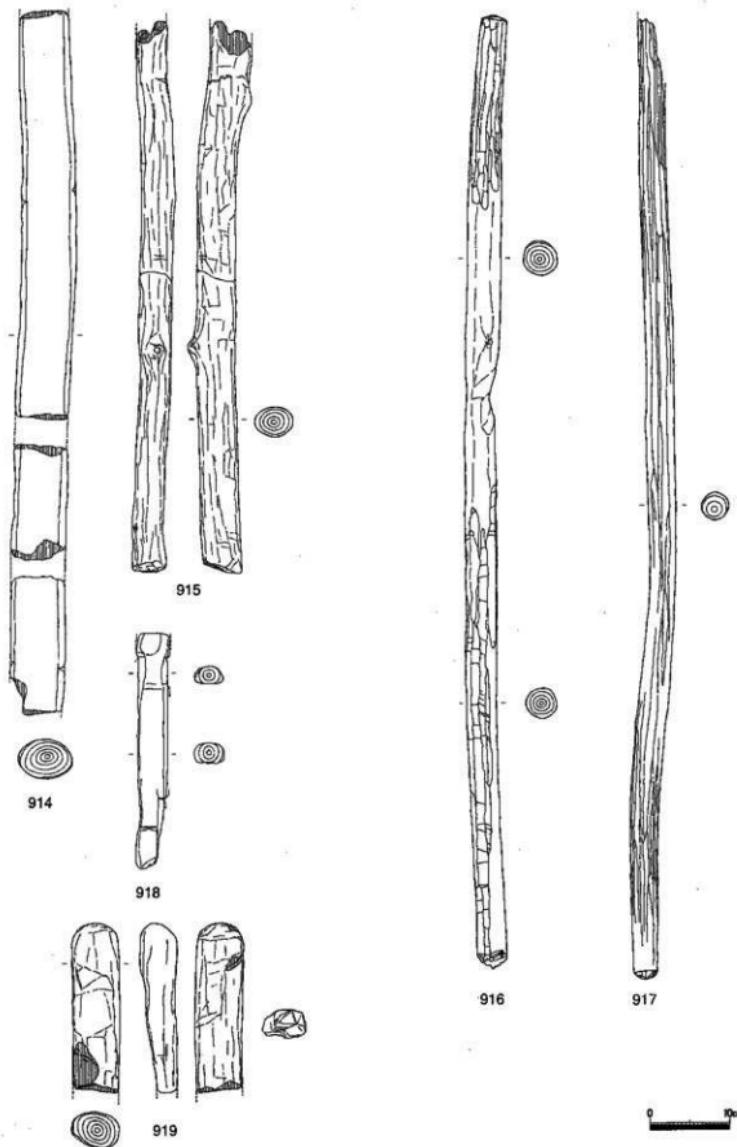
第147図 建築部材(17)



第148図 建築部材(18)



第149図 建築部材(19)



第150図 建築部材(20)

## 栓

920～939は平面方形の基部に長方形の組合せ部が付いていて、組合せ部には1ないし2のはぞ穴をあけている。心持ち材を使うもの割材を使うものの双方があって、小さな栓は建築物だけでなく器具にも用いられたと考えられるが、大きさでは区別が付かない。組合せ部の長さは小形品を除くと11～16cmで、はぞ孔の大きさや数とは無関係である。

920は割材を使ったほぼ完形品で、組合せ部にはほぼ3.5cm四方のはぞ孔が2つあけられている。全長20.25cmで、組合せ部は長さ13cm幅6cmである。921は8.6×5cmの基部に16×5.6cmの組合せ部が付く。3.2×2.6cmのはぞ孔は組合せ部のほぼ中央にある。半裁材を使い、全長20.4cmである。922は平面方形の基部に先端を尖らせた組合せ部がつき、はぞ孔は1cm四方と1×2.2cmの2つである。心持ち材を使った完形品で、全長17.0cm、組合せ部の長さ11cm幅4cmである。923は組合せ部の破片で、6.5×3.2cmの方形のはぞ孔がある。柾目材で、残存長13.6cm幅6.3cm厚さ2.6cmである。924はオニグルミの心持ち材製で、10.3×4.7cmの基部に15.7×6.7cmの組合せ部がつく。基部は土圧により少しづぶれている。組合せ部の中央やや先端よりもには3.2×2.8cmのはぞ孔がある。全長22.9cm。925は割材を使っていてはぞ孔で折れている。926は栓の基部を落としたもので、3.7×1.8cmのはぞ孔を持つ。全長10cm幅3.5cm厚さ2.6cm。

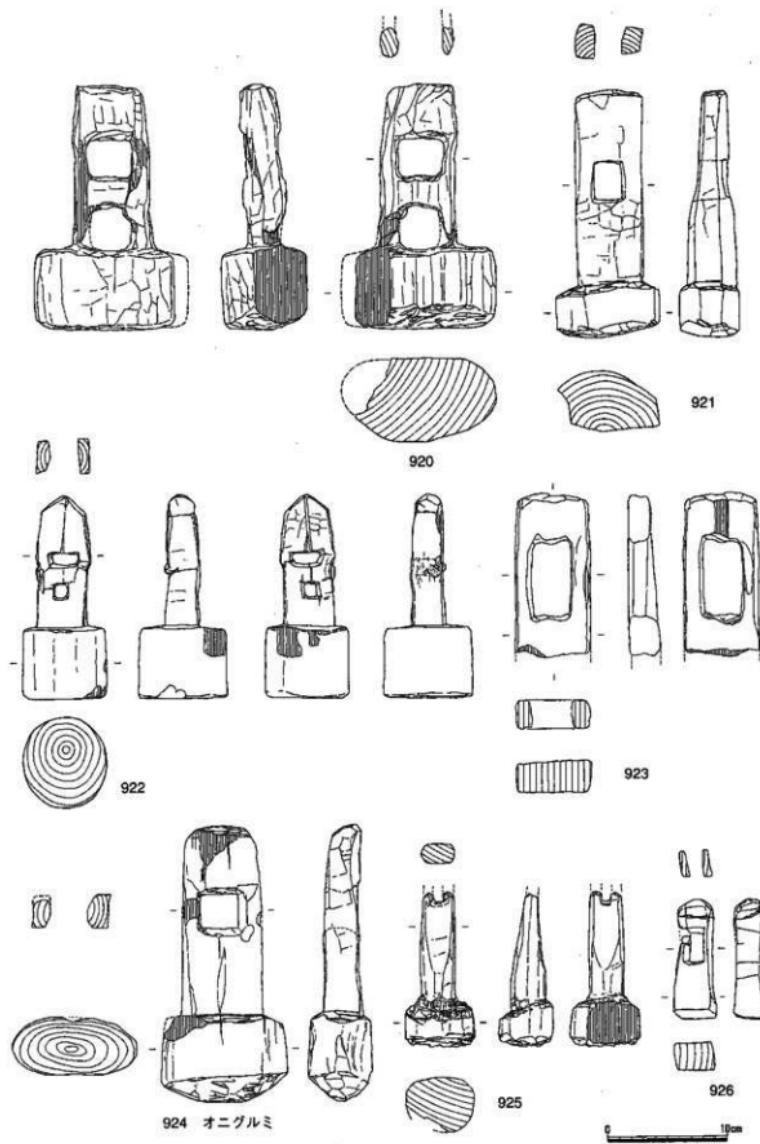
927は小さく方形の基部に長さ15.5cm幅4.6cm厚さ2.5cmの組合せ部がつく。基部と組合せ部の境はやや不明瞭。はぞ孔は3×1.5cmの方形。割材を使っていて全長18.5cmである。928は心持ち材を使った全長19.2cmの完形品で、方形の基部に長さ13cm幅3.7cmの組合せ部がつく。はぞ孔の大きさは1.7cm四方である。929は割材を使った全長17.6cmの完形品で、隅丸方形の基部に断面方形の組合せ部が付く。組合せ部中央付近には2×2.5cmのはぞ孔が1つある。930は基部が1/4ほど欠損している。組合せ部の先端幅1/3の所に2×2.5cmのはぞ孔を持つ。半裁材を使い、全長19.6cmである。931は組合せ部がはぞ孔部分で欠損している。はぞ孔から基部までが11cmあって特に長い。932は組合せ部にははぞ孔がない。933・935ははぞ孔の部分で折れている。934は割材を使った全長9.3cmの小形品で、組合せ部先端をやや欠く。1.2cm四方のはぞ孔を持つ。938・939は組合せ部の破片で、はぞ孔は938が1.3×2cm、939が1.5cm四方である。

## 不明部材

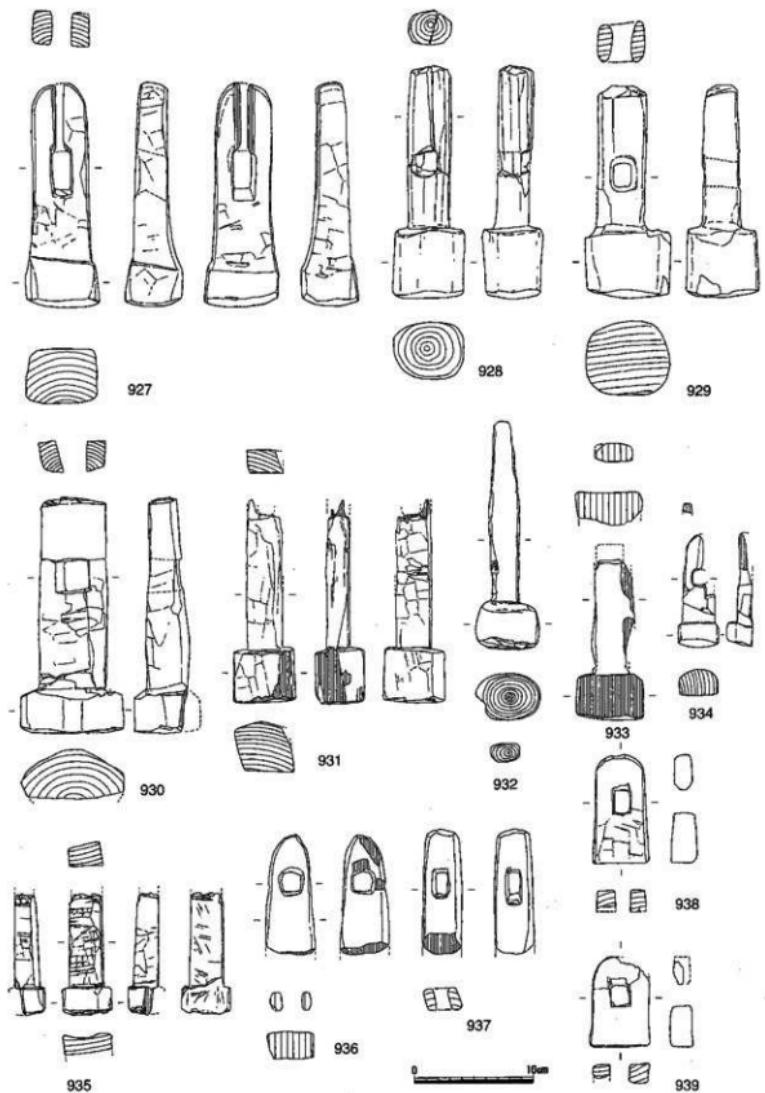
940～975は使用部位の特定できない建築材・施設材およびそれらの可能性のある加工品である。

940～942は巨大な栓状の木製品だが、どれにも組合せ部にはぞ孔をあけていない点が異なる。941・942では結合部が細長い点も異なっている。掛矢の可能性もあるが、その場合でも握部としては細い。はぞを持った建築部材が転用のため切り捨てられた部分の可能性もある。ただ、その場合でも942は基部平面形が台形をしていて当てはまらないようにも思える。部分名称は栓に準じて用いることとする。940は完形品で、基部の平面形は方形をしていて組合せ部にはぞ孔を持たない。全長35.8cm組合せ部の長さ23cm幅8cm厚さ6.5cm、基部は直径14.5cm。941の組合せ部は長さ22.5cmで直接は接合しない。幅は2.5cmで、残存長44cm。942の組合せ部は断面2cm四方で長さ21.5cm。全長は45cmである。

943は分枝部分に2.5×1.8×0.5cmの欠込があって、795の竿受けと似た点もあるが、繩かけが施されていないので別の用途として使われたと思われる。全長80.3cm直径4.4cmである。944は又部をコの字形に又繰り加工している。一方の枝は短く偏球形の頭部を持つ。幹の直径が3.7cmと細く大きく曲



第151図 建築部材(21)



第152図 建築部材(22)

がっていることから、建物ではなく何らかの施設材として用いられたとみられる。残存長99.8cm。945は細長い心持ち材の一端を断面方形に削ってほど加工を施し中央に方形のほど穴をあけている。

946は板目材で樹心側に湾曲している。方形孔が角に1つあって、残存長52.3cm幅15.3cm厚さ3.1cmである。947も946と同様に樹心側に湾曲した板目材で、小さな方形孔や傷が見られる。残存長62.3cm幅17.3cm厚さ2.1cmである。948は全長48.5cm幅29cm厚さ3.9cmのはば完形の板材で、長軸方向には中央で山形となり短軸方向は長三角形の断面形である。949は粗い方形孔を持ち、一方の小口には両面からの切断痕が残る。柾目材で、全長25.9cm幅11.6cm厚さ2.1cmである。950は残存長27.5cm幅15.5cm厚さ2cmの柾目板。951は栓に形状が似るが、ほど孔がなく栓でいう組合せ部が41cmと長い。また、基部と組合せ部は約75度の角度を持つ。割材を使い全長67.9cmである。

952は全長99.9cm幅9cm厚さ5.9cmの柾目材で、側面中央にレの字状の欠込がある。953にもレの字状の欠込があるが、こちらは上面の小口から1/3の所に長さ11cmで施されている。板目材で、全長75.1cm幅12.9cm厚さ4.9cmである。954はほぼ完形品で、半月形の長辺中央に不整円孔が1つあけられている。板目材で全長31.2cm幅13.4cm厚さ1.8cmである。955には長さ21cm幅4cmの長楕円形の貫孔がある。半裁材で、残存長39.5cm幅12.8cm厚さ4.7cmである。

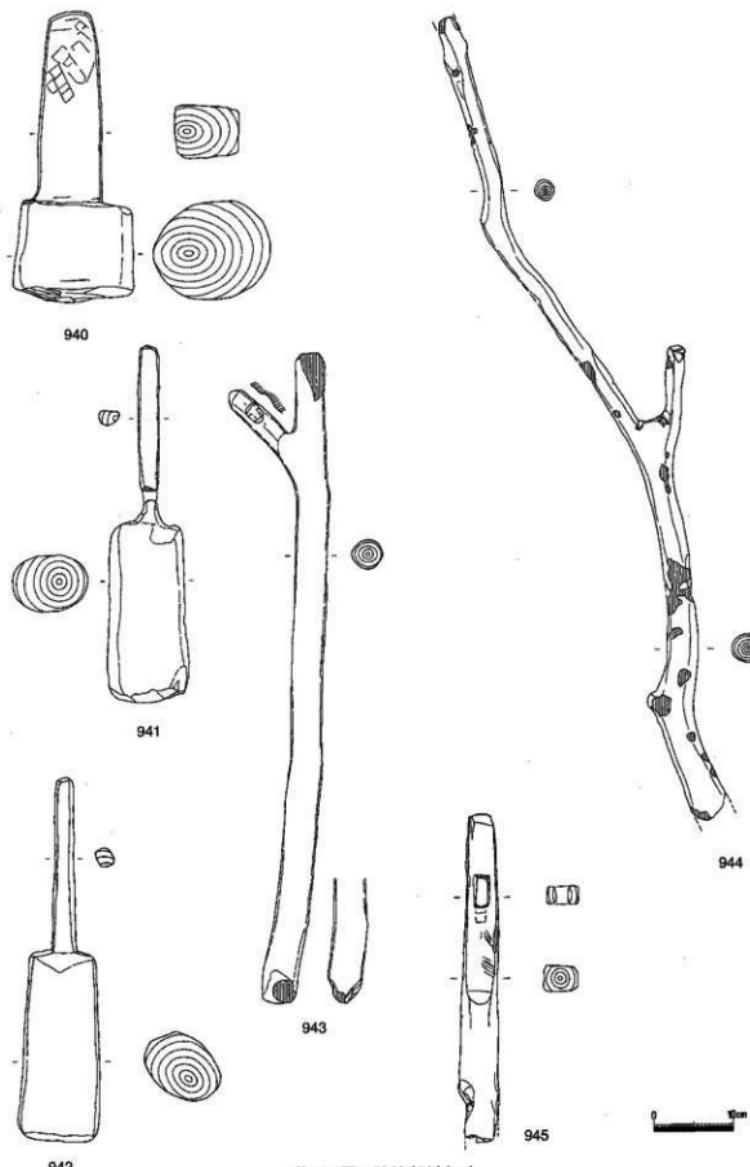
956ははしごにたとえると足かけの上部に円形のくぼみ加工がある。半裁材で残存長60.7cm幅6.5cm厚さ9cmである。957は樹心側の面を中心として長軸方向に段を作り、横断面形がL字状を呈する。半裁材で、全長72cm幅11.9cm厚さ6.2cmである。958・960は切断丸太材で両端に切断痕が残る。958は直径21.7cm、960は直径20cmである。959は柾目材だが、樹心をさけた1/4分割材に近い。表面は全体に炭化していて横格子未成品の可能性もある。残存長36.8cm幅16.9cm厚さ18.8cmである。

961は直径2.8cmの心持ち材で、残存長127.4cmがある。切断痕の残る端部は約17cmほどにわたって炭化し、その部分には加工痕が残る。962は一端を切断しているが、枝が根元から残っているなど加工が粗い。心持ち材で直径2.7cm残存長103cm。963は直径5.5cmの柾目材を使っていて、全長102.7cmの完形品である。両端に半球形ないし方形の頭部がつく。長軸方向に幅の狭い加工痕が顕著に残っている。964は全長108.8cm直径4.3cmの完形品で、一端に向け徐々に細くなる。全体に加工痕が顕著である。心持ち材である。965は板目の細い割材で、残存長113.3cm幅2cm厚さ2.7cmである。966は直径6.3cmの心持ち材で端部付近を面取りしている。頭部を持たない垂木材に似る。残存長85.7cm。967は直径3.7cmの心持ち材で、一部に樹皮が残っている。残存長75.9cm。968は上面に6.8×4.3×1.7cmの欠込を施している。直径8.2cmの心持ち材で、残存長27.6cmである。

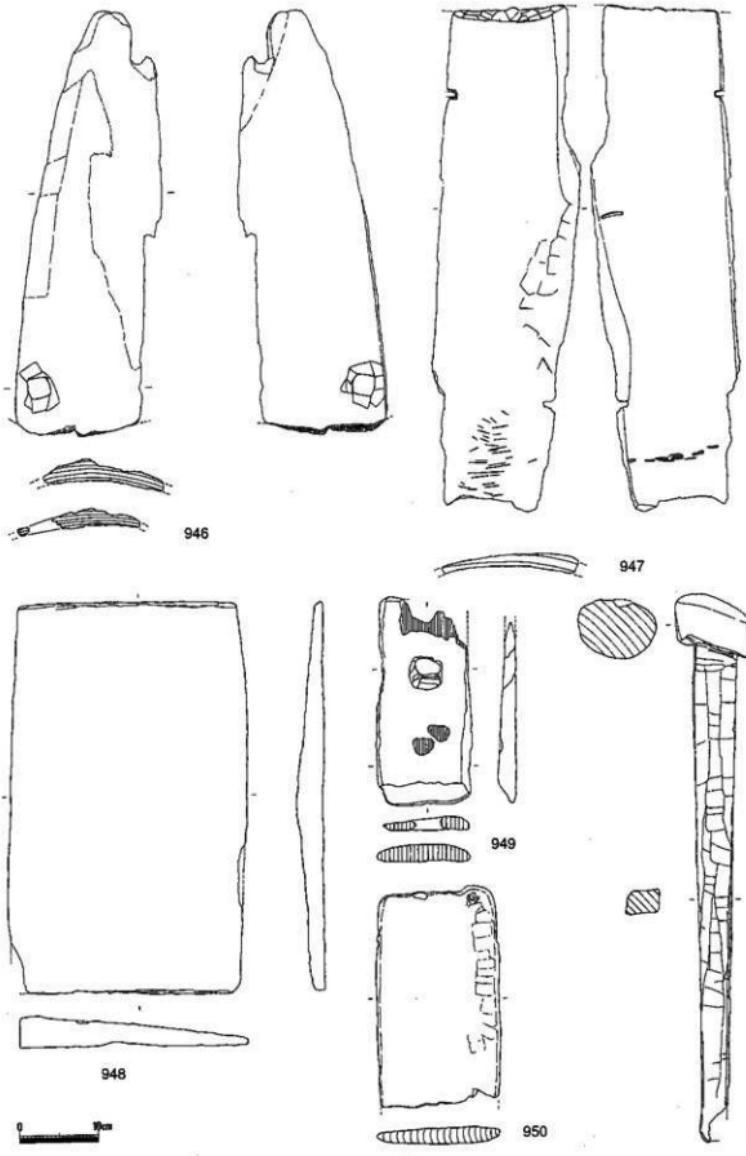
969・972・973は心持ち材を使って、両端を残し中央部分を薄く削りこんでいる。969・972では中央の削り込み部分に稜を持たせている。端部の裏面に方形の浅い穴を彫っていて、969では両端に973では一方にある。969は直径15.7cmの心持ち材を使っていて、全体に炭化している。全長95.8cm。972は長さ104.8cm直径16cmの心持ち材を使っている。973は中央の削り込みを縱断面かまほこ形に行っていて、969・972がコの字形に行うのと異なっている。一部に炭化がみられる。直径13.7cmの心持ち材を用いていて長さ93.5cmである。

970はクスノキの心持ち材を使った完形品。32.8×4.5cmの方形孔と1側部に25×0.7cmの細長い孔を持つ。全長49.1cm幅8.9cm厚さ5.2cmである。971はケヤキの柾目材の中央に幅8cm長さ5cm以上の方形の彫り込みを行う。一端を焼損していて残存長20.4cm幅10.3cm厚さ5.9cmである。974は直径4.7cmの心持ち材を使っていて、断面方形の棒状部分に頭部をつけている。975は3.7×2.6cmの方形孔と、長軸

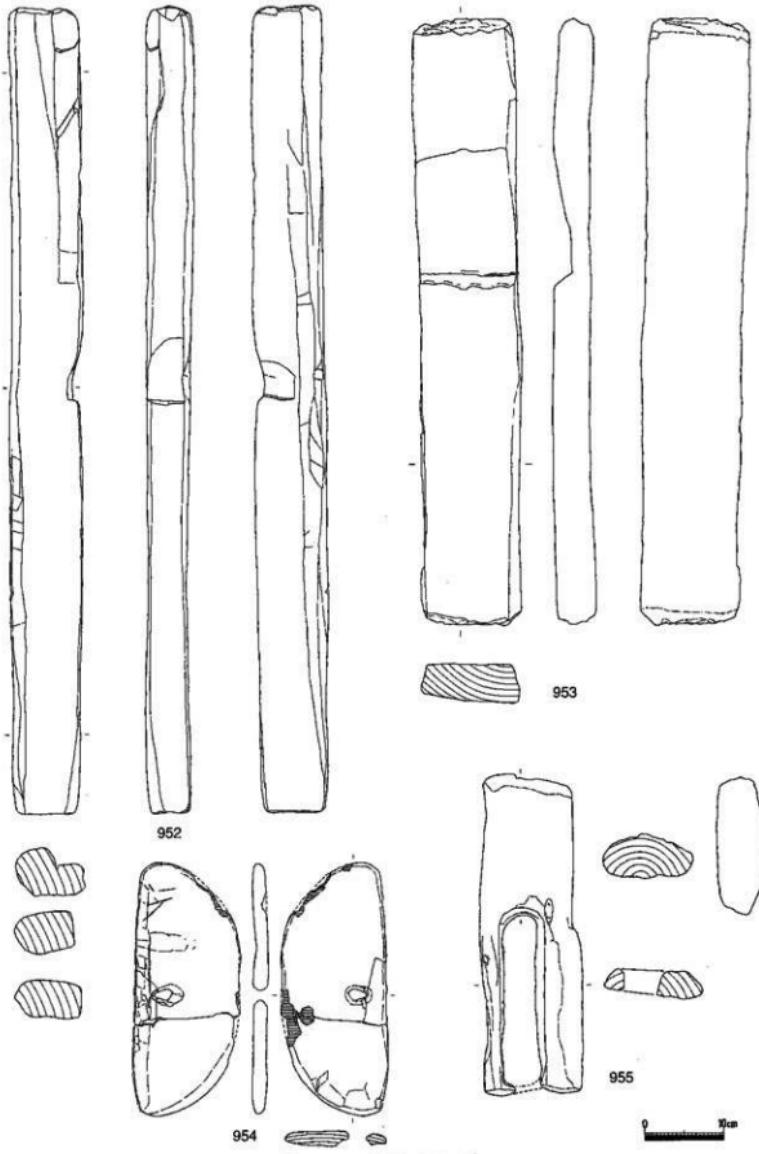
13. 建築部材



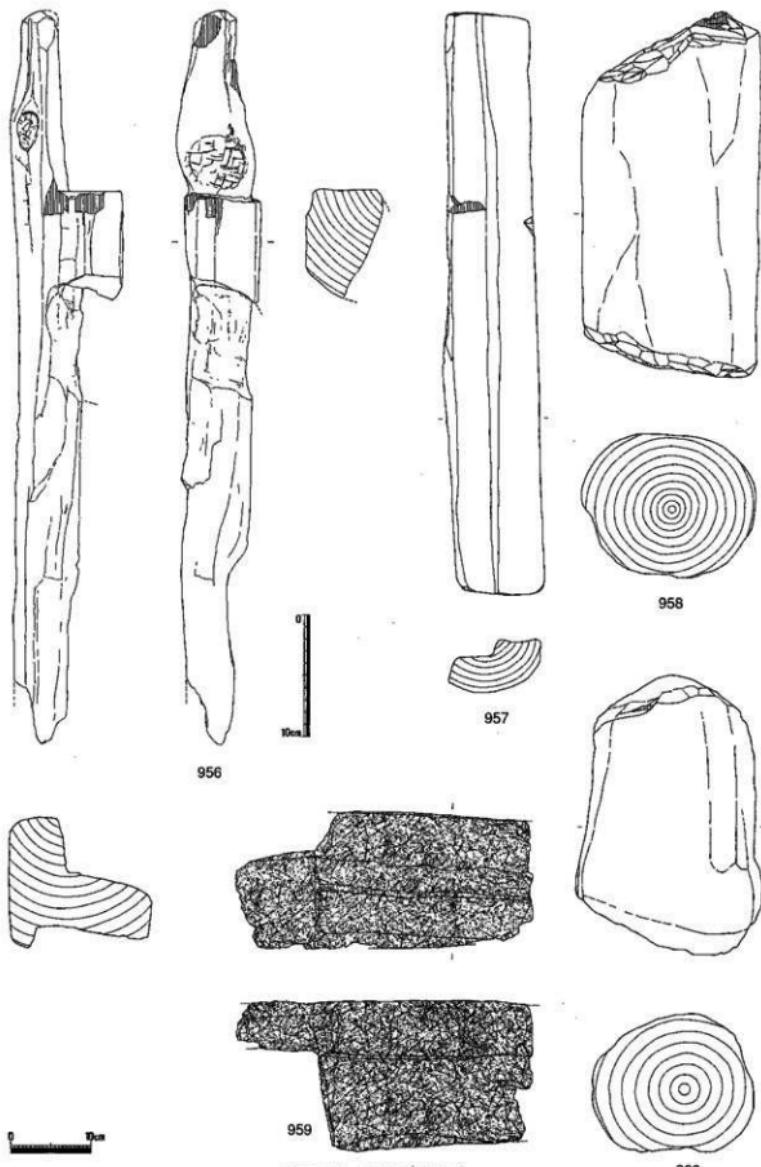
第153図 建築部材(23)



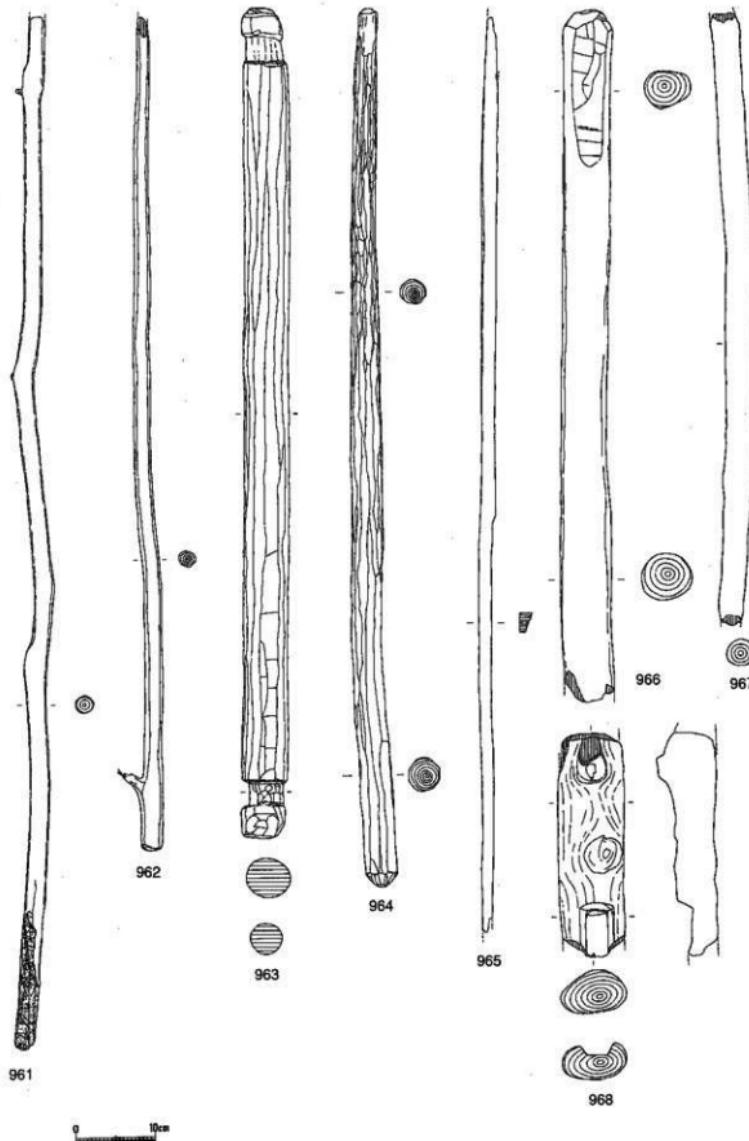
第154図 建築部材(24)



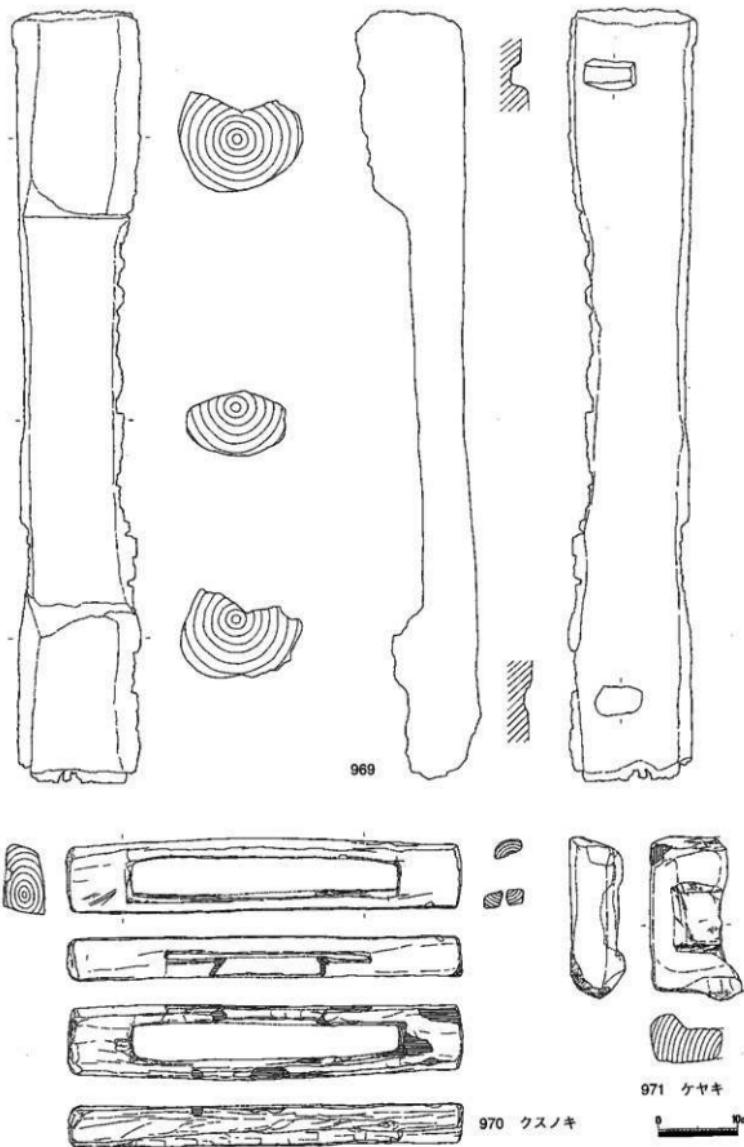
第155図 建築部材(25)



第156図 建築部材(26)



第157図 建築部材(27)



第158図 建築部材(28)

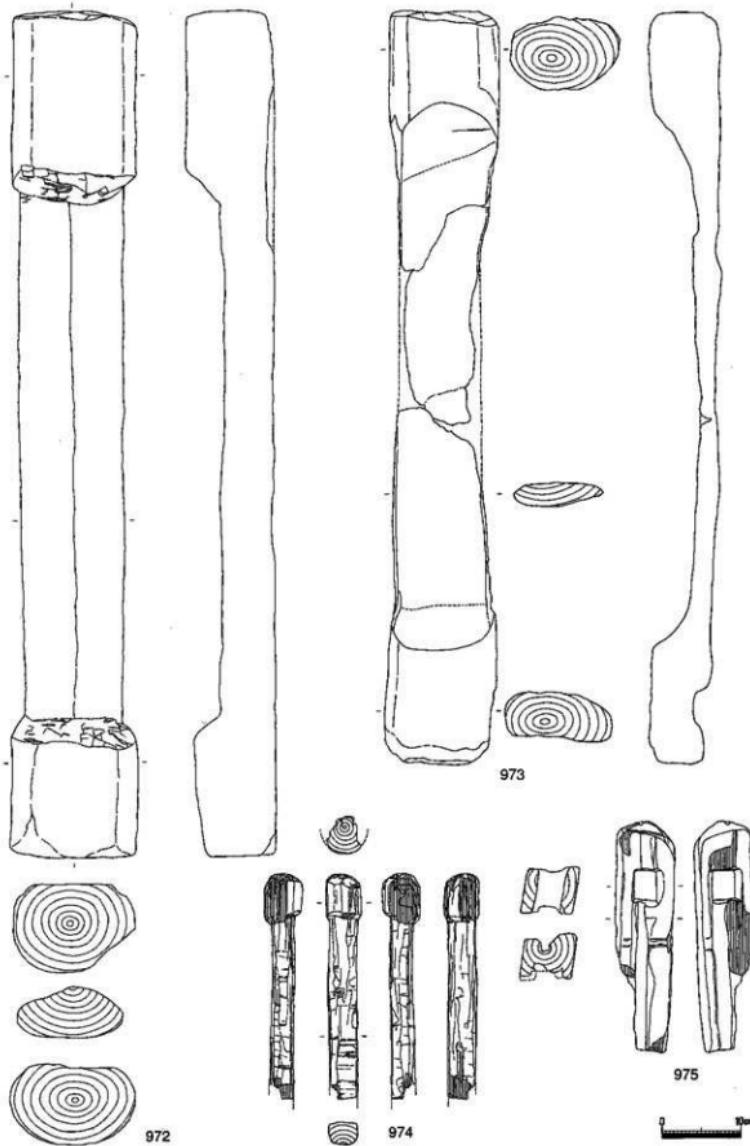
### 13. 建築部材

に沿って方形孔に連なる溝・方形孔の下5cmに横方向の溝を表裏両面に持つ。心持ち材で、残存長28.4cm幅7.1cm厚さ5.4cmである。

976～1013は板材である。976はミカン割材である。977は断面がミカン割材の樹心側を取った形。978は幅8.6cm厚さ1.7cmの板目材。980は幅4.1cm厚さ1.5cmの柾目材で、一端を薄く加工している。981は幅5.3cm厚さ1.8cmの板目材で、長さ63.8cmが残存している。982は柾目板の分割品で、一部炭化している。残存長87.5cm幅3.7cm厚さ1.5cm。983は幅2.9cm厚さ1.8cmの矢板状の形をしていて、板目材の一端を側面から尖らさせている。残存長は59.2cm。984は幅14.1cm厚さ5.9cmの柾目材で、炭化が著しい。987は幅15.2cm厚さ7.3cmの板目の角材で、一部炭化している。990は幅18.4cm厚さ6.7cmの板目材で側面にも加工痕がある。

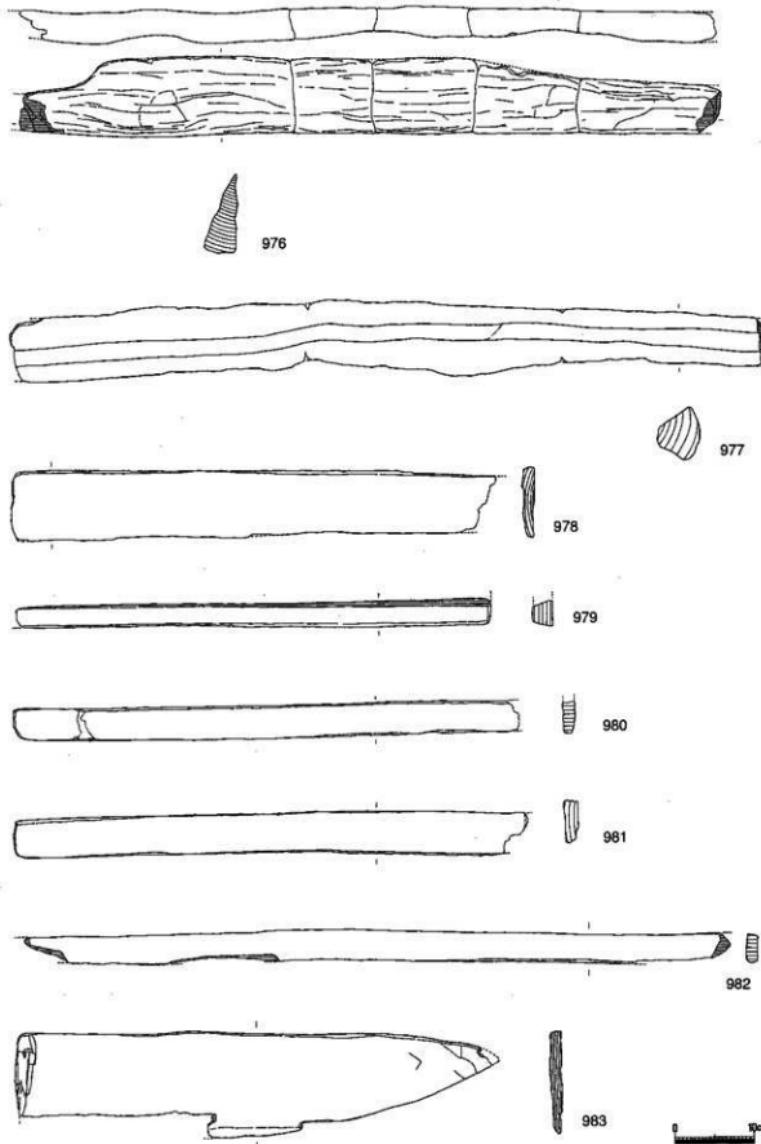
994は厚さ1.8cmの板目材で、表面を平滑にしている段階である。1003は残存長77.3cm幅21cm厚さ3.3cmの柾目材で、表裏ともに加工痕が観察されて全体に炭化している。1010は全長108cm幅15cm以上、厚さ2.4cmの柾目材で、表裏とも幅4cm程度の加工痕跡が見える。1011は幅14cm厚さ2.4cmの板目材で、表面を平滑にしている段階。残存長は86.4cmである。1012は幅13.9cm厚さ1.5cmの板目材で、長さは92.6cmが残存している。1013は一端が細くなって先端を折損。広い方の小口をほぞ状に削りだしていく、細長い戈形をしている。板目材で、残存長79.4cm幅11.6cm厚さ6.2cmである。

1014～1021は残材状のものである。1014には長辺沿いに幅6mm深さ1.3cmの溝がある。1016は一端の幅を狭くし側面をなで肩状に加工する。1017は長辺沿いに長さ13cm幅3cm高さ1.5cmの突起がある。一端から5cmの所を両面から切断しあけている。これと共に突起の角が斜めに削り落とされている。1018は完成品。5角形の頂部に横長の長方形の頭部を作る。1020は1面中央部に7条の線刻がある。



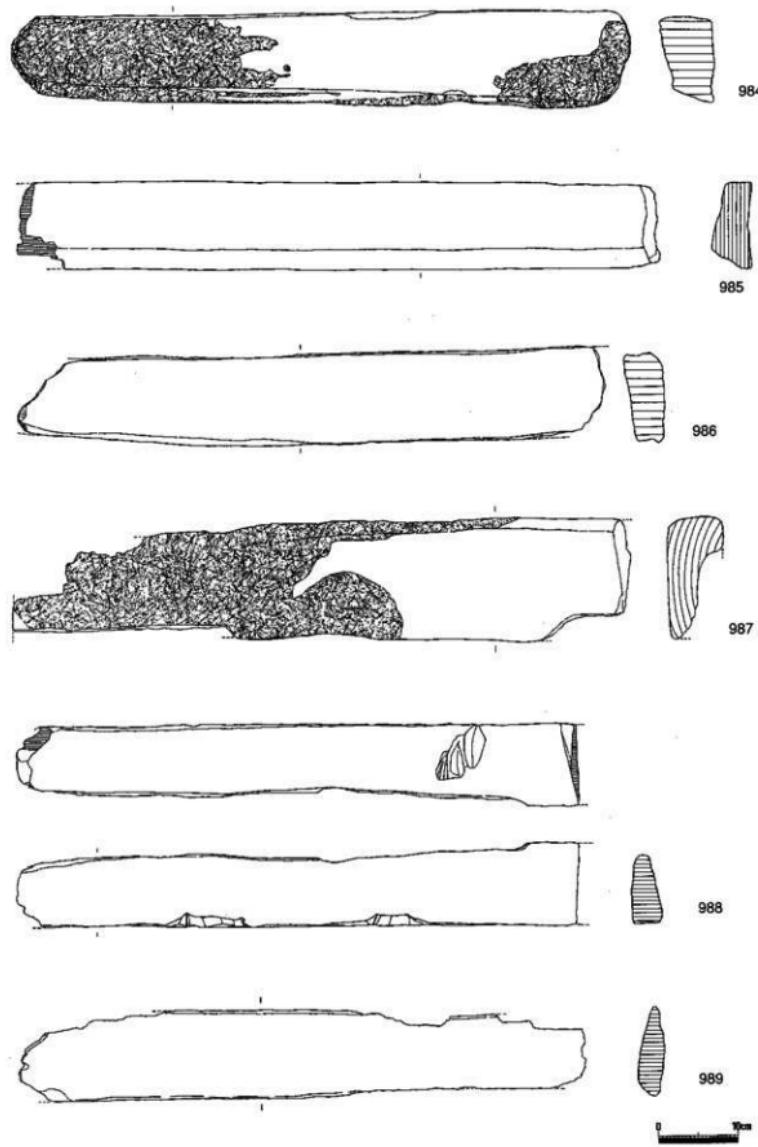
第159図 建築部材(29)

13. 建築部材



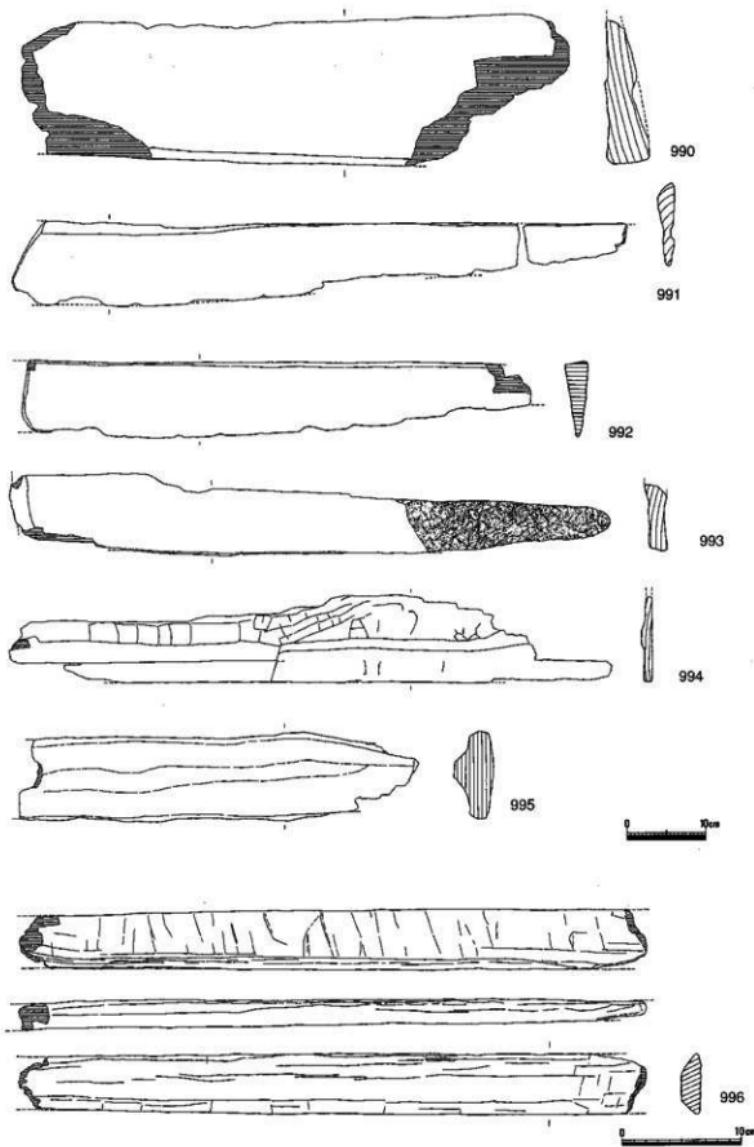
第160図 建築部材(30)

13. 建築部材

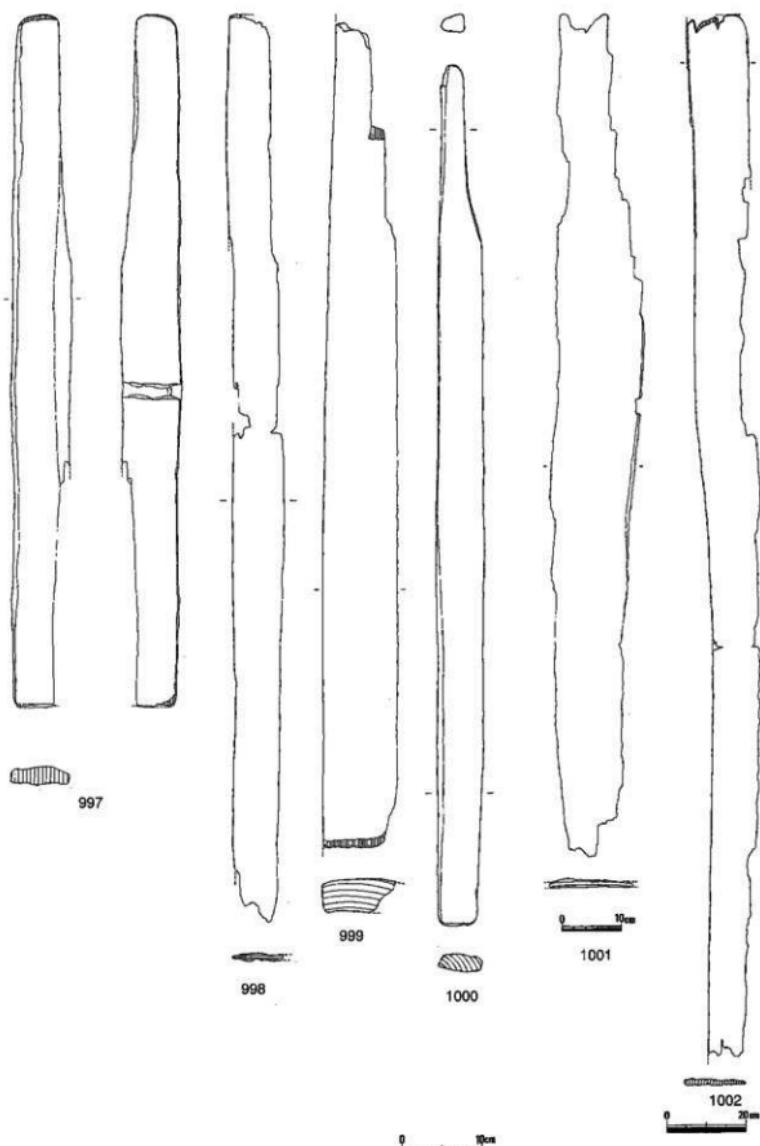


第161図 建築部材(31)

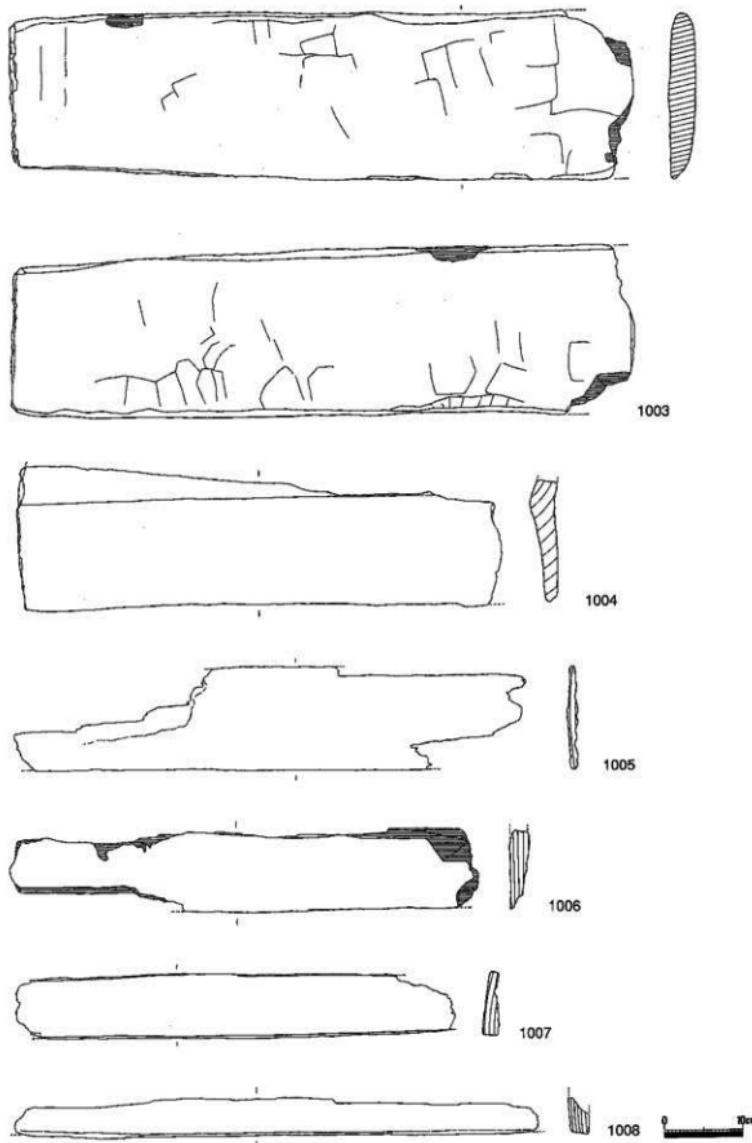
13. 建築部材



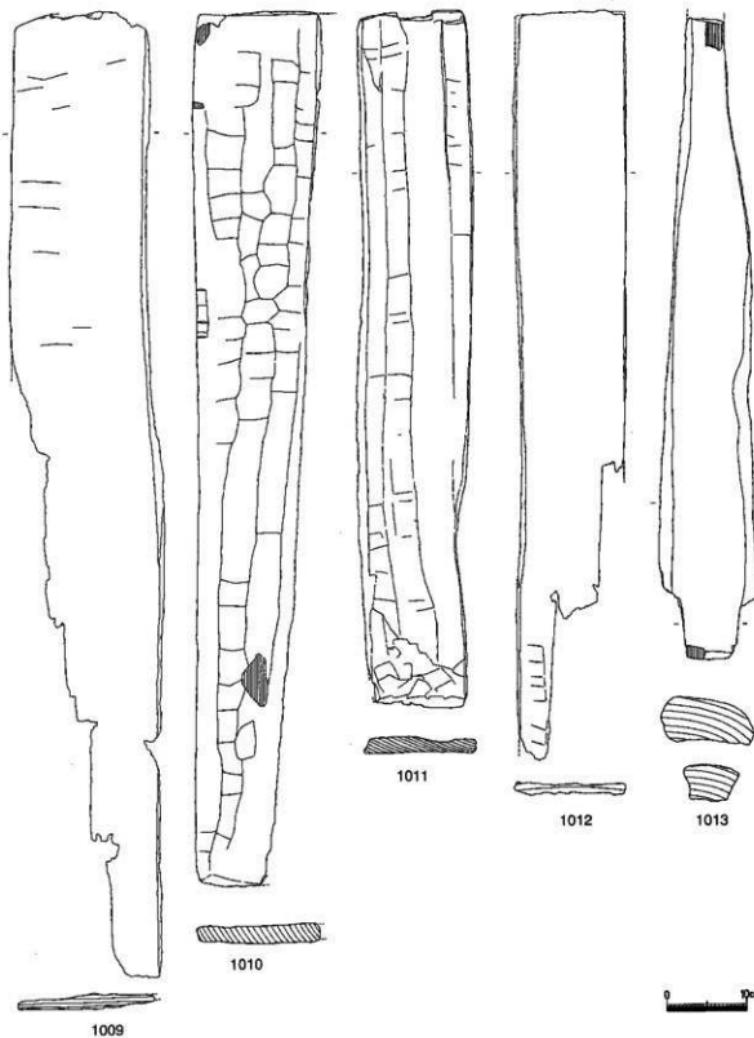
第162図 建築部材(32)



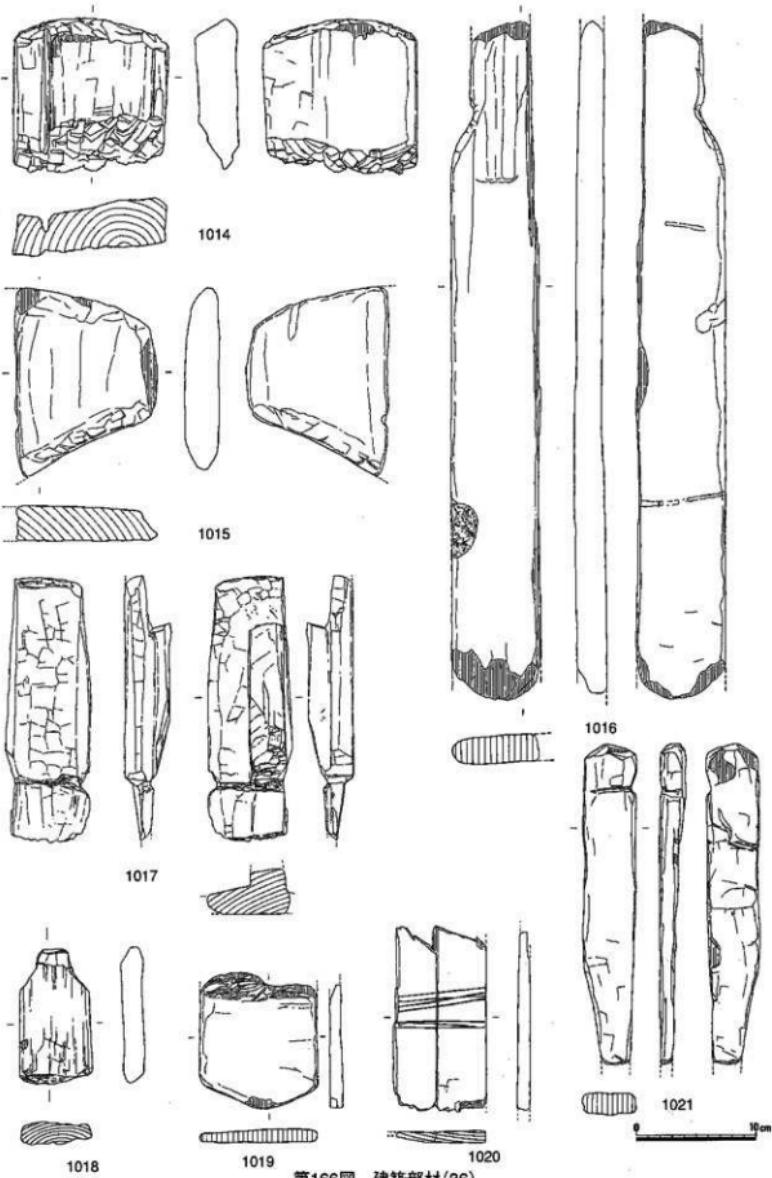
第163図 建築部材(33)



第164図 建築部材(34)



第165図 建築部材(35)



第166図 建築部材(36)

## 14. 用途不明品

用途不明品は何らかの意図を持って作られていて、たとえ完形品であっても現状ではその使い方がわからないものである。この中には組み合わせた状態で出土するなど良好な出土状態が得られて、将来的に用途が判明するものもある。ここで、用途不明品としてあげたものの中には、柵状木製品や透かし入り鍔状木製品・有孔板のようにある程度の数が出土し、その形態や特徴でとりまとめることができるものと、1点のみの出土でとりまとめのできないものがある。

### 柵状木製品

柵状木製品は直径10cm前後の心持ち材を使い、1面を平坦に削った後にコの字状の溝を長軸方向に小口端部まで彫った木製品である。柵の形状に似るが、小口面は上下両方から切り落としていて平滑に仕上げられていないので、複数の柵状木製品をつないで使用するには向きである。1側面の一方ないし両方の小口近くに円孔をあけているものが多い。

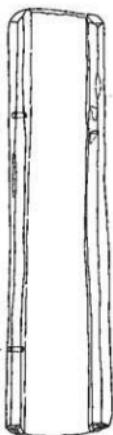
1022は全長35.5cm幅8.8cm高さ6cmで、幅6cm深さ3.3cmの溝を彫っている。一方の側面の上端部には小孔が2つある。1023もほぼ完形品で、端部から1/3のところで側面に円孔がある。全長28.6cm幅10cm高さ5.5cm、溝は幅5cm深さ2cm。1024は側面が上圧により変形し、欠損がみられる。全長28.5cmで、溝幅4.5cm。1025は深さ1cm足らずの浅い柵状木製品で、端部近くの1側面に小さな欠込あり。残存長32cm幅9.2cm高さ4cm、溝幅6cmである。1026は溝幅5cm深さ2.5cmで、一方の外側面には小口から約3cmのところに欠込を行い上端に円孔をあけている。未完成の可能性もある。残存長31cm幅10cm高さ5.4cm。

1027は完形品である。溝幅5cm深さ3cmで、両小口は底部から上に向け削っている。全長44cm幅9.4cm高さ6.7cm。1028は完形品で、全長53.5cmともっとも長いが、幅や高さはそれぞれ10.4cm・6cmで他と変わりない。溝は幅4cm深さ1.5cm。1029は全長22.6cmともっとも短い。側面の両小口近くに小孔があるのでこのまま使われたと思われる。幅8.2cm高さ5.3cm、溝幅4cm深さ2.5cm。1030は焼損の著しい底部の破片で、溝幅は5.5cmである。

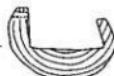
### 透かし入り鍔状木製品

透かし入り鍔状木製品は、身の中央に相対する2つの透かし孔を持ち、透かし孔間の棟と軸とに柄を縛締して使用するものである。75点を掲載したが完形品を含め全形を復原できるものは4点と少なく、大半が透かし孔の部分で折れている。透かし孔は三角形が大半であるが、半円形や隅丸方形のものもみられる。軸部の形状は様々で長さ1.5cmほどの繩かけ部に円形や三角形の頭部を明瞭に作り出すものと、不明瞭なものとがあり、繩かけ部を作らず身に直接頭部がつくものがある。軸頭裏面が平坦である点は共通している。身の中央に明瞭な稜を持って横断面形が三角形となるものが針葉樹製に多くみられ、広葉樹製では稜の不鮮明なものが多い。身の幅は広いものと狭いものの両者がある。身の先端は尖ったもの・丸いもの・平たいものとがあるが、いずれも厚みがあり薄く作られているものはない。かつては組合せ鍔の1つとされていたが、最近では針葉樹材が使われることが多いことから、鍔・鍔などの土掘り具とするのは否定的で、柵<sub>木</sub>・儀器<sub>木</sub>・形代<sub>木</sub>などの意見があげられている。現時点では適切な名称があげられないで透かし入り鍔状木製品と仮称して

14. 用途不明品



1022



1023



1024



1025



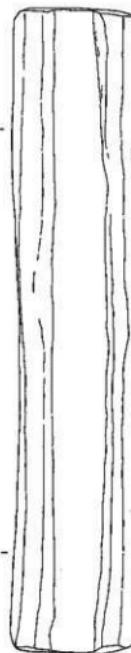
1026



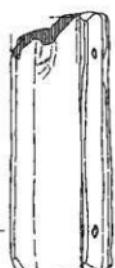
第167図 桶状木製品(1)



1027



1028



1029



1030

10 mm

第168図 桶状木製品(2)

おく。なお、樹種が判明しているものはクスノキやエノキ属と広葉樹が多いが、未同定品の中に針葉樹が多く含まれているのは間違いない。ただ、8点あるクスノキ製の多さにも注意を止める必要があるかもしない。

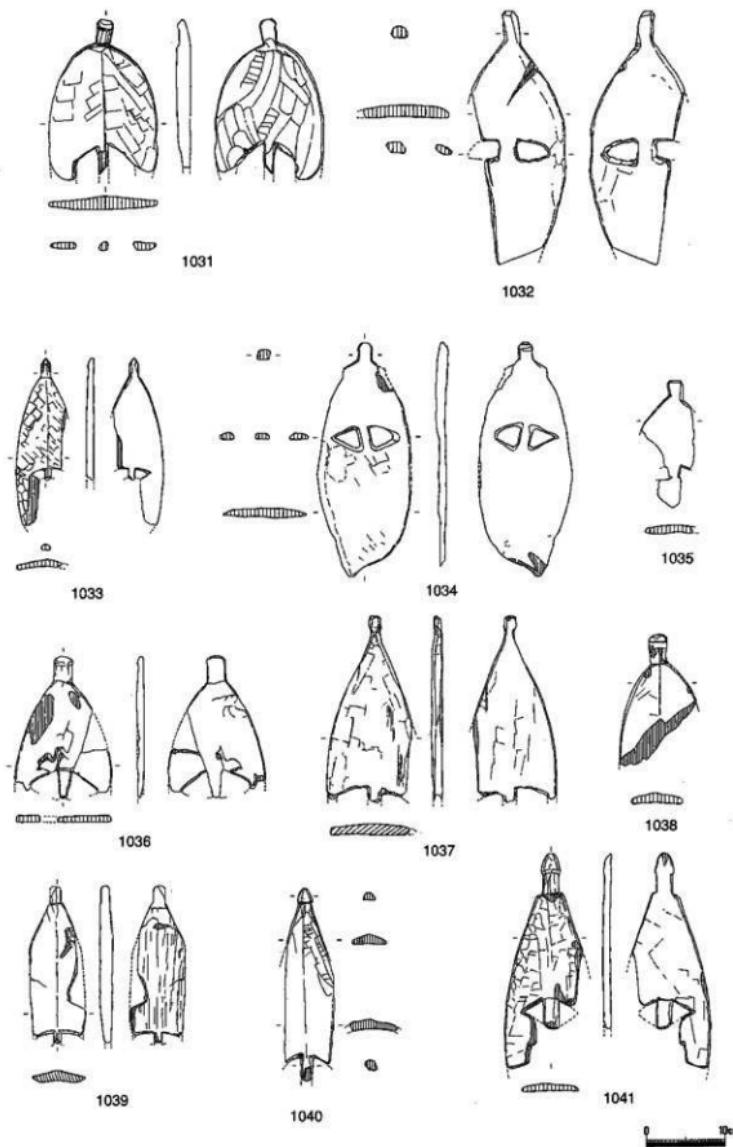
1031～1086は三角形の透かし孔をもつ。1031は透かし孔から上半の破片で、肩は丸みを持っている。表面中央に稜が走り、加工痕が両面とも顕著に残っている。柾目材を使っていて残存長20.5cm幅13cm厚さ1.4cmである。1032は先端部及び右側1/3欠損していて長さ3.8cm、幅1.9cmの雜がつく。身の断面は平板で表裏の区別が付きにくい。柾目材で残存長31.3cm厚さ1.5cm。1033は三角形の軸頭を持つ。加工痕は明瞭に残っていて、中央の稜は鮮明である。柾目材を用いていて残存長20.7cm厚さ9mm。1034は唯一のほぼ完形品である。先端の形状が定まらず、あるいは折れたのちさらなる使用により丸くなったものか。柾目材を使い全長29cm幅11.6cm厚さ1.2cmである。1036はやや幅広の軸部を持つ。柾目材で、残存長17.5cm幅12cm厚さ9mm。1037は徐々に細くなった肩の上に直接平面方形の頭部が付く。厚さ1.3cmで長さ23cmが残存している。1040も1037と同様に三角形の頭部が直接つく。柾目材を使い残存長23.8cm厚さ1.3cmである。1041は正三角形の透かし孔から上半部の破片で、頂部の丸い三角状の頭部を持つ。わずかだが肩に水平部分を持つのも特徴である。細かな加工痕が顕著にみられる。残存長26.6cmで厚さは9mmある。

1042は肩と軸部との境が明瞭でない。表面中央には稜があつて、加工痕が顕著に残っている。柾目材を使い残存長37.7cm厚さ1.2cmである。1046はエノキ属の板目材製で軸を作らず直接偏球形の頭部が付く。表面中央に稜があり、裏面もそれに併せて削っている。残存長19.9cm厚さ1.2cm。1047は半月形の透かし孔から上部の破片で、横断面は表面側に緩く湾曲している。残存長27.2cm幅9.3cm厚さ1.5cmである。1048はクスノキの板目材を使っていて、残存長20.7cm幅10.9cm厚さ1.1cmである。1049はクスノキの柾目材製である。1050は透かし孔から上半の破片で、中央に稜が通り裏面は内湾する。1051は半球状の頭部が直接付いて中央に稜がある。1053はクスノキを使った三角形の透かし孔から上半の破片。1054には細かい加工痕が顕著に残っている。1055は柾目材を使った三角形の透かし孔から下の破片で、身の中央には稜が走る。表面の加工痕は顕著である。残存長23.2cm幅10cm厚さ1.5cmである。1056は三角形の透かし孔から下側1/2程度の破片で、先端は丸め。残存長21.7cmで幅10.7cm厚さ1.2cmである。1057はクスノキの柾目材製で、先端は丸く中央に稜が走る。残存長23.5cm幅10.8cm厚さ1.8cm。

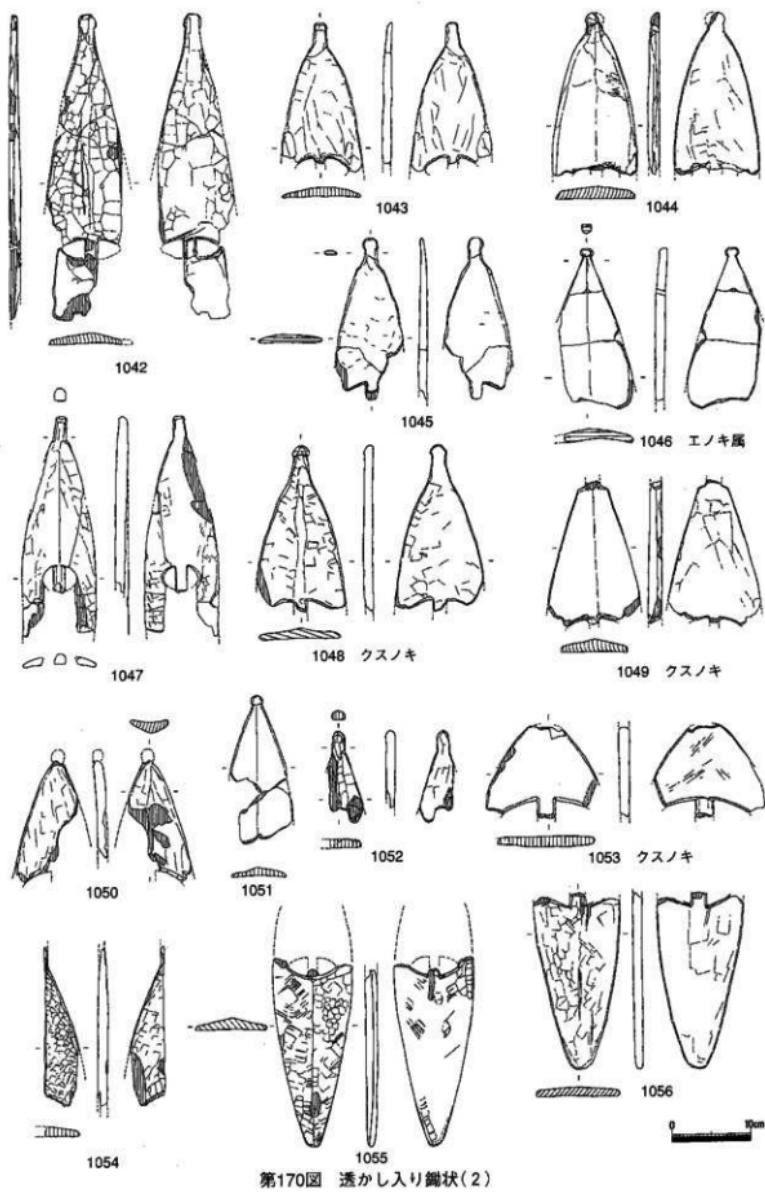
1059～1061・1063～1065は先端がとがり気味であるが側面の面は持っている。1063の先端側1/2弱の側面は摩滅しており、特に先端部の摩滅が著しい。1062の先端は直線的でやや摩滅している。1065・1068・1069・1072の稜は特に顕著である。1074・1076・1086はクスノキ製である。

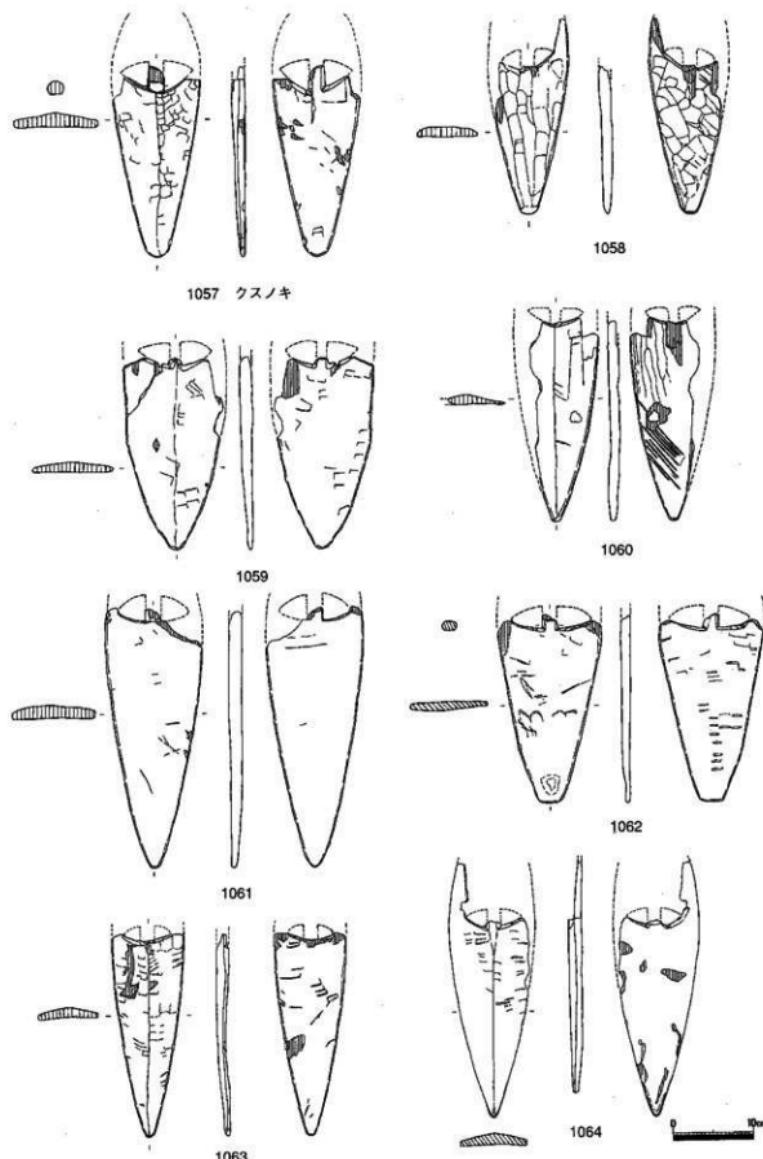
1095・1097は半円形の透かし孔を持つ。1095は軸部の根元付近で折れている。表面中央には稜があり、裏面はそれに対応して削られている。柾目材を使い、残存長50.4cm幅10.2cm厚さ1.4cmである。1097は縦置きの半円形透かし孔の下に方形孔をもつ。板目材で、残存長35.9cm幅12.1cm厚さ1cmである。

1096・1098・1099は円形ないし梢円形の透かし孔を持つ。1096の軸頭は半球形で、身の中央に稜が走る。柾目材を用いていて、残存長34cm幅7.5cm厚さ7mmである。1098は板目材1099は柾目材を使っていて、1099では先端が摩滅している。1100～1103は方形の透かし孔を持つ。1100は先端が平たく、1101はとがっている。



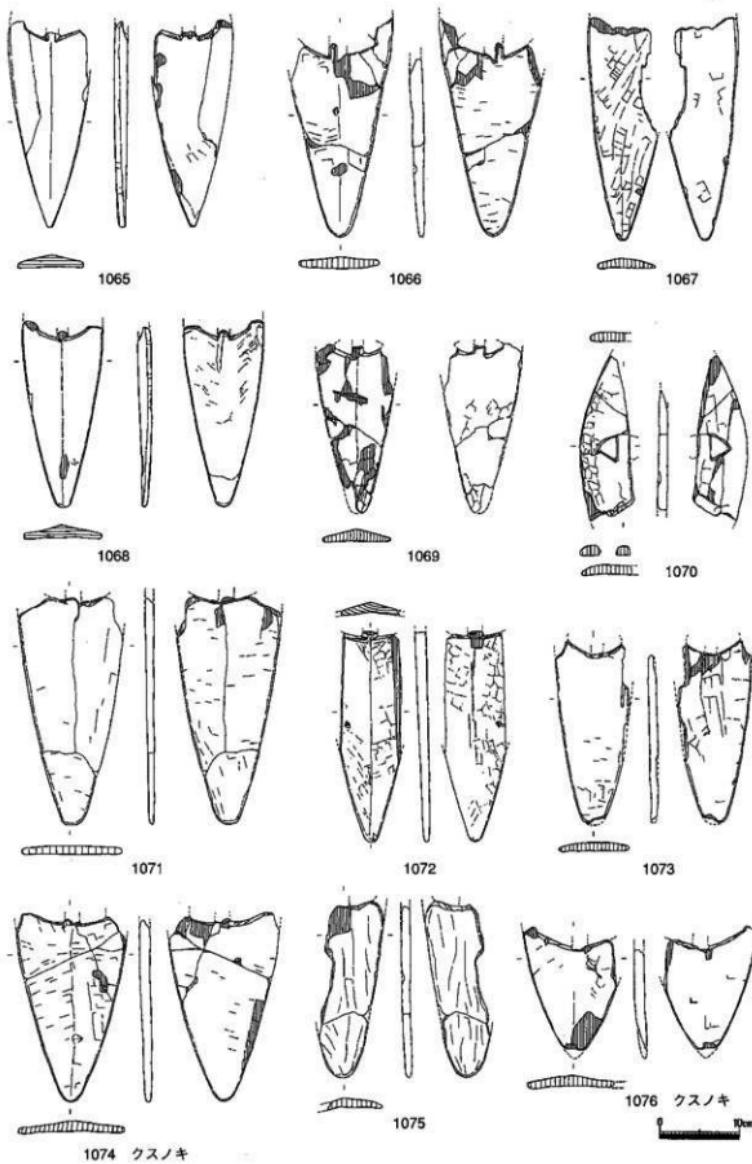
第169図 透かし入り錐状(1)



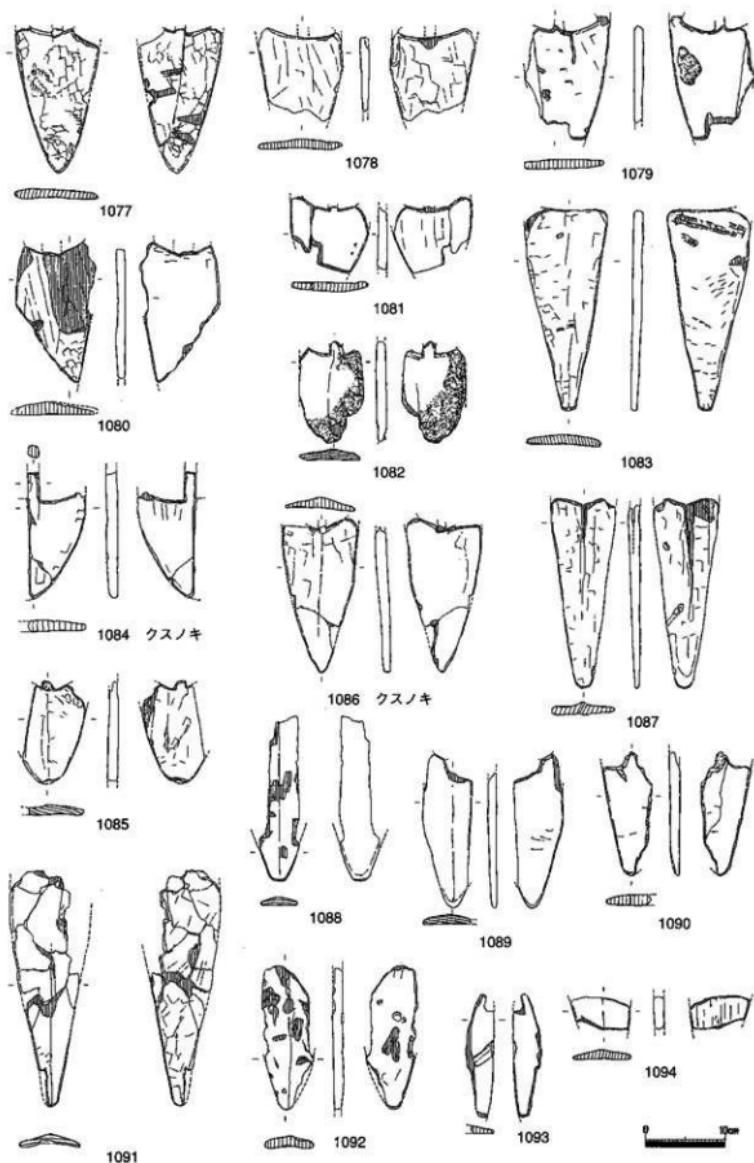


第171図 透かし入り鉤状(3)

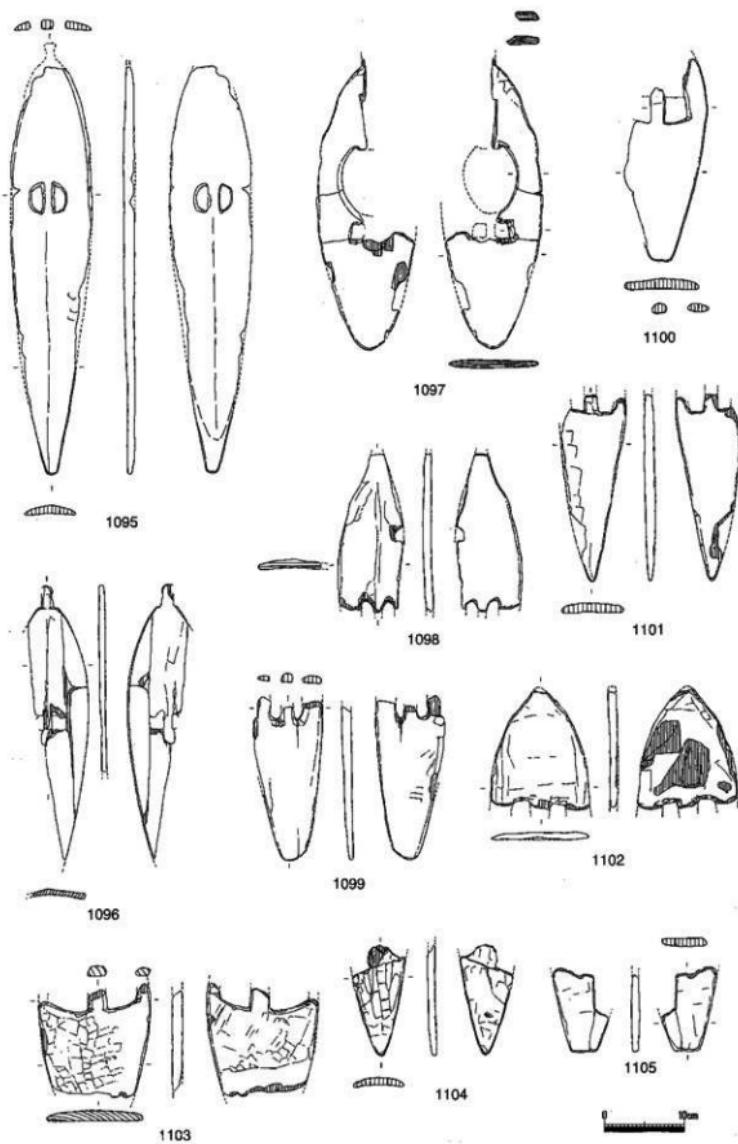
14. 用途不明品



第172図 透かし入り鋸状(4)



第173図 透かし入り錦状(5)



第174図 透かし入り錐状(6)

### 有孔板

薄い板材に小円孔を 1 つないし複数あけているものを有孔板として取り上げた。1106・1107は大きさは異なるが、4 個と長辺中央に小孔をそれぞれ 1 つ、短辺中央に小孔を縦に 2 つあけている。1106は全長41.7cm幅10.1cm厚さ 1 cm の柾目材を使い、加工痕や刃物傷が明瞭に残っている。1107はほぼ完成品で、全長24.8cm幅8.4cm厚さ 7 mm の板目材を用いている。

1108は一方の長辺に沿って小孔が 3 つある。柾目材で、全長28.7cm幅12.8cm厚さ 4 mm である。1109は長さ9.6cm幅3.8cm厚さ 5 mm の板目材で、上下両辺にそれぞれ 2 つ小孔が残る。1111は全長25.1cm幅 5.1cm厚さ 1.1cm の板目材のほぼ完成品で、一方の小口近くに小孔 3 つを三角形に配置し、反対側の小口近くの長辺に沿って 2 つあけている。1112は1106や1107とよく似ているが、短辺中央の 2 孔がない。エノキ属の柾目材で、全長26.5cm幅7.7cm厚さ 5 mm である。

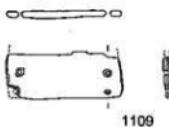
1113は長さ23.3cm幅 5 cm 厚さ 9 mm の板目材で、片側の短辺に小孔を 2 つあけている。1114は長軸に沿って小孔が 2 つある。残存長20.1cm幅5.5cm厚さ 1 cm の板目材である。1115は残存長24.7cm幅8.9cm厚さ 6 mm の柾目材で、角に小孔が 1 つあけられている。1116は長さ19.8cm幅5.1cm厚さ 6 mm の板目材で、長軸方向に小孔 3 つが並んでいる。1118は小孔が中央よりに縦 2 つ、長辺によりに 2 つある。1122は半月形で、周縁に沿って円孔ないし梢円孔をあけている。このほか岡の上部には別の方形孔がある。泥除の下半部ともよく似ているが、岡上部の方形孔やその横の小孔は泥除にはみられないものであるので、有孔板とした。残存長28.1cm幅9.9cm厚さ 6 mm である。

### 不明

1120は一端を細くして側面から 2 段の紐かけ状の加工をしている。残存長34.3cm幅3.9cm厚さ 6 mm である。1121は幅11cm厚さ 1 cm ほどの板状製品。柾目材で残存長48.3cmである。1123はアカガシ亜属の柾目材で全長33.7cm幅7.4cm厚さ 1 cm である。1124は 1 / 4 の分割材を使用していて、端部から 11cm のあたりから厚さ 1 cm に平たくしている。残存長23.3cm幅6.6cm端部の厚さ 5.2cm である。1125は矢板状に一端を両側からとがらせている。柾目材で残存長21.8cm幅7.5cm である。1126は平面形が細長い三角形状で側面に面取りを行って丸くしている。板目材で残存長20.6cm幅4.7cm厚さ 1.2cm である。1127は厚さ 4 mm の柾目材のとがった端部に頭部を作っている。1128は片側の長辺に沿って材の半分の幅で把手状に伸びたような形をしている。中央にごく浅い弧状の縁取りがあつて、縁取りの内側がやや高くなっている。柾目材を用いていて、残存長40.5cm幅7.3cm厚さ 2.2cm である。1129は削抜式箱の側部に似ているが、口縁部に小孔が 5 つあけられている。板目材で残存長41.7cm幅5.2cm厚さ 1 cm である。1130は 2 本の棒を植物の紐で縛り付けている部分のみが残っている。直径 7 mm の心持ち材を使っている。1131は端部にはぞ状の突起を持つ棒状の小片で、1.1cm の心持ち材で残存長5.2cm である。1132は幅 1 cm 厚さ 5 mm の柾目材の 1 面を平坦加工し、端部に頭部を作っている。残存長は11.4 cm。1133は枝分かれの部分を利用した製品と思われるが、枝わかれの付け根から折れている。1134は 4 cm ほどの方形孔を持つ把手状の木製品の破片。加工は丁寧で、柾目材を使う。1135は有頭棒の頭だけを切ったようなもので、裏面全面を平滑に削っている。心持ち材で、長さ6.7cm幅2.2cm厚さ 1.9 cm である。

1137は長三角形の板材で、中央の梢円孔で折れていて接合しないが同一個体である。残存長56.7cm幅 7 cm 厚さ 8 mm である。1138はほぼ完成品で、一端に方形の頭部を作り反対側の端部を杭状にとがらせている。全長40.1cm幅4.5cm厚さ 2.4cm である。1139は、断面が方形で木の葉形に近い頭部を持つ。

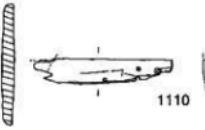
14. 用途不明品



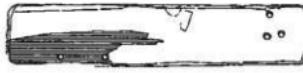
1109



1106



1110

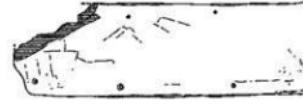
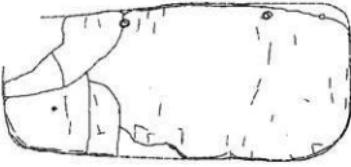


1111

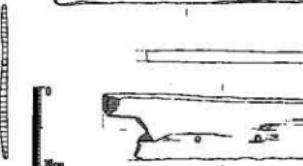
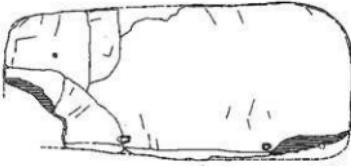


1107

1112 エノキ属

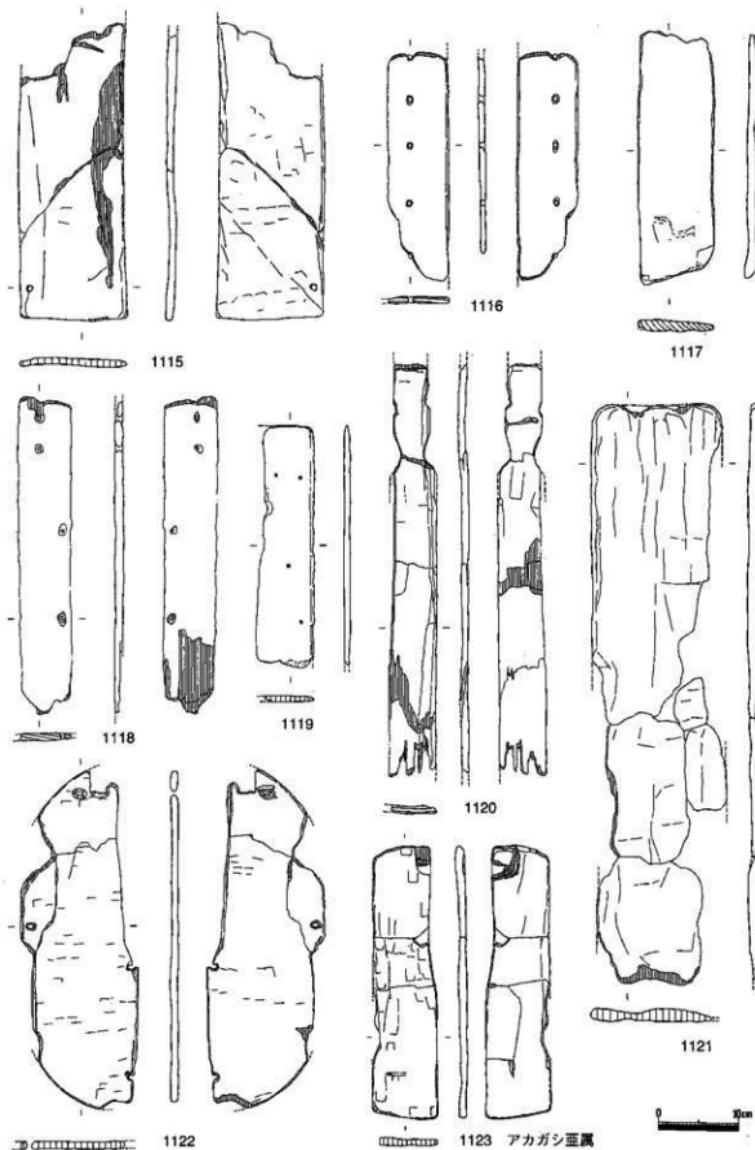


1113

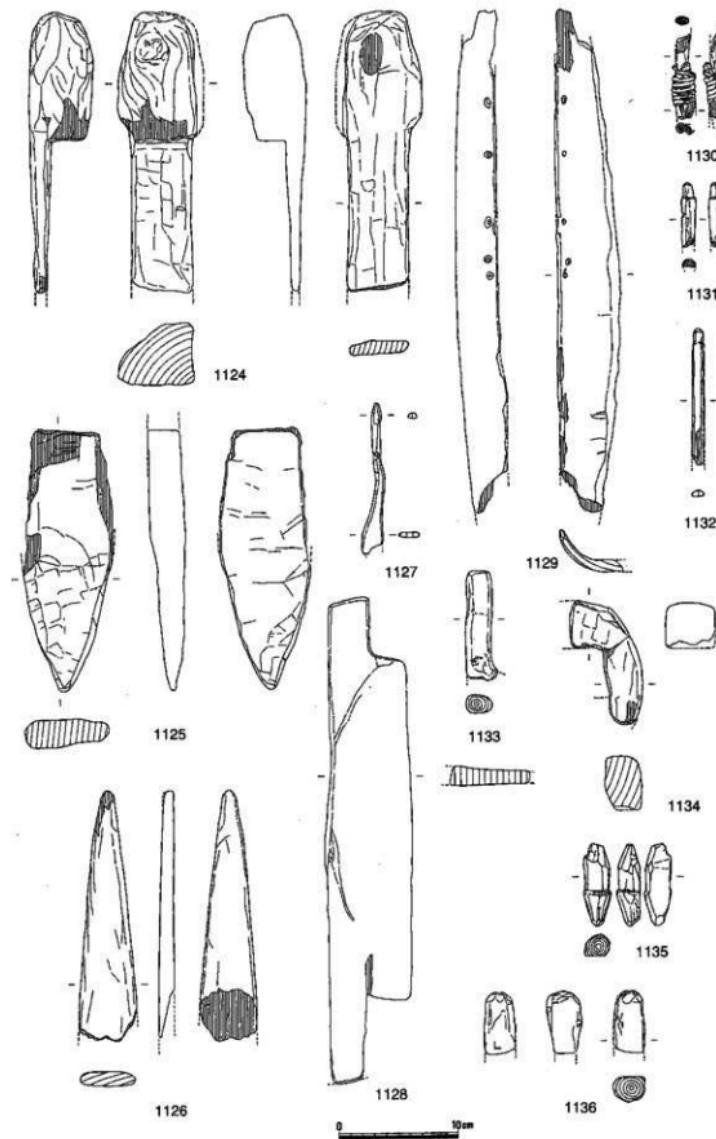


1114

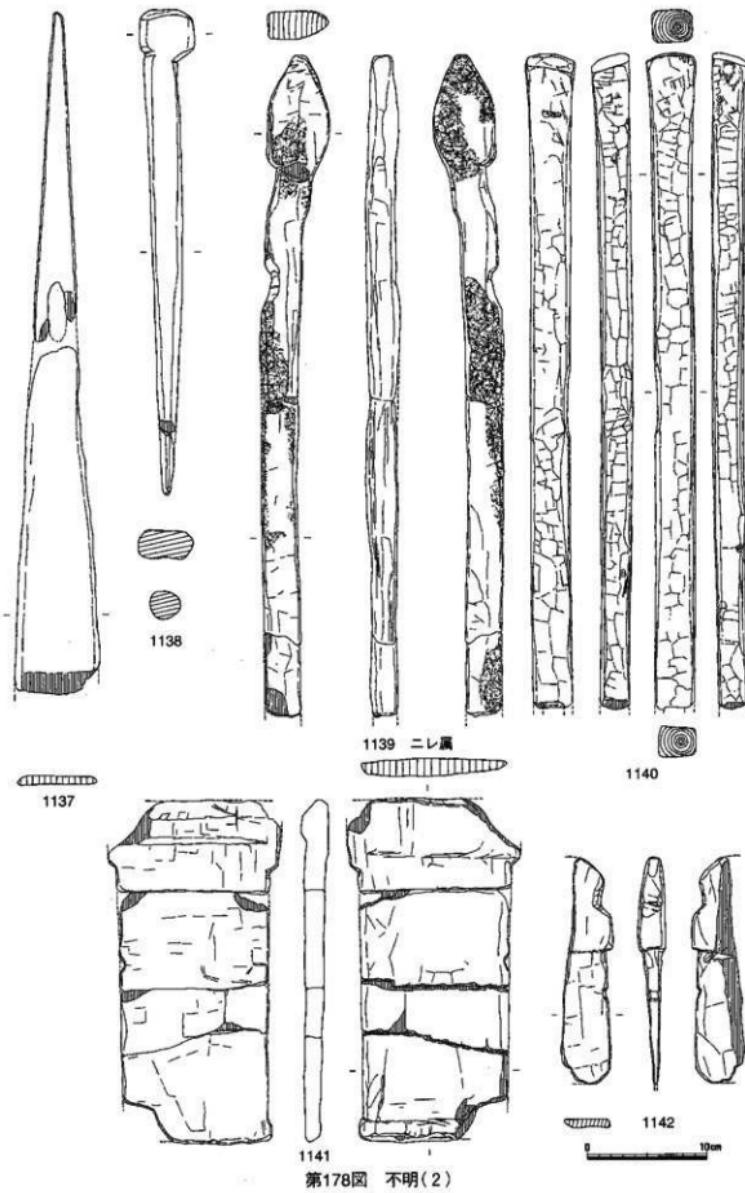
第175図 有孔板(1)



第176図 有孔板(2)ほか



第177図 不明(1)

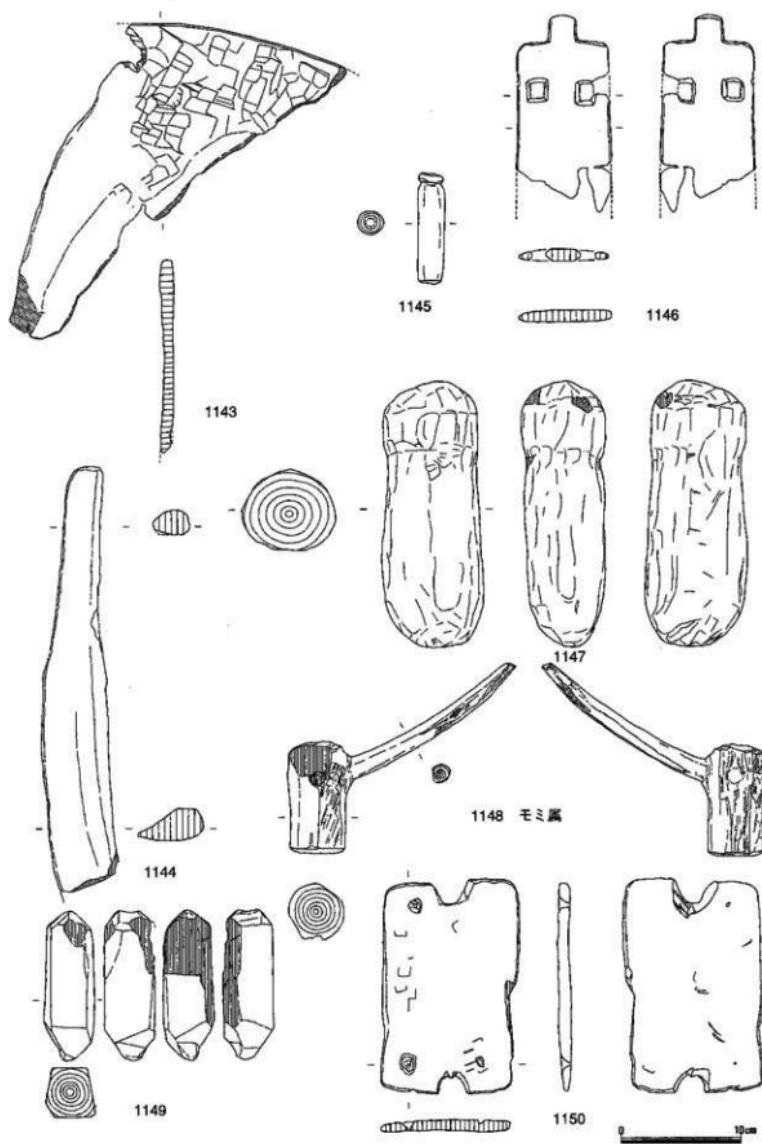


全体に焼けている。ニレ属の柾目材を使い、残存長55.05cm頭部の幅5.15cm厚さ2.7cmである。1140は心持ち材を使っていて、断面方形で丁寧な加工を施している。図の下端は方形孔で折れている。残存長54.4cm幅3.3cm厚さ2.6cmである。1141は両端がやや広くなり片面に1.5~2cmの帯状の高まりがある。柾目材で、長さ28.6cm幅14.3cm厚さ1.5cmである。1142は一端を薄くしたこけし様の木製品。柾目材を用いていて残存長18.7cm厚さ2.2cmである。

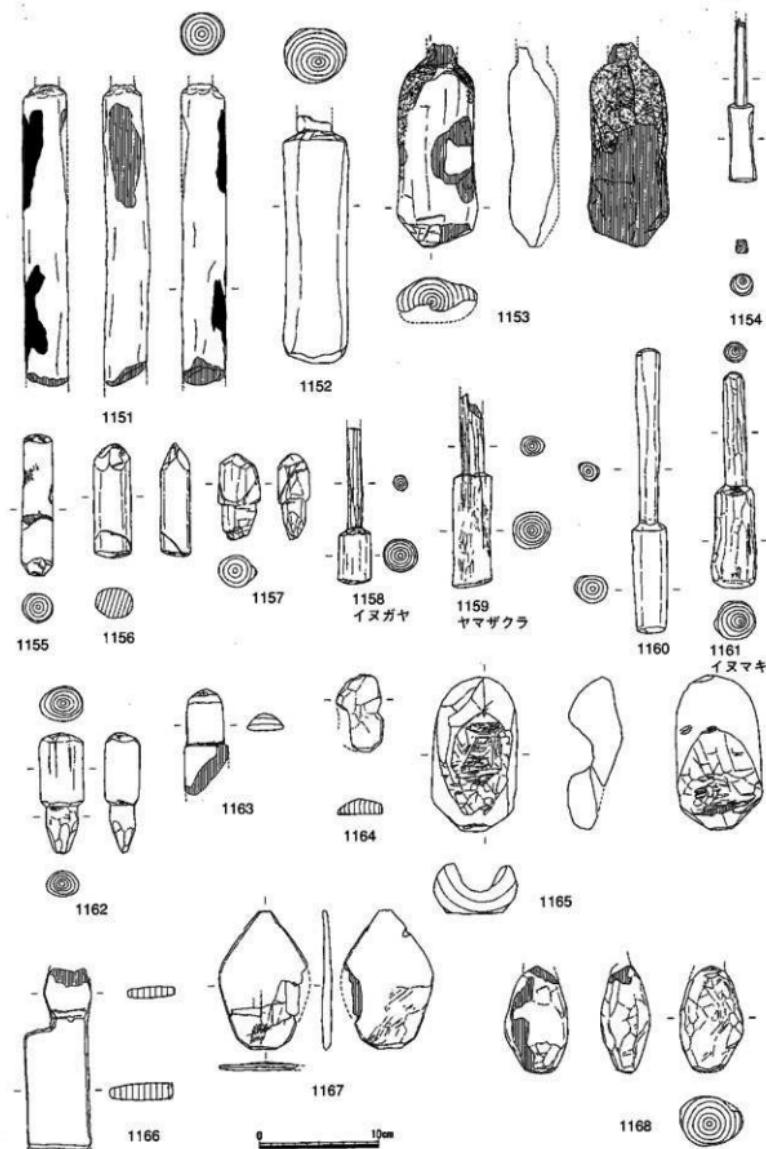
1143は円盤状の木製品である。弧状の端部に孔が1つある。柾目材を使っていて残存長34.8cm幅18cm厚さ1.2cmである。1144はやや扁平な滴形の断面形で、一端は欠損し反対側の端部は茎状に細くしていて、刃形をしている。柾目材を使用し、残存長35.3cm幅5.6cm厚さ2.6cmである。1145は完形品。一端に紐かけを回していて、中心には直径7mmの円孔を持っている。直径2.2cmの心持ち材で全長9.2cmである。1146は長方形の板の小口付近に1.2cm四方の方形孔を2つあけ、小口にはほぞを作る。柾目材を使用し、残存長15.1cm幅7.8cm厚さ1.0cm。1147は木錐か？頭部下のくびれには縄を縛ったような圧迫痕がある。心持ち材で、長さ22.2cm直径7.8cmである。1148はモミ属の枝分かれ部を利用していている。直径4.6cmの幹を長さ9.3cmに切り、四方向に展開する枝の1本を残して払う。残した枝も長さ16cmに切って先端をとがらせている。1149は直径4.2cmの心持ちの短い棒材を断面四角形に削り、両端は四面から細くとがらせている。全長12.4cm。1150は両小口部に抉りあって3つの角には円孔がある。柾目材で全長17.8cm幅11.5cm厚さ1cmである。

1151は両端を欠損しているが、一端は細く加工した部分で折れている。樹皮が一部に残っている。直径3.5cmの心持ち材で残存長は25cmである。1152~1154・1158~1161は横植に形態が似ている。1152は直径5.1cm心持ち材を使い、横植の握部にあたる部分は折れている。残存長20.4cm。1153は扁平な横植状で握部に当たる部分を欠く。端部は三角状にとがり加工痕が残っている。炭化が著しく、残存長16.9cmである。1154は長さ6.5cm直径2cmの円筒部分に先がやや細くなる1cm角の方柱が付く。円筒は中央がやや細くなっているこちらが握部かもしれない。何らかの工具の柄の可能性もある。心持ち材を使い残存長13.4cm。1158は直径2.7cmのイスガヤの心持ち材を使っていて、掻き部が4.5cmと短く握部が8.4cm以上あって長い。掻き面の使用痕はあまり顯著ではない。全長12.9cm。1159は直径3.2cmのヤマザクラの心持ち材で、掻き面には使用によるつぶれがある。小形臼に対応する小形杵に当たり、つぶし具のような使用法ではなかろうか。残存長16.1cm。1160は完形品で全長23.6cm、直径2.8cmの心持ち材を使っている。1161もイスマキ製の完形品で、加工痕は明晰に残っているが、使用痕等は認められない。全長18cmで、直径3.4cmの心持ち材を用いている。

1155は直径2.5cmの心持ち材を長さ11.7cmに切った程度。1156は鉛筆形をした完形品。柾目材を断面楕円形に加工していて、全長9.4cm幅3.1cm厚さ2.5cm。1157・1162は有頭棒を頭部の根元から切り落としたような形状で、棒の栓に形が似る。第194図1258も同様の形態をしているが、1258には粗い切断痕がそのまま残っている。1157は直径3.5cmの心持ち材を使っていて全長7.1cmである。1162は直径3.7cmの心持ち材で全長10cm。1163は断面半月形のはその部分の破片で、裏面は平坦に加工している。1164は側面中央がくびれていて、浮きや糸巻きのように使われたものか。柾目材で全長6.4cm幅3.9cm厚さ1.2cmである。1165は直径7cmの棒を厚さ6cm程度に斜めに切り落として、上面から方形の穴をあけかけている。全長12.9cmである。1166は継杓子の柄の端部に似ていて、頭部の根元を切断しようとしている。柾目材で、残存長14.8cm幅5.3cm厚さ9mmである。1167は継杓子柄の頭部の形に似るが、杓子の柄にしては少し大きすぎるようと思える。板目材で、残存長11.3cm幅7.4cm厚さ7mmである。



第179図 不明(3)



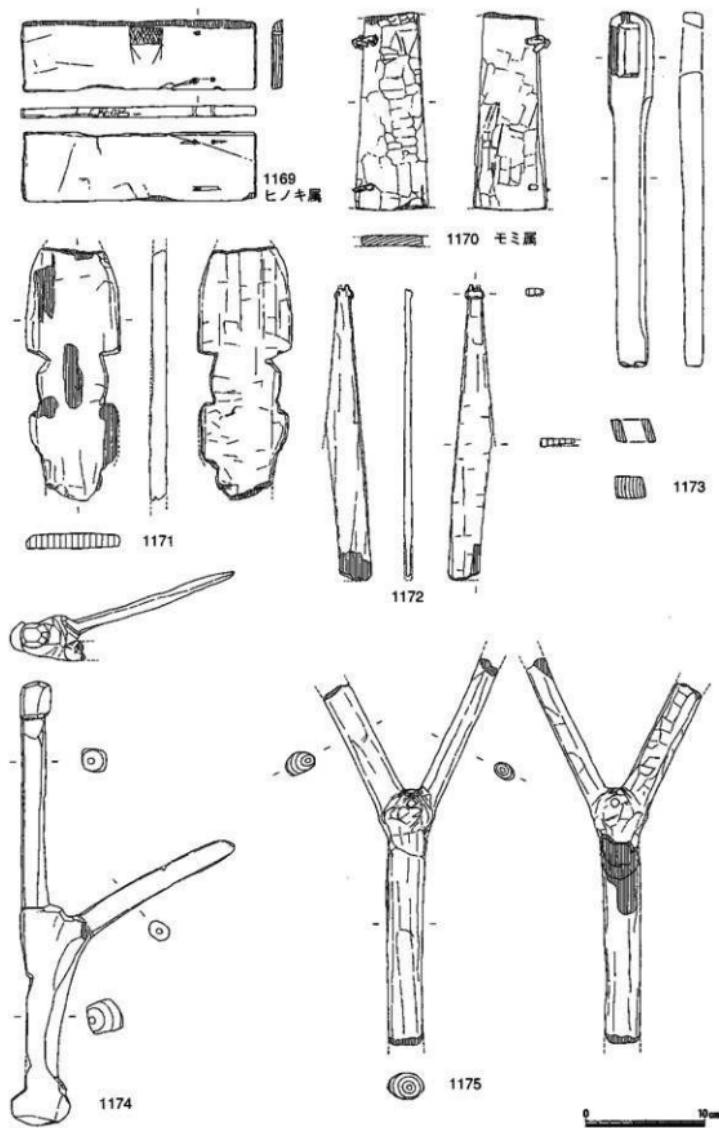
第180図 不明(4)

1169は絵画彫刻のある木製品である。長さ20cm幅5.8cm厚さ9mmのヒノキ属の板目材で、中央長辺により柱間1間四方の建物絵画が線刻されている。上屋は四角く、中を左右からの斜線でうめた網代状の表現をとる。柱は4本描かれているが、奥側の2本は内向きに斜めに描かれていて、縦方向の平行線で描く一般的な建物絵画の柱表現とは異なっている。もとは大きな板を再加工している可能性がある。円孔が4つあり、このうち2つが小口に平行し、3つが側縁に平行する。裏面の円孔上下には剥けて剥がれたようなあとがある。1170はモミ属を使ったやや台形に近い形状の板目材で、片側の長辺の上下に小孔をあけて削った樹皮が残る。全長17.4cm幅6cm、厚さ9mmである。1171は中央に両側からM字状の切り込みを施している。柾目材を用いており残存長21.0cm幅が7.8cm厚さ1.4cmである。1172は厚さ6mmの柾目材を裾広がりに作った体部の細い方の端部に横長の小さな頭部を作っている。その上に二つの爪状のものがついているが、円孔の破損部の可能性もある。残存長24.5cm幅3.8cmである。1173は厚さ2cmの柾目材を用いた完形品で、やや幅を広げた一端に4.5×1.8cmの方形孔をあける。全長29.3cm幅3.7cmである。1174は幹の部分を断面方形に加工して上下に縄かけを持つ。枝分かれから下部は握部のようにもとれる。小形の竿受けのようにも見えるが、又繋りは施されていない。ほぼ完形品で、全長36.6cm幅17.8cm厚さ3.5cmである。1175はV字に枝分かれした部分を利用して、端部はすべて欠損しているものの丁寧に加工されている。残存長32cmで、直径2cmの心持ち材を使っている。

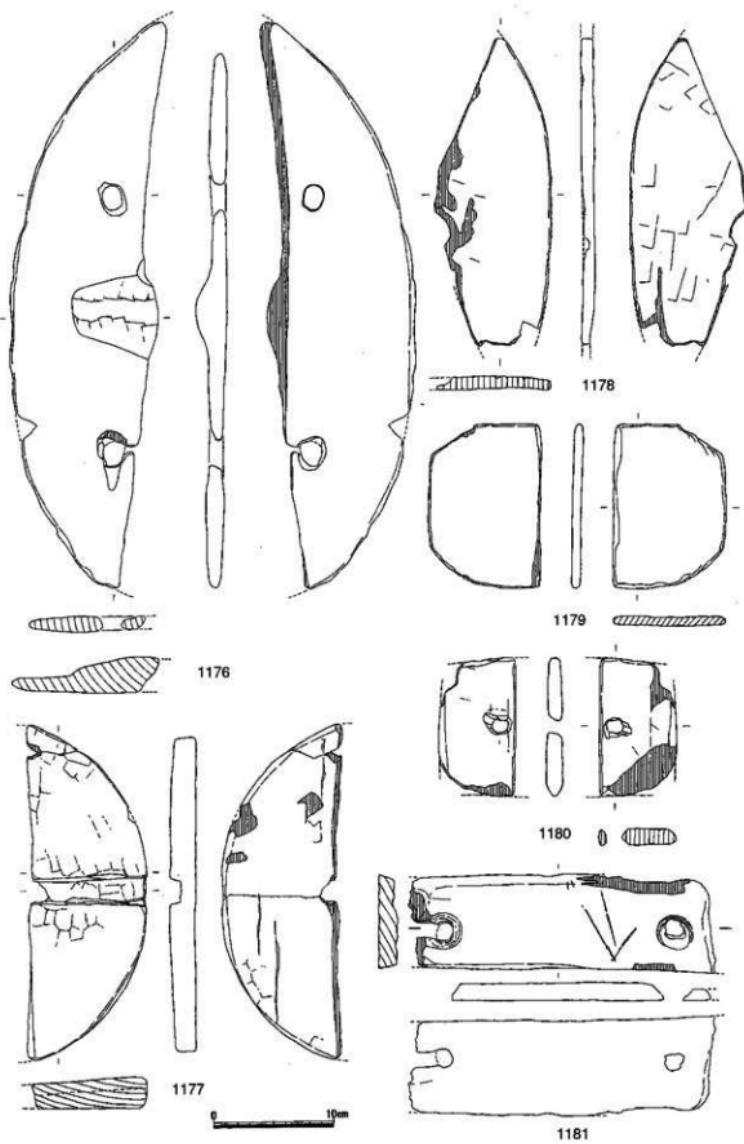
1176は円形ないし梢円形の板が縦割れした破片で、中央に鍼の着柄隆起の瘤部のような隆起部分があつて、隆起の左右に円孔をうがっている。板目材で残存長46.8cm幅12.2cm厚さ2.9cmである。1177も円形の板目材が縦割れした1/2の破片で、直径方向に幅2.2cm深さ1cmの溝がある。残存長27.7cm幅10cm厚さ2.2cmである。1178は全形不明の柾目材で、残存する端面は平面円弧状である。残存長25.4cm幅9.7cm厚さ1cmである。1179は長方形の柾目板の長辺側の角2つを三角形に切り落としている。全長13.6cm幅9.3cm厚さ6mmである。687の箱のように、例抜式の箱の中には別材の小口板を組み合わせる箱もあるので、1179はそういう箱の大型品の小口板かもしれない。1180は1179と同様の形状で、長方形の板の長辺中央に1つ1.3×1cmの孔がある。柾目材を使い、全長11.5cm幅6.3cm厚さ1.2cmである。1179のように箱の小口板とするには円孔が大きすぎる。1181は両短辺に片側穿孔の円孔を1対持つ。柾目材で残存長25.5cm幅8.2cmである。

1182は両端を欠損しているが、片側でやや幅が狭くなる。幅の広い方には円孔2つが縦を少しずらして並んでいて、形は悪いが文形の形状である。柾目材で残存長58.7cm幅13.2cm厚さ1.4cmである。1183は柾目材を使った板状製品で、残存長26.1cm幅11.95cm厚さ1.8cmである。1184は幅9.7cmの柾目材の中央にL型に3つの円孔があけてある。田下駄の足板にしては円孔が接近しすぎているので、別物とみられる。両端部は欠損していて残存長25.4cm厚さ9mmである。1185は枝の付け根を利用していて、鳥の頭に似ている。小型の藤柄斧の未成品とも考えられる。残存長7.9cm幅7cm厚さ2.1cmである。1186は縦に長い台形状の板状製品。土圧による変形が見られる。柾目材で残存長32.9cm幅6.2cm厚さ0.9cmである。

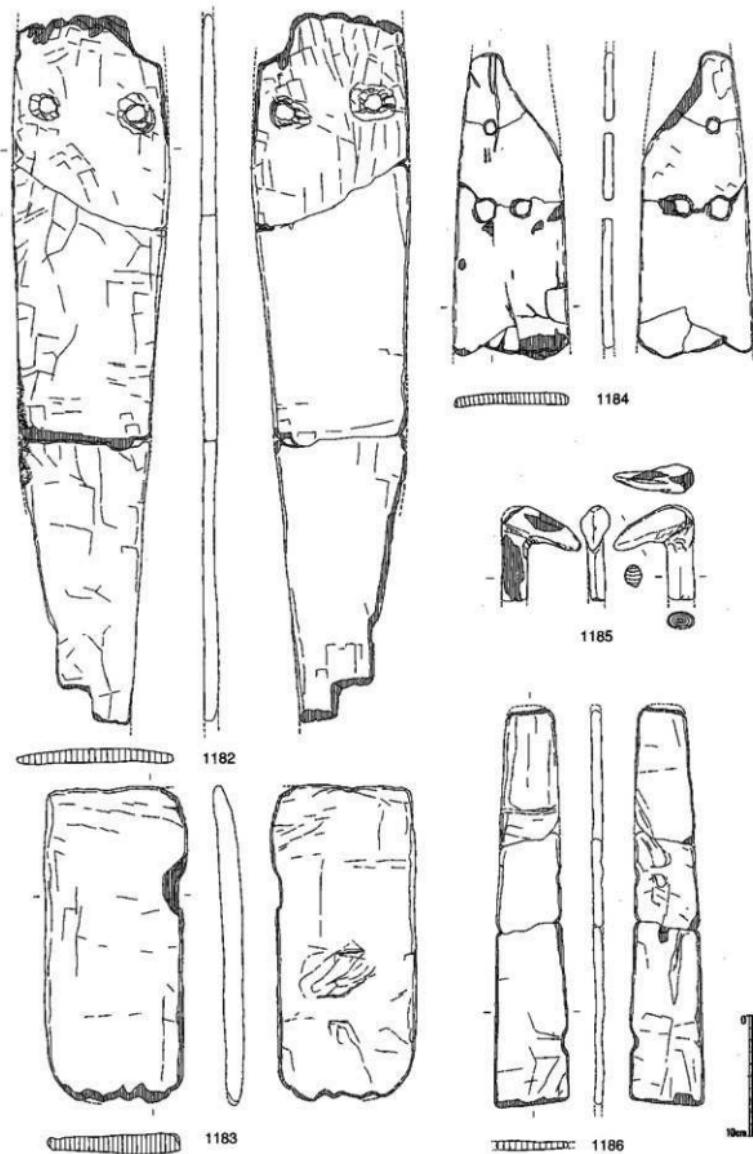
1187は幅9.3cm厚さ1.3cmの柾目板の片側の短辺近くを両側面から削って幅6.2cmの頭部を作る。両短辺中央にはそれぞれ梢円孔をあける。全長53.9cmのはば完形品である。1188は一端が方形孔の部分で折れ、他端は又部状の部分で折れている。柾目材を用いていて残存長11cm幅3.9cm厚さ8mmである。1189・1190・1192・1193は器種の特定はできないが何らかの枠板の破片とみられる。1189は1辺



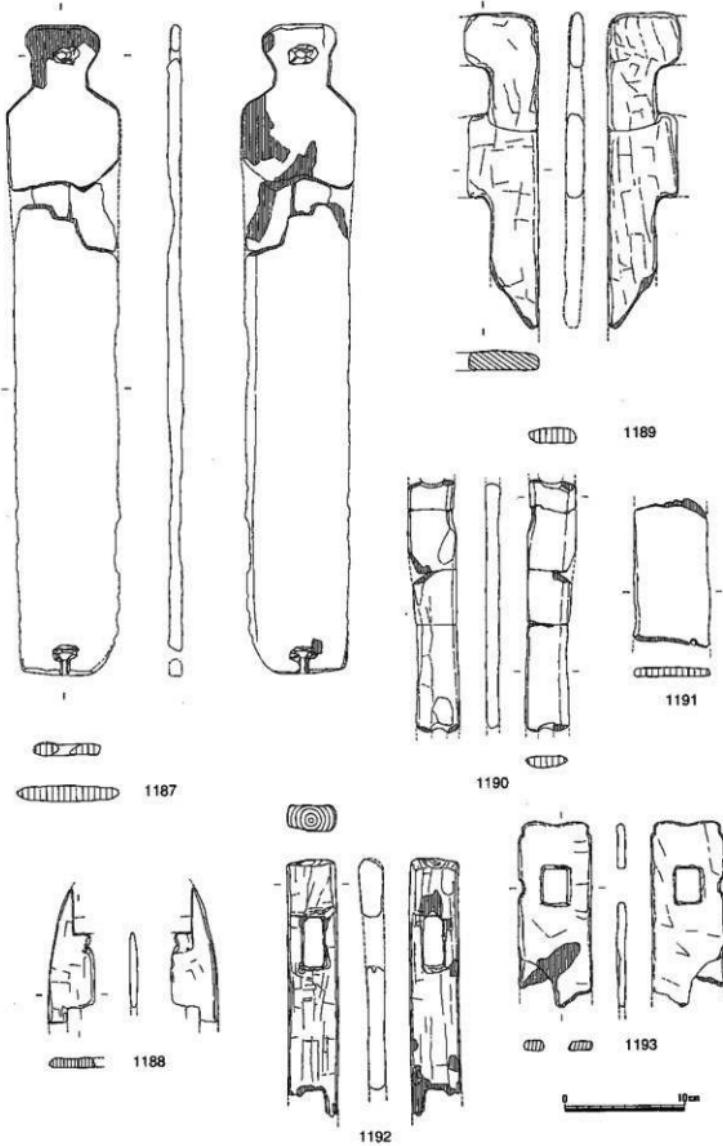
第181図 不明(5)



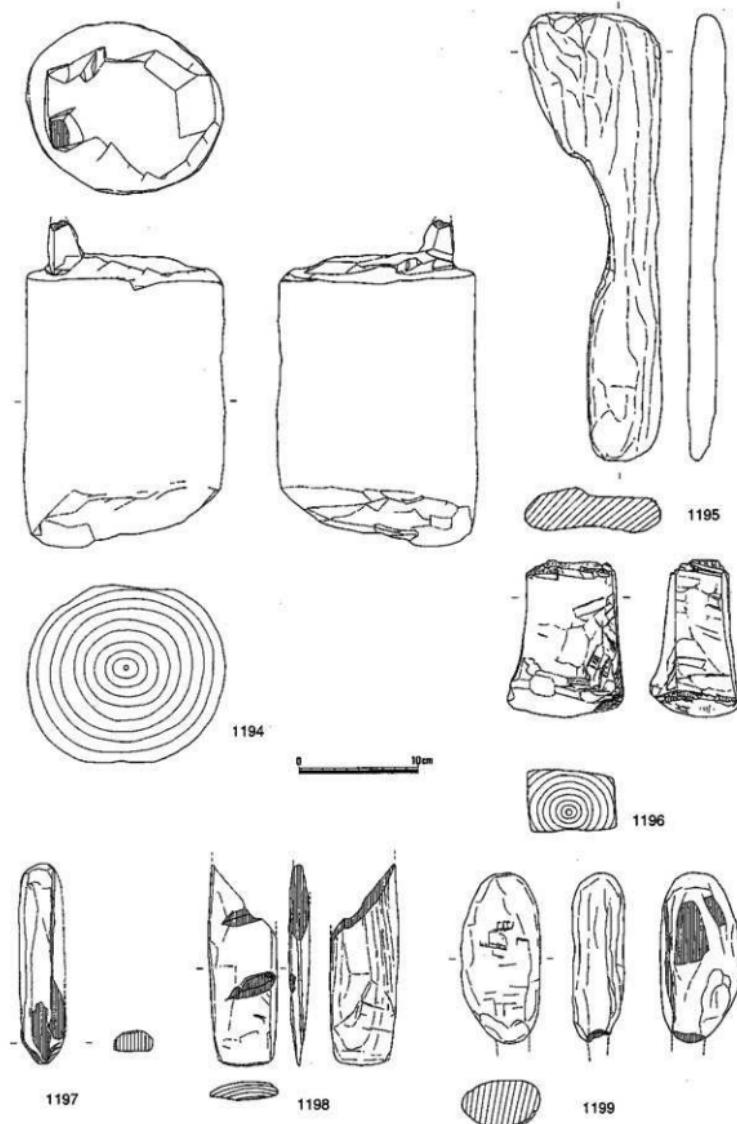
第182図 不明(6)



第183図 不明(7)



第184図 不明(8)



第185図 不明(9)

4 cmの方形孔が6.5cmの間隔をあけて2つ残存していて、残存長26.0cm幅6.1cm厚さ1.6cmである。1190には20cmの間をおいて円孔が彫られていて、両端ともその円孔部分で折損している。柾目材で残存長20.9cm幅4 cm厚さ1.2cmである。1192は幅4 cm厚さ2 cmで断面長方形の心持ち材に、約10cmの間隔をあけて長方形孔を2つ設けている。1つは1.8×4.2cmで他方は途中で折れている。残存長21.3cmである。1193は残存長15.4cmのため2.9×2.1cmの方形孔が1つ残るのみである。短辺両角と方形孔横の側面に凹状の加工がある。柾目材を使って幅6.1cm厚さ8 mmである。1191は幅6.4cm厚さ7 mmの柾目板の破片で、割れ口に小孔が1つかかっている。両端が折れていて残存長は17.5cmである。

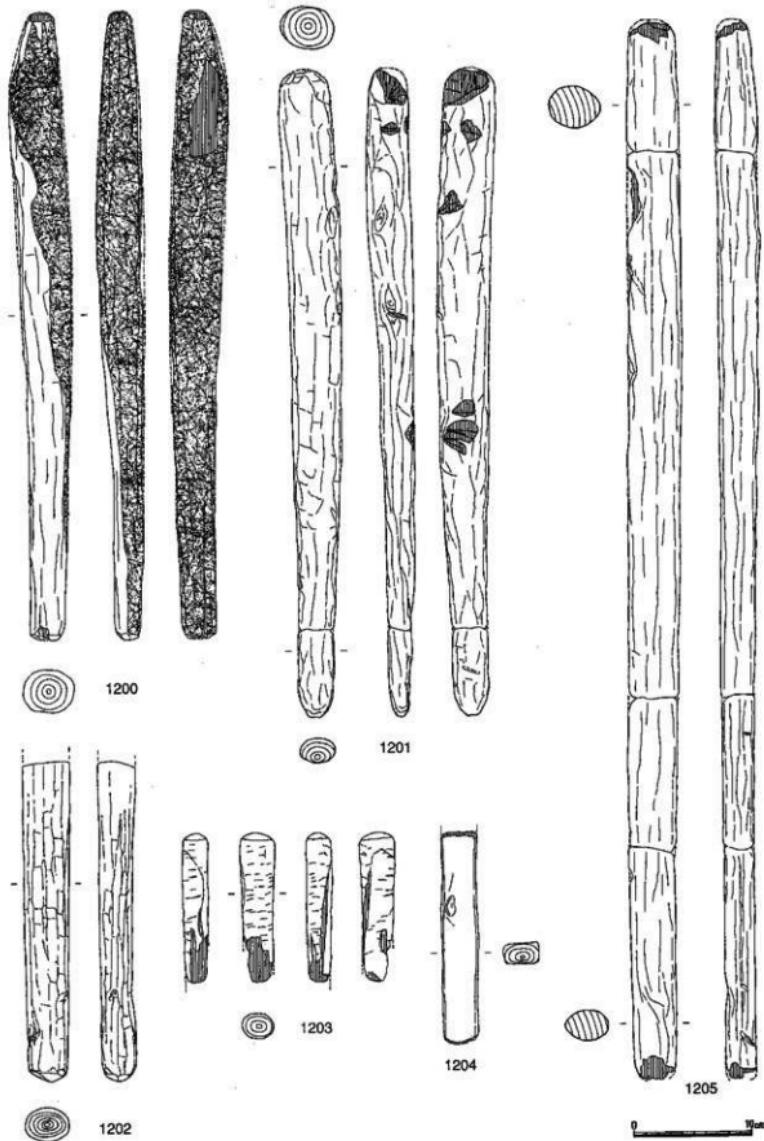
1194は丸太材の両端を切断しているが一端に断面方形の突起を残している。心持ち材で残存長27.1cm幅16.6cm厚さ14.8cmである。片側の小口に突起を残した形状は、すくい具未成品741の前段階とも考えられるが、すくい具とするには把手となる突起が小さすぎる。むしろ、小突起を残した作り方は小形臼未成品261にも見られるので、理由はわからないが製作工程の中で何らかの必要性があるのであろう。1195は中央が細くなっているが、元々楕円孔があけられていた板材の破片かもしれない。板目材で全長37.2cm幅11.4cm厚さ3.2cmである。1196は断面方形で一端は幅が広くかつ厚くなっていて端面を丸く加工している。反対側の端部は切断されている。表面の細かな加工痕が顕著に残っているので未完成品というよりも、転用がはかられた残材と考えられる。心持ち材で全長13cm幅9.7cm厚さ7.2cmである。1197は断面かまぼこ形で、両端を側面から細くしている。柄の転用品か？柾目材で全長16.4cm幅3.6cm厚さ1.4cmである。1198は板目材を使ったくさび状の木製品。幅4.5cmの刃部は両面から薄く仕上げられている。残存長11.5cm幅5.8cm厚さ1.6cmである。1199は楕円形の残核状。柾目材で残存長14cm幅6.5cm厚さ4 cmである。

#### 加工棒

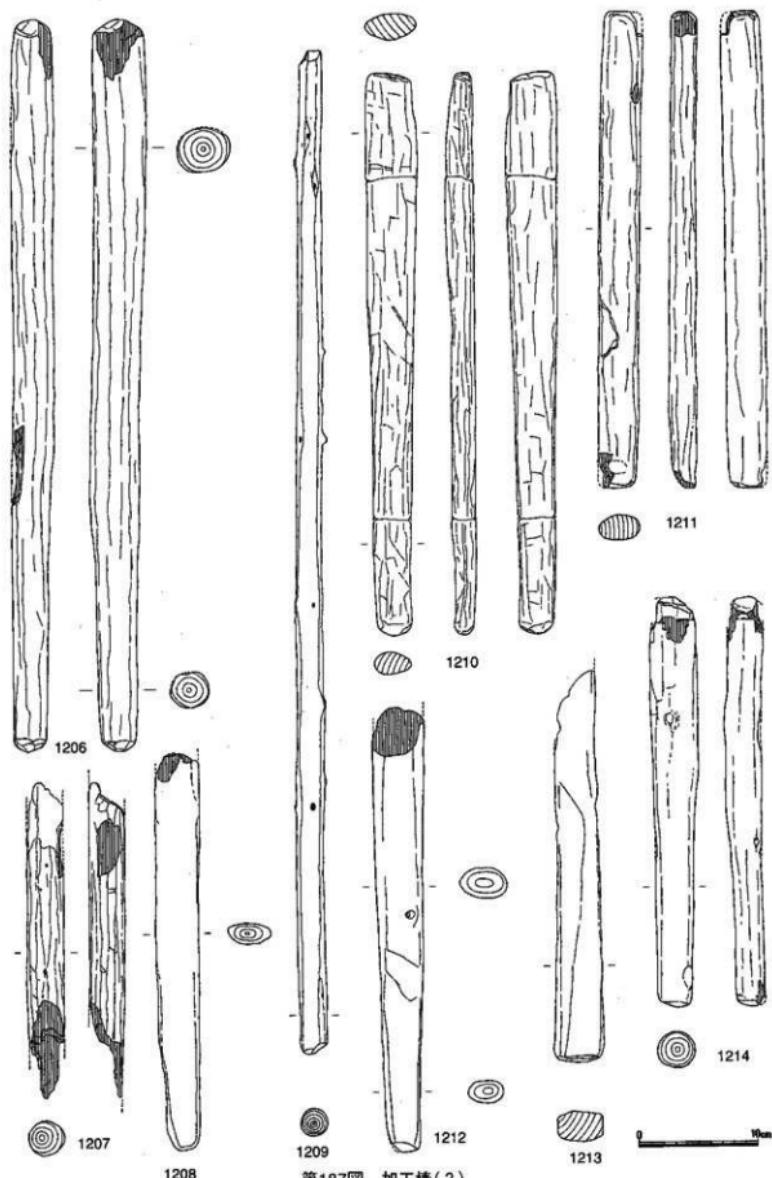
何らかの加工を施した棒状製品を加工棒と一括している。端部に頭部を持たないもの、頭部を片面に作り出したいわゆる有頭棒、一端を細くとがらせた杭状のもの、繩かけ加工を施したもの、ほぞを作り出したものなどがある。鍔や斧などの柄・器具の部材・竿受けの破片などが含まれている可能性がある。

1200は全長52cmのほぼ完形だが全体の7割方が焼けている。直径4.5cmの心持ち材を使っていて一端をやや細くし、棍棒にも形が似ている。1201もほぼ完形で、全長53.5cmである。直径4.5cmの心持ち材の両端を丸く加工し、一端を細くしている。1202には長軸方向の幅の狭い加工痕が顕著に残っている。心持ち材製で残存長は26.3cmである。1203は端部を丸く加工した直径3 cmほどの棒の小片で、全体に細かい刃物の跡がみられる。一部に炭化した部分が残っていて、残存長12.3cmである。1204は心持ち材を断面長方形に加工した棒で、端部も丸く加工している。残存長17.5cm幅3.0cm厚さ1.8cmである。1205は削材を使った全長87.4cmのほぼ完形の棒で、横断面は4.45×3.5cmの楕円形である。直柄鍔の柄の可能性もあるが、全長のわかっている52・56・65では全長が95～102cmあって、それらに比べるとやや短い。

1206も直径4.3cmの心持ち材を使った全長60.7cmのほぼ完形品である。一端がやや細くなっている、表面には縦方向の加工痕が残る。1207は直径3 cmの心持ち材に幅の狭い長軸方向の丁寧な加工を施した棒の破片で、一端は焼損している。残存長は26.5cmである。1208は直径3.7cmの心持ち材を使った残存長33cmの加工棒で、表面の状態はよくないが端部を丸く加工している。1209は直径2.4cmの心持ち材の棒で、残存長が83.2cmある。切り落とした枝の根元が高く残っていて全体に加工が粗い。



第186図 加工棒(1)



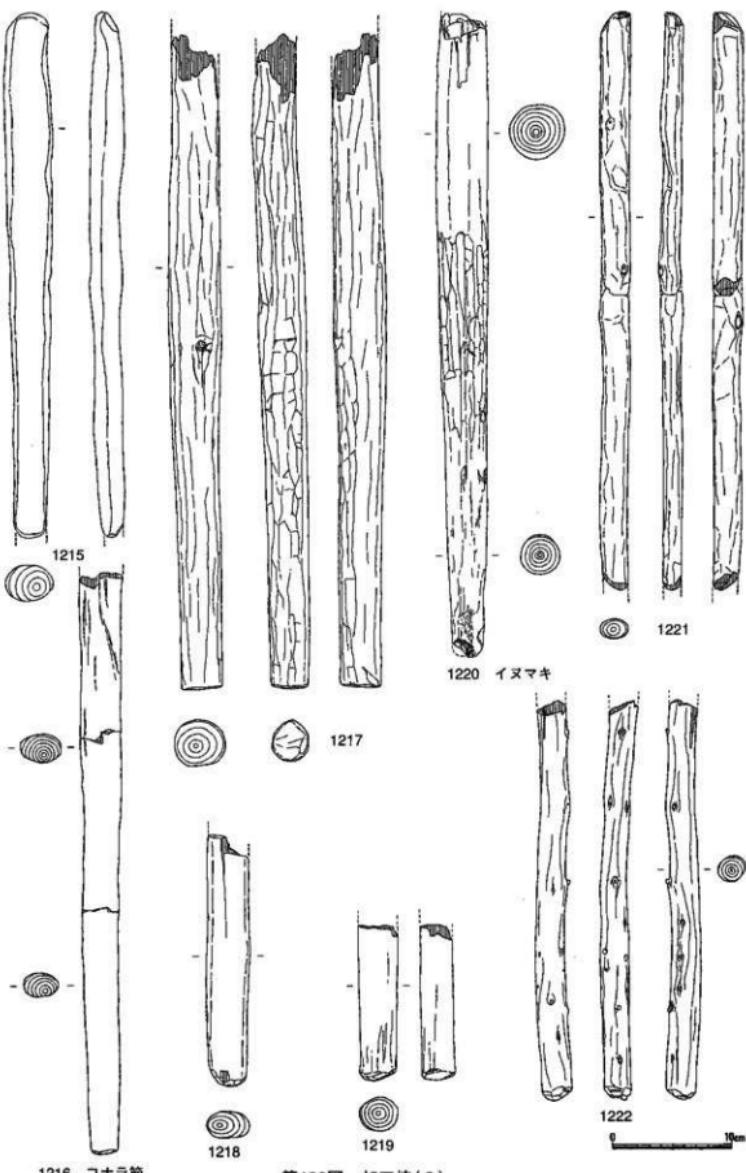
第187図 加工棒(2)

1210は割材を使った全長46.6cmの完形品。横断面は4.25×2.35cmの楕円形で、一端に向けやや細くなっている。端面は広い方の端部を平たく狭い方を丸く加工している。1211も割材を使ったほぼ完形品で、全長が39.5cmあって、横断面は3.4×2.3cmの楕円形である。1206や1210と異なり太さはほとんど変わらない。1212は一端を細くして端面を丸く加工している。心持ち材を使っていて横断面は4.3c $\times$ 2.8cmの楕円形で残存長は36.8cmである。1213は割材を幅4.1cm厚さ2.7cmの断面方形に加工した棒状品の端部で、端面も平たくしている。残存長は32.5cmである。1214は直径幅4cmの心持ち材を用いた全長34cmの加工棒のほぼ完形品である。片側の端部は1206と同様にやや細くしていて、端面を丸く加工している。

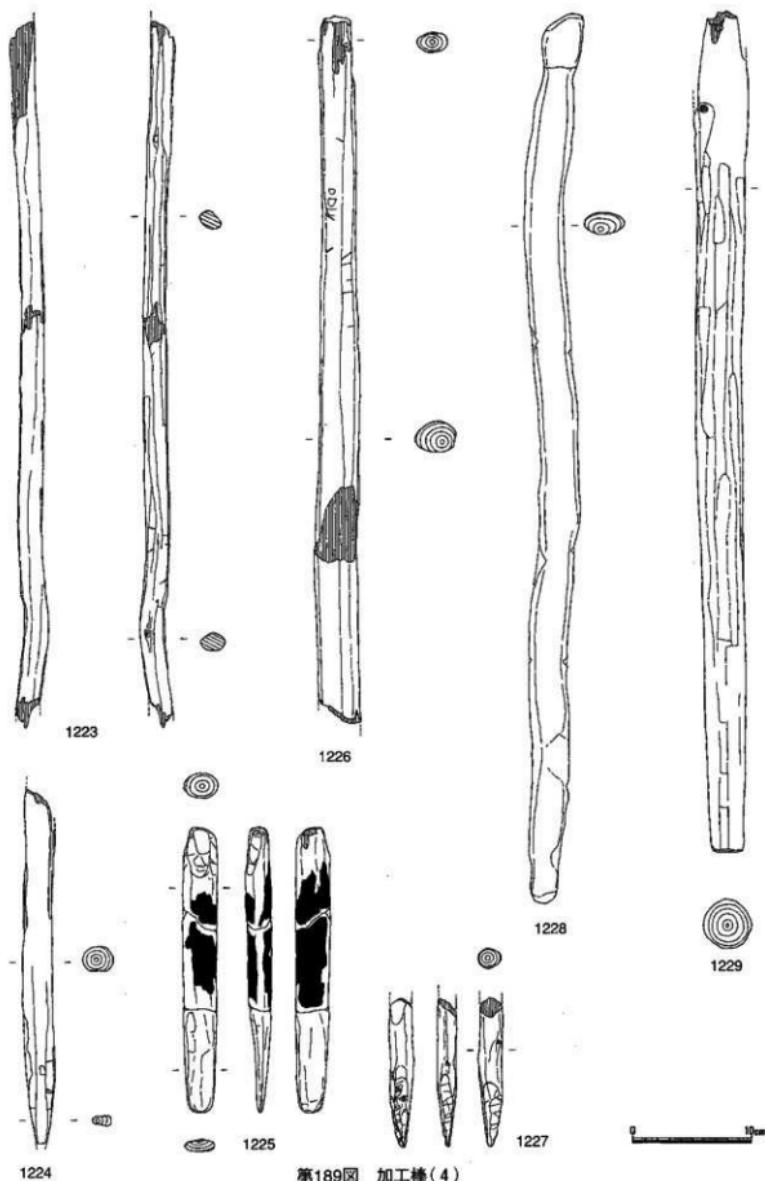
1215は心持ち材を使って横断面をやや扁平な円形に加工している。残存長は43.3cm幅4.1cm厚さ2.9cm。1216は直径4cmのコナラ節の心持ち材を加工した端部の破片で、残存長47.2cmである。端面を丸く加工している。1217は心持ち材を使って直径に4.2cm加工を施し、表面の細長い加工痕や端面を平坦にした加工痕が明瞭に残っている。残存長は54.2cmである。1218・1219は残存長は20.7cm・12.8cmと短いが、両方とも端面を丸く加工した端部の破片で、1218は心持ち材を3.6×2.2cmの楕円形に、1219は直径3.2cmに加工している。1220はイヌマキの心持ち材を使って片側の端部を端面から35cmあたりから徐々に細くしていて、その加工痕が明瞭に残っている。残存長は53.4cm太いところで直径4.3cmである。1221は47.8cmが残存していて、一端を斜めに加工している。表面の加工も丁寧で、直径2.5cmの心持ち材を用いている。1222は一端に切断痕が残るだけの未成品で、切り取られた枝の根元も未処理である。心持ち材で残存長33.1cm直径2.4cmである。

1223は残存長58.4cmで両端を欠損しているものの、横断面形は必ずしも整っていないが柱目材の全周を縱方向に長く面を作り加工している。幅2.1cm厚さ1.6cmである。1226も残存長58.5cmで両端を欠損しているが一端を細く加工している。直径3.5cmの心持ち材を使い、長軸方向に細長く面を持たせた加工をしている。1228は心持ち材を用いた全長74cmの完形品で、片側の端部には長さ4.5cmの頭部を作っている。横断面は3.6×2.6cmの扁平な円形である。1229は広い方の端部を欠損しているが69.7cmが残っていて、残存端面から55cmのあたりから長軸方向に幅の狭い加工を施して細くしていている。端面は平らに加工している。4.5cmの心持ち材を使っている。

1224・1225・1227・1230～1234・1245は一端を細くとがらせていて杭状を呈する。ただし、1225については、先端を表裏2面から加工し、しかもやや内湾させているので、ヘラ状木製品として扱うべきものである。1224は両端を欠損しているが、先端は断面長方形に4面から細くしている。心持ち材を使っていて残存長29.2cm幅2.5cm厚さ2.1cmである。1225は心持ち材で全長23.5cmのほぼ完形のヘラ状木製品である。刃部を2面から削り薄くした直線刃形で、刃部の側面形はやや内湾している。中央部には樹皮が残る。基部を3面から加工を加えて調整しており、樹種同定がされていないので定かではないが、村上由美子氏の分類による丸丸型の櫻(さくら)に当たるかもしれない。幅2.8cm厚さ2.1cm。1227は先端を鉛筆形にとがらせている。心持ち材を使っていて加工痕が明瞭に残っている。1230は先端を鉛筆形に全周からとがらせていて、頭部は痛んでいるが小さい球形である。直径4.2cmのアカガシ亞属の心持ち材で樹皮を残している。全長は72.8cmである。1231は状態が悪いが先端を2面から細くした杭状の加工棒で、頭部下端を三方から削りだしている。中央付近に幅4cmの繩かけがあって、繩かけの反対側を面取りしている。先端側には枝の根元を2つこぶ状に残したものにしている。心持ち材を用いており、全長44cm直径4.1cmである。1232は先端を端面から22cmあた



第188図 加工棒(3)



第189図 加工棒(4)

りから2面加工で細くしていき、端部間近になって4面加工している。12cmあけて繩かけを作っているが、下段が幅4cmで溝状になっているのに対し、上段は何回か手斧を当てた程度で加工途中かもしれない。上段には反対面にも雑な加工がある。直径3.3cmの心持ち材を用いていて全長52.9cmである。1233は残存長41.1cmで先端と基部を欠損しているが、柾目材を直径2.5cmに加工していて、長軸方向の仕上げ加工痕が顕著に残っている。1234には幅の狭い加工痕が顕著に残っていて、先端は片面から細くしている。直径3.1cmの心持ち材を使っていて残存長は41.5cmである。1245は長さ9cm直径4cmの平面長方形で太い頭部を持った杭状をしていて、頭部の下は直径2.5cmに細くしている。心持ち材で全長44.5cmである。

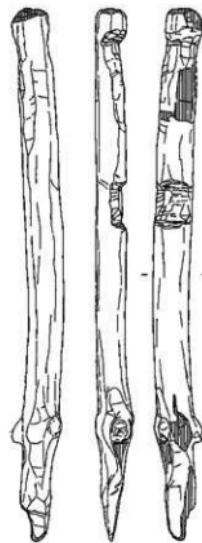
1235～1244・1246～1251は何らかの器具の部材の可能性がある。1235は柾目材を断面方形に加工した上、端部を鉤状にしている。それと反対面には幅1.5～2cmの繩かけを15cmの間をおいて2つ作っている。柵状の木製品の枠木で、繩かけ状の加工に桟木を組み合わせる事も考えたが、端部の鉤状と繩かけの方向が正反対である点が気がかりである。1236は端部の紐かけを前面とすると、後面を端部から約11cmまで平坦に加工し、中央部は右側面を面取りしている。直径2.5cmの心持ち材を使っていて残存長は59.5cmである。1237は幅2cm厚さ7mmで断面長方形の柾目材を使って、端部に幅1.7cmの紐かけ溝を彫って頭部を作る。裏面には頭部を作らず紐かけ溝に対応する部分まで平らに削っている。残存長は35.2cmである。1238は柾目材を幅2.4cm厚さ2cmの方形に加工して、端部側面に幅3.5cmにコの字形に切れ込みを入れている。1239は18.5cmしか残っていないが、直径3cmの心持ち材の裏面を平坦に加工している。頭部は半球状で、全面に細かい加工痕が残っている。1240は直径4.7cmの心持ち材製の完形品で、全長は62.2cmある。両端に頭部を作り出すが、一端は端から約40cmのあたりから徐々に細くしていく、もう一方は幅3cmの紐掛け状にめぐらせている。全体に乾燥のため干削れや収縮がある。

1241は削材を幅2.6cm厚さ1.3cmの断面方形に加工して一端に幅1.5cmの頭部を作る。2つの破片は直接接合しないが同一個体とみられる。1242は柾目材を直径3.1cmの断面円形に加工して、端部から10cmの所に境をつけて頭部状にしている。頭部状の部分は長さが10cmもあって、反対側の端部も欠損しているので握部となる可能性もある。全体に丁寧な加工がなされている。残存長35.9cmである。1243は概半分に割れている。1242と似ているが、頭部が6.4cmと1242に比べると短い。柾目材を4.1cmの断面円形にして細かく丁寧な加工を施す点は共通している。1244も柾目材を加工した有頭棒で、頭部は截頭円錐形である。断面形は梢円形に近く幅3.2cm厚さ2cmで、残存長が48.6cmある。1246は1240と同じく両端に頭部を持つ有頭棒の完形品で、ツバキ属の心持ち材製で全長は70.5cmある。頭部の長さは2～3cmで、一方は長さ7cmをかけ徐々に細くし、他方では幅2.5cmで紐掛けをめぐらす点も1240と共に共通している。太さは3.2cmで1240よりは細い。1247は削材を使った全長89.5cmの完形品で、一端に半球形の頭部を持つ。他端は丸く收めていて、何かの柄の可能性もある。断面は梢円形状で幅3.3cm厚さ2cmである。

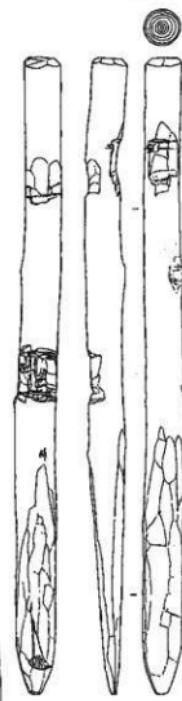
1248は片側の端部にレの字状の加工を施して頭部を作っていて、反対側の端部は丸く收めている。直径2.8cmの心持ち材製で全長72.6cmのほぼ完形品である。1249は端部の側面から欠込を施して頭部を形成する。幅3.4cm厚さ1.5cmの断面長方形に平坦加工を行っている。一部に炭化がみられる。心持ち材を使っていて残存長49.6cmである。1250は柾目材を2.8×2.1cmの断面梢円形に加工し、端部には平面方形の頭部を作り出している。棒の部分は幅5mm～12mmで長軸方向に面を持たせて加工する。



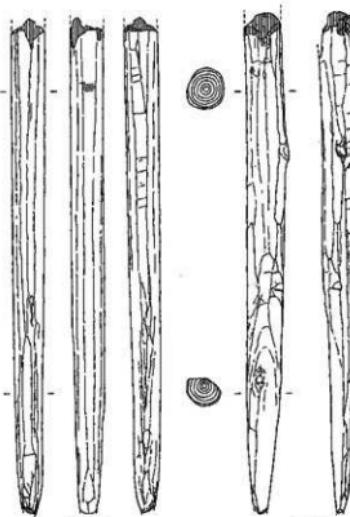
1230 アカガシ亜属



1231

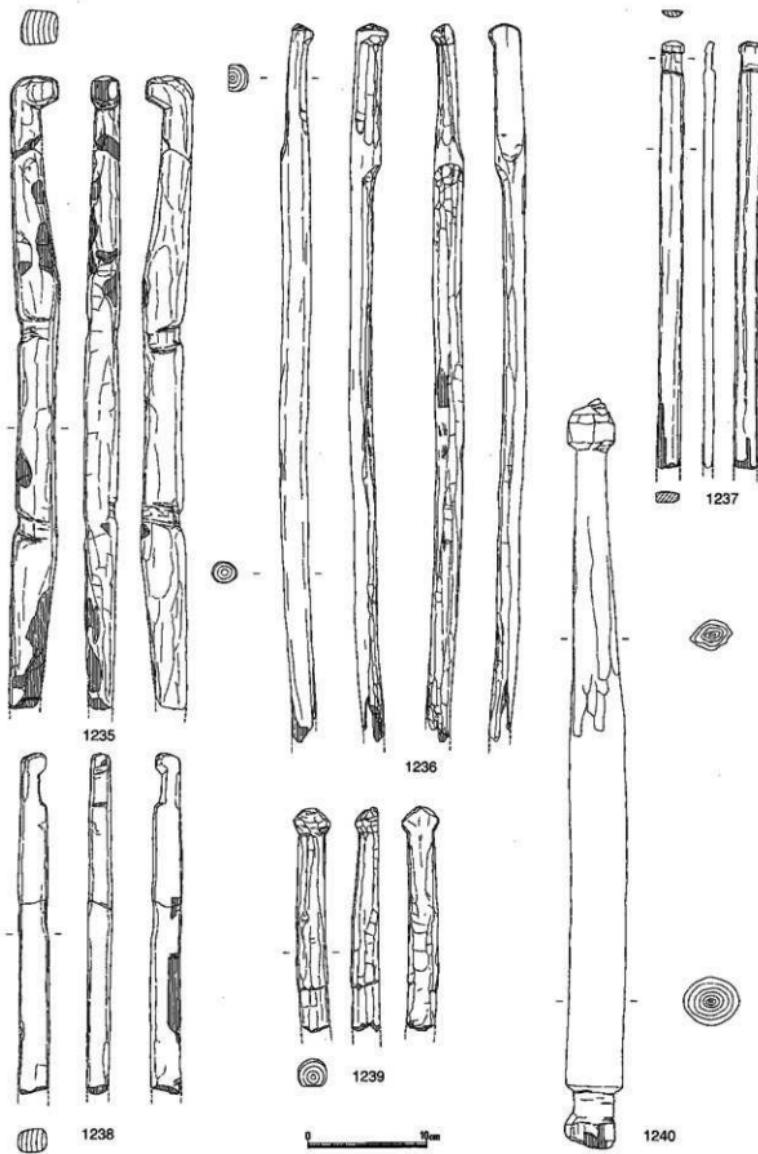


1232



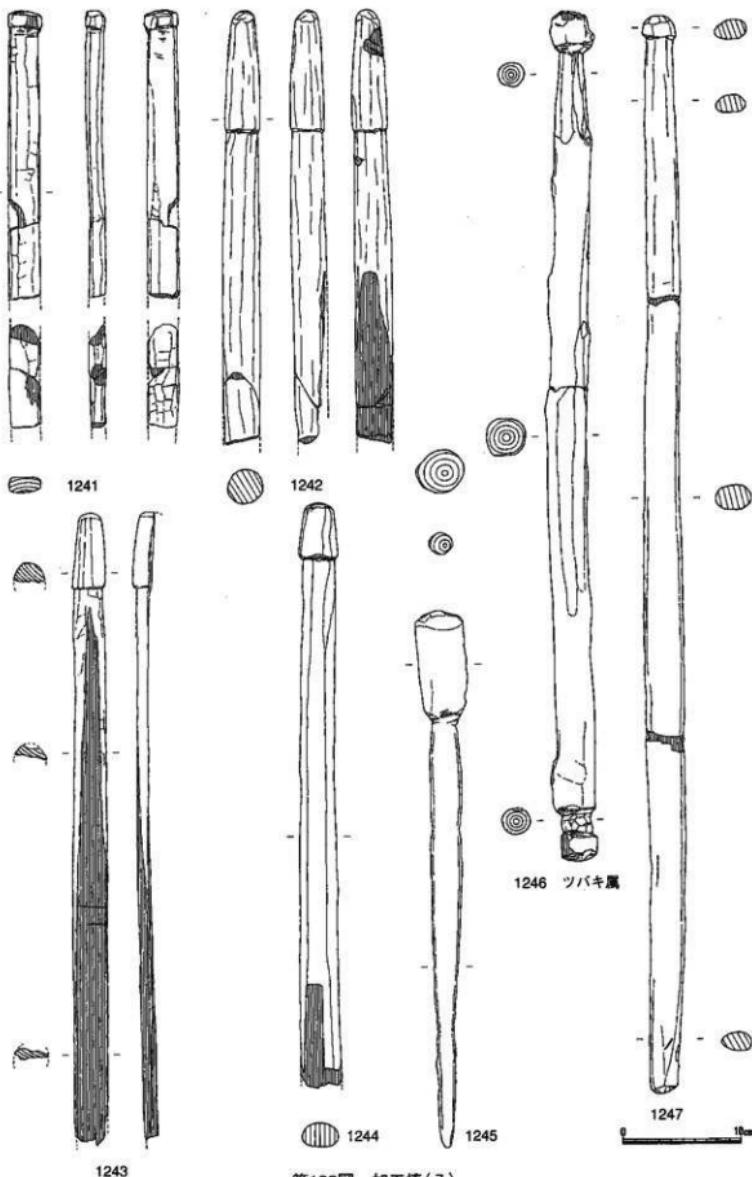
第190図 加工棒(5)

0 10mm

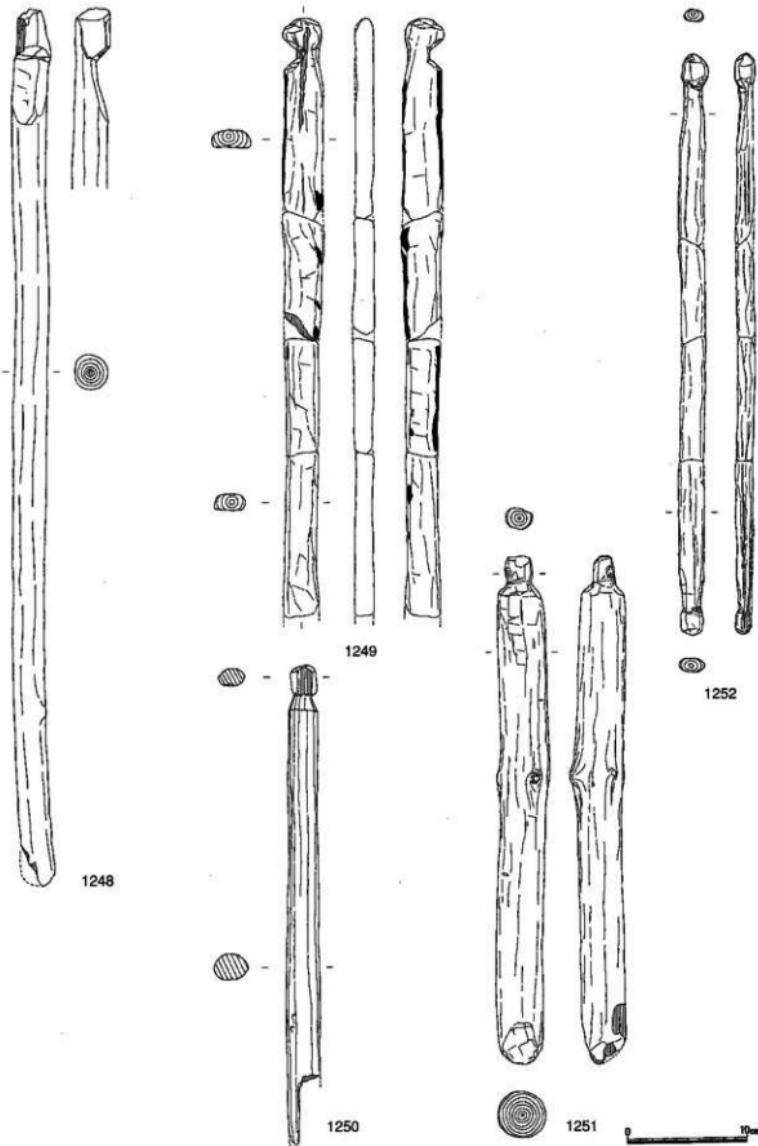


第191図 加工棒(6)

14. 用途不明品



第192図 加工棒(7)

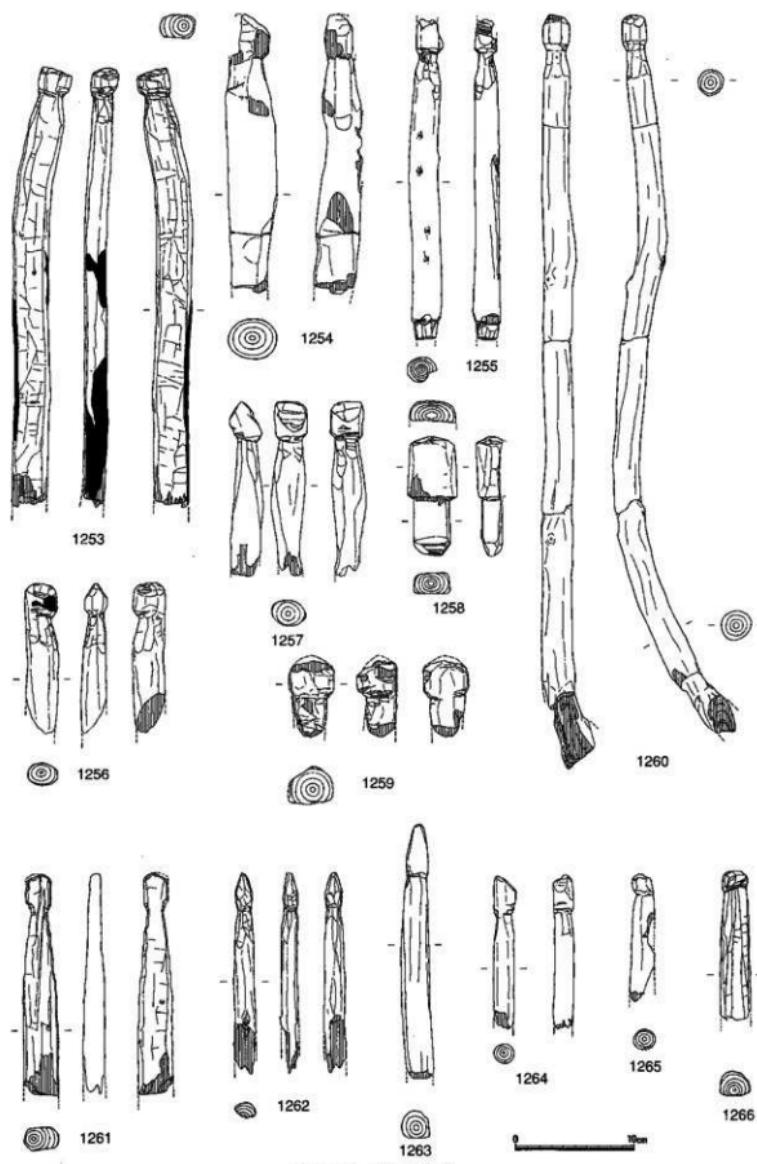


第193図 加工棒(8)

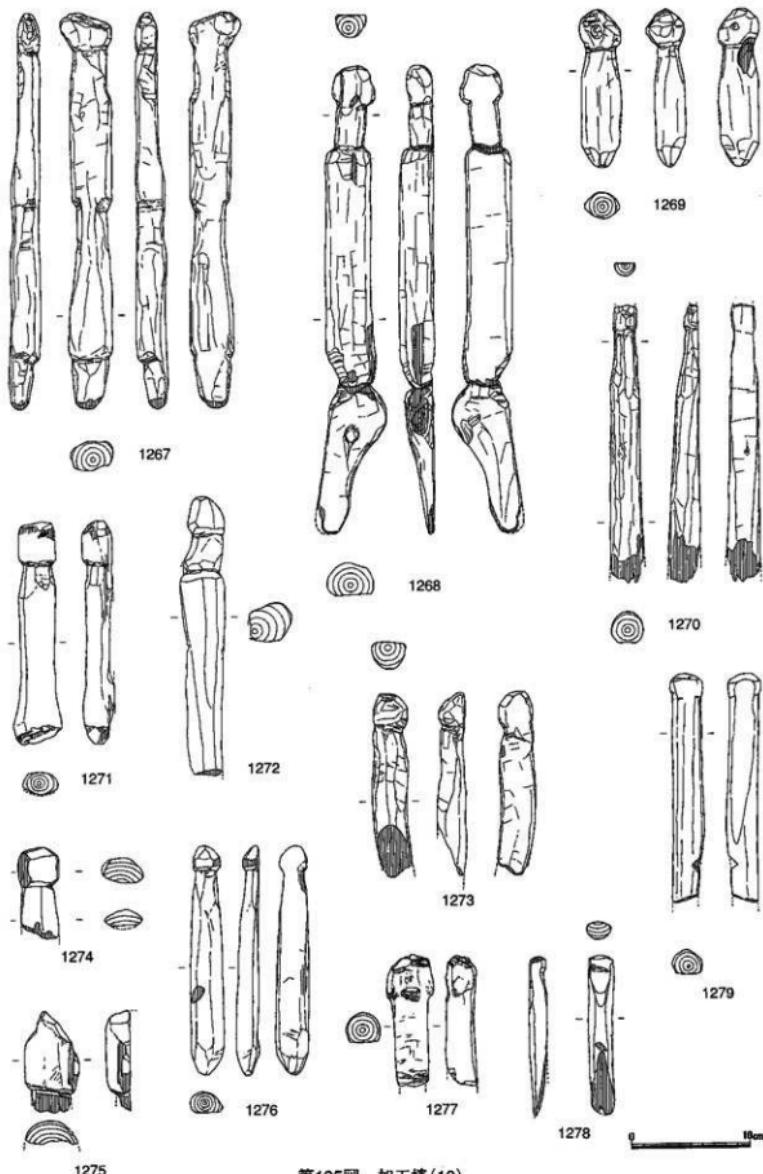
1251は直径4.5cmの心持ち材の一端に長さ2.2cmで断面円形の短いほぞをつける。反対側の端部は斜めに端面が作られている。枝の付け根が少し残っていて加工はやや粗い。1252は細長い棒の両端に頭部を作っている。組合せの吊り棚のようなものの部材か? 直径2.2cmの心持ち材で全長は48.2cmである。1253は心持ち材を使って1241と同じく断面長方形に加工して、端部平面長方形の頭部を作り出している。長軸方向の加工痕が顕著に残っている。残存長36.3cm幅2.95cm厚さ1.9cm。1260は曲がった心持ち材を使っていて、欠損部に幅2cmほどの繩かけがかかっている。

1254~1259・1261~1266・1270~1275・1277~1279は端部に頭部を作り出した様々な製品の一部ともみられる。1255は溝状の繩かけまたは頭部の付け根で折れている。1258は断面長方形の有頭棒の頭部から下5cmで切り離したもので、先述のとおり1157や1162のように栓状の形態であるが、切断痕がそのまま残っている点が異なる。全長9.9cm頭部の幅4.1cmである。1261は心持ち材を使った端部の破片で断面は横長の六角形を呈する。1263・1266・1270・1273・1279には1面を平坦加工している。1262・1263には長三角形の、1265・1266には偏球形の頭部が付く。1278はレの字の加工を施して頭部を作っている。1274・1278には削材を使っていて、1271・1277には切断痕が残る。1269・1276は心持ち材を加工した完形品で、片側の端部に球形の頭部を作り、反対側の端部は鉛筆状にとがらせているが、杭と異なりとがらせ方が急角度で短い。1269は直径3.2cmで全長13cm、1276は直径2.7cmで全長18.9cmである。

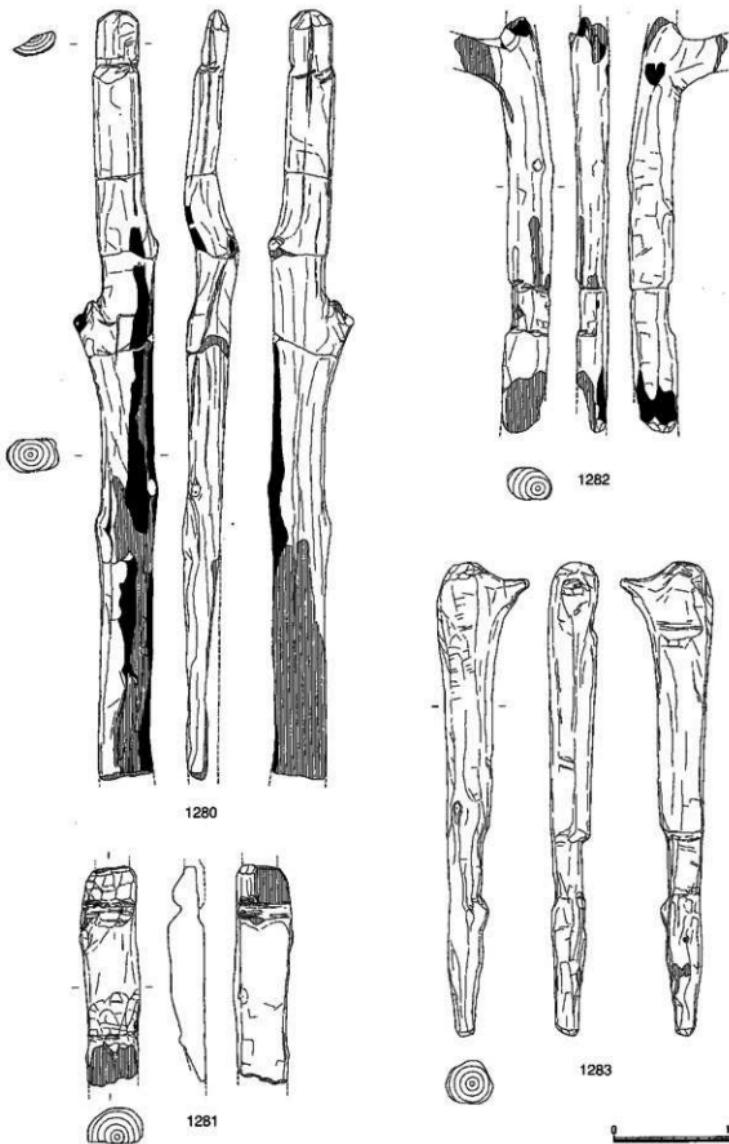
1267・1268・1280~1312は繩かけなどを施した加工棒の一部で、いずれも心持ち材が使われている。この中には竿受けの一部やその転用品が含まれている可能性もある。1267は全長32.8cmのほぼ完形品で、断面長方形に加工し、繩かけを3箇所作っている。1268も全長38.7cmの完形品で、片側の端部を表面から薄くしている。繩かけが2箇所あるが、1つは幅4cmの溝状で他方は3面から鋭角に削り込んでいる。1280は先端から5cmほどを1面から削りやや薄くしている。断面長方形に加工し、一部に炭化がみられる。枝は切断したままである。1281は団の上端部付近両面に溝状切り込みがある、下部にもレの字状の加工を施している。後面を平坦に加工していて、直径4.7cmのやや太い材を使用している。1282はL字形にのびる枝の付け根部分が残っている。幅4cmほどの繩かけが1箇所あって、後面に平坦加工を施す。一部樹皮が残る。1283は完形品で、竿受けの又部から下の転用か。繩かけが1つある。全長39.4cm幅7.3cm厚さ3.6cmである。1284も竿受けの転用とみられる。竿受けの転用とすれば、枝部が切り落とされ、又部に接して新たに繩かけが1つ作られたことになる。背面に平坦加工を施し面を持たせている。団の上端は頭部の付け根で折れていると見られる。残存長55.4cmである。1285は団の上端が繩かけ部分で折損していて、後面を平坦に加工している。1292は半裁材を使い面を持たせている。団の下端に頭部を作り全面からも削って薄くしている。1294も1292と同様に頭部を全面から削っているが、1292よりも材に厚みがあるので斜めにとがらせる形になっている。後面は中央に稜を持つようにして平坦加工している。1297は1283と形状が似ていて杖のような形をしているが、1283よりも長くレの字に加工した段々がある点が異なる。団の上部では枝分かれの部分を利用して幅を広くとり、以下下端に向け細く加工している。全長64.3cm幅6.6cm厚さ2.8cmである。1301は端部の下にレ字状の欠込を施し頭部とする。1302は両端を欠損しているが、端部付近のみに加工を施しているが、枝の根元が残るなど加工が雑で、未成品の可能性もある。1303は団の上端がレ字状の加工部分で折れている。中に3面から削り込んだ繩かけがあって、後面を平坦に加工している。



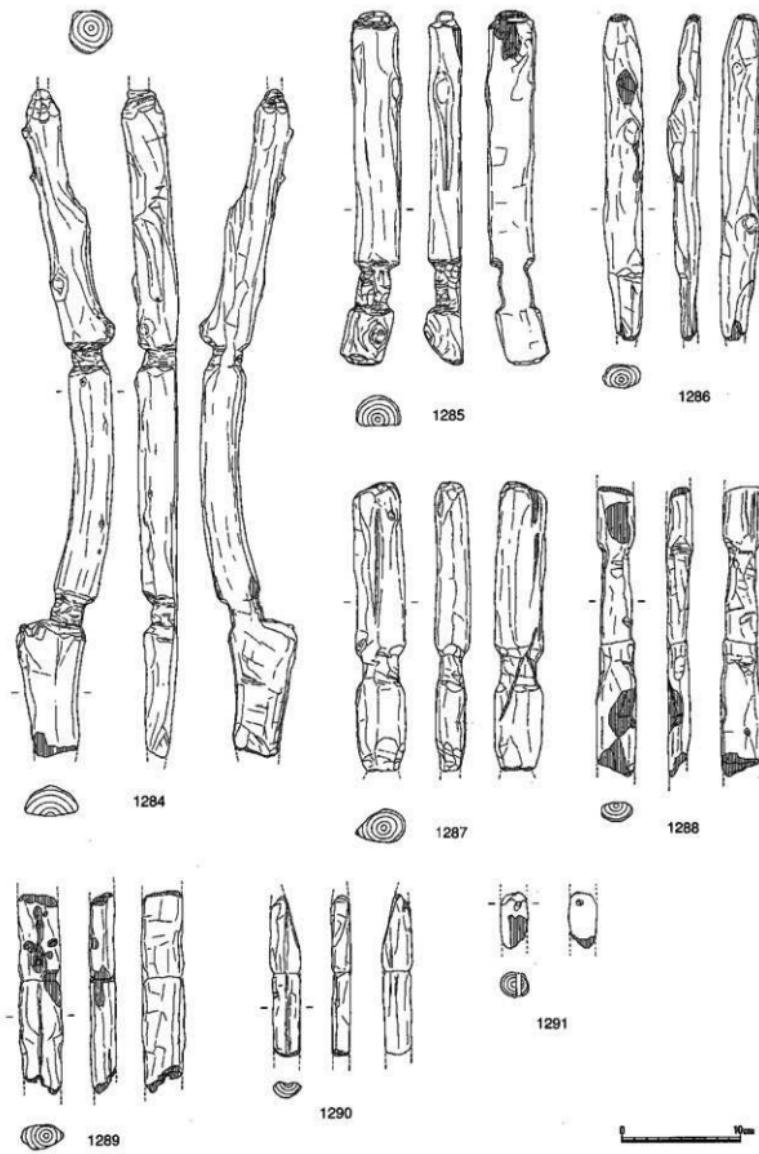
第194図 加工棒(9)



第195図 加工棒(10)



第196図 加工棒(11)



第197図 加工棒(12)



1292



1293

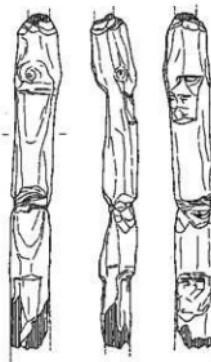
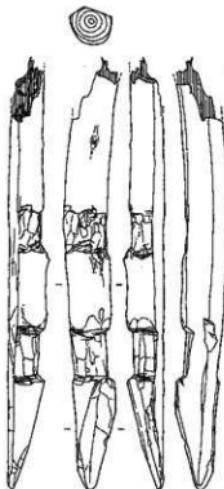


1294

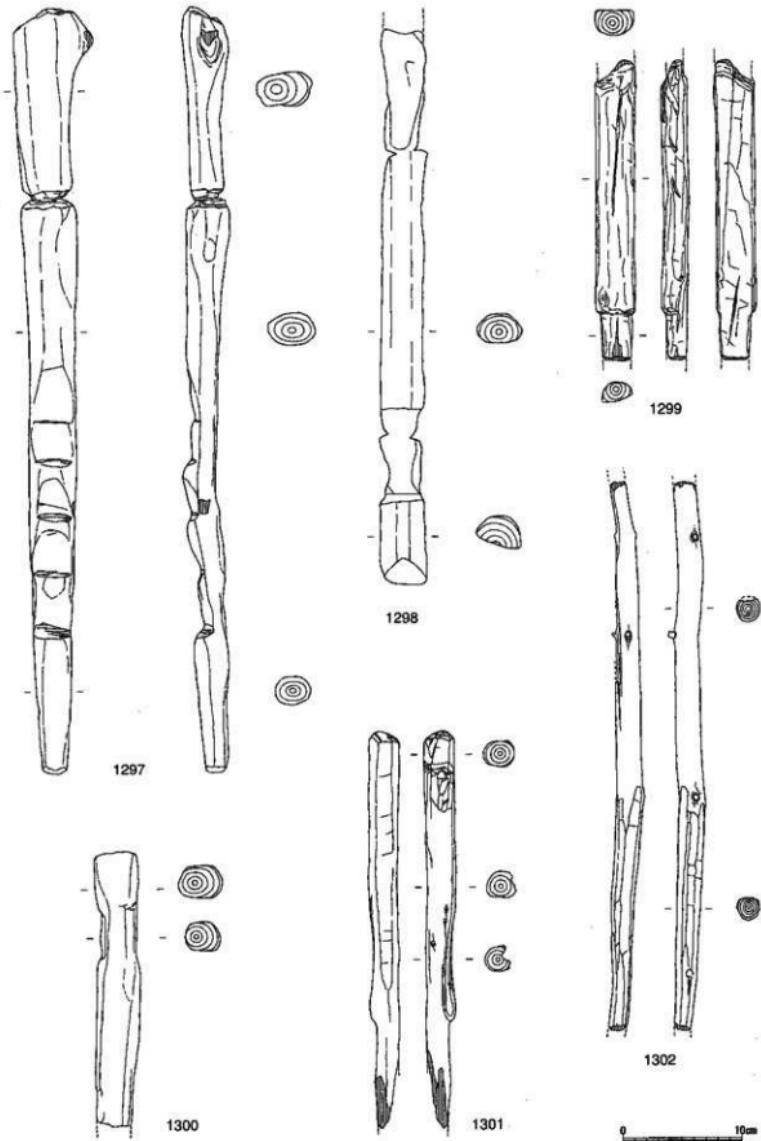


1296

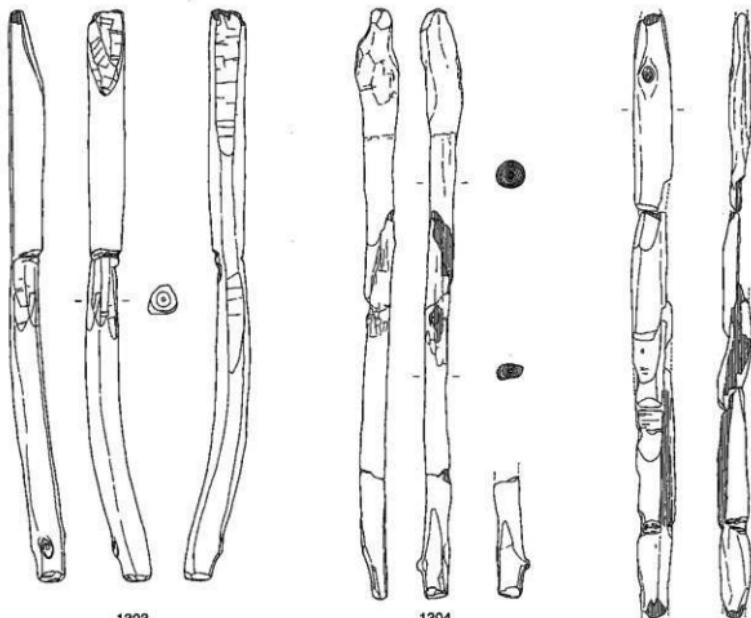
1295



第198図 加工棒(13)



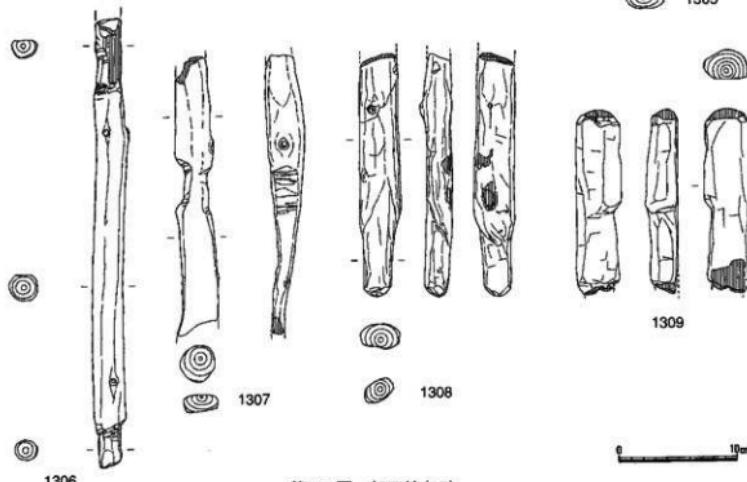
第199図 加工棒(14)



1303

1304

1305



1306

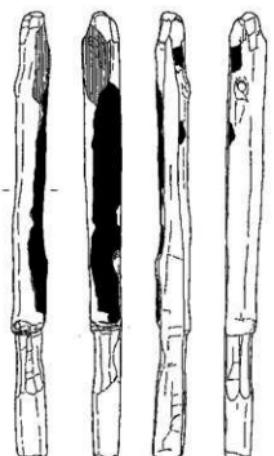
1307

1308

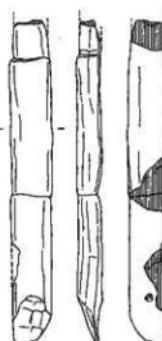
1309

— 10cm —

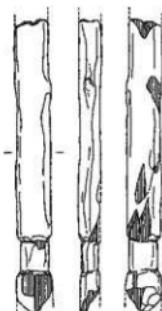
第200図 加工棒(15)



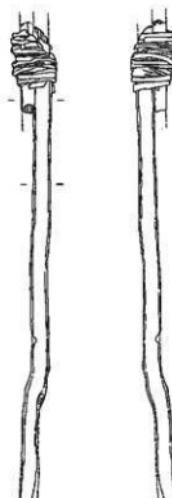
1310



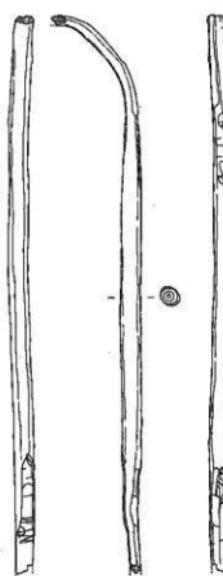
1311



1312



1313



1314

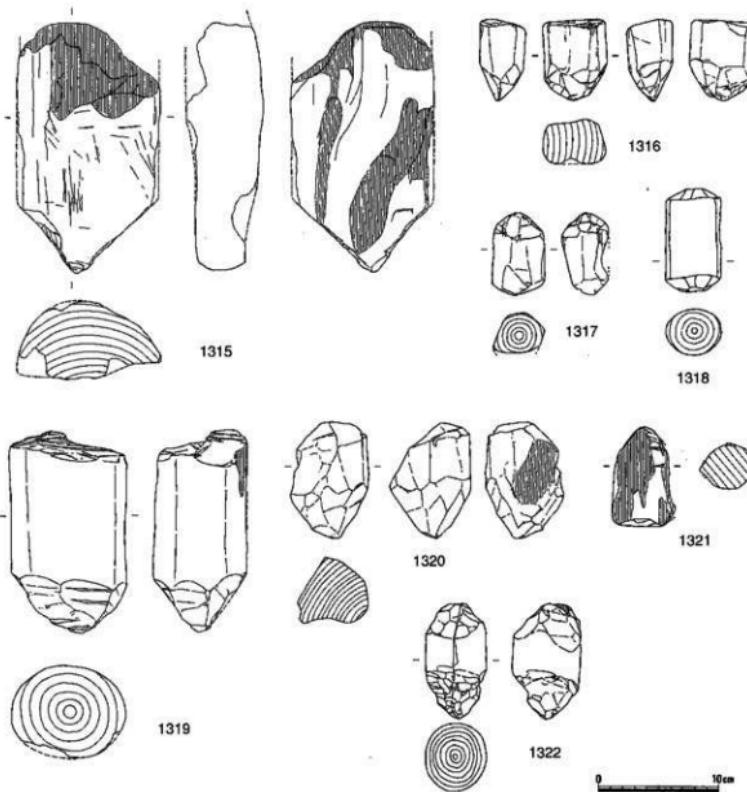
0 10mm

第201図 加工棒(16)

1310は下部の縄かけから下を細くしている。下端面は加工が雑で、切断痕がそのまま残る。樹皮が残存していて、後面を平坦加工している。1313は両端が折れているので全形は不明だが、あわせ面に平坦な加工を施し2本の棒をつる状の紐を巻き付けている。1314は端部を両側から薄く加工していて、片側はU字形に曲がった部分で折れている。心持ち材で残存長68.9cm幅2.6cm厚さ2cmである。

## 残核

両端に切断痕跡が残ったもので、片側が平坦で反対側が鉛筆状にとがったコマの形をしたものが多い。何らかの製品の未成品ともみられるが、見合う製品がわからず、必要部分を切り取った残核状の残材とみておきたい。



第202図 残核

#### 14. 用途不明品

##### 註

- (1) 奈良国立文化財研究所 1993 「木器集成図録 近畿原始編」 奈良国立文化財研究所史料第36冊
- (2) 山田昌久 2003 「考古資料大観8」 弥生・古墳時代 木・繊維製品
- (3) 町田 章 1985 「木製容器」「弥生文化の研究5」道具と技術。
- (4) 岡山市教育委員会 1997 「岡山市埋蔵文化財調査の概要 1995(平成7年度)」
- (5) 横宜田佳男 1999 「伐採石斧の柄」『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室10周年記念論集』
- (6) 註5に同じ
- (7) 橋上 昇 2000 「『木製農耕具』ははたして「農耕具なのか」－新たな機能論的研究の展開を考える－」『考古学研究』第47巻第3号
- (8) 橋上 昇 1993 「木製農耕具研究の一視点」『考古学フォーラム』3: 考古学フォーラム
- (9) 村上由美子 1996 「杵と臼の変遷について」『滋賀考古』15 滋賀考古学研究会
- (10) 兵庫県教育委員会 1996 「玉津田中遺跡」第5分冊
- (11) 小松市教育委員会 2003 「八日市地方遺跡。」
- (12) 神谷正弘氏は「札甲」、橋本達也氏は「組合せ式」を用いる。ここでは、「一本」に対する「組合せ」を採用する。  
神谷正弘 1996 「福禮式木甲について」『下田遺跡』 財団法人大阪府文化財調査研究センター  
橋本達也 1996 「古墳時代前期甲冑の技術と系譜」『雪野山古墳の研究』 雪野山古墳発掘調査団
- (13) 国立歴史民俗博物館により復原された。国立歴史民俗博物館 1996 「倭国乱る」
- (14) 調査時の見解は桑原久男氏に紹介していただいた。桑原久男 1999 「銅鐸と武器の祭り」「古代史の論点5 神と祭り」
- (15) 島根県土木部河川課 島根県教育委員会 1989 「西川津遺跡発掘調査報告書V」
- (16) 浅岡後夫 1997 「多枝付木製品考－蓋骨の再検討－」『立命館大学考古学論集I』
- (17) 註11に同じ。
- (18) 財団法人鳥取県教育文化財団 2002 「青谷上寺地遺跡4」
- (19) 山田昌久氏は杓・さじ・釣瓶などの総称としてすくい具を用いている。本来用語の混乱はさけるべきであるが、他に適切な用語が見あたらないので、当面すくい具を用いることとする。山田昌久 註2文献
- (20) 荒木隆裕氏は民具との類似から「もみすくい」とされている。財団法人東大阪市文化財協会 1987 「鬼虎川の木質遺物」
- (21) 註15に同じ。
- (22) 宮城県中在家南遺跡から類例が出土している。仙台市教育委員会 1996 「中在家南遺跡他」
- (23) 上原真人口が可能性を指摘されている。註1文献。
- (24) 山田昌久 2002 「組合せ式針葉樹製鋤の再検討」『月刊考古学ジャーナル』486号
- (25) 註17に同じ。
- (26) 村上由美子 2002 「木製櫓の基礎的論考」『史林』85巻4号

木 器 觀 察 表

| 番号 | 器種番号  | 種類   | 形 種    | 測 容      | 水取り      | 出土地点        | 層 位      | 全 長    | 全 高    | 幅 呆    | 特 徴                             |
|----|-------|------|--------|----------|----------|-------------|----------|--------|--------|--------|---------------------------------|
| 1  | W7339 | 斧頭柄  | 楕 圓    | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | (直)      | 73     | -      | 35     | 木製品。柄の途中で折損。                    |
| 2  | W7141 | 斧頭柄  | 楕 圓    | 直 柄      | 直 柄      | F 5・6・sec 1 | 貝中・3 (2) | 76.9   | 9.2    | -      | 37<br>木製品。頭部下曲がり工巾。             |
| 3  | W5566 | 斧頭柄  | アカガシ彫刻 | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 59.6   | 7.8    | -      | 35<br>木製品。斧頭部は朱色。頭部はわざかに彫刻。     |
| 4  | W1230 | 斧頭柄  | アカガシ彫刻 | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 11.7   | 7.0    | -      | 49<br>斧頭部から上部の腹に、               |
| 5  | W5564 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | P        | 直 柄         | (P)      | 26.9   | (5.6)  | -      | 42<br>斧頭部から上部の腹に、               |
| 6  | W5181 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | G・S D560 | 直 柄         | (G)      | 21.5   | (5.9)  | -      | 52<br>使用用石斧柄の頭部の痕跡。全体に彫刻。       |
| 7  | W5575 | 斧頭柄  | 直 柄    | E 3      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 19.5   | 6.2    | -      | 4.4<br>斧頭部は一方に削る。所は彫刻。          |
| 8  | W0682 | 斧頭柄  | アカガシ彫刻 | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (11.3) | 6.7    | -                               |
| 9  | W5446 | 斧頭柄  | アカガシ彫刻 | 直 柄      | 直 柄      | F 14        | F        | (56.4) | (6.0)  | -      | 66<br>斧頭部から上部の腹に、               |
| 10 | W1021 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (42.3) | 4.5    | -                               |
| 11 | W0095 | 斧頭柄  | アカガシ彫刻 | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (46.9) | (5.4)  | -                               |
| 12 | W5587 | 斧頭柄  | アカガシ彫刻 | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (43)   | 7.5    | -                               |
| 13 | W5587 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | E 1～4    | 直 柄         | 直 柄      | 9.2    | (6.3)  | -      | 62<br>使用用石斧柄の頭部から中程までの痕跡。基部を欠く。 |
| 14 | W0091 | 斧頭柄  | -      | -        | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (12.6) | 7.0    | -                               |
| 15 | W5533 | 斧頭柄  | 直 柄    | F 2      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (26.6) | (4.3)  | -                               |
| 16 | W0094 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (51.7) | (6.3)  | -                               |
| 17 | W0052 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 38.6   | 15.6   | -                               |
| 18 | W6169 | 斧頭柄  | 直 柄    | D・S D162 | F        | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 47.0   | (8.5)  | -                               |
| 19 | W6349 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | B        | 直 柄         | 直 柄      | 14.7   | (12.5) | (3.9)  | -                               |
| 20 | W5536 | 斧頭柄  | -      | -        | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14.7   | (30.7) | (7.2)  | -                               |
| 21 | W5096 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | E 1～4    | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (24.3) | 22.1   | -                               |
| 22 | W5563 | 斧頭柄  | 直 柄    | E 3・4    | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (6.4)  | 6.5    | -                               |
| 23 | W5102 | 斧頭柄  | サカキ属   | E 3・4    | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 20     | 5.8    | -                               |
| 24 | W6114 | 斧頭柄  | 直 柄    | E 5      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (10.8) | (2.8)  | -                               |
| 25 | W5532 | 斧頭柄  | 直 柄    | E 1      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 12.5   | 10.8   | -                               |
| 26 | W6080 | 斧頭柄  | 直 柄    | E 1      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (5.6)  | (14.0) | -                               |
| 27 | W5103 | 斧頭柄  | コナラ跡   | 直 柄      | E 3      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 21.6   | 9.0    | -                               |
| 28 | W5298 | 斧頭柄  | 直 柄    | C        | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14.7   | (23.7) | (12.2) | -                               |
| 29 | W5104 | 斧頭柄  | サカキ属   | E 3～G    | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (21.7) | 10.6   | -                               |
| 30 | W6563 | 斧頭柄  | 直 柄    | E 8      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (5.5)  | -      | (1.0)<br>未確認？與者を明確に作り出している。     |
| 31 | W5539 | 斧頭柄  | 直 柄    | トレザー 1・2 | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 25.6   | -      | 17<br>直 柄は削り出された。               |
| 32 | W5539 | 斧頭柄  | 直 柄    | 直 柄      | E 1      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 21.5   | 18.9   | -                               |
| 33 | W0054 | 斧頭柄  | サカキ    | 直 柄      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | (22.1) | (10.3) | -                               |
| 34 | W0027 | のみ形  | サカキ    | 心 振      | 直 柄      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 29     | -      | 37<br>振り部を欠く。                   |
| 35 | W5308 | 直柄正楕 | -      | -        | E 5      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 42.5   | (18.4) | -                               |
| 36 | W5525 | 直柄正楕 | -      | -        | E 2      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 36.8   | 18.7   | -                               |
| 37 | W5444 | 直柄楕  | アカガシ彫刻 | 直 柄      | B        | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 42.6   | 14.6   | -                               |
| 38 | W5307 | 直柄正楕 | -      | -        | E 5      | 直 柄         | 直 柄      | 14     | 26.1   | -      | 30<br>未確認。削り出しき。                |
|    |       |      |        |          |          |             |          |        |        | 5.7    | 未確認。                            |

| 番号 | 器種番号  | 種類   | 期種     | 出土地点 | 層位                | 全長      | 全幅     | 高さ | 寸         | 特徴                                 | 備考 |
|----|-------|------|--------|------|-------------------|---------|--------|----|-----------|------------------------------------|----|
| 39 | W7077 | 直柄火鉢 | 木取り    | 板日   | D                 | 341     | 195    | -  | 5.5       | 広葉分岐形葉末成品。                         |    |
| 40 | W5728 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | D                 | (38.9)  | (6.8)  | -  | 2.2       | 彫刻された右側の縁部分。一方の刃端を欠く。内部構造に舟形巻足があり。 |    |
| 41 | W5729 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | D                 | (25.0)  | (8.0)  | -  | 5.0       | 中央部の刃端を欠き、舟形巻足があり。                 |    |
| 42 | W5749 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | D                 | (31.0)  | (11.2) | -  | 4.7       | 舟形巻足から後退。舟形巻足は比較的均整。               |    |
| 43 | W5747 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | D                 | (31.0)  | (9.0)  | -  | 2.6       | 14世紀後半。直柄火鉢の回転が大きくなる。加工法は比較的均整。    |    |
| 44 | W6049 | 直柄火鉢 | アカガシ直柄 | 板日   | F 7・8<br>河 1      | 35.0    | 9.0    | -  | 1.0       | 斜け付き、舟形巻足は斜め。舟形巻足は3mm。             |    |
| 45 | W0191 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 7               | 29.6    | 11.5   | -  | 0.8       | 後退部と右側縁が焼失。舟形巻足は丸方型。               |    |
| 46 | W5684 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 7<br>中段         | (24.95) | (6.7)  | -  | 0.2(5)    | 14世紀後半。直柄火鉢は舟形に近く、22mm四方。舟形巻足は傾いた。 |    |
| 47 | W0124 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 8               | (27.3)  | (8.6)  | -  | 1.3 / 1.3 | 舟形巻足を欠く。                           |    |
| 48 | W6038 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 8               | 23.4    | 7.8    | -  | 2.7       | 14世紀後半。直柄火鉢が強くなる三角舟形。              |    |
| 49 | W6033 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | B                 | 30.3    | 6.0    | -  | 1.3       | 14世紀後半。舟形巻足は無し。                    |    |
| 50 | W5348 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 6・sec 1<br>B・北壁 | 26.1    | 9.2    | -  | 2.2       | 解剖では舟形巻足を欠く。                       |    |
| 51 | W5269 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | B・北壁              | 19.3    | (10.8) | -  | 2.2       | 14世紀後半。直柄火鉢は比較的均整。                 |    |
| 52 | W5225 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 2.4       | 直柄火鉢は舟形。                           |    |
| 53 | W5206 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 3.6       | 上端部は舟形輪郭上方に舟形巻足を持つ。                |    |
| 54 | W5227 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 0.8       | 舟形輪郭上方に舟形巻足を持つ。                    |    |
| 55 | W5662 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3・4             | 9.0     | -      | -  | 1.4       | 直柄火鉢の縁取り。                          |    |
| 56 | W5285 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 2.0       | 直柄火鉢で、14世紀後半。                      |    |
| 57 | W5229 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 2.6       | 直柄火鉢は直手子貫にて、直柄火鉢下方に舟形巻足を持つ。        |    |
| 58 | W5228 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 1.3       | 5.7に付属。5.6と同一個体。蓋物側面有り。            |    |
| 59 | W5234 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 1.2       | 直柄火鉢は舟形輪郭下端に小孔がある。                 |    |
| 60 | W6430 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | E 3               | 9.0     | -      | -  | 1.3       | 舟形から半球の形状、蓋物側おはがれ落ちている。            |    |
| 61 | W0168 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢の縁取り。                          |    |
| 62 | W5129 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 63 | W5130 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 64 | W5190 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 65 | W5231 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 66 | W5225 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 67 | W5223 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 68 | W0122 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 69 | W0057 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 10.3    | (15.3) | -  | 1.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 70 | W5885 | 直柄火鉢 | エノキ直柄  | 板日   | F 3・sec 1         | 14      | -      | -  | 2.5       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 71 | W0050 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 0.4       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 72 | W5077 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 73 | W0071 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 74 | W5303 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 75 | W5666 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 76 | W5308 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 77 | W5703 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 78 | W5640 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 79 | W5131 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
| 80 | W5131 | 直柄火鉢 | 直柄火鉢   | 板日   | F 3               | 14      | -      | -  | 1.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |
|    |       |      |        |      |                   | 36.8    | (18.2) | -  | 2.6       | 直柄火鉢は舟形輪郭。                         |    |

| 番号  | 登録番号   | 機種     | 規制     | 耐候性     | 小なり    | 出土地点  | 層位     | 金長      | 幅      | 高さ                     | 厚さ  |
|-----|--------|--------|--------|---------|--------|-------|--------|---------|--------|------------------------|---|
| 81  | V5411  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | F 2    | 河・Y・上 | -      | 36.8    | 16.7   | -                      | 3.1 完形、加工未段階。溶接部首部は溶接部で接続しない。                 |
| 82  | V6303  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | F 7    | 河・下   | -      | 24.7    | 21.7   | -                      | 1.6 一方端部に引ひじる現象が見られ、「断面」の溶接部が異常あり。            |
| 83  | V0167  | 直角折板   | 板目     | 河       | 3      | 河・上   | -      | 24.4    | 18.5   | -                      | 0.6 一方端部に引ひじる現象が見られる。溶接部が端部まで1cmの突起。記述参考番号あり。 |
| 84  | V6500  | 直角折板   | 板目     | 河       | 6      | 河・Y・下 | (52)   | (21.3)  | -      | (3.2) 方端部が折れ曲がりを持つ。    |   |
| 85  | V2853  | 直角折板   | 板目     | 河       | 6      | 河・Y・下 | (52)   | (4.8)   | -      | 1.6 方端部が折れ曲がりを持つ。      |   |
| 86  | V15201 | 直角折板   | 板目     | C       | 14-F   | 河・下   | (72)   | (6.9)   | -      | 1.8 方端部が折れ曲がりを持つ。      |   |
| 87  | V5241  | えぐり    | アカガシ重版 | 板目      | E 3    | 河・下   | 3-葉筋   | 79      | (23.3) | -                      | 1.5 葉筋部をもつ小屋根又異。刃端が下へたる。J2工程の断面。              |
| 88  | V5919  | えぐり    | アカガシ重版 | 板目      | B・北壁   | 河     | 4      | (20.7)  | 4.8    | -                      | 1.5 地下室部の現象が複数ある。                             |
| 89  | V6500  | えぐり    | アカガシ重版 | 板目      | C      | 14-F  | -      | 64      | 38.3   | -                      | 1.3 初J5工程の小さき方折れ孔があり2つ付く。                     |
| 90  | V0165  | 直角折板   | 板目     | 河       | 1      | 河     | 1      | 17      | 18.8   | -                      | 1.9 端部は欠損現象。                                  |
| 91  | V0166  | 直角折板   | 板目     | 河       | 3      | 河     | 1      | (12.4)  | (18.2) | -                      | 3.2 端部は欠損現象。端部間に隙間を持つ。                        |
| 92  | V5600  | 直角折板   | 板目     | B       | F 7    | 河・中   | 4-5    | 58.5    | 8.2    | -                      | 1.25 完成品。                                     |
| 93  | V5411  | 直角折板   | 板目     | B       | 14-F   | 河     | 1      | (60.2)  | (12.7) | -                      | 0.6 端部は欠損現象。刃端は丸み。                            |
| 94  | V0064  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | B      | 河     | 1      | 36.3    | 10.3   | -                      | 1.8 石膏模版中央部から側面に向かって傾きを形成し、頭部に側かな現象をもつ。       |
| 95  | V0194  | 直角折板   | 板目     | B       | 河      | 1     | 14     | (55.5)  | (6.0)  | -                      | 0.9 斜め部の破損片。                                  |
| 96  | V0073  | 直角折板   | 板目     | B       | 河      | 1     | 14     | (11.9)  | (5.6)  | -                      | 1.3 斜め部の現象。                                   |
| 97  | V0076  | 直角折板   | 板目     | B       | 河      | 1     | 14     | (10.5)  | 9.0    | -                      | 1.2 端部の現象の発達。頭部に加工があり。                        |
| 98  | V5483  | 直角折板   | 板目     | F 5     | 員・下    | 2     | -      | 16.6    | 6.6    | -                      | 1.0 端部の現象から上へ延びる。                             |
| 99  | V5419  | 直角折板   | 板目     | F 2     | 河      | 1     | -      | (40.7)  | (8.6)  | -                      | 1.5 頭部下部・中柱にかけて、斜め部上に現象。                      |
| 100 | V5545  | 直角折板   | 板目     | F 3-4   | 河・Y・上  | -     | (34.4) | (11.8)  | -      | 1.0 斜め部現象は半周状現象。刃端を欠損。 |   |
| 101 | V5416  | 直角折板   | 板目     | F 2     | 河      | 1     | -      | (34.6)  | (10.0) | -                      | 1.3 万能機の現象で刃端を欠損する。                           |
| 102 | V0062  | 直角折板   | 板目     | E       | 河      | 1     | 14     | 45.8    | (8.5)  | -                      | 1.4 斜め部現象で2箇所持つ。身の右端部を欠く。                     |
| 103 | V5607  | 直角折板   | 板目     | E       | 新・中・右側 | -     | (17.8) | 7.8     | -      | 1.1 先生及び所を欠損現象と見らる。    |   |
| 104 | V6520  | 直角折板   | 板目     | B       | 14-F   | 河     | 1      | (64.1)  | (6.4)  | -                      | 1.1 端部の現象。刃端部を欠く。                             |
| 105 | V6305  | ナスビ形折板 | 板目     | B       | 14-F   | 河     | 1      | (41.45) | (10.7) | -                      | 1.0 斜め部現象と刃端部を欠く。                             |
| 106 | V5435  | ナスビ形折板 | アカガシ重版 | 板目      | B      | 14-F  | 河      | (41.4)  | (12.0) | -                      | 1.0 斜め部上を欠く。                                  |
| 107 | V6605  | ナスビ形折板 | 板目     | P 8     | 河・中    | 4-5筋  | -      | (26.8)  | (10.4) | -                      | 1.0 斜め部現象と刃端部の半周を欠く。                          |
| 108 | V0065  | 直角折板   | 板目     | A       | 河      | 1     | -      | 20.0    | 10.3   | -                      | 1.8 斜め部現象は刃端部で折れ曲がる現象。                        |
| 109 | V6509  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | F 8    | 河・中   | 5      | (40.9)  | (12.2) | -                      | 1.4 斜め部現象は刃端部で折れ曲がる現象。                        |
| 110 | V5623  | 直角折板   | 板目     | H       | 河      | 1     | -      | (31.7)  | (6.6)  | -                      | 1.2 斜め部現象は刃端部で折れ曲がる現象。                        |
| 111 | V0077  | 直角折板   | 板目     | H       | 14     | 河     | 1      | 15.1    | (5.6)  | -                      | 1.3 斜め部現象と刃端部を欠く。                             |
| 112 | V1524  | 直角折板   | 板目     | F 2     | 河・Y・下  | -     | (35.0) | -       | -      | 1.1 斜め部は4周で現象。頭部は丸み。   |   |
| 113 | V5387  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | E 2    | 河     | 1      | (22.2)  | 11.7   | -                      | 0.7 斜め部現象と刃端部を欠く。                             |
| 114 | V5520  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | F 7    | 河     | 1      | 49.3    | 11.0   | -                      | 1.1 完成の未品。斜め部現象を示す。                           |
| 115 | V0065  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | E      | 河     | 1      | (12.0)  | (3.2)  | -                      | 1.4 斜め部頭部を欠く。                                 |
| 116 | V5549  | 直角折板   | アカガシ重版 | 板目      | F 7    | 河     | 1      | 46.1    | (6.2)  | -                      | 1.7 斜め部は刃端部で現象。                               |
| 117 | V0061  | 直角折板   | 板目     | H       | 14     | 河     | 1      | (50.3)  | (14.0) | -                      | 0.9 斜め部は斜面から頭部で現象。                            |
| 118 | V5607  | 直角二又板  | アカガシ重版 | G 1 - 2 | 河・Y・下  | -     | (34.6) | (5.4)   | -      | 1.0 斜め部は刃端部の右側。刃端部を欠く。 |   |
| 119 | V5602  | 直角二又板  | アカガシ重版 | E 5     | 河      | 1     | (31.8) | (6.0)   | -      | 1.0 斜め部は刃端部の右側。刃端部を欠く。 |   |
| 120 | V0072  | 直角二又板  | 板目     | E 2     | 河      | 1     | (32.5) | (7.8)   | -      | 1.2 斜め部は刃端部の右側。        |   |
| 121 | V65134 | 直角二又板  | 板目     | F 7     | 河      | 1     | (45.5) | (5.1)   | -      | 1.0 斜め部は刃端部の右側。        |   |
| 122 | V0073  | 直角二又板  | 板目     | F 1     | 河      | 1     | (34.8) | (6.5)   | -      | 1.0 斜め部は刃端部の右側。        |   |

| 番号  | 分類番号  | 種類     | 網 種    | 水取り | 網 種    | 層位              | 出土地点    | 層位     | 全長   | 全幅  | 高さ                            | 重さ | 概 観 |
|-----|-------|--------|--------|-----|--------|-----------------|---------|--------|------|-----|-------------------------------|----|-----|
| 123 | W5041 | 魚網     | 魚網     | 板目  | C      | 河 3 - 上         | (359)   | (10.5) | -    | 1.0 | 頭部に網かけ用の溝を作り、船底下端には錆斑模様がある。   |    |     |
| 124 | W5041 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | A      | 14 - 下          | 51.5    | (10.5) | -    | 1.0 | 頭部に網かけ用の溝があり、船底下端には錆斑模様がある。   |    |     |
| 125 | W5083 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | トレンチ 5 | 河底四脚            | (486)   | 12.5   | -    | 1.0 | 左側面先端をよく錆斑模様には好みない。           |    |     |
| 126 | W5090 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | D      | 12 - 4          | (54.5)  | 12.1   | -    | 1.3 | 船底と万能板先端を久保、金体に錆斑の模様があり。      |    |     |
| 127 | W5359 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | D      | 14 - 壁下         | (42.25) | (6.9)  | -    | 1.0 | 船底と左側面に少しおかげを持つ。              |    |     |
| 128 | W6417 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | E      | トレンチ 6 - 壁下     | (44.2)  | (12.2) | -    | 1.0 | 右側面をよく、又能は左側。                 |    |     |
| 129 | W5073 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | E      | トレンチ 6 - 壁下     | (33.4)  | (9.5)  | -    | 0.6 | 船底は先端にかけたいの悪い悅あり。又船は角形。       |    |     |
| 130 | W5095 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | D      | 河 3 - D - 海     | (28.1)  | (4.6)  | -    | 1.2 | ナスビ形の曲線形の船底が1/2程度の船底。         |    |     |
| 131 | W5062 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | D      | S-D 162         | (35.1)  | 9.9    | -    | 0.7 | 船底から弧かけてやや尖る方。                |    |     |
| 132 | W6172 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | P      | 河 4 - 2 - 亂     | (33.3)  | (4.5)  | -    | 1.3 | 船底は部と左側面を久く。                  |    |     |
| 133 | W5780 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | P      | 河 4 - 2 - 亂     | (27.7)  | (6.6)  | -    | 1.0 | 船底から別にかけたいの穏。                 |    |     |
| 134 | W6070 | ナスビ二又網 | アカガシ重網 | 板目  | R      | 河 1             | (2.6)   | (7.8)  | -    | 1.2 | 又船底は基盤を久く。                    |    |     |
| 135 | W6073 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | F      | 河 4 - 4 ~ 5     | (44.0)  | 10.0   | -    | 1.0 | 船底は先端で断れた様子。傾けや弓を好みがない。       |    |     |
| 136 | W5041 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | B      | 14 - F          | (48.8)  | (5.4)  | -    | 1.1 | 身の側面半分と貢底の漸度を久く。又船底表面は直線的なで。  |    |     |
| 137 | W6325 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 1 -             | -       | -      | -    | 1.0 | ナスビ形の船底の先端が1/2程度の船底。          |    |     |
| 138 | W0169 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 河 1             | (38.5)  | (6.4)  | -    | 0.9 | 左側面の穏底。                       |    |     |
| 139 | W0192 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | トレンチ 2 - 3 - 14 | (28.2)  | (5.1)  | -    | 0.7 | 右の穏底。                         |    |     |
| 140 | W5341 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 河 1             | (16.3)  | (6.5)  | -    | 0.7 | 又船底をわざかに大きめ。                  |    |     |
| 141 | W0083 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 6 - sec 1       | (14.9)  | (10.6) | -    | 1.6 | 木板の光沢の穏底。                     |    |     |
| 142 | W5352 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 14 - T          | (13.9)  | (5.25) | -    | 1.0 | 左側面は断った様子。先端に2 cm程で直面しない穴がある。 |    |     |
| 143 | W6329 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | B      | 14 - T          | (15.7)  | (5.55) | -    | 1.1 | 左側面半分と貢底の漸度。傾けはない。            |    |     |
| 144 | W6328 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | A      | 14 - T          | (18.4)  | (5.9)  | -    | 1.4 | 船底は船頭部の穏底。                    |    |     |
| 145 | W5196 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | A      | 14 - T          | (42.4)  | (6.6)  | -    | 1.4 | 船底と左側面の2段階が合せしない。             |    |     |
| 146 | W0069 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | B      | 14 - T          | (11.5)  | (6.45) | -    | 1.2 | 船底から身側にかけたいの小ぶり。              |    |     |
| 147 | W6326 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | B      | 14 - 上          | (21.6)  | (5.6)  | -    | 1.1 | 左側面から左舷にかけたいの横片。              |    |     |
| 148 | W6307 | ナスビ形   | アカガシ重網 | 板目  | F      | 河 4 - 5         | (25.0)  | (3.4)  | -    | 1.0 | 又船底を左舷にかけたいの横片。               |    |     |
| 149 | W5045 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 14              | (22.1)  | (4.1)  | -    | 1.3 | 二段階の左舷片を付けている。                |    |     |
| 150 | W0195 | 魚網     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 3 - sec 1       | (30.3)  | 35.0   | -    | 1.5 | 本底品。船底なし。                     |    |     |
| 151 | W5087 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | B      | 14 - 1 - B      | (29.3)  | -      | -    | -   | 本底品。舟底なし。                     |    |     |
| 152 | W5334 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | B      | 河 4 - 4 - 漂     | (15.7)  | (18.7) | -    | 1.0 | 先端の穏底。67と同一整体が。               |    |     |
| 153 | W5265 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | B      | 3 - 河 2 - 3 - 漂 | (18.7)  | 26.2   | -    | 0.7 | 先端の穏底。                        |    |     |
| 154 | W5266 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | E      | 3 - 河 2 - 3 - 漂 | (11.0)  | (21.8) | -    | 1.0 | 本底品。1/2程度の船底。                 |    |     |
| 155 | W5092 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | トレンチ 5 | 河底四脚            | (24.0)  | (12.1) | -    | 1.7 | 傾けない方が上部に1つ上層に2つある。帆孔から折損。    |    |     |
| 156 | W5293 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | E      | 河 4 - 5 - 下     | (11.5)  | 26.5   | -    | 1.2 | ドーム型の底。下端に円柱。下端に円柱3。          |    |     |
| 157 | W0199 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 14 - 1          | (21.9)  | 8.8    | -    | 0.7 | 本底品。舟底なし。                     |    |     |
| 158 | W5077 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 河 4 - 4 - 漂     | (27.0)  | -      | -    | 1.4 | 本底品。舟底なし。                     |    |     |
| 159 | W5269 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | C      | 14 - 1          | (6.8)   | (11.0) | -    | 1.1 | 板目。                           |    |     |
| 160 | W5444 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | F      | 河 2 - 2 - 漂     | (7.1)   | (8.6)  | -    | 1.3 | 木板型の2段階の船底。                   |    |     |
| 161 | W5491 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 14 - 1          | (11.0)  | (24.7) | -    | 1.3 | 外側斜面下端には傾けあり。船の断面は方形だ。        |    |     |
| 162 | W0200 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 14              | (10.1)  | 28.5   | -    | 1.2 | 帆孔から左半分の船底。                   |    |     |
| 163 | W6397 | 泡陰     | アカガシ重網 | 板目  | R      | 14 - 1          | (12.5)  | 16.7   | -    | 0.6 | 未底品。                          |    |     |
| 164 | W7167 | 無合せ    | アカガシ重網 | 板目  |        |                 |         | 61.9   | 20.9 | -   |                               |    |     |

| 番号  | 標本番号  | 種類  | 標識     | 木取り  | 出土地点         | 層位        | 金質     | 金解     | 引き取    | 特徴                               |
|-----|-------|-----|--------|------|--------------|-----------|--------|--------|--------|----------------------------------|
|     |       |     |        |      |              |           |        |        |        |                                  |
| 249 | W5458 | 板   |        | 心持ち  | トレンチ5<br>河底土 | B         | (16.6) | (34.6) | —      | 22                               |
| 250 | W6336 | 板   |        | 板目   | 河中5・下        | E 4       | (25.3) | 34     | —      | 24                               |
| 251 | W5255 | 板   |        | 板目   | 河中2・板上       | E 1       | —      | (49.6) | 46.5   | (65)                             |
| 252 | W5702 | 口   | クスノキ   | 心持ち  | 河中2・板上       | D         | —      | 48.6   | (19.7) | (67)                             |
| 253 | W6125 | 口   |        | 板目   | 河中2・板上       | D         | —      | (14.7) | (15.3) | 120                              |
| 254 | W5706 | 口   |        | 板目   | 河中2・板下       | F 1       | —      | (37.0) | (40.0) | 55                               |
| 255 | W5195 | 口   |        | 心持ち  | 河中2・板下       | A         | —      | 48.8   | (11.5) | (75)                             |
| 256 | W6136 | 口   |        | 板目   | 河中2・板下       | D         | —      | 44.4   | (22.5) | (55)                             |
| 257 | W5820 | 口   |        | 板目   | 河中2・板下       | B         | —      | (14.5) | (26.6) | (75)                             |
| 258 | W5923 | 口   |        | 板目   | 河中2・板下       | B         | —      | (14.5) | (26.6) | (75)                             |
| 259 | W5830 | 口   |        | 板目   | 河中2・板下       | F 3・4     | —      | (34.3) | 46.5   | 木部の端片。裏面は斜めに削り出された。裏面は斜めに削り出された。 |
| 260 | W7228 | 小形臼 | クスノキ   | 板目   | 河中2・板下       | C         | —      | (34.2) | (9.2)  | 47                               |
| 261 | W5361 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | C         | —      | 22.6   | 12.7   | 直角は僅に削り落とす。                      |
| 262 | W5559 | 小型臼 |        | 板目   | 河中2・板下       | H 4       | —      | (18.0) | 11.0   | 45                               |
| 263 | W6223 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | H 1       | —      | (14.0) | (15.7) | 61                               |
| 264 | W5193 | 小型臼 | ヤブニッケイ | 心持ち  | 河中2・板下       | A         | —      | (20.3) | 13.4   | 69                               |
| 265 | W5447 | 小型臼 | エノキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | B         | —      | (27.5) | 18.9   | 43                               |
| 266 | W7011 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | C         | —      | 21.5   | 13.5   | 58                               |
| 267 | W7027 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | D         | —      | (19.4) | 12.8   | 90                               |
| 268 | W6150 | 小型臼 |        | 板木取り | 河中2・板下       | F 1       | —      | (13.2) | 13.4   | 45                               |
| 269 | W6361 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | F 1       | —      | (15.4) | 9.5    | 49                               |
| 270 | W5322 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | F 5・sec 6 | —      | (15.5) | 11.0   | 42                               |
| 271 | W5832 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | G         | —      | (16.5) | 6.4    | 22                               |
| 272 | W5384 | 小型臼 |        | 心持ち  | 河中2・板下       | G         | —      | (13.0) | (5.0)  | (6.0)                            |
| 273 | W6001 | エノキ |        | 心持ち  | 河中2・板下       | H 1       | —      | (11.0) | 6.7    | (4.5)                            |
| 274 | W6003 | エノキ |        | 心持ち  | 河中2・板下       | H 1       | —      | (37.8) | 5.0    | 11                               |
| 275 | W6501 | エノキ |        | 心持ち  | トレンチ5<br>河底土 | E 1       | (58.1) | (5.0)  | —      | 40                               |
| 276 | W6209 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | D         | (42.2) | 7.6    | —      | 47                               |
| 277 | W6188 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | D         | (54.8) | 5.6    | —      | 47                               |
| 278 | W5384 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | E 2       | (41.5) | 5.4    | —      | 44                               |
| 279 | W6003 | 小形臼 | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | F 1       | —      | 20.8   | 26     | —                                |
| 280 | W6134 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | F 1       | —      | 13.6   | 7.8    | —                                |
| 281 | W6433 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | E 1       | —      | 113.6  | 7.25   | —                                |
| 282 | W6001 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | H 1       | —      | 88.8   | 5.5    | —                                |
| 283 | W6002 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | H 1       | (91.8) | 7.8    | —      | 68                               |
| 284 | W5784 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | F 3       | (15.7) | 7.5    | —      | 37                               |
| 285 | W5671 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | D         | (32.6) | 36.9   | 7.6    | —                                |
| 286 | W3243 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | E 3       | (3.5)  | 37.1   | 7.5    | —                                |
| 287 | W6089 | 板片  | アカガシ属  | 心持ち  | 河中2・板下       | H 1       | (3.5)  | 30.0   | 7.0    | —                                |
| 288 | W5717 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | B・C       | (22.1) | 6.8    | —      | 50                               |
| 289 | W5293 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | E 2       | (24.1) | 6.9    | —      | (25)                             |
| 290 | W6101 | 板片  | ツバキ属   | 心持ち  | 河中2・板下       | H 1       | (40.2) | 7.5    | —      | 32                               |

| 番号  | 登録番号        | 種類     | 耐 燐      | 木取り    | 川土地盤    | 層 位     | 合 長    | 金 幅  | 高さ                      | 厚さ                     | 特 殊 |
|-----|-------------|--------|----------|--------|---------|---------|--------|------|-------------------------|------------------------|-----|
| 291 | W5485 施工    | 木構     | 心持ち      | F      | 河上      | (28.1)  | 7.0    | —    | (7.0)                   | 極端な斜面。全体が溶化。           |     |
| 292 | W5009 施工    | 木構     | 心持ち      | F      | 河上・底下   | (34.1)  | 6.2    | —    | 0.35                    | 身はやや斜面で開拓先端を久く。        |     |
| 293 | W0096 施工    | 木構     | アガシノキ    | 河1     | 14      | (34.1)  | (6.0)  | —    | (4.6)                   | 根部を欠く。                 |     |
| 294 | W6244 施工    | 木構     | アガシノキ    | E 3    | 河下・底下   | 35.7    | (13.1) | —    | 0.06                    | 身の先端及び先端をわざがに久くが付せば先端。 |     |
| 295 | W6423 木構    | 板目     | 3        | 14     | 底下      | (23.6)  | (9.5)  | —    | 0.12                    | 木底品。側面を欠く。             |     |
| 296 | W5389 木構    | 板目     | G        | 河・底下   | (15.6)  | 11.4    | —      | 0.09 | 木底品。側面を欠く。              |                        |     |
| 297 | W0015 木構    | 板目     | F 8      | 河下     | (12.3)  | (8.6)   | —      | 0.09 | 木底品の身の端。                |                        |     |
| 298 | W5489 木構    | 板目     | F        | 河下     | 30.8    | (3.9)   | —      | 0.22 | 部分を元から欠損。               |                        |     |
| 299 | W6427 木構    | 板目     | B        | 14     | 底下      | (3.9)   | —      | 0.07 | 側面の先端の木製品。              |                        |     |
| 300 | W6333 木構    | 板目     | B        | 14・下   | (23.5)  | (4.8)   | —      | 0.25 | 木底品。                    |                        |     |
| 301 | W100 草葉柄    | アガシ等混  | 板目       | F      | 河1      | 32.8    | —      | —    | —                       | 身は斜面に沿つて走る。            |     |
| 302 | W5036 木構    | 板目     | F        | 河中・中・下 | (14.1)  | 14.5    | —      | 0.22 | 木底品。木構とは異なる節性あり。        |                        |     |
| 303 | W5594 木構    | 板目     | D        | 河・上    | 33.9    | (10.6)  | —      | 0.23 | 木底品。加工點は明確。板の先端は斜面の根源。  |                        |     |
| 304 | W0007 木構    | アガシノキ混 | 板目       | 河1     | 14      | 34.5    | —      | 0.16 | 木底品。側面を欠く。              |                        |     |
| 305 | W5288 木構    | 板目     | G        | 河・底下   | 38.8    | 13.5    | —      | 0.06 | 完形多。                    |                        |     |
| 306 | W0056 木構    | アガシノキ混 | 板目       | H      | 14      | 32.2    | (11.0) | —    | 0.10                    | 無端に内側に曲折。              |     |
| 307 | W5108 木構    | 板目     | E-G      | 河・底下   | (32.1)  | 11.8    | —      | 0.12 | 木底品。側面から彎曲する。           |                        |     |
| 308 | W6243 コテ・ソリ | 心持ち    | R 3      | 河・上    | 50.1    | (8.6)   | —      | 0.15 | 把手の頭と側面。                |                        |     |
| 309 | W5282 作業台   | 板目     | F        | 河・底下   | (15.6)  | (14.7)  | —      | 0.38 | 脚部が多數あり。刃物傷多數あり。        |                        |     |
| 310 | W5531 作業台   | 板目     | F        | 河上     | 12-1    | (23.4)  | (15.1) | —    | 7.0                     | 尾羽が付いた刃物傷を伴つ。側面欠損。     |     |
| 311 | W5014 コテ・ソリ | 板目     | C-S D163 | 河      | 10.0    | 7.0     | —      | 0.30 | 4cm幅の刃形跡を伴つ。            |                        |     |
| 312 | W5182 コテ・ソリ | 板目     | C        | S D550 | (15.4)  | (6.5)   | 3.2    | 0.15 | 把手の頭部分に26×10mmの穴を伴つている。 |                        |     |
| 313 | W5040 田丁鉄   | 板目     | C        | 河      | 14.2    | 7.0     | —      | 0.34 | 厚みの長い板に複数の穴を有している。      |                        |     |
| 314 | W5069 旗幟    | 板目     | P 7・8    | 河・中・斜面 | (6.5)   | 5.0     | —      | 0.13 | 両端に刃形跡があり。              |                        |     |
| 315 | W6272 旗幟    | 板目     | トレーラー4   | 河・河岸土  | (10.8)  | (4.4)   | —      | 0.07 | 刃形跡と細かな刃み月が施されている。      |                        |     |
| 316 | W0088 旗幟    | モニ     | 板目       | F      | 河1      | 41.3    | 3.1    | —    | 0.14                    | 完形多。                   |     |
| 317 | W6629 かず    | アサナロ調  | 板目       | F      | 河・F・砂礫上 | (26.75) | 2.6    | —    | 0.25                    | 機械部の端片。                |     |
| 318 | W0145 系也さ   | 板目     | 河3       | 下      | 14.5    | 2.0     | —      | 0.10 | 側面切入ぐりをくり、中央に外通し穴があり。   |                        |     |
| 319 | W7031 千剛    | 板目     | 板分かれ     | F 1    | 河・下・上   | 12.0    | 2.7    | —    | 0.23                    | 奥本の木は先端まで陥没。           |     |
| 320 | W7008 旗幟    | 心持ち    | B        | 14-下   | 11.4    | 2.5     | —      | 0.22 | 木底品。                    |                        |     |
| 321 | W6235 旗幟    | 心持ち    | B        | 心持ち    | 14      | (26.7)  | 1.5    | —    | 0.16                    | 一端を欠く。                 |     |
| 322 | W0211 旗幟    | 心持ち    | 河1       | 14     | 35.5    | 1.4     | —      | 0.12 | 両端を切り落とす。               |                        |     |
| 323 | W0216 旗幟    | 心持ち    | 河1       | 14     | (34.3)  | 1.5     | —      | 0.14 | 先端を斜めに欠く。               |                        |     |
| 324 | W6217 旗幟    | 心持ち    | 河1       | 14     | (66.6)  | 2.2     | —      | 0.14 | 表面のみが激しい、一端を尖らせていている。   |                        |     |
| 325 | W7118 旗幟    | 心持ち    | E 3      | 河・中    | (10.6)  | 1.3     | —      | 0.17 | 一端の側面を半円形に削る。           |                        |     |
| 326 | W5579 旗幟    | 心持ち    | E 3      | 河・中    | (7.0)   | 2.0     | —      | 0.12 | 細部は一端から削り出る。接合しない處もあり。  |                        |     |
| 327 | W6251 旗幟    | 心持ち    | トレーラー4   | 河・河岸土  | (38.4)  | 1.7     | —      | 1.3  | 前半と後半を削り取る。両端部を欠く。      |                        |     |
| 328 | W0131 旗幟    | 心持ち    | 河1       | 14     | (42.8)  | 1.6     | —      | 1.4  | 前半と後半を削り取る。加工は不十分。      |                        |     |
| 329 | W5005 旗幟    | 心持ち    | 中耕機      | C      | 14-下    | (35.2)  | 1.5    | —    | 1.6                     | 平面部の端部を作り、両端面を平らに削る。   |     |
| 330 | W5210 旗幟    | 心持ち    | E 1-4    | 河・底下   | (62.4)  | 1.5     | —      | 1.3  | 両端欠損。                   |                        |     |
| 331 | W5589 旗幟    | 心持ち    | 河1       | 14     | (10.7)  | 1.7     | —      | 1.5  | 両端の内面欠く。                |                        |     |
| 332 | W0215 旗幟    | 心持ち    | 河1       | 14     | —       | —       | —      | —    | —                       | —                      |     |

| 番号  | 地名番号   | 種類     | 開 種     | 木取り     | 出土地点      | 層 位     | 全 高    | 幅 高さ | 厚 さ                                 | 特 性                      |
|-----|--------|--------|---------|---------|-----------|---------|--------|------|-------------------------------------|--------------------------|
| 333 | W15913 | 縦枠     | —       | 心持ち     | 河 1       | 14      | (57.4) | 1.8  | —                                   | 塔底の施工は砾中に切り落としたのみ。一端を欠く。 |
| 334 | W15994 | 横枠     | —       | 心持ち     | 河 3・4     | 上       | (49.2) | 1.8  | —                                   | 1.3 塔底欠損。断材を画面内形に加工する。   |
| 335 | W6375  | 縦枠     | P       | 心持ち     | 河 2・底上    | —       | (52.6) | 2.65 | —                                   | 1.3 斜をもつた複数段加工。          |
| 336 | W20120 | 縦枠     | —       | 心持ち     | 河 1       | 14      | (29.1) | 1.4  | —                                   | 1.0 斜面欠損。                |
| 337 | W5122  | ヤス     | 板       | D・sec 3 | 河上・A      | 8.6     | 0.6    | —    | 0.6 身と蓋との間に隙間を持つ。                   |                          |
| 338 | W5123  | ヤス     | 板       | トレンチ 4  | 河底裏 A     | 10.9    | 0.8    | —    | 0.6 身と蓋との間に隙間を持つ。                   |                          |
| 339 | W5046  | ヤス     | 板       | E       | 河上・有機     | (11.0)  | 0.7    | —    | 0.6 ほぼ直形。                           |                          |
| 340 | W7155  | 縦      | 板       | F1      | 河中 2・底下   | (108.5) | 10.7   | —    | 3.2 身の下方で一面から段を作り厚ぐさする。反対面には段が走る。   |                          |
| 341 | W7155  | 縦      | 板       | F2      | 河中 2      | (98.3)  | 7.4    | —    | 1.1 斜の傾きを欠損。                        |                          |
| 342 | W5384  | 縦      | 板       | E 1     | 河・D・F     | (73.4)  | (6.7)  | —    | 2.4 梨り棒の可能性あり。                      |                          |
| 343 | W5663  | 縦      | 板       | F 1     | 河下・砂礫上    | (62.6)  | 8.7    | —    | 1.7 梨り棒の2面形の船形断面。                   |                          |
| 344 | W5617  | 縦      | 板       | F 1     | 河・4・2・底下  | (77.8)  | 6.3    | —    | 1.4 角を欠く。                           |                          |
| 345 | W6227  | 縦      | 板       | B       | 14・7      | (42.25) | 7.4    | —    | 3.0 身の厚さが不均一。振り半分との可能性あり。           |                          |
| 346 | W6130  | 縦      | 板       | F 1     | 河中 5      | (94.7)  | (6.0)  | —    | 1.4 断面はレンズ形。                        |                          |
| 347 | W2528  | アカガシ堅果 | 板       | E 3     | 河中 3・3 級果 | (51.3)  | 9.2    | —    | 2.6 完成品。                            |                          |
| 348 | W5312  | 弓      | 板       | C       | 河 1       | (115.8) | 2.3    | —    | 2.0 両側部欠損。輪郭あり。ほぼ全断面に削波をきり。黒墨透り。    |                          |
| 349 | W5312  | 弓      | 板       | C       | 河 3・1     | (132.2) | 2.3    | —    | 2.1 両側部欠損。輪郭あり。黒墨透り。                |                          |
| 350 | W5311  | 弓      | 板       | C       | 河 3・1     | (159.2) | 2.2    | —    | 2.2 完成品。削波あり。輪郭と骨格が明確。              |                          |
| 351 | W5980  | 弓      | 板       | C       | 河 3・上     | (93.9)  | 1.8    | —    | 1.6 断面から弓形は明らかだ。                    |                          |
| 352 | W6536  | 弓      | 板       | G       | 河最下段      | (56.0)  | 1.85   | —    | 1.9 断面を平坦化してるので、弓とは異なる可能性あり。        |                          |
| 353 | W5079  | 弓      | 板       | C       | 河 3・上     | (68.2)  | 2.1    | —    | 1.9 弓は断面から弓形は削りだし。                  |                          |
| 354 | W6171  | 弓      | 板       | C       | 心持ち       | (75.7)  | 1.7    | —    | 1.7 弓は断面から弓形は削りだし。                  |                          |
| 355 | W5179  | 弓      | 板       | B・C     | 13・Y      | (62.5)  | 2.3    | —    | 1.5 弓は削波をきり。輪郭欠損。                   |                          |
| 356 | W5983  | 弓      | 板       | C       | 河下・上      | (29.1)  | 2.5    | —    | 1.2 滲の縦片。両側から弓形に削りだす。               |                          |
| 357 | W0131  | イヌガヤ   | 心持ち     | E 3     | 河 3       | (35.0)  | 1.6    | —    | 0.8 断面の2分かから削りだし。笠形を2つにする。          |                          |
| 358 | W6005  | 弓      | 心持ち     | E 3     | 河・中 5・7   | (23.2)  | 1.5    | —    | 1.4 弓断面の中央に斜面を削り1つたり。笠形を2つにする。      |                          |
| 359 | W0132  | 片      | クリ葉     | 河 3     | —         | (27.8)  | 2.2    | —    | 1.4 断面を基盤に削て断面をきる。                  |                          |
| 360 | W0214  | 弓      | 心持ち     | 河 1     | 14        | (27.8)  | 1.9    | —    | 0.7 断面を基盤に削て断面をきる。                  |                          |
| 361 | W5845  | 弓      | 板       | F 6     | 員・4・2 対応  | (11.5)  | 1.3    | —    | (0.9) 弓は欠損? 小片。                     |                          |
| 362 | W5985  | 弓      | 心持ち     | B 3     | 14・底下     | (33.5)  | 1.5    | —    | 1.2 斜面の心持ち材をいたい留め。                  |                          |
| 363 | W0129  | イヌガヤ   | 心持ち     | 河 3     | 上         | (46.3)  | 2.5    | —    | 2.2 弓は断面の二分かから削り出す。                 |                          |
| 364 | W0136  | 弓      | 心持ち     | H 3     | F         | (35.8)  | 1.2    | —    | 1.2 斜面の断面とを考えられる。                   |                          |
| 365 | W5316  | 弓      | イヌガヤ    | 心持ち     | F 5・6     | 河下・下    | (36.4) | 1.8  | —                                   | 1.8 補助あり。                |
| 366 | W0130  | 弓      | イヌガヤ    | 心持ち     | 河 3       | 上       | (37.0) | 1.9  | —                                   | 1.5 伏せ断面あり。              |
| 367 | W0127  | 弓      | ミラクルシガラ | 心持ち     | 河 3       | 上       | (62.8) | 1.4  | —                                   | 1.4 弓が所方あり。              |
| 368 | W0129  | 弓      | ミラクルシガラ | 心持ち     | 河 3       | 上       | (8.8)  | 1.0  | —                                   | 1.0 斜面を基材で付けてている。        |
| 369 | W6032  | 木甲     | クリ葉     | 桺 1     | 14        | 18.7    | 6.3    | —    | 0.4 木甲の甲片の左半分が削れ。                   |                          |
| 370 | W5002  | 木甲     | クリ葉     | C       | 14・下      | (75.6)  | —      | —    | 0.5 左側から輪から削りだす。外倒は削れ。              |                          |
| 371 | W5003  | 木甲     | アカガシ堅果  | 板       | 河 1       | 6.9     | 5.4    | —    | 0.3 上側から削りだす。表面は黒墨透りであるが、下辺は露出している。 |                          |
| 372 | W0031  | 木甲     | アカガシ堅果  | 板       | 河 1       | (12.1)  | 8.0    | —    | 0.5 表面は黒墨透り。右側に削り切られ小孔あり。           |                          |
| 373 | W5018  | 木甲     | クリ葉     | A       | 14・下      | (5.0)   | —      | —    | 0.5 外側黒墨透り。右側は上がいい合意。               |                          |
| 374 | W5149  | 木甲     | サクラ属    | 板       | 河 3       | 6.1     | (5.1)  | —    | 0.4 外側黒墨透り。平均以上がいい合意。               |                          |

| 番号  | 登録年      | 種類    | 別種     | 本入り    | 出土地点     | 層位     | 金長     | 金幅  | 高さ                     | 備考                                       |
|-----|----------|-------|--------|--------|----------|--------|--------|-----|------------------------|--|
| 375 | W5155 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 6.2    | (4.6)  | —   | 0.4                    | 外函周辺より。平面走台型。                            |
| 376 | W5154 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 6.1    | (5.1)  | —   | 0.4                    | 外函周辺より。斜面走台型。櫻庭じの他の他にランダムに小見多観。          |
| 377 | W5150 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 6.0    | (3.8)  | —   | 0.5                    | 外函周辺より。平面が走台型。斜め櫻庭じのあります。                |
| 378 | W5143 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 5.9    | 3.2    | —   | 0.4                    | 外函周辺より。14.1cm は水邊に 2 と 1、別に角よりに 1 つあります。 |
| 379 | W5151 本甲 | アカガシ属 | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 9.6    | 4.7    | —   | 0.4                    | 外函周辺より。内面は木のままで。                         |
| 380 | W5152 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 12.1   | 6.3    | —   | 0.4                    | 外函周辺より。櫻庭じは右下端に 6 つ。右長辺中央に 1 つ。12.0      |
| 381 | W5155 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (6.6)  | (1.6)  | —   | 0.3                    | 外函周辺より。櫻庭じは木のままで。                        |
| 382 | W5157 本甲 | ニレ科?  | 桜日     | E-3    | 河中 5 切   | 10.5   | 7.2    | —   | 0.4                    | 外函周辺より。小見 1 つ。                           |
| 383 | W5153 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 12.5   | 6.7    | —   | 0.5                    | 外函周辺より。                                  |
| 384 | W5144 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 12.4   | 5.2    | —   | 0.3                    | 外函周辺より。13.1cm は走形品。                      |
| 385 | W5159 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (1.9)  | (6.7)  | —   | 0.3                    | 外函周辺より。櫻庭じ丸と 1 角の小見あります。                 |
| 386 | W5156 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 6.2    | 6.4    | —   | 0.5                    | 外函周辺より。櫻庭じ丸と 1 角の小見あります。                 |
| 387 | W5164 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (9.0)  | (1.6)  | —   | 0.2                    | 外函周辺より。小片。                               |
| 388 | W5163 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (3.6)  | (2.2)  | —   | 0.3                    | 外函周辺より。小片。                               |
| 389 | W5166 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (3.2)  | (1.6)  | —   | 0.1                    | 外函周辺より。小片。                               |
| 390 | W5161 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (5.5)  | —      | —   | 0.4                    | 外函周辺より。                                  |
| 391 | W5141 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 12.3   | (4.4)  | —   | 0.4                    | 外函周辺より。                                  |
| 392 | W5142 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 12.2   | (4.1)  | —   | 0.4                    | 外函周辺より。                                  |
| 393 | W5140 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (10.8) | 6.6    | —   | 0.5                    | 外函周辺より。樹脂でしている。                          |
| 394 | W5145 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (1.9)  | 5.7    | —   | 0.2                    | 外函周辺より。左ドーム部には方形に 4 角があります。              |
| 395 | W5146 本甲 | アカガシ属 | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (10.7) | (5.0)  | —   | 0.2                    | 外函周辺より。上端火口。                             |
| 396 | W5147 本甲 | アカガシ属 | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (1.9)  | (6.0)  | —   | 0.2                    | 外函周辺より。                                  |
| 397 | W5148 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 12.1   | 3.2    | —   | 0.3                    | 外函周辺より。                                  |
| 398 | W5158 本甲 | サクラ属  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | 12.5   | (8.4)  | —   | 0.5                    | 外函周辺より。                                  |
| 399 | W5162 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (3.2)  | —      | —   | 0.3                    | 外函周辺より。桜葉が分らいで割れた跡がつかる。                  |
| 400 | W5167 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | A・北壁   | 14-7 段 下 | (12.5) | (5.3)  | —   | 0.4                    | 複合で 2 片。                                 |
| 401 | W5159 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (7.4)  | (4.8)  | —   | 0.4                    | 外函周辺より。櫻庭じ丸が 2 所ある。                      |
| 402 | W5160 本甲 | ミクニジ  | 桜日     | E-3    | 河中 3 切広  | (10.0) | (2.1)  | —   | 0.3                    | 外函周辺より。小見 1 つ。                           |
| 403 | W5184 本甲 | アカガシ属 | 桜日     | B・北壁   | 14       | (9.05) | (4.65) | —   | 0.45                   | 外函周辺より。小見 2 つ違法。                         |
| 404 | W0047 本甲 | アカガシ属 | 桜日     | 河 3 下  | 下        | (15.8) | (6.7)  | —   | 0.25                   | 下端の 2 つ。櫻形があり。無板様部分に半周無斜つぎ。              |
| 405 | W6183 桟  | モミ属   | 板日 D   | 14-中   | (61.9)   | (8.2)  | —      | 1.2 | 小口面は直角。上端部とされる。小見 1 つ。 |  |
| 406 | W0034 桟  | モミ属   | 板日     | 河 1    | 14       | (20.8) | (6.8)  | —   | 0.8                    | 小見 1 つは直角 1・2 本段目、板の小見開は、長巻面とも組合せます。     |
| 407 | W5092 桟  | モミ属   | 板日     | B      | 14-7     | (74.8) | (15.0) | —   | 0.8                    | 列間の 2 つが直角 1・2 本段目。                      |
| 408 | W5081 桟  | モミ属   | 板日     | B      | 14-7     | (87.4) | (5.1)  | —   | 0.8                    | 小見 1 つは直角 1・2 本段目。                       |
| 409 | W6006 桟  | モミ属   | 板日     | B      | 14-上     | (40.3) | (11.3) | —   | 1.2                    | 小見 1 つは直角 1・2 本段目。                       |
| 410 | W5979 桟  | モミ属   | 板日     | E-5    | 河・下・上    | (40.9) | (19.5) | —   | 1.0                    | 小口面は直角 2 つ。                              |
| 411 | W6250 桟  | モミ属   | 板日     | F 1    | 河・下・上    | (2.55) | (7.3)  | —   | 1.0                    | 小口面は直角 2 つ。                              |
| 412 | W5549 桟  | モミ属   | 板日     | F 6    | 日・中・被広   | (21.7) | (2.8)  | —   | 0.9                    | 小口面は直角 3 つ。                              |
| 413 | W5299 桟  | モミ属   | 板日     | E-4    | 河・中・下    | (22.4) | (4.5)  | —   | 0.7                    | 上端は直角 2・2 小口面の直角 1・2 本段目。                |
| 414 | W6289 桟  | モミ属   | 板日     | トレンチ 4 | 河・被・土    | (58.6) | (6.2)  | —   | 0.8                    | 上端は直角 2・2 小口面の直角 1・2 本段目。                |
| 415 | W5982 桟  | モミ属   | 板日     | E-3・4  | 河・下・土    | (27.1) | (5.8)  | —   | 0.9                    | 小口面は直角 2 つが直角 1・2 本段目。                   |
| 416 | W5624 桟  | モミ属   | 板日 C・D | 河 3 上  | 中        | (2.5)  | (11.5) | —   | 1.0                    | 小口面は直角 2 つが直角 1・2 本段目。                   |

| 番号  | 地図番号  | 種類  | 標高     | 水取り     | 樹木      | 出十地点    | 場所     | 幅   | 奥   | 余                                      | 高さ                    | 厚さ | 特徴 |  |
|-----|-------|-----|--------|---------|---------|---------|--------|-----|-----|--|-----------------------|----|----|--|
| 417 | W5870 | 橋   | 板目     | E2      | 河中2・底上  | (14.1)  | (35)   | -   | 0.8 | 小孔、3つあり。                               |                       |    |    |  |
| 418 | W5891 | 橋   | 板目     | E3・4    | 河中・下    | (16.0)  | (5.1)  | -   | 0.9 | 小孔、1つある。                               |                       |    |    |  |
| 419 | W6005 | 橋   | 板目     | F8      | 河中・下    | 5mH     | 1      | -   | 0.7 | 小孔多数。横取状態が見られる。                        |                       |    |    |  |
| 420 | W5577 | 橋   | 板目     | E3      | 河中5     | (58.4)  | (7.3)  | -   | 0.9 | 3.5cm間隔の小孔で、中央が3倍あるが、中央は3cm間隔がある。      |                       |    |    |  |
| 421 | W5586 | 橋   | 板目     | F6      | 河中5・下   | (46.4)  | (12.3) | -   | 0.7 | 小孔の幅は互い違いにしていてる。                       |                       |    |    |  |
| 422 | W5548 | 橋   | 板目     | F6      | 河中2対応   | (20.6)  | (6.7)  | -   | 0.8 | 小孔の幅は互い違い。                             |                       |    |    |  |
| 423 | W6339 | 橋   | 板目     | B       | 14・下    | (32.2)  | (4.45) | -   | 0.9 | 小孔が2つある。                               |                       |    |    |  |
| 424 | W520  | 橋   | 板目     | F・北壁    | 14      | (27.6)  | (6.0)  | -   | 0.8 | 被覆付近は小孔から薄くし、数mmの孔みを出すもののが2本残る。        |                       |    |    |  |
| 425 | W5772 | 橋   | 板目     | F1      | 河中2・底下  | (48.0)  | (11.8) | -   | 0.6 | 小孔が開けた。被覆付近は小孔から薄くし、数mmの孔みを出すもののが2本残る。 |                       |    |    |  |
| 426 | W5522 | 橋   | 板目     | E2      | 河中・上    | (16.8)  | (5.2)  | -   | 0.9 | 3.5cmから4cmの孔が4つある。                     |                       |    |    |  |
| 427 | W5565 | 橋   | 板目     | F8      | 河上・右端   | (15.9)  | (4.7)  | -   | 0.9 | 3.5cmから4cmの孔が4つある。                     |                       |    |    |  |
| 428 | W6338 | 橋   | 板目     | B       | 14・下    | (31.9)  | (6.9)  | -   | 0.9 | 被り8cm横幅で、孔が6列。小孔につるが2本残存。              |                       |    |    |  |
| 429 | W6340 | 橋   | 板目     | B       | 14・下    | (30.15) | (5.4)  | -   | 0.6 | 小孔が7列残存。                               |                       |    |    |  |
| 430 | W5639 | 橋   | 板目     | F7      | 河中4・5   | (16.8)  | (7.5)  | -   | 0.7 | 被覆付近はやまばらにあれば接近して、被り3.5cmで、4cm間隔でほぼ均等。 |                       |    |    |  |
| 431 | W5677 | 橋   | 板目     | D       | 河中4・5・下 | (43.15) | (6.2)  | -   | 1.0 | 小孔(3.8cm)上部は接近して、被り3.5cmで、4cm間隔でほぼ均等。  |                       |    |    |  |
| 432 | W5413 | 橋   | 板目     | F2      | 河中4・5   | (16.0)  | (9.7)  | -   | 1.0 | 被覆付近は接近して、被り3.5cmで、4cm間隔でほぼ均等。         |                       |    |    |  |
| 433 | W6154 | 橋   | 板目     | C1・2    | 河中4・5   | (17.9)  | (3.6)  | -   | 0.6 | 小孔(約4cm)別個。裏面に4本の孔がある。打抜き石が残っている。      |                       |    |    |  |
| 434 | W5107 | 橋   | 板目     | F2      | E～F・北壁  | (22.7)  | (4.3)  | -   | 0.8 | 3.5cm間隔の小孔が4本ある。打抜き石が残っている。            |                       |    |    |  |
| 435 | W5776 | 橋   | 板目     | C       | 14・中    | (17.8)  | (6.4)  | -   | 1.1 | 被り3.5cmの孔がやまばらにあれば接近して、被り3.5cm。        |                       |    |    |  |
| 436 | W5390 | 橋   | 板目     | E4      | 河中5・下   | (19.5)  | (4.2)  | -   | 0.8 | 小孔(3.8cm)上部は接近して、被り3.5cmで、4cm間隔でほぼ均等。  |                       |    |    |  |
| 437 | W6345 | 橋   | 板目     | B       | 14・下    | (11.7)  | (5.75) | -   | 0.6 | 被覆の両端と底辺間に小孔があり。被り角の小孔の1つに虫が残存。        |                       |    |    |  |
| 438 | W5621 | 橋   | 板目     | F1      | 河中4・5   | (4.3)   | (4.3)  | -   | 0.8 | 被り3.5cmの孔が4本ある。                        |                       |    |    |  |
| 439 | W5285 | 橋   | 板目     | E2      | 河中2・底上  | (23.1)  | (4.4)  | -   | 0.6 | 小孔が多めで、被り3.5cmの孔が4本ある。                 |                       |    |    |  |
| 440 | W5170 | 橋   | 板目     | F2      | 河中2・底上  | (7.2)   | (2.0)  | -   | 0.7 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 441 | W5171 | 橋   | 板目     | E1      | 河中2・底下  | (14.0)  | (3.0)  | -   | 0.9 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 442 | W6036 | 橋   | クスノキ   | E3      | 河中5     | (91.6)  | (14.5) | -   | 3.6 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 443 | W5101 | 木の橋 | 板目     | A       | 14・下    | (57.2)  | (3.0)  | -   | 2.3 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 444 | W5103 | 木の橋 | 板目     | E       | 河中2・底上  | (56.3)  | (6.5)  | -   | 2.3 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 445 | W5522 | 橋   | アヌサ口萬  | D       | 河中2・底上  | (31.1)  | (3.4)  | -   | 1.4 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 446 | W5065 | 長楕形 | ヒノキ萬   | D       | 13・下    | 右端      | (27.5) | 2.9 | -   | 2.0                                    | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。 |    |    |  |
| 447 | W5105 | リ柳  | クスノドイツ | E3・4    | 河下・下    | (26.4)  | (3.0)  | -   | 2.0 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 448 | W6005 | 木楓  | ヒノキ    | F1      | 河中5     | (13.0)  | (1.9)  | -   | 1.1 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 449 | W5005 | 楓   | カヤ萬    | A       | 14・下    | (7.5)   | (4.0)  | -   | 0.4 | 2枚を組み合せで使用すると思われる。                     |                       |    |    |  |
| 450 | W6443 | 木楓  | サクナ萬   | D14     | 中       | (42.5)  | (4.5)  | -   | 3.0 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 451 | W5114 | 楓樹形 | モミ萬    | 板目      | E1・北側端  | (26.5)  | (3.9)  | -   | 1.9 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 452 | W5115 | 楓樹形 | スギ     | F7      | 河中5     | (15.8)  | (4.0)  | -   | 1.6 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 453 | W5115 | 楓樹形 | スギ     | G       | 河中2・底上  | (17.4)  | (3.2)  | -   | 0.8 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 454 | W5116 | 楓樹形 | モミ萬    | F7      | 河中5     | (15.6)  | (3.1)  | -   | 1.3 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 455 | W5026 | 楓樹形 | マツ萬    | B       | 14・下    | (17.2)  | (4.1)  | -   | 1.2 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 456 | W5480 | 楓把  | 心持ち    | P3・sec1 | 河中1・C   | (12.4)  | (3.1)  | -   | 2.0 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 457 | W5117 | 楓把  | イヌガヤ   | P6      | 河下・下    | 9.7     | 2.5    | -   | 2.6 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |
| 458 | W5022 | 楓把  | イヌガヤ   | H1      | 河中1     | 8.3     | 2.6    | -   | 2.4 | 被り7cmの板の外で、表面には本色付帯有。                  |                       |    |    |  |

| 番号  | 監視番号  | 種類   | 所      | 水取り       | 出土地質     | 層位       | 闊      | 幅     | 高さ | 高さ    | 基盤                                | 金額                           | 全幅 | 全高 | き | 重 | 特 | 特 | 微 |
|-----|-------|------|--------|-----------|----------|----------|--------|-------|----|-------|-----------------------------------|------------------------------|----|----|---|---|---|---|---|
| 459 | W0154 | 岩場   | アカガシモキ | 底日        | 河3       | 下        | 41.2   | 72    | -  | -     | 5.0                               | 完形品。基盤に焼かげを持つ。               |    |    |   |   |   |   |   |
| 460 | W0175 | 岩場   | 心持ち    | 底日        | 河3・sec.1 | 底・中3・A   | 41.0   | 39    | -  | -     | 5.0                               | 完形品。基盤に焼かげを持つ。               |    |    |   |   |   |   |   |
| 461 | W0134 | 岩場   | クリ     | 底日        | 河3       | 上        | 42.3   | 38    | -  | -     | 2.8                               | 完形品。心持部分を焼かげとすれば岩場の様な形状。     |    |    |   |   |   |   |   |
| 462 | W0155 | 岩場   | 板目     | 河3        | 下        | (20.2)   | (6.9)  | -     | -  | (6.1) | 板目部分が焼かれてそれだけは岩場を利用。装飾部の部分は焼かげ加工。 |                              |    |    |   |   |   |   |   |
| 463 | W5020 | 岩場   | 心持ち    | 底日        | トレック5    | 河濱陶土     | (20.3) | 4.8   | -  | -     | 4.2                               | 直角形で、四方の角に削りあり。両面火彫。         |    |    |   |   |   |   |   |
| 464 | W5111 | 岩場   | アカガシモキ | 底日        | F 4      | 河・中4・5   | 63.2   | 71    | -  | -     | 5.0                               | ほぼ完形品。                       |    |    |   |   |   |   |   |
| 465 | W0111 | 岩場   | アカガシモキ | 底日        | 所1       | 14       | 63.8   | 41    | -  | -     | 3.1                               | 完形品。基盤に焼かげとされるための焼を1箇切つである。  |    |    |   |   |   |   |   |
| 466 | W5021 | かんざし | アカガシモキ | 底日        | E 3・4    | 河・下・下    | (25.5) | 4.0   | -  | -     | 0.6                               | 直形部と輪郭部の間にやや斜めな傾斜を持つ。        |    |    |   |   |   |   |   |
| 467 | W5060 | かんざし | 板目     | B         | E 4      | (24.6)   | 2.4    | -     | -  | 1.4   | 直角形の端部にやや斜めな傾斜を持つ。                |                              |    |    |   |   |   |   |   |
| 468 | W5014 | かんざし | 焼取不能   | 板目        | トレンチ3    | 14       | (5.0)  | 3.3   | -  | -     | 0.5                               | 本体、面部は原形を保つ。2つねむねした様な形状。     |    |    |   |   |   |   |   |
| 469 | W5017 | かんざし | 焼取不能   | 板目        | F 4      | 河・下      | (12.3) | 1.9   | -  | -     | 0.5                               | 先端部はいる。方形の直角部が2つ。            |    |    |   |   |   |   |   |
| 470 | W5120 | かんざし | 板目     | F 6・sec.4 | 河・下      | 35       | 59     | 1.4   | -  | -     | 0.4                               | 円形の直角部で不正多角の直角部を持つ。          |    |    |   |   |   |   |   |
| 471 | W5066 | かんざし | ケヤキ    | 板目        | E 4      | (15.0)   | 1.0    | -     | -  | -     | 0.4                               | 完形品。通常には2つの角ある。              |    |    |   |   |   |   |   |
| 472 | W5010 | かんざし | 焼取不能   | 板目        | トレンチ3    | 14・下     | 18.0   | 1.1   | -  | -     | 0.4                               | 直形部に削く輪郭の直角部で直角部に方形の突起がつく。   |    |    |   |   |   |   |   |
| 473 | W5015 | かんざし | 焼取不能   | 板目        | トレンチ3    | 14       | (12.0) | 0.2   | -  | -     | 0.2                               | 1本端が丸みを帯びる。                  |    |    |   |   |   |   |   |
| 474 | W6145 | かんざし | 板目     | F 7       | 河・中5     | (12.0)   | 0.2    | -     | -  | -     | 0.2                               | 直部を欠く。                       |    |    |   |   |   |   |   |
| 475 | W5018 | かんざし | 板目     | F 5・6     | 河・下      | (10.4)   | 0.4    | -     | -  | -     | 0.3                               | 直角部の部分。直角部欠損。                |    |    |   |   |   |   |   |
| 476 | W6019 | かんざし | 板目     | F 8       | 河・下      | (8.9)    | 0.7    | -     | -  | -     | 1.0                               | 両面火彫。                        |    |    |   |   |   |   |   |
| 477 | W5867 | かんざし | ヒノキ    | 板目        | C        | 14・下     | 8.3    | 0.3   | -  | -     | 0.3                               | 円形の直角部をやらなく。                 |    |    |   |   |   |   |   |
| 478 | W5121 | かんざし | 板目     | E 5       | 片・中3・B   | 8.1      | 0.9    | -     | -  | -     | 0.3                               | 円形の直角部を直角部に近い直角部からなる。        |    |    |   |   |   |   |   |
| 479 | W6019 | かんざし | 心持ち    | 所1        | 14       | (6.0)    | (5.1)  | -     | -  | -     | 0.9                               | 中心から左右に分岐する枝を持つ。             |    |    |   |   |   |   |   |
| 480 | W5016 | 朽木毛  | 板目     | F 1       | 河・中2・下   | 28.3     | 6.2    | -     | -  | -     | 1.1                               | 直角部しかも直角部を欠く。                |    |    |   |   |   |   |   |
| 481 | W5024 | きじ   | イヌガヤ   | 板目        | B        | 14・上     | (28.4) | 0.8   | -  | -     | 0.7                               | 先端部および直角部を欠く。                |    |    |   |   |   |   |   |
| 482 | W5138 | きじ   | アカガシモキ | 板目        | F 5      | 河・中3・下   | (26.5) | 4.3   | -  | -     | 2.0                               | 未完成品。直角部を欠損している。             |    |    |   |   |   |   |   |
| 483 | W5035 | きじ   | 板目     | F 1       | 河・下      | (24.6)   | 6.0    | -     | -  | -     | 6.1                               | 未完成品。骨の内側を欠損している。            |    |    |   |   |   |   |   |
| 484 | W5115 | きじ   | ツバキ    | 底日        | E 3      | 河・中2・3・B | (12.2) | 4.9   | -  | -     | 1.5                               | 骨の先端部の直角部欠損                  |    |    |   |   |   |   |   |
| 485 | W9007 | きじ   | 板目     | A 1       | F 7      | (14.3)   | 5.4    | -     | -  | -     | 0.8                               | 未完成品。骨の端いきじ。                 |    |    |   |   |   |   |   |
| 486 | W5001 | きじ   | スダジイ   | 板目        | H 4      | (12.8)   | 5.2    | -     | -  | -     | 1.0                               | 小脛の直角部。                      |    |    |   |   |   |   |   |
| 487 | W0139 | きじ   | 板目     | 河3        | F        | (9.0)    | (2.9)  | -     | -  | -     | 0.5                               | 小脛の直角部。身は特に変化している。           |    |    |   |   |   |   |   |
| 488 | W0141 | きじ   | ツバキ    | 板目        | B        | 14・上     | (15.5) | 5.3   | -  | -     | 0.4                               | 内面に削かげがある。ほほ形。               |    |    |   |   |   |   |   |
| 489 | W5132 | きじ   | ヤマガワ   | 板目        | P 1      | 河・中2・下   | 31.2   | 7.2   | -  | -     | 2.0                               | 完形品。側面断面はゆるくS字にはカーブ。         |    |    |   |   |   |   |   |
| 490 | W5118 | きじ   | シキ     | 板目        | P 7・8    | 河・中4・別心  | 28.6   | 3.8   | -  | -     | 1.8                               | 筋の付け根に焼かげと焼け跡を持つ。            |    |    |   |   |   |   |   |
| 491 | W0140 | きじ   | サキ     | 板目        | 河3       | 下        | 17.8   | 3.8   | -  | -     | 0.4                               | 骨の先端部に焼かげと焼け跡がある。            |    |    |   |   |   |   |   |
| 492 | W5216 | きじ   | サカキ    | 板目        | F 7・8    | 河・中4・別心  | (20.0) | 5.2   | -  | -     | 0.6                               | 直角部欠損。                       |    |    |   |   |   |   |   |
| 493 | W0001 | きじ   | ヤマガワ   | 板目        | 所1       | 14       | (20.0) | (4.5) | -  | -     | 0.6                               | ほほ形。先端部をやや欠損。                |    |    |   |   |   |   |   |
| 494 | W5134 | さじ   | サガキ    | 心持ち       | P 1      | 河・中2・板上  | (20.8) | 5.2   | -  | -     | 1.5                               | 内面に削かげがある。ほほ形。               |    |    |   |   |   |   |   |
| 495 | W0006 | さじ   | ツゲ     | 板目        | 河1       | 14       | (22.7) | 3.6   | -  | -     | 2.0                               | 完形品。骨の直角部に焼かげと焼け跡がある。        |    |    |   |   |   |   |   |
| 496 | W5110 | オーツ  | ムササキ   | 板目        | トレンチ4    | 河・中4・別心  | (13.4) | 2.1   | -  | -     | 0.6                               | 3本脚。骨の付け根部分から先端にかけて焼かげ。      |    |    |   |   |   |   |   |
| 497 | W5217 | さじ   | クリ     | 板目        | F 7・8    | 河・中2・3・B | (18.7) | 6.2   | -  | -     | 1.5                               | 先端部に焼かげがある。                  |    |    |   |   |   |   |   |
| 498 | W5005 | さじ   | 木      | 板目        | E 3      | 河・中2・3・B | (6.0)  | -     | -  | -     | 0.4                               | 骨の先端部に焼かげがある。                |    |    |   |   |   |   |   |
| 499 | W0005 | さじ   | シヤクサンボ | 板目        | 河1       | 14       | (18.8) | (3.5) | -  | -     | 0.6                               | 未完成品。骨の直角部に焼かげがある。           |    |    |   |   |   |   |   |
| 500 | W0016 | さじ   | イヌガヤ   | 板目        | 河1       | 14       | (12.4) | (3.8) | -  | -     | 0.6                               | 焼かげ凹凸の骨の器の可能性がある。内面に側面を削かれた。 |    |    |   |   |   |   |   |

| 番号  | 部品番号   | 種類  | 機種     | 木取り     | 出土施点       | 層位      | 全长     | 全幅  | 高さ    | 厚さ                                      | 特徴                |
|-----|--------|-----|--------|---------|------------|---------|--------|-----|-------|---|-------------------|
| 501 | WS4577 | きじ  | 新日     | F3・sec1 | 貝中1-A      | (10.4)  | (4.2)  | -   | 0.4   | 身のLの過半。                                 |                   |
| 502 | W0138  | きじ  | 新日     | 河3      | 下          | (22.5)  | (7.2)  | -   | 0.8   | 身の長い過半と身の後半には削痕が残されているもよう。              |                   |
| 503 | W0010  | きじ  | ケヤキ    | 新日      | 河1         | (14.9)  | (3.6)  | -   | 0.3   | 身の長い過半と身の後半には削痕が残っているもよう。               |                   |
| 504 | W0009  | きじ  | サガシ    | 板日      | 河1         | (16.0)  | (2.4)  | -   | 0.5   | 身の先端・上端と身の後半には削痕が残っているもよう。              |                   |
| 505 | W5256  | きじ  | 板日     | 河1      | 河壩土        | (6.1)   | (3.1)  | -   | 0.4   | 同じ身の後半には削痕が残り、身の底はやや大きめと推測される。          |                   |
| 506 | W0011  | さじ  | カヤ     | 板日      | 河1         | (12.9)  | (2.9)  | -   | 0.5   | 身の内面に削痕が残り、刃根部が明瞭。削痕を留んでいるか?            |                   |
| 507 | W5125  | きじ  | 板日     | 河1      | トレンチ4      | (11.2)  | (4.6)  | -   | 0.8   | 身はやや大きめで少し外側。削痕を留んでいるか?                 |                   |
| 508 | W5036  | きじ  | 板日     | E4      | 河中5・下      | (6.8)   | (6.0)  | -   | 0.5   | 身の先端から所々かけての削痕片。                        |                   |
| 509 | W5022  | きじ  | 板日     | F       | 河中2・中1     | (7.65)  | (5.2)  | -   | 0.5   | 一端を強烈に削った跡。                             |                   |
| 510 | W5044  | さじ  | 板日     | F8      | 河中5・下      | (6.8)   | (6.8)  | -   | (0.6) | 身の底部分。                                  |                   |
| 511 | W5059  | きじ  | 板日     | 河1      | トレンチ4      | (13.5)  | (3.9)  | -   | (0.6) | 身から周にかけての削痕片。                           |                   |
| 512 | W0008  | さじ  | シャッサンボ | 板日      | 河1         | (8.4)   | (4.6)  | -   | 0.6   | 先端および底が大屈。身や裏化。                         |                   |
| 513 | W6132  | さじ  | 板日     | D7      | 河・中・5      | (13.2)  | (3.2)  | -   | 1.1   | 身から周にかけての小片。                            |                   |
| 514 | W0012  | さじ  | 板日     | 河1      | 河・中・2      | (7.2)   | (2.0)  | -   | 0.4   | 身の一部が削痕付。                               |                   |
| 515 | W5740  | 削杓子 | 板日     | E2      | 河・中・2・底上   | (9.63)  | (8.0)  | -   | 2.5   | 削痕が複数。                                  |                   |
| 516 | W5054  | 削杓子 | 板木取り   | 河27     | 河27        | (17.1)  | (6.2)  | -   | 3.0   | 身の大半を失く。柄の端部の作付点。(?)                    |                   |
| 517 | W5053  | 削杓子 | 板木取り   | C       | 河3・上       | (19.7)  | (10.2) | -   | 1.3   | 身の大半を失く。L2段差有り。                         |                   |
| 518 | W5177  | 削杓子 | 板日     | B・C     | 13・下       | (17.0)  | (4.8)  | -   | 1.8   | 身の一端。基部は擦痕で半分に折れている。一端は黒化。              |                   |
| 519 | W5013  | 削杓子 | クヌノキ   | 板日      | トレンチ3      | (11.0)  | (5.3)  | -   | 1.4   | 身から周にかけての一部。                            |                   |
| 520 | W5012  | 削杓子 | ヤマダラク  | 板日      | 河1         | (18.0)  | (10.9) | -   | 2.1   | 全体をD字形にしているため削痕を難解できない。                 |                   |
| 521 | W0014  | 削杓子 | クヌノキ   | 板日      | 河1         | (17.5)  | (10.5) | -   | 1.1   | 柄が斜め上方にのみびる構造?。コの利用か?                   |                   |
| 522 | W6282  | 削杓子 | 板木取り   | 河1      | 河壩土        | (4.2)   | (2.3)  | -   | 1.0   | 身が斜め上方にのみびる構造?。身を斜め前方に握れる形態に合わせて握る所を持つ。 |                   |
| 523 | W5052  | 削杓子 | ホムノキ属  | 板木取り    | B          | (17.8)  | (11.8) | -   | 1.6   | 身の半分ほどが壊れ、把手の付け根から折れている。                |                   |
| 524 | W0126  | 削杓子 | ホムノキ属  | 板木取り    | B          | (14・上)  | (13.6) | -   | 0.2   | こく深い削痕。                                 |                   |
| 525 | W5311  | 削杓子 | 4.3.マツ | 心材ち     | 河3         | (47.3)  | (16.9) | -   | 1.3   | 身は表面品、身の内面は未完成。加工遮断者。                   |                   |
| 526 | W5012  | 削杓子 | ケヤキ    | 板木取り    | トレンチ3      | (14.7)  | (7.0)  | -   | 1.0   | 身の一部。生垣を整えているか?                         |                   |
| 527 | W5674  | 削杓子 | クヌノキ   | D       | 河3・中・(3・下) | (27.85) | (12.7) | -   | 1.0   | 身が斜め上方にのみびる構造?。身は十圧により変形。               |                   |
| 528 | W6094  | 削杓子 | 板木取り   | B       | 14・下       | (6.4)   | (6.5)  | -   | (1.2) | 底部の棘。                                   |                   |
| 529 | W5342  | 削杓子 | 板木取り   | 河1      | トレンチ1・2    | (13・下)  | (6.3)  | 7.0 | -     | 1.7                                     | 板木を板から次々、土圧により変形。 |
| 530 | W0137  | 削杓子 | 板木取り   | 河3      | 子          | (10.7)  | (6.9)  | -   | 0.6   | 削痕の身あるいはね。                              |                   |
| 531 | W0226  | 削杓子 | 板木取り   | 板日      | 河1         | (8.7)   | (4.2)  | -   | 1.9   | 底盤の邊片。                                  |                   |
| 532 | W5122  | 削杓子 | ケヤキ    | G2      | 河下・下       | (21.6)  | (13.6) | -   | 2.1   | 底盤に斜めで削痕・裏歯紋・列点状などと以板をきせて置く。            |                   |
| 533 | W6365  | 削杓子 | 板木取り   | 心材ち     | E5         | (13.2)  | (6.6)  | -   | 3.1   | 金属のL字。                                  |                   |
| 534 | W6111  | 削杓子 | 板木取り   | 心材ち     | E5         | (11.3)  | (10.1) | -   | 2.7   | 削をく。機の可動性もある。                           |                   |
| 535 | W5432  | 削杓子 | 板木取り   | 心材ち     | E4         | (13・下)  | (9.7)  | 9.7 | -     | 1.7                                     | 柄は欠損。土圧により変形。     |
| 536 | W5356  | 削杓子 | 板木取り   | 心材ち     | E4         | (11.1)  | (8.4)  | -   | 2.2   | 底盤側に加工遮断者。底盤の身あるいはね。                    |                   |
| 537 | W6366  | 削杓子 | 板木取り   | 心材ち     | C          | (10.7)  | (6.25) | -   | 0.65  | 身の裏側の底板子の頭部。                            |                   |
| 538 | W5275  | 削杓子 | 板木取り   | 板日      | C          | (13.8)  | (5.9)  | -   | 1.2   | 底盤側に斜めで削痕・裏歯紋・列点状などと以板をきせて置く。           |                   |
| 539 | W5734  | 削杓子 | 心材ち    | E5      | 河中2        | (10.2)  | (9.9)  | -   | 5.5   | 土圧によりやや開いていている。『横筋』に3.5×3.0cmの切り込みもあり。  |                   |
| 540 | W5174  | 削杓子 | 板木取り   | B・C     | 13・F       | (11.5)  | (8.3)  | -   | 3.0   | 上圧で変形しているが平面はほぼ直角。                      |                   |
| 541 | W0147  | 削杓子 | 板木取り   | 河3      | 下          | (7.9)   | (4.6)  | -   | 0.9   | 機の可動性あり。                                |                   |
| 542 | W0227  | 削杓子 | アカガシ   | 板日      | 河1         | (6.5)   | (3.6)  | -   | 1.0   | 『横筋』の斜片・斜気孔。機の可動性あり。                    |                   |

| 種名              | 学名     | 科    | 樹形       | 木取り | 川土地質      | 斜位    | 全 収 全 埋 | 高さ 厚さ  | 特徴          |
|-----------------|--------|------|----------|-----|-----------|-------|---------|--------|-------------|
| 545 W5196 梶原子   | ツバキ    | エバ   | 板目       | A   | 河中2-3-4-5 | (3.3) | (8.4)   | (2.2)  | 輪の瘤片の可能性あり。 |
| 544 W5247 梶原子   | ツバキ    | エバ   | 板目       | E 3 | 河中2-3-4-5 | (3.3) | (4.3)   | (1.3)  | 底盤の小破片。     |
| 545 W5200 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板木取り | A        | A-D | 河端土       | -     | 14.3    | 22.6   | 10          |
| 545 W5124 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | C        | A-D | 河端土       | -     | (11.8)  | (18.3) | 3.4         |
| 547 W5274 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | F        | A-D | 河端土       | -     | (11.8)  | (18.3) | 1.0         |
| 548 W5267 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | F 7      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | 6.4     | 7.95   | 4.75        |
| 549 W5010 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | B        | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (5.5)   | (20.0) | 0.7         |
| 550 W5076 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | G 1-2    | A-D | 河下・下      | -     | 15.6    | 23.3   | 4.5         |
| 551 W5265 コップ   | クヌキ属   | 板目   | H 1      | A-D | 河下・下      | -     | 10.8    | 16.5   | 13.5        |
| 552 W5142 コップ   | クヌキ属   | 板目   | E 2      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | 7.5     | 19.3   | 7.5         |
| 553 W5337 コップ   | クヌキ属   | 板目   | E 2      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | 9.1     | 6.2    | 1.3         |
| 554 W5538 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | H 4      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (6.4)   | (21.3) | 0.7         |
| 555 W5538 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | H 4      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (13.0)  | (16.7) | 1.2         |
| 556 W5737 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | I 2      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (9.0)   | (13.6) | 1.0         |
| 557 W5810 落葉松子  | 落葉松属   | 板木取り | K        | A-D | 河下・下      | -     | (11.5)  | (20.4) | 6.0         |
| 558 W5811 ジヨウキ  | ケヤキ属   | 板目   | E 3      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (7.0)   | 31.0   | 3.1         |
| 559 W5842 コップ   | クヌキ属   | 板目   | E 1      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (7.5)   | 2.3    | 1.0         |
| 560 W5119 開花カブセ | セイシダン属 | 板木取り | E 3      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (4.5)   | 19.9   | 1.2         |
| 561 W5700 コップ   | クヌキ属   | 板目   | E        | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | 9.0     | 19.5   | 1.9         |
| 562 W6019 コップ   | イチイ    | 板木取り | H 1      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | 9.6     | 16.0   | 1.7         |
| 563 W5531 コップ   | イチイガヤ  | 板木取り | H 1      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | 9.0     | 13.8   | 2.0         |
| 564 W5028 番荔枝高杯 | ケヤキ    | 板木取り | L 3      | A-D | 河中2-3-4-5 | -     | (34.0)  | 10.4   | 1.3         |
| 565 W5088 高杯    | ケヤキ    | 板目   | C        | A-D | 河3-4上     | -     | (13.0)  | 10.5   | 1.5         |
| 566 W5100 高杯    | ケヤキ    | 板目   | E 5      | A-D | 河3-4上     | -     | (62.0)  | 10.5   | 1.5         |
| 567 W5108 高杯    | ケヤキ    | 板目   | I 1      | A-D | 河3-4上     | -     | (30.5)  | (5.8)  | 1.3         |
| 568 W5099 高杯    | ケヤキ    | 板木取り | E 3      | A-D | 河3-4-5    | -     | 14.5    | (5.5)  | 1.5         |
| 569 W5230 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | H 1      | A-D | 河3-4-5    | -     | (18.0)  | (3.6)  | 1.1         |
| 570 W5229 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | H 1      | A-D | 河3-4-5    | -     | (26.0)  | (3.6)  | 0.6         |
| 571 W5147 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | I 1      | A-D | 河3-4-5    | -     | 28.5    | (4.7)  | 1.0         |
| 572 W5187 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | G 5      | A-D | 河3-4-5    | -     | (32.0)  | (4.7)  | 1.0         |
| 573 W5004 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | E 4      | A-D | 河中5-7     | -     | (1.3)   | (4.5)  | 1.3         |
| 574 W5185 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | G-S D560 | A-D | 河中5-7     | -     | (22.0)  | (12.0) | 2.0         |
| 575 W5186 高杯    | ケヤキ属   | 板木取り | P 5      | A-D | 河下・下      | -     | (6.2)   | (5.3)  | -           |
| 576 W5285 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | B        | A-D | 河下・下      | -     | (10.5)  | (9.3)  | -           |
| 577 W5602 高杯    | ケヤキ属   | 板木取り | B-S D162 | A-D | 河下・下      | -     | (28.4)  | (3.9)  | 1.2         |
| 578 W5010 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | A        | A-D | 河下・下      | -     | (15.6)  | (12.8) | -           |
| 579 W5062 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | D        | A-D | 河中5-7     | -     | (17.3)  | (6.1)  | 2.1         |
| 580 W5195 高杯    | ケヤキ属   | 板目   | H 3      | A-D | 河中5-7     | -     | (6.5)   | (4.5)  | 1.3         |
| 581 W5088 合子    | バラ科    | 板目   | F 1      | A-D | 河中2-4-5   | -     | (19.2)  | (13.6) | 2.5         |
| 582 W5065 合子    | バラ科    | 板目   | B        | A-D | 河4-5      | -     | (17.5)  | (4.5)  | 0.8         |
| 583 W5188 合子    | バラ科    | 板目   | B        | A-D | 河4-5      | -     | (16.3)  | 19.4   | (2.2)       |
| 584 W5022 合子    | バラ科    | 板目   | A        | A-D | 河4-5      | -     | (16.3)  | 20.0   | 0.6         |

| 番号  | 登録番号       | 種類     | 構成       | 本取り       | 出土場所      | 層位     | 金具      | 金綱    | 幅                                 | 高さ                             | 厚さ | 特徴 |
|-----|------------|--------|----------|-----------|-----------|--------|---------|-------|-----------------------------------|--------------------------------|----|----|
| 585 | W5253 合子   | チャチ    | 板        | 日         | 14・下      | -      | 17.0    | 20.0  | 2.3                               | 全般的に小程度の擦り傷。高さ 1cm の脚を作りつけている。 |    |    |
| 586 | W0146 合子   | 板木取り   | 板        | 日         | 14・下      | -      | (16.2)  | (4.4) | 1.1                               | 「門柱部」の裏面、擦れ跡あり。                |    |    |
| 587 | W374 合子    | セシダ    | 板 H      | 河中 2・底上   | -         | 17.3   | 2.6     | 1.2   | 門柱部の裏ある木合子の裏。長方形はやや外湾。            |                                |    |    |
| 588 | W6068 合子   | 板      | 日        | G 1・2     | 河下・F      | -      | 2.4     | 1.35  | 2.0                               | 1.5cm四方の小さなが 3つ残存。             |    |    |
| 589 | W525 合子蓋   | 板      | F        | 河中 4・4～5  | -         | 24.7   | 1.2     | 1.1   | 長袖に沿つた 2つの縫合。                     |                                |    |    |
| 590 | W2681 尖端仔器 | モミ類    | 板 日      | B         | 14・下      | -      | 15.8    | 26.8  | 7.4                               | 未完成品。尖端部の丸みの擦り傷。               |    |    |
| 591 | W6152 尖端仔器 | モミ類    | 板 日      | G 1・2     | 河中 4・4～5  | -      | (7.2)   | (4.6) | (2.3)                             | コップの底部の加工性もある。                 |    |    |
| 592 | W375 滑形仔器  | 板      | 日        | B         | 14・被下     | -      | (22.6)  | (2.3) | 1.0                               | 上部(1)の擦り傷。平底化と防衛した断面を有するか?     |    |    |
| 593 | W5654 滑形仔器 | 板      | 日        | D         | 13・F 有機   | -      | (19.8)  | (6.4) | 1.0                               | 滑り跡と全く同じ形状の骨盤。                 |    |    |
| 594 | W541 滑形仔器  | クヌギキ   | 板        | B         | 14・下      | -      | (18.0)  | (3.7) | (1.1)                             | 深いガーベ形を内側の骨盤。                  |    |    |
| 595 | W543 拗毛仔器  | 板      | 日        | F         | 河中 4・4付近  | -      | (19.2)  | (7.7) | 0.9                               | 鉢形。手掘り跡。                       |    |    |
| 596 | W5244 滑形仔器 | 板      | E        | 河中 3～3・底上 | -         | (27.6) | (11.0)  | (1.0) | 手掘り跡。板厚約 27.4mm で骨の 1/1 縦筋。       |                                |    |    |
| 597 | W5833 木    | 心待ち    | 板        | E         | 河中 3～3・底上 | -      | (15.6)  | (7.5) | (7.5)                             | 未完成品。二方には脚を持つ長い棒状と見られる。        |    |    |
| 598 | W6060 木    | 板      | E        | F 8       | 河中 4～5・被下 | -      | (14.1)  | (2.0) | (1.0)                             | 円形のやや深めの底面。                    |    |    |
| 599 | W5950 木    | 板      | E        | F 8       | 河中 4～5・被下 | -      | (16.6)  | (6.8) | 2.3                               | 円形のやや深めの底面。                    |    |    |
| 600 | W528 木     | 板      | E        | S D550    | 河下・E      | -      | (12.3)  | 4.8   | 1.3                               | 円形で 2mm 間隔の横片。                 |    |    |
| 601 | W513 木     | 板      | E        | S D550    | 河下・E      | -      | (15.6)  | (4.4) | 1.4                               | ごく良い円形を有する脚を持つ重なる脚形の骨盤の底面片。    |    |    |
| 602 | W5178 滑形仔器 | サカキ    | B・C      | 河下・F      | -         | (16.0) | 8.8     | 1.0   | 浅き 7mm の円形なし。滑形仔器の骨盤の底面。こぶを利用してか? |                                |    |    |
| 603 | W5677 木    | サカキ    | D        | 河下・F      | 河中 3～3・底上 | -      | (14.6)  | 3.1   | 1.0                               | 4 個がつく小形の木形。                   |    |    |
| 604 | W245 木     | サカキ    | E        | 河下・F      | 河中 3～3・底上 | -      | (11.7)  | 3.2   | 1.6                               | 4 個がつく小形の木形。                   |    |    |
| 605 | W370 木     | 板      | E        | F 7・8     | 河中 4・4付近  | -      | 1.12    | 3.8   | 0.8                               | 解剖された 1/2 頭度の頭骨。頭長の 2 脚を持つ。    |    |    |
| 606 | W5590 木    | 板      | E        | F 7・8     | 河上・被後     | -      | (5.0)   | (1.5) | 1.0                               | 解剖された 1/2 頭度の頭骨。頭長の 2 脚を持つ。    |    |    |
| 607 | W0018 木    | サカキ    | E        | F 7・8     | 河上・被後     | -      | 2.5     | (4.5) | (0.9)                             | 上に開く骨形。ほぼ平行形。                  |    |    |
| 608 | W0017 木    | サカキ    | F        | 河下・F      | 河中 1      | -      | 2.8     | 4.2   | 2.4                               | ほぼ平行の木形。深い皿。                   |    |    |
| 609 | W5290 木    | サカキ    | D        | 河下・F      | 河中 1      | -      | (26.9)  | 1.4   | 丸形のやや窄い重影。4 個。                    |                                |    |    |
| 610 | W5127 木    | サカキ    | E        | F 2       | 河下・F      | -      | 3.05    | 7.8   | 1.4                               | 丸形方向脚を持つ木形。(横筋) 2/3 が陥没。       |    |    |
| 611 | W0223 木    | 板木取り   | E        | 河下・F      | 河下・F      | -      | (19.5)  | (3.6) | 0.8                               | 門形の頭の一部。                       |    |    |
| 612 | W0016 木    | アカガシ板  | F        | B         | 14・F      | -      | 2.67    | 4.0   | 0.9                               | 14 世紀前半。                       |    |    |
| 613 | W5133 木    | 板木取り   | C        | 河下・F      | -         | (21.5) | 4.1     | 2.7   | 椭円形の頭の底片。                         |                                |    |    |
| 614 | W5222 木    | サカキ    | C        | 14・F      | -         | (15.7) | 2.7     | 2.7   | 椭円形の頭の底片。                         |                                |    |    |
| 615 | W5735 木    | サカキ    | E        | 河下・F      | 河中 5・F    | -      | 32.6    | 2.6   | 1.4                               | 方形ないし楕円形の頭。高さ 30mm ほど。両台を持つ。   |    |    |
| 616 | W5735 木    | サカキ    | E        | F 4       | 河中 5・F    | -      | 3.46    | 5.4   | 1.9                               | 長方形の頭。頭部は土糞により変形。              |    |    |
| 617 | W5172 木    | 板      | E        | 13・下      | B・C       | -      | (31.5)  | 4.3   | 0.4                               | 椭円形ないし丸形の頭。                    |    |    |
| 618 | W302 容器    | 板      | E        | 河中 5・F    | -         | (12.0) | (3.0)   | 0.7   | 軸の可逆性ある。                          |                                |    |    |
| 619 | W6644 木    | アカガシ坐彌 | F 5      | 河中 5・F    | -         | 2.70   | 4.4     | 1.3   | 一個頭を欠く。                           |                                |    |    |
| 620 | W5149 木    | サカキ    | C        | 14・F      | -         | (24.7) | 2.7     | 2.7   | 椭円形の頭の底片。                         |                                |    |    |
| 621 | W6644 木    | 板木取り   | E        | 河上・被後     | -         | (24.8) | (3.7)   | 1.3   | 椭円形ないし長方形の頭。                      |                                |    |    |
| 622 | W0173 木    | 板木取り   | E        | 河中 5・F    | -         | (11.8) | (3.2)   | 1.2   | やや強張りのする長方形の頭。頭部は土糞により変形。         |                                |    |    |
| 623 | W6226 木    | 板      | A・S D162 | I         | -         | (11.2) | (3.2)   | 1.0   | 小片。                               |                                |    |    |
| 624 | W5753 木    | 板      | E        | 河下        | -         | (26.0) | (3.0)   | 1.0   | 椭円形の頭を有する底。前面はすすぐ付着。              |                                |    |    |
| 625 | W0148 木    | 板木取り   | E        | 河下        | -         | (12.6) | 4.5     | 0.8   | 殆ど円形で、丸みを帯びた底を持つ。前面はすすぐ付着。        |                                |    |    |
| 626 | W618 木     | ハリニシ   | 板木取り     | E         | 河下        | -      | (17.25) | 4.2   | 1.2                               | 円形の大頭の頭。                       |    |    |

| 番号  | 形態番号   | 種類   | 判別     | 年号        | 出土点          | 層位     | 全高     | 幅                              | 厚さ                                | 特徴                                |
|-----|--------|------|--------|-----------|--------------|--------|--------|--------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 627 | WF2216 | 直    | 板目     | A.D.62    | -            | (28.5) | (4.3)  | (2.1)                          | 円柱ないし筒状の器。                        |                                   |
| 628 | WF437  | 直    | クヌギ木属  | 板目        | D            | (3.1)  | (51.8) | 7.4                            | 1.2<br>円柱状の器4号。精円形の八角。            |                                   |
| 629 | WF5168 | 直    | 漆漆板    | 板目        | D            | (3.1)  | (30.6) | 9.5                            | 1.2<br>漆漆板を施す。割合が著しく洋風は不明。        |                                   |
| 630 | WF5166 | 漆漆板  | 板目     | D         | (3.1)        | (5.5)  | (2.6)  | 1.0<br>赤と黒漆で複数色を施す。            |                                   |                                   |
| 631 | WF540  | 直    | 板目     | A.7.8     | 河中4号窓        | -      | (22.7) | (6.0)                          | 10.7<br>身は平面形ないし圓形。斜め六方角。         |                                   |
| 632 | WF545  | 直    | アカガシ直風 | 板目        | B            | (4.5)  | (25.0) | (4.5)                          | 0.7<br>平面木の裏形の直、無金なし地紋の焼けから復元。    |                                   |
| 633 | WF582  | 縦    | 板目     | F.5       | 河中2・B        | -      | (20.8) | (3.4)                          | 2.1<br>4本の脚を持つ。                   |                                   |
| 634 | WF5113 | 直    | サクラ實   | 板目        | F.5・レンヂ6     | -      | (18.6) | 7.0                            | 1.8<br>身の大半を欠けている。今は焼けの浅い圓形。      |                                   |
| 635 | WF015  | 直    | クヌギ木   | 板目        | G            | (2.7)  | (4.9)  | 1.3<br>身の下1/2-1/3脱。平面形内側に火燒気跡。 |                                   |                                   |
| 636 | WF0319 | 容器   | 板目     | F.5・6     | 河下-Y         | -      | (1.0)  | (3.1)                          | 1.4<br>精円形、深底、無蓋。                 |                                   |
| 637 | WF565  | 直    | ハイモリ   | 板目        | F.2          | 河下-X   | -      | (26.3)                         | 5.5<br>丁寧な作工上。削断した口の焼け。           |                                   |
| 638 | WF245  | 直    | イヌガヤ   | 板目        | E.3          | -      | (25.6) | (5.1)                          | 1.2<br>精製品。脚の上と考えられる。             |                                   |
| 639 | WF198  | 直    | 板目     | A         | -            | -      | (135)  | (3.7)                          | 0.9<br>身が焼けた焼物。                   |                                   |
| 640 | WF0222 | 直    | ハイモリ   | 板目        | H            | -      | (16.8) | (1.3)                          | 0.9<br>直筒の小片。                     |                                   |
| 641 | WF063  | 直    | 板目     | B         | J.4-Y        | -      | (17.6) | (1.7)                          | 1.1<br>小片。                        |                                   |
| 642 | WF034  | 他形器物 | 板目     | E.3       | 河中5-T        | -      | (1.5)  | (2.8)                          | 1.4<br>底部の焼け。                     |                                   |
| 643 | WF520  | 直    | 心持     | E.2       | 河下-Y.        | -      | (12.6) | (1.5)                          | 0.8<br>さじの身の部分の焼けか?               |                                   |
| 644 | WF021  | 他形容器 | クヌギ木   | 板目        | H.1          | -      | (10.2) | (2.4)                          | 1.8<br>一極に剥離が見ゆる。                 |                                   |
| 645 | WF024  | 直    | -      | 板目        | I.4          | -      | (10.3) | (2.1)                          | 0.8<br>音器の小片。                     |                                   |
| 646 | WF580  | 直    | -      | 板目        | C            | J.4-Y  | -      | (7.7)                          | (2.2)                             | 1.0<br>小片。                        |
| 647 | WF543  | 直    | タケ風    | 板目        | B            | 34-Y   | -      | (35.6)                         | (8.5)                             | 2.9<br>削断した口の焼け。4脚のうち2つ焼け。直筒は長方形。 |
| 648 | WF587  | 横    | 板目     | F.5・6     | 河中3-A.⑧      | -      | (15.8) | 8.5                            | 4.4<br>人形像の底の焼け片。                 |                                   |
| 649 | WF0225 | 直    | 心持     | I.4       | 河下-Y.        | -      | (11.2) | (1.7)                          | 1.8<br>人形像の底の焼け片か?                |                                   |
| 650 | WF027  | 件    | 板目     | Tレンヂ4     | 河密廻土         | -      | (13.8) | (5.5)                          | 0.5<br>小口部分の小片。削除しない焼片もある。        |                                   |
| 651 | WF581  | 横    | 板目     | F.5・6     | 河下-Y.        | -      | (40.0) | (10.5)                         | 4.0<br>剥離の立ち上がり、根鉢のやや張り、火燒きの様。    |                                   |
| 652 | WF572  | 横    | 板目     | F.1-Y     | 河下-Y.        | -      | (65.3) | 25                             | 大形像の脚の焼け。                         |                                   |
| 653 | WF063  | 横    | 板目     | B         | H.4-Y        | -      | (17.8) | (12.3)                         | 6.6<br>大形像の出手の焼け。                 |                                   |
| 654 | WF021  | 横    | 板目     | C         | H.4-Y        | -      | (11.1) | (0.1)                          | 2.6<br>小口部分の小片。                   |                                   |
| 655 | WF024  | 横    | 心持     | 河下-Y.     | -            | (31.8) | (10.9) | 3.7<br>外側面は大差の工具で削っている。        |                                   |                                   |
| 656 | WF568  | 横    | 板目     | S.D.62    | -            | (24.8) | 11.4   | 1.9<br>大形像の小口の焼け。              |                                   |                                   |
| 657 | WF029  | 横    | クヌギ木   | 板目        | I.7          | -      | (42.5) | (4.9)                          | 1.7<br>大形像の頭の底部分の焼け。              |                                   |
| 658 | WF576  | 横    | 板目     | E         | 河下-Y.        | -      | (32.5) | (8.1)                          | 0.5<br>小口部分の焼け。全体に火燒化。            |                                   |
| 659 | WF575  | 横    | ニレ實    | 板目        | E.1          | 河下-Y.  | -      | 1.5<br>頭部と手部との接觸部の底部と見らる。      |                                   |                                   |
| 660 | WF528  | 台    | 板目     | F.3       | 河中~3.魚鉢      | -      | (8.9)  | (1.0)                          | 0.9<br>方盤の底の脚を手台形の木製品。            |                                   |
| 661 | WF580  | 容器   | 板目     | F.3・sec.3 | 脚上-Y.        | -      | 2.15   | 7.0                            | 7.0<br>魚鉢頭の工具による削除。               |                                   |
| 662 | WF567  | 台    | 板目     | D         | 河下-Y.(13.2合) | -      | 15.3   | 2.5                            | 2.0<br>中心に小孔があり、表面ともよく加工痕がある。     |                                   |
| 663 | WF031  | 直    | クヌギ木   | 板目        | I.4          | 河下-Y.  | -      | 9.2                            | 0.5                               | 0.5<br>表面にはわずかに火燒化する。             |
| 664 | WF669  | 直    | 板目     | P.8       | 河下-Y.        | -      | 12.2   | 1.1                            | 0.7<br>直筒形の曳き道装置の焼けか?             |                                   |
| 665 | WF529  | 直    | 板目     | C         | J.4-Y        | -      | (7.7)  | 2.1                            | 1.3<br>一端損傷。                      |                                   |
| 666 | WF024  | 直    | 板目     | A         | J.4-Y        | (51.6) | (18.7) | 3.9                            | 1.2<br>ほほ中央で解離になつている。それに木質が残っている。 |                                   |
| 667 | WF706  | 子    | 板目     | G.2       | 河下-Y.        | -      | 63.3   | (6.9)                          | 1.2<br>軸部円筒形の突起がある。               |                                   |
| 668 | WF038  | 平    | クヌギ木   | 板目        | G.2          | 河下-Y.  | (39.5) | (6.4)                          | 1.3<br>軸部円筒形の突起がある。               |                                   |

| 番号  | 登録番号  | 種類   | 場所    | 本取り   | 出土地点    | 層位      | 金      | 瓦      | 陶     | 漆        | 骨                           |                           |
|-----|-------|------|-------|-------|---------|---------|--------|--------|-------|----------|-----------------------------|---------------------------|
| 669 | W6511 | 琴    | アスナロ窓 | 板目    | G 1・2   | 河中4~5   | (260)  | (5.1)  | —     | 0.8      | 鐵頭円筒形の火薬が3つ残る。              |                           |
| 670 | W5126 | 号    | アスナロ窓 | F1    | B       | 14-層下   | (15.2) | 9.1    | —     | 1.0      | 5つの円筒形の火薬が残る。               |                           |
| 671 | W5043 | 琴    | アスナロ窓 | 板目    | B       | 14-層下   | (40.5) | 4.5    | —     | 1.5      | 5つの円筒形の火薬が残る。               |                           |
| 672 | W0030 | 新鋭具  | イヌガヤ  | 板目    | I       | 14      | (23.0) | (5.3)  | —     | 0.6      | 辰ノ形、扇形、三葉形のほかに刀を握る。         |                           |
| 673 | W5021 | 新鋭片  | イヌガヤ  | 板目    | B       | 14-層下   | (25.3) | 2.2    | —     | 3.0      | 精巧品。柄の下端に字盤がある。             |                           |
| 674 | W6425 | 新機具  | イヌガヤ  | 心持ち   | G 2     | 河中4~5   | (26.3) | (16.2) | —     | 1.7      | 下端に円形突起あり。                  |                           |
| 675 | W0029 | 新鋭具  | イヌガヤ  | 心持ち   | I       | 14      | (23.7) | 2.8    | —     | 0.6      | 身はやや内凹、頭部はやすや半球状で頭尾。        |                           |
| 676 | W0266 | 新鋭具  | 板目    | 河     | I       | 14      | (12.2) | (4.5)  | —     | 0.4      | 三分角形を五つ握る。頭部は丸い形であり。        |                           |
| 677 | W0014 | 新物形  | イイギリ窓 | 心持ち   | I       | 14      | 8.6    | 2.9    | —     | 2.8      | 三分角形を五つ握る。頭部には羽ばたきがあり。      |                           |
| 678 | W0016 | 新物形  | クスノキ窓 | 板目    | 河       | I       | (16.6) | 1.7    | —     | 2.6      | 三分角形を五つ握る。頭部には羽ばたきがあり。      |                           |
| 679 | W6167 | 新物形  | タブノキ  | 板目    | D 1・S 1 | 62      | —      | 1.3    | 4.8   | —        | 2.3                         | 14は空室。                    |
| 680 | W6201 | 新機式槍 | タブノキ  | 板目    | P       | 河中4~5   | 83.1   | 5.5    | 5.6   | 5.3      | 胸腹内部の苦痛なL。                  |                           |
| 681 | W6202 | 新機式槍 | タブノキ  | 板目    | B       | 14-上    | (6.0)  | (14.0) | —     | 5.6      | 人形の胸と腰の小山部分の小山。             |                           |
| 682 | W6406 | 新機式槍 | 板目    | F 2   | 河中4~5   | (19.8)  | (7.5)  | (4.6)  | (2.5) | 1.5      | 頭部の突起部。                     |                           |
| 683 | W5025 | 走    | カヤ窓   | 板目    | B       | 14-ド    | 36.0   | 9.0    | —     | 1.5      | 頭部の突起部。                     |                           |
| 684 | W5036 | 新機式槍 | マキ窓   | 板目    | B       | 14-下    | 42.5   | 11.4   | 7.8   | 1.6      | 三分角形を五つ握る。頭部には羽ばたきを握られる。    |                           |
| 685 | W5035 | 新機式槍 | 心持ち   | C     | 河3-1    | (40.5)  | (4.2)  | (5.8)  | (1.8) | 1.8      | 精巧品の長柄の棒状の槍。                |                           |
| 686 | W5046 | 新機式槍 | 心持ち   | F 2・3 | 河中2-3   | 60.2    | 8.65   | 7.6    | 2.2   | 1.0      | 上により横に握りしている。内側頭上部の落は無し。    |                           |
| 687 | W6121 | 新機式槍 | イヌマキ  | 板口    | C       | 14-下    | (56.7) | (7.8)  | (5.2) | (5.0)    | 頭部の苦痛なL。                    |                           |
| 688 | W5213 | 新機式槍 | 心持ち   | E 3   | 河中3-4   | 14.3    | 6.4    | 4.4    | 1.8   | 1.5      | 頭部の突起部。                     |                           |
| 689 | W5036 | 新機式槍 | サニダルミ | 生糸持   | E 3     | 河中3-4   | 49.8   | 26.5   | 6.1   | 1.0      | 中空形の胸。                      |                           |
| 690 | W5017 | 新機式槍 | モミ    | 板目    | E 4     | 14-下    | 43.4   | (5.5)  | (2.7) | 2.6      | 頭部の突起部。                     |                           |
| 691 | W5068 | 新機式槍 | イヌガヤ窓 | 心持ち   | A       | 14-下    | 14.5   | (6.2)  | 4.9   | 3.2      | 米穀品。小量。                     |                           |
| 692 | W6066 | 新機式槍 | 板目    | G 1・2 | 河下-下    | (18.0)  | (6.0)  | 5.8    | —     | 1.0      | 小山部分の小山。                    |                           |
| 693 | W4640 | 新機式槍 | モミ    | E 3・4 | 河下-上    | 15.9    | 5.4    | 4.5    | 4.2   | 米穀品。小量。  |                             |                           |
| 694 | W5026 | 新機式槍 | モミ    | 板目    | G       | 河屋上     | 18.7   | 6.2    | 3.9   | 3.5      | 米穀品。舟形容器の可能性もある。            |                           |
| 695 | W5029 | 新機式槍 | モミ    | 板目    | C       | 河3-1    | 38.4   | 9.5    | —     | 1.5      | 小山は3本の木で、底板とは一本の木で留めらる。     |                           |
| 696 | W6080 | 新機式槍 | モミ    | 板目    | C       | 河3-3    | 38.9   | (10.9) | —     | 1.5      | 小口側は木釘2本で、頭部は木釘3本で止める。      |                           |
| 697 | W5113 | 筋小口板 | モミ    | 板目    | E 2     | 河中2-板上  | (8.3)  | (8.7)  | —     | 1.2      | 頭部と長刃にそれぞれ切削孔2つあり。          |                           |
| 698 | W5886 | 筋小口板 | モミ    | 板目    | D       | 河・トレンチ6 | 河通土    | 7.6    | 7.9   | —        | 1.0                         | 14は空室。各辺の突起部と3つの孔には円孔を押つ。 |
| 699 | W5125 | 筋機板  | ヒノキ窓  | 板目    | I       | 14-下    | 42.5   | 13.7   | —     | 1.4      | 空室品。小口側あり。木釘孔が残る。           |                           |
| 700 | W5137 | 筋機板  | 板目    | I     | I       | 河中2-底下  | 31.6   | 6.2    | —     | 0.8      | 小口側・木釘孔あり。機作りの厚手の機蓋の可能性もある。 |                           |
| 701 | W5249 | 筋機板  | 板目    | I     | I       | 河中2-5   | (37.5) | (3.6)  | —     | 1.1      | 長機側には木釘3つ残る。                |                           |
| 702 | W5009 | 筋機板  | 板目    | I     | I       | 河中3-3   | 24.4   | (5.3)  | —     | 1.3      | 長機側には木釘3つ残る。                |                           |
| 703 | W5009 | 筋機板  | 板目    | C     | I       | 河3-3    | (27.6) | (4.5)  | —     | 1.2      | 円孔のある裏面に木釘2つ残る。本来は枚合せか?     |                           |
| 704 | W5526 | 筋機板  | 板目    | D     | I       | 河3-3    | (24.5) | (1.5)  | —     | 0.7      | 14は空室。                      |                           |
| 705 | W5168 | 筋機板  | 板目    | E 3・4 | 河下-上    | (27.1)  | (11.8) | 6.2    | 2.5   | 2.5      | 頭部は丸い形である。                  |                           |
| 706 | W5167 | 筋機板  | 板目    | I     | 河3-13   | (7.8)   | (31.6) | (11.0) | 7.0   | 3.5      | 頭部は丸い形である。                  |                           |
| 707 | W7122 | 机    | モミ    | 板目    | I       | 14      | (8.0)  | (1.9)  | —     | 0.5      | 14は木の木板。                    |                           |
| 708 | W7063 | 机    | モミ    | 板目    | I       | 14-上    | (7.9)  | (10.4) | —     | 1.0      | 14は木の木板。                    |                           |
| 709 | W5486 | 筋機板  | 板目    | トレンチ5 | 河通土     | (15.7)  | (12.7) | —      | 2.2   | 14は木の木板。 |                             |                           |
| 710 | W0055 | ハケ共  | 板目    | I     | I       | 14      | (36.3) | 2.7    | —     | 1.0      | 14は木の木板。                    |                           |

| 番号  | 樹種名        | 種類     | 樹種        | 木取り       | 出土地点       | 層位      | 幅     | 高さ   | 木長                                  | 金額                                  | 仕上 | 特徴 |
|-----|------------|--------|-----------|-----------|------------|---------|-------|------|-------------------------------------|-------------------------------------|----|----|
| 711 | W0142 ハラ扶  | 板目     | 楡         | 河3        | 下          | (21.3)  | 2.8   | -    | 1.9                                 | 25×1.8cmの巻山形の輪郭に、8×47cmの方形状の圓盤がつづく。 |    |    |
| 712 | W0133 ハラ扶  | 板目     | コウヤマキ     | 河3        | 上          | (25.6)  | 3.5   | -    | 1.0                                 | 幅23cm×さき面に、約3.5cmの方形状の圓盤がつづく。       |    |    |
| 713 | W525 ハラ扶   | 板目     | E 3・4     | 河・下・下     | 33.3       | 3.7     | -     | 2.2  | 完形品。元葉は直角から斜めで薄く削る。表面は竹皮仕上。         |                                     |    |    |
| 714 | W554 ハラ扶   | 心持ち    | E 1       | 河中・2・底・1  | 25.5       | 2.7     | -     | 1.8  | 端を斜めから削って薄く削る。表面は竹皮仕上。              |                                     |    |    |
| 715 | W622 ハラ扶   | 板目     | E 3       | 河・中・5・下   | (39.2)     | 1.5     | -     | 1.0  | 棒状、直角形。                             |                                     |    |    |
| 716 | W625 ハラ扶   | 板目     | 河 1       | 14        | 28.6       | 6.2     | -     | 0.5  | 海状の形態を手すりにかけて出だしし、脚部に用いる物と考られる。片刃形。 |                                     |    |    |
| 717 | W5071 ハラ扶  | 板目     | アカガシ重属    | 河 7・8     | 河中・4・底     | 28.1    | 2.1   | -    | 1.3                                 | 完形品。元葉は直角から斜めで薄く削る。表面は竹皮仕上。         |    |    |
| 718 | W5064 ハラ扶  | 板目     | B         | 14・最下     | 20.3       | 2.0     | -     | 0.9  | 先端は直角から斜めに換ってとがり、形態は竹皮仕上。           |                                     |    |    |
| 719 | W5875 ハラ扶  | 板目     | P         | 河・中・2・底・上 | (14.2)     | 2.9     | -     | 0.7  | 身は直角から斜めに換る。表面は竹皮仕上。                |                                     |    |    |
| 720 | W626 ハラ扶   | カヤ     | 板目        | 河 1       | 14         | (12.9)  | 2.7   | -    | 1.2                                 | 小形のハラ扶木製品で、刀身はやや短く両刃。               |    |    |
| 721 | W0188 ハラ扶  | 板目     | 河 1       | 14        | (6.6)      | 3.5     | -     | 0.8  | 先端をえぐくし、刃から削ってある。                   |                                     |    |    |
| 722 | W5071 ハラ扶  | 板目     | E 2       | 河・中・2・底・上 | (9.1)      | 2.3     | -     | 0.5  | 先端部が丸形。削り形。                         |                                     |    |    |
| 723 | W5075 ハラ扶  | 板目     | アカガシ重属    | D         | 河 3・中・下・下合 | (17.95) | 1.5   | -    | 0.85                                | 先端は直角から斜めに換る。表面は竹皮仕上。               |    |    |
| 724 | W5030 ハラ扶  | 板目     | C         | 14・下      | 27.1       | 7.4     | -     | 1.0  | 刀形側面に3角の欠きがある。片刃形。                  |                                     |    |    |
| 725 | W5866 ハラ扶  | 板目     | D         | 13・中・有機   | 31.6       | 2.6     | -     | 0.5  | 完形品。双方形。                            |                                     |    |    |
| 726 | W6247 ハラ扶  | アカガシ重属 | 板目        | 河 3       | 下          | 38.7    | 7.4   | -    | 1.0                                 | スリフのある舟型平底の板用刀柄下品か? 片刃形。            |    |    |
| 727 | W0174 叩き歯次 | 板目     | 河 1       | 14        | 46.7       | 9.0     | -     | 2.4  | 一部抜切。                               |                                     |    |    |
| 728 | W0119 叩き歯次 | 板目     | 河 3       | 砂中        | (2.7)      | 13.8    | -     | 1.5  | 叩き歯の本體品。                            |                                     |    |    |
| 729 | W6014 叩き歯次 | 板目     | P 8       | 削・P       | (36.1)     | (8.0)   | -     | 2.4  | 開口穴付。一方の側面端付近は片側から削を施じる。            |                                     |    |    |
| 730 | W0125 叩き歯次 | 板目     | 河 3       | 砂中        | (24.1)     | (9.7)   | -     | 1.4  | 形態的にも直角木製品に似る。一種変化。                 |                                     |    |    |
| 731 | W0107 叩き歯次 | 板目     | 河 1       | 14        | (18.0)     | 6.8     | -     | 1.2  | 身の奥に、直角の右側1/4の垂直片。                  |                                     |    |    |
| 732 | W5866 叩き歯次 | 板目     | E 1       | 河・中・2・底・上 | (40.6)     | (11.2)  | -     | 2.7  | 直角の左側1/4の垂直片。                       |                                     |    |    |
| 733 | W5721 叩き歯次 | 板目     | P 1       | 河・中・2・底・下 | (22.5)     | (5.2)   | -     | 0.85 | 身の端を削る。                             |                                     |    |    |
| 734 | W5833 叩き歯次 | 板目     | アカガシ重属    | P 5・6     | (21.0)     | (5.7)   | -     | 1.5  | 解剖側(左)の垂直片。把手側部を削る。                 |                                     |    |    |
| 735 | W5645 火さり口 | 心持ち    | P 5       | 河・中・5・下   | (5.2)      | 1.5     | -     | 1.3  | 解剖側(火)の直角から斜めに削る。1つのみ。              |                                     |    |    |
| 736 | W0144 火さり口 | 心持ち    | 河 3       | 下         | (4.4)      | 1.0     | -     | 0.9  | 頭部は削してある。                           |                                     |    |    |
| 737 | W5666 火さり口 | チナ属    | D         | 13・下・有機   | 18.8       | 1.6     | -     | 1.7  | 長さ18cm幅7cmの内刃・棒材を利用し、火さり穴を2箇所持つ。    |                                     |    |    |
| 738 | W5739 火手   | 板目     | E 2       | 河・中・2・底・上 | (22.0)     | (5.5)   | -     | 1.3  | 火手の端を失く。基部には斜めかけ跡を作ら。               |                                     |    |    |
| 739 | W5648 挿手   | 板目     | P 5・6     | 河・中・2・底・上 | (15.4)     | (3.6)   | -     | 0.95 | ド手を含め用。                             |                                     |    |    |
| 740 | W5375 挿手   | 板目     | E 1       | 河・中・4・刺   | (21.5)     | (4.4)   | -     | 2.5  | 基部削りも方形? 丸の墨分で折出。桿形と本筋の角度は純角。       |                                     |    |    |
| 741 | W7106 すくい具 | 心持ち    | P 7・8     | 河・中・4・刺   | (21.0)     | 24.8    | -     | 1.6  | 米良品。                                |                                     |    |    |
| 742 | W5658 すくい具 | 板目     | C         | 河 3・上・-   | (11.0)     | (10.4)  | -     | 3.2  | 直角部の後片。                             |                                     |    |    |
| 743 | W6020 すくい具 | クスノキ   | 楡木取引      | 河 1       | 14         | (17.5)  | (9.8) | 2.6  | 0.6                                 | 身の半分より握り幅を大く。                       |    |    |
| 744 | W5607 すくい具 | クスノキ   | E・アーチメント台 | 河・中・4・5   | 35.3       | 13.9    | -     | 0.5  | 未完成品。外形を粗く表現した複雑な構造。                |                                     |    |    |
| 745 | W5608 すくい具 | クスノキ   | 楡木取引      | E・アーチメント台 | 河・中・4・5    | 28.8    | 13.5  | -    | 0.6                                 | 未完成品。                               |    |    |
| 746 | W5875 すくい具 | クスノキ   | 楡木取引      | C         | 14・下       | 23.5    | 16.4  | -    | 1.0                                 | 頭部に直角仕切。                            |    |    |
| 747 | W5867 すくい具 | クリ属    | F 2       | 河・中・2・底・上 | 36.0       | 24.8    | -     | 1.3  | 直角形。                                |                                     |    |    |
| 748 | W5865 すくい具 | クスノキ属  | P         | 河・中・2・底・上 | 16.0       | 12.3    | 5.2   | 1.5  | 把手を削る。                              |                                     |    |    |
| 749 | W5609 すくい具 | クスノキ属  | A         | 14・下      | (16.5)     | 5.8     | -     | 3.2  | 身の基部から直角にかけての後片。                    |                                     |    |    |
| 750 | W0148 すくい具 | 楡木取引   | 河 1       | 14        | (13.4)     | 5.7     | -     | 1.0  | 左側部は直角で把手を失く。                       |                                     |    |    |
| 751 | W0152 すくい具 | 楡木取引   | 河 3       | P         | 31.9       | 13.0    | -     | 1.6  | 14.7cm先端。身の先端が丸化。                   |                                     |    |    |
| 752 | W5825 すくい具 | クスノキ属  | 楡木取引 A    | 14・下      | (20.5)     | 11.8    | 3.8   | 3.5  | 完形品。新は浅い。                           |                                     |    |    |